

男女共同参画に関する住民意識調査 報 告 書

平成27年 3 月

白 井 市

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査の種類	3
3. 調査方法と回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 調査結果を見る上での注意事項	4
第2章 一般市民調査の調査結果・分析	5
回答者の属性	7
1. 家庭生活	12
(1) 男女の役割分担の理想と現実	12
2. 仕事	18
(1) 労働や家事・育児・介護などにかかる時間	18
(2) 今後の就労意向	24
(3) 就業形態	27
(4) 家業従事者の対価	31
(5) 女性が仕事を続けるのは難しいとされる理由	32
(6) 女性の働き方についての意識	34
(7) 望ましい女性の再就職支援策	37
3. ワーク・ライフ・バランス	39
(1) 生活の中での優先度の理想と現実	39
(2) 仕事・家事・プライベートな時間のバランス	45
(3) 仕事・家事・プライベートな時間のバランスがうまくとれない理由	48
(4) 推進によるプラスの効果	49
4. 男女平等	51
(1) 分野別男女平等観	51
(2) 男女平等推進のために心がけていること	61
(3) 用語の周知状況	62
(4) 事業の周知状況	65
5. ドメスティック・バイオレンス	68
(1) 経験の有無	68
(2) 受けたときの相談先	85
(3) 相談しなかった理由	86
(4) ドメスティック・バイオレンスについての考え	87
(5) 暴力を振るう理由	89
6. 性と生殖に関する健康・権利	91
(1) 女性の生涯にわたる健康を守るために必要なこと	91
7. 子育てや学校教育	93

(1) 学校教育で男女平等の意識を深めるために大切なこと	93
(2) 子どもたちの男女平等意識の浸透度	95
(3) 浸透している理由	98
8. 高齢期の暮らし	100
(1) 高齢者や病人などの介護者	100
(2) 男性の介護への参加促進に必要なこと	102
9. 防災・避難	104
(1) 防災活動に関しての男女共同参画推進に必要なこと	104
10. 白井市への要望	113
(1) 男女共同参画推進のため、市が特に力を入れて取り組むべきこと	113
11. 自由回答	118

第3章 市内企業調査の調査結果・分析 121

回答者の属性	123
1. 家庭生活	126
(1) 男女の役割分担の理想と現実	126
2. 仕事	131
(1) 労働や家事・育児・介護などにかかる時間	131
(2) 仕事をしている理由	137
(3) 女性が仕事を続けるのは難しいとされる理由	138
(4) 女性の働き方についての意識	140
(5) 望ましい女性の再就職支援策	142
3. ワーク・ライフ・バランス	144
(1) 生活の中での優先度の理想と現実	144
(2) 仕事・家事・プライベートな時間のバランス	147
(3) 職場の現状と今後の必要性	148
(4) 職場で実施している取り組み	150
(5) 推進によるプラス効果	152
4. 職場	154
(1) 不満やストレス	154
(2) 男女格差や性差	155
(3) 職場での女性の積極的活用による効果	157
(4) 制度の利用経験と今後の利用意向	158
(5) 子どもが生まれたと仮定した場合の育児休業の取得	165
(6) 育児休業を取得しないと思っている理由	166
(7) 男性が介護などに参加していくために必要なこと	167
(8) 仕事と生活の両立がよりよくできる環境	169
(9) より良い職場環境に向けて、今後実施してほしいこと	171
(10) 現在の職層	173
(11) 将来希望する職層	175

(1 2) 管理職になりたくない理由	176
5. セクシュアル・ハラスメント	177
(1) 起こる原因	177
(2) この数年間に実際受けた、相談をされた経験	178
(3) 職場における相談窓口の有無	180
(4) 職場における対策への取り組みの現状と今後の必要性	181
6. 白井市への要望	183
(1) 男女共同参画推進のため、市が特に力を入れて取り組むべきこと	183
7. 自由回答	186

第4章 質問と回答	189
1. 一般市民調査	191
2. 市内企業調査	215

第 1 章 調査の概要

1. 調査実施の目的

前回の調査から約5年が経ち、その間に生じている新たな社会問題や市民の意識変化を把握し、「白井市男女平等推進行動計画」に反映させるための基礎資料とするためにアンケート調査を実施した。

2. 調査の種類

調 査 名	調査対象
①一般市民調査	市内在住の18歳以上の男女2,000人
②市内企業調査	市内企業に勤務する男女500人

3. 調査方法と回収状況

調査地域：白井市全域

抽出方法：①住民基本台帳より無作為抽出

②市内企業から抽出

調査方法：①郵送配布－郵送回収（催促はがき1回）

②訪問配布－郵送回収（催促はがき1回）

調査期間：①平成26年8月29日（金）～9月16日（火）

：②平成26年9月5日（金）～9月29日（月）

< 回収状況 >

	調 査 数	有効回収数	有効回収率
①一般市民調査	2,000人	898票	44.9%
女 性	1,000	495	49.5
男 性	1,000	378	37.8
②市内企業調査	500	173	34.6
女 性	250	92	36.8
男 性	250	79	31.6

4. 調査項目

調 査 名	調査項目
①一般市民調査	1. 家庭生活 2. 仕事 3. ワーク・ライフ・バランス 4. 男女平等 5. ドメスティック・バイオレンス 6. 性と生殖に関する健康・権利 7. 子育てや学校教育 8. 高齢期の暮らし 9. 防災・避難 10. 白井市への要望
②市内企業調査	1. 家庭生活 2. 仕事 3. ワーク・ライフ・バランス 4. 職場 5. セクシュアル・ハラスメント 6. 白井市への要望

5. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（％）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、％を足し合わせて100％にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、％の合計が100％を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

< 標本誤差 >

調査結果の比率から母集団の傾向を推測するには、統計上の誤差（標本誤差）を考慮する必要がある。この誤差は回答者数と各設問の回答の率から、以下の式により求められる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N = 母集団数
n = 比率算出の基数（サンプル数）
p = 回答の比率

各回答比率における標本誤差早見表

回答の比率 (p) 基数(n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
898 (全体)	±2.0%	±2.7%	±3.1%	±3.3%	±3.3%
495 (女性)	±2.7%	±3.6%	±4.1%	±4.4%	±4.5%
378 (男性)	±3.1%	±4.1%	±4.7%	±5.0%	±5.1%

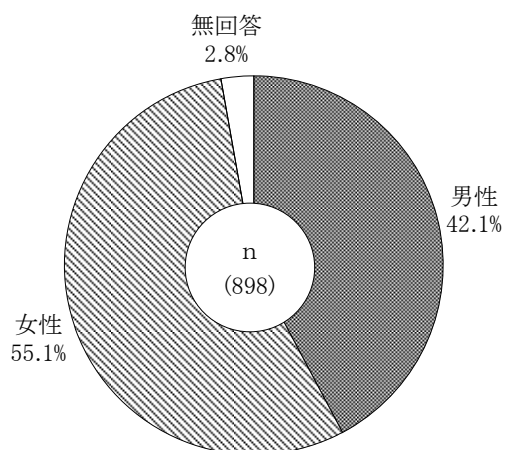
(注) 表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出。

人口は62,498人（平成26年8月末日現在）で算出。

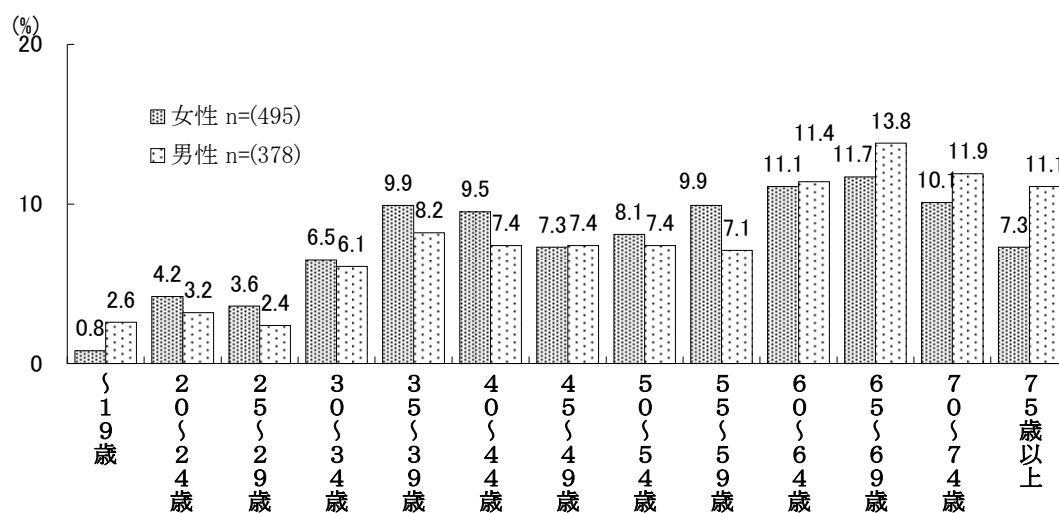
第2章 一般市民調査の調査結果・分析

回答者の属性

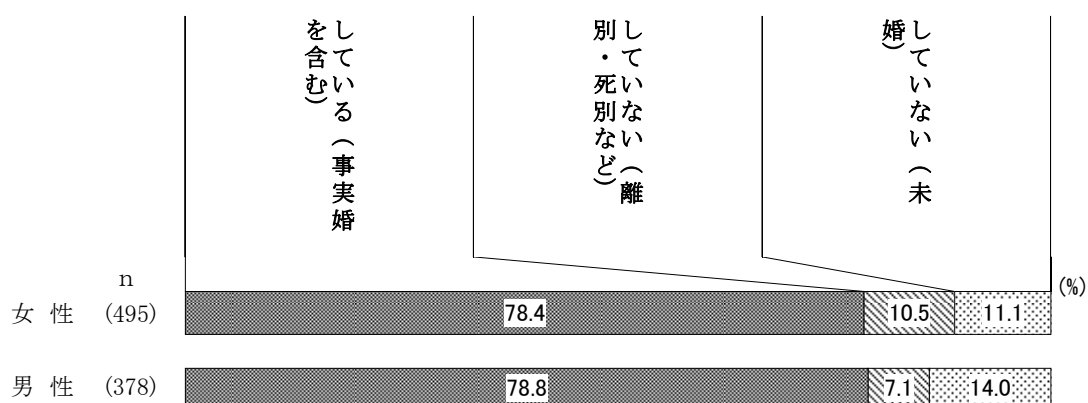
〈性別〉



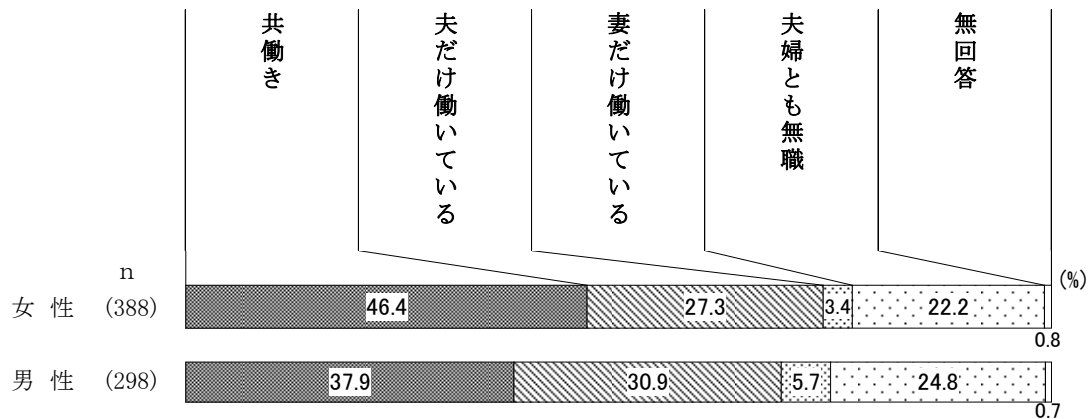
〈年齢〉



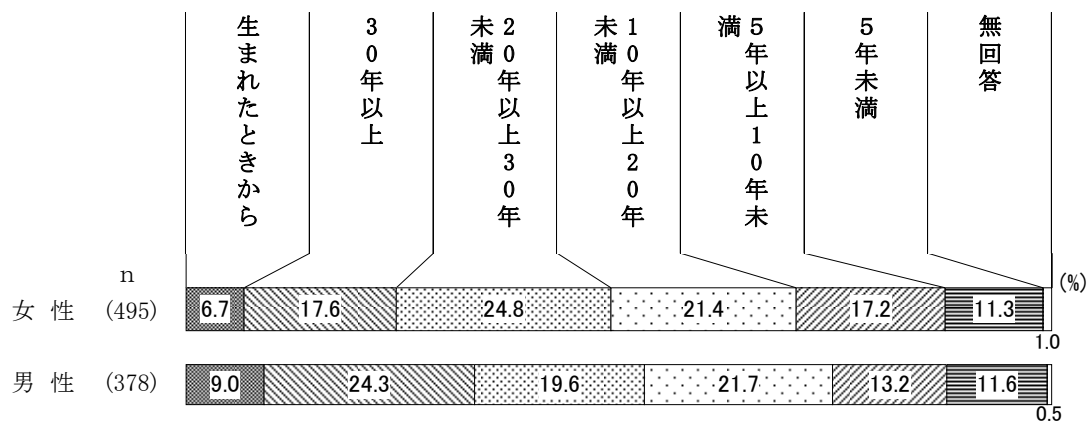
〈未婚〉



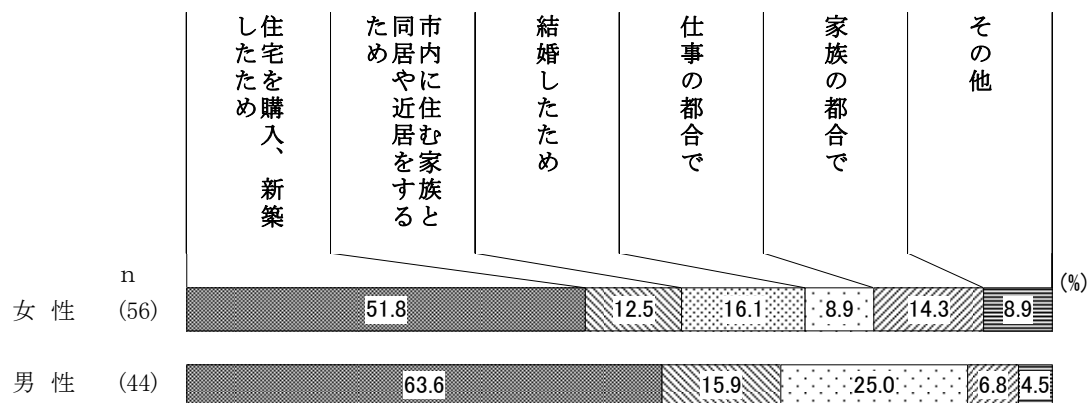
〈 共働きの状況 〉



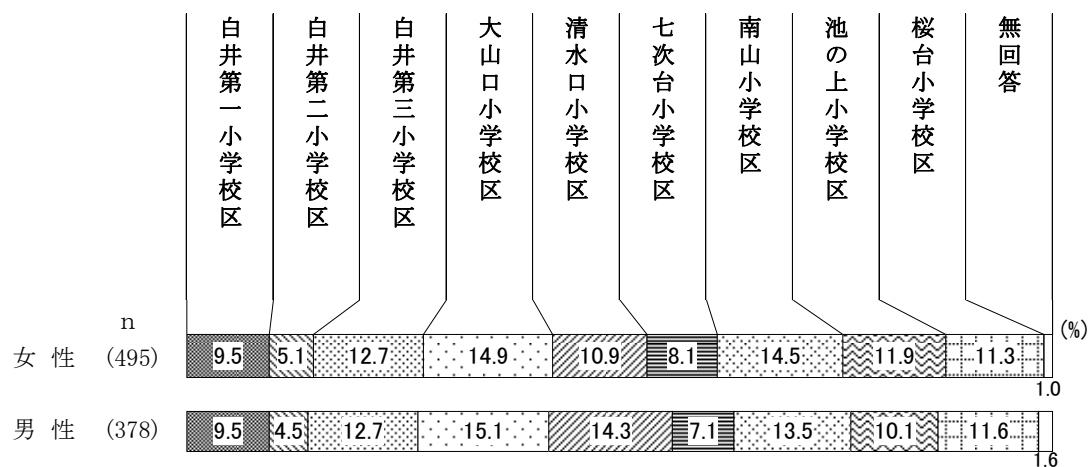
〈 市内在住期間 〉



〈 転入理由 〉

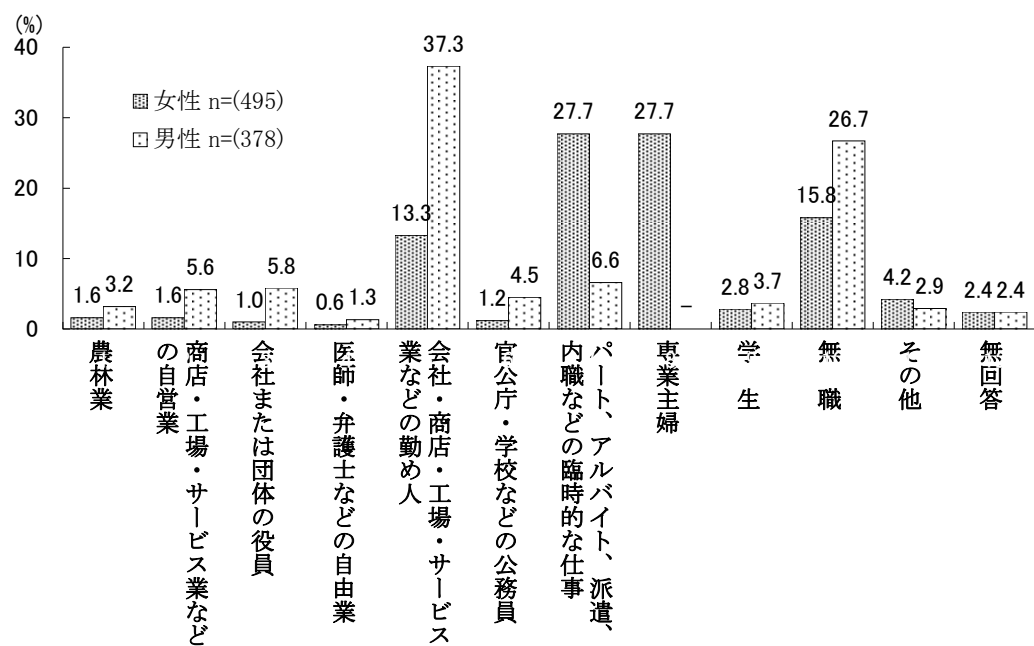


〈 居住地区 〉

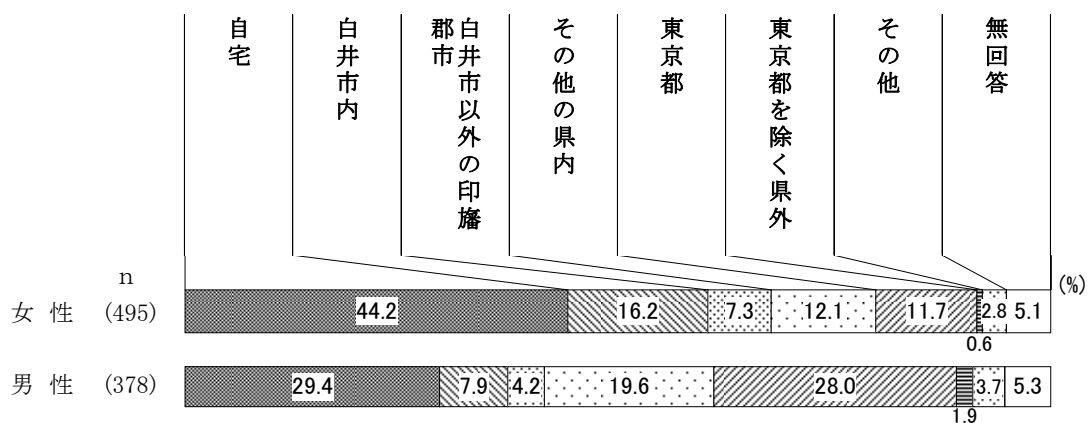


選択肢	該当する町丁目・字等
白井第一小学校区	神々廻の一部、白井、復（下長殿、上長殿、法目）、根（白井木戸、七次）、木の一部、河原子の一部
白井第二小学校区	折立、富塚の一部、中、名内、今井、平塚、河原子の一部、十余一の一部
白井第三小学校区	富士、復（四町会）、根（丸山、白井木戸、オージーコートヴィレッジ）
大山口小学校区	大山口1丁目・2丁目、大松1丁目、西白井1丁目・2丁目、根（清水口、大松、大山口）、富塚の一部
清水口小学校区	清水口1丁目～3丁目、けやき台1丁目・2丁目、根（千草、中木戸）
七次台小学校区	七次台1丁目～4丁目、野口、西白井3丁目・4丁目、根（百合丘、クレイドルガーデン西白井）、木の一部
南山小学校区	南山1丁目～3丁目、堀込1丁目、笹塚1丁目～3丁目、復（富ヶ谷）
池の上小学校区	池の上1丁目～3丁目、堀込2丁目・3丁目、復（富ヶ沢、ひまわり）、根（白井小町）
桜台小学校区	桜台1丁目～5丁目、十余一の一部、清戸、谷田、神々廻の一部

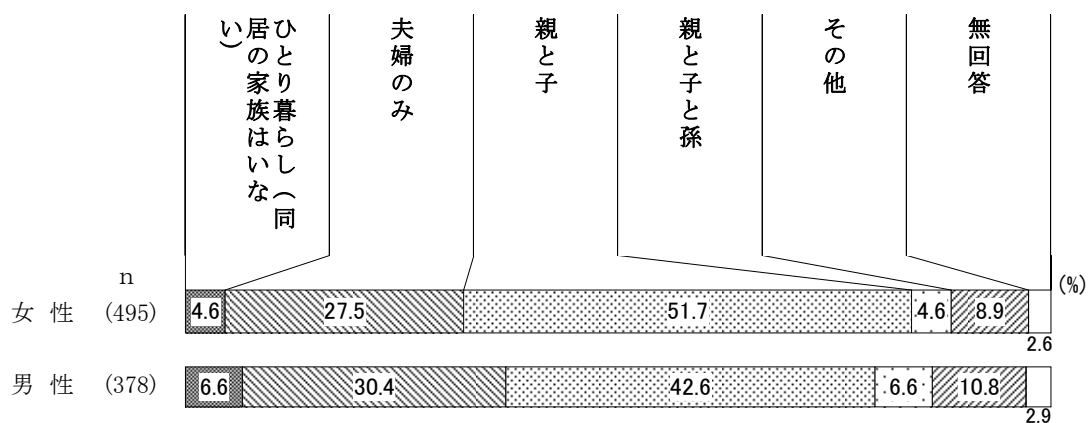
〈 職 業 〉



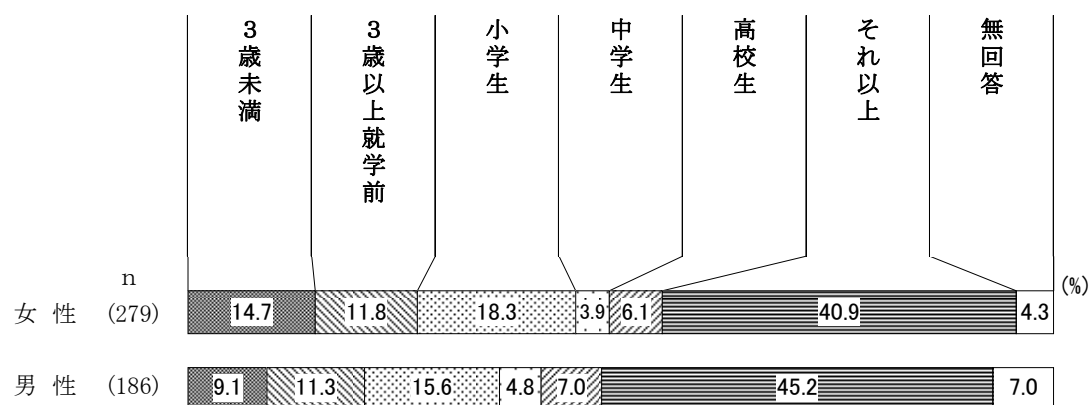
〈 主な仕事場（通学先） 〉



〈 家族構成 〉



〈 末子の年齢 〉

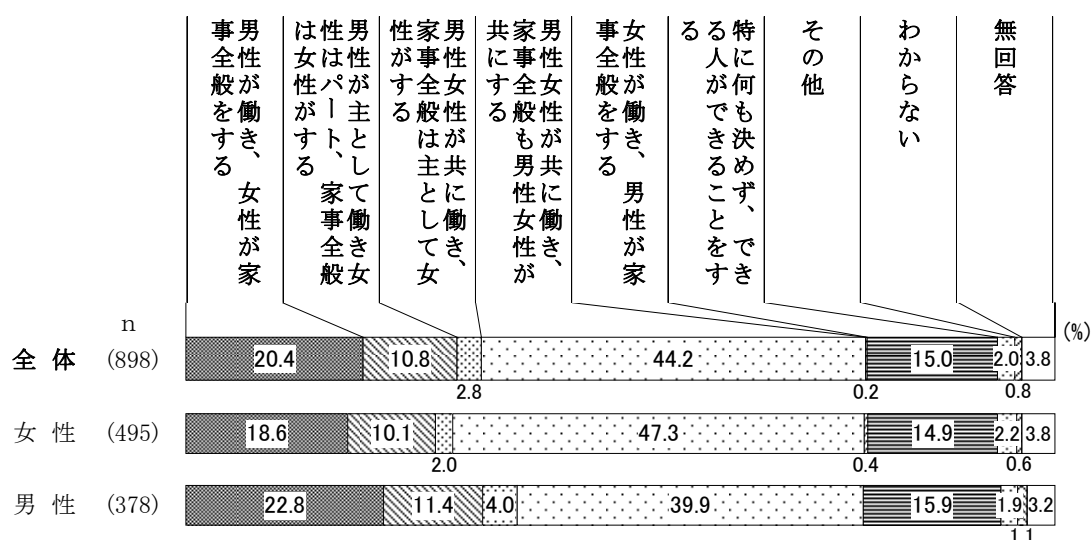


1. 家庭生活

(1) 男女の役割分担の理想と現実

問1 あなたが理想とする男女の役割分担は、次のどれに最も近いですか、また、現在のご家庭の状況（一人暮らしの人は、これまでの家庭での状況）は、次のどれに最も近いですか。1つずつ選んで番号に○をつけてください。

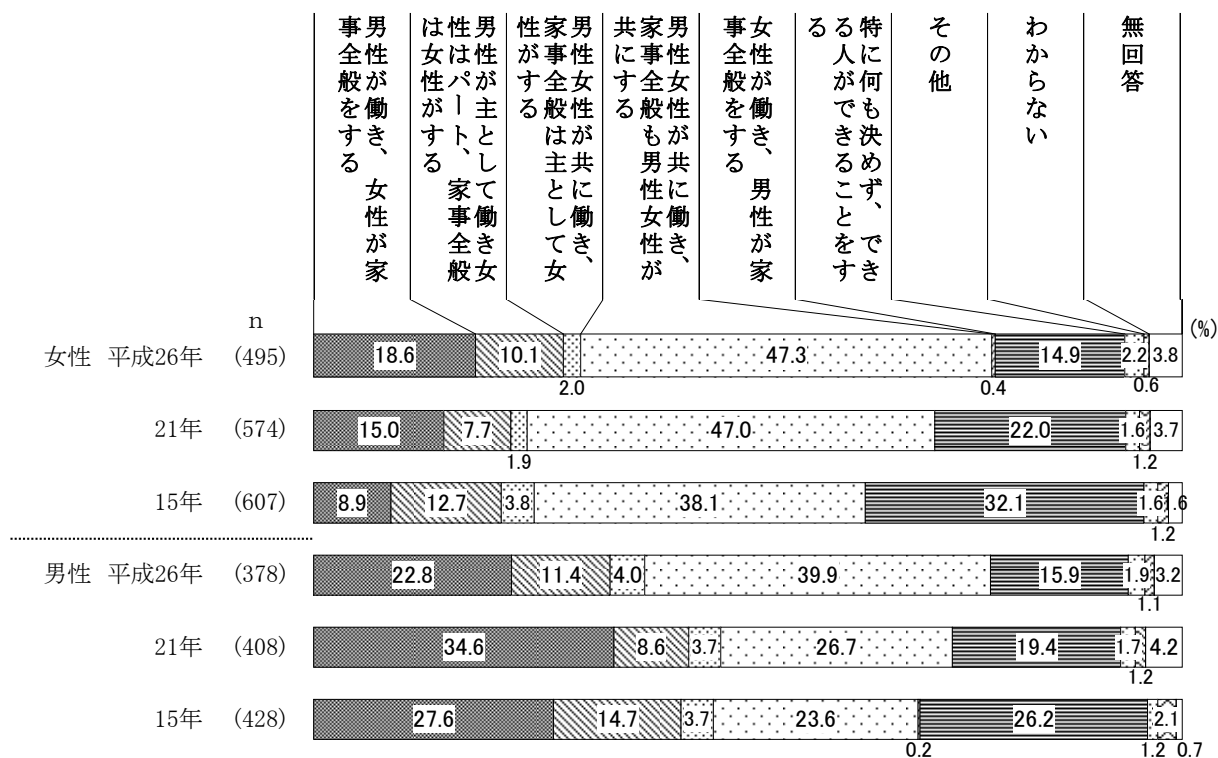
〈 理想とする男女の役割分担 〉



家庭内の役割分担の理想としては、「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」という『男女平等型』が44.2%で最も多く、これに「男性が働き、女性が家事全般をする」という『性別役割分担型』(20.4%)、「特に何も決めず、できる人ができることをする」という『状況対応型』(15.0%)が次いでいる。

性別でみると、女性では『男女平等型』が47.3%と、男性(39.9%)を上回っている。また、男女とも『性別役割分担型』は2割前後となっている。

〈 経年比較／理想とする男女の役割分担 〉

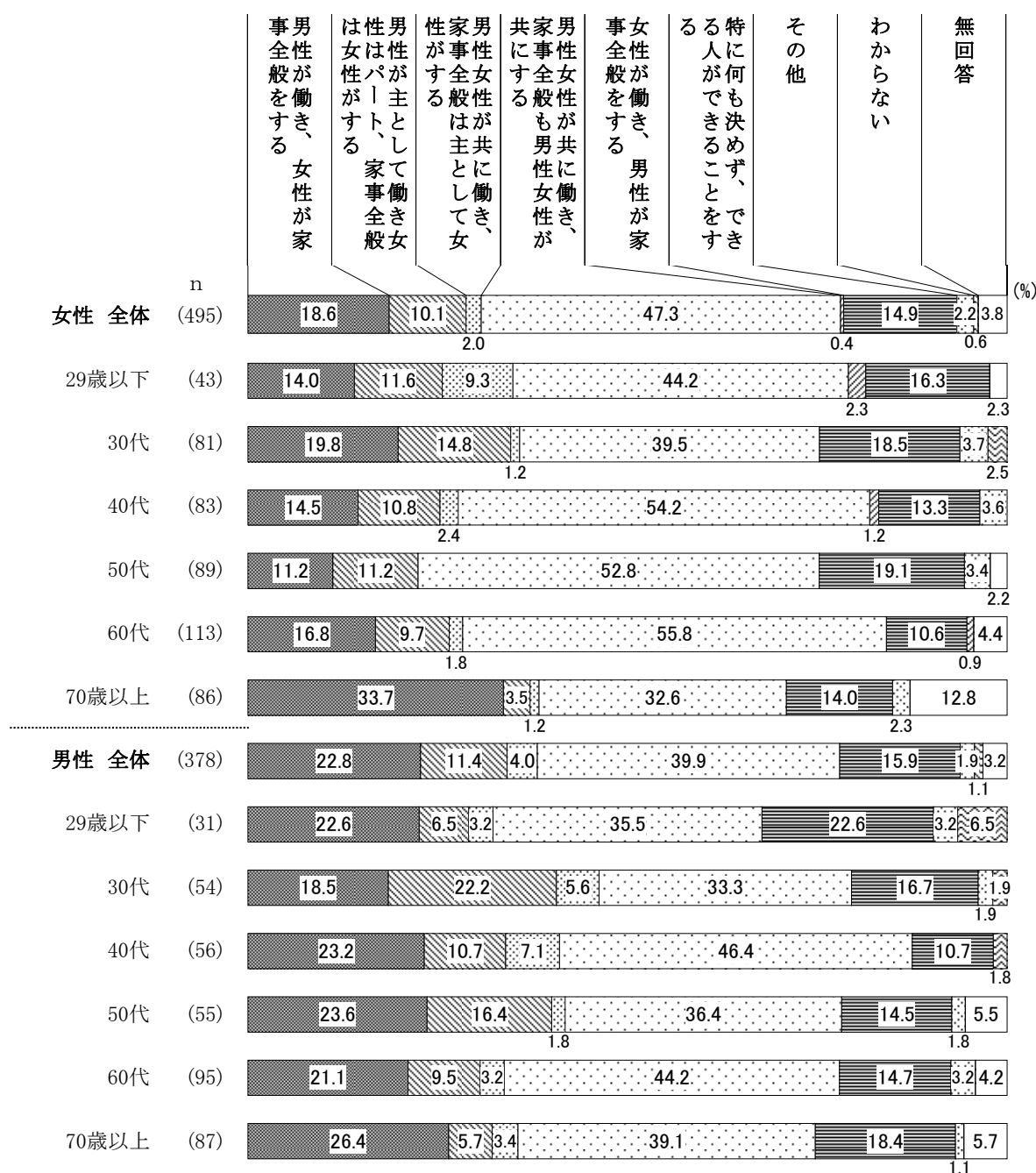


経年で比較すると、女性は『男女平等型』は前回調査とほぼ同じものの、『性別役割分担型』が継続的に増加している。

反対に男性は前回調査と比較すると『男女平等型』が増える一方、『性別役割分担型』は減少している。

『状況対応型』は男女ともに継続して減少している。

〈 性・年代別／理想とする男女の役割分担 〉



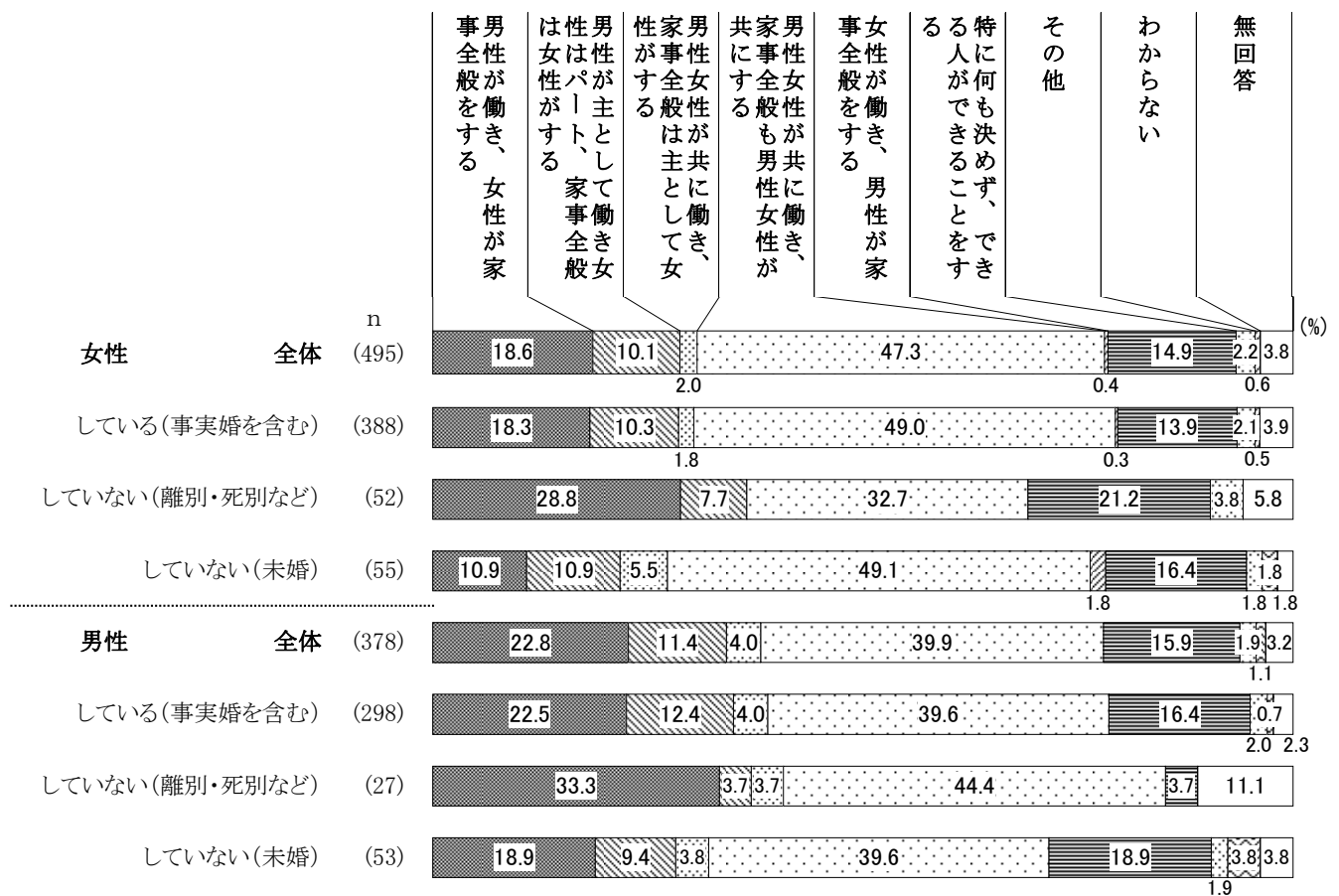
性・年代別でみると、女性の場合、40代、50代、60代では『男女平等型』が、いずれも5割を超えて、他の年代より多くなっている。

男性の場合、40代、60代でもいずれも『男女平等型』が4割台半ばを占めている。

女性の場合、30代と70歳以上で、『性別役割分担型』が多くみられる。

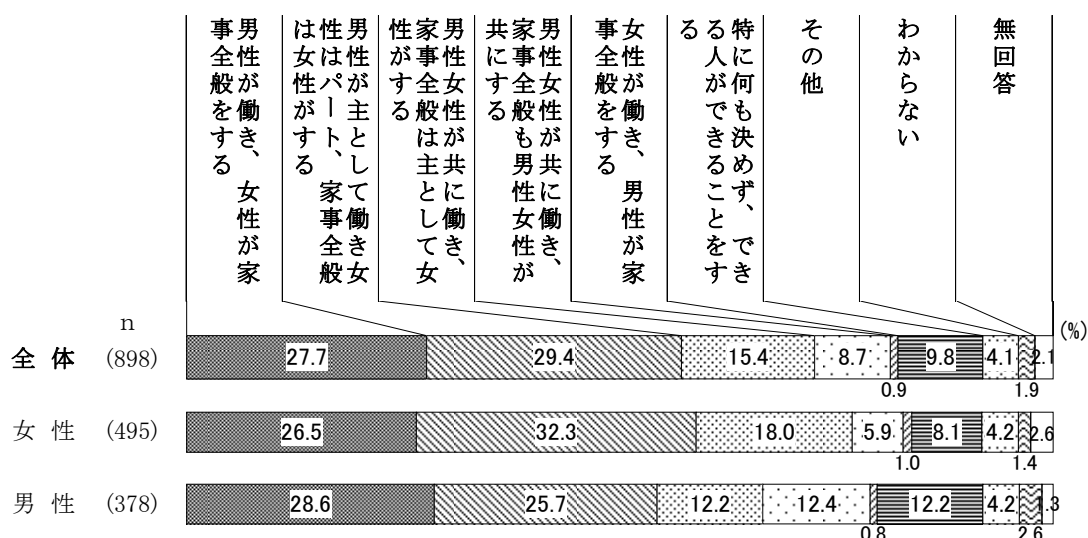
年代別で見ると、男女とも30代で「男性が主として働き女性はパート、家事全般は女性がする」の比率が、他の年代と比べると多い。

〈 性・未既婚別／理想とする男女の役割分担 〉



性・未既婚別でみると、女性の場合、既婚、未婚では、いずれも『男女平等型』が5割近くを占めている。男性の場合、離別・死別では『男女平等型』が44.4%と、既婚、未婚を上回っている。

〈 現実の男女の役割分担 〉

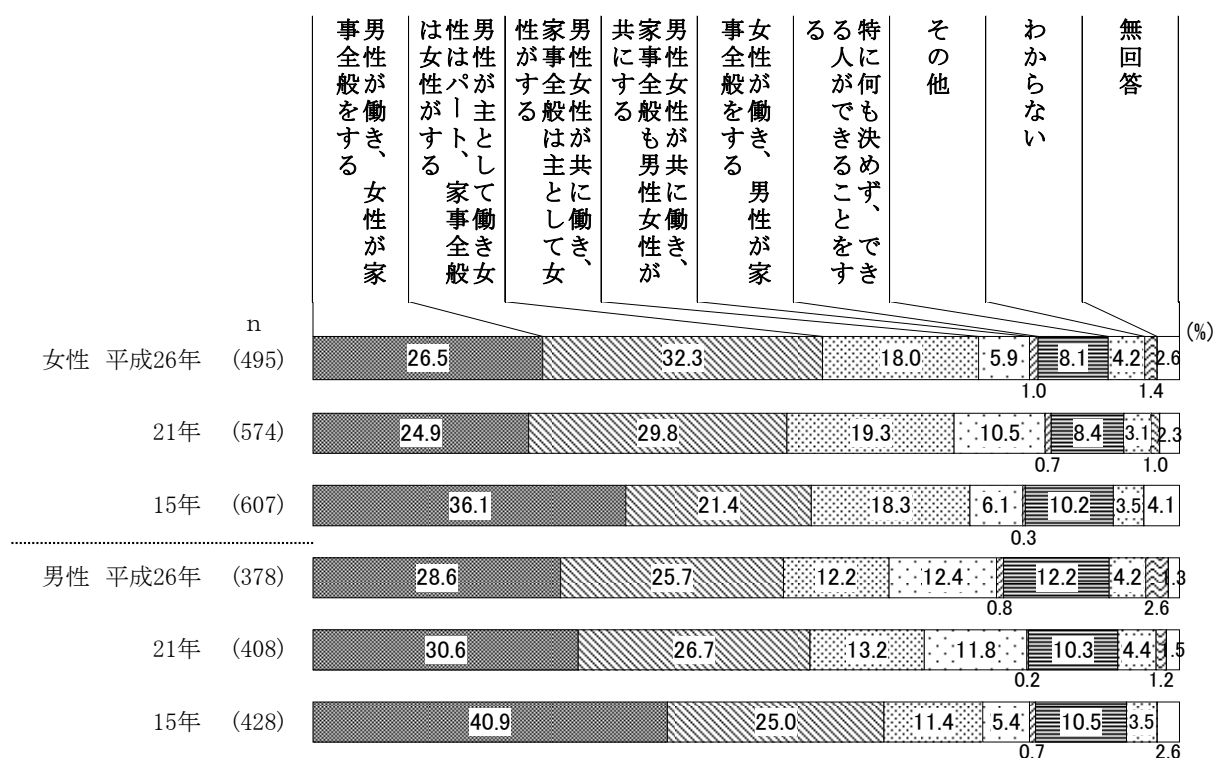


次に、実際の家庭内の役割分担をみると、「男性が主として働き、女性はパート、家事全般は女性がする」という『条件付役割分担型』(29.4%)と、「男性が働き、女性が家事全般をする」という『性別役割分担型』(27.7%)が、多くなっている。また、「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」という『女性負担型』も15.4%を占めている。

一方、「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」という『男女平等型』は8.7%に留まっている。

理想では男女とも『男女平等型』を理想とする人が最も多かったが、実際の家庭生活においては、依然として女性に負担のかかるケースが多いというのが現状である。以前と比べて、『男女平等型』を理想とする男性が増えているだけに、理想と現実の隔たりは大きくなっているといえるだろう。

〈 経年比較／現実の男女の役割分担 〉



経年で比較すると、女性は『性別役割分担型』が前回調査から増加しているなど、「家事全般を女性がする」割合が増加している。

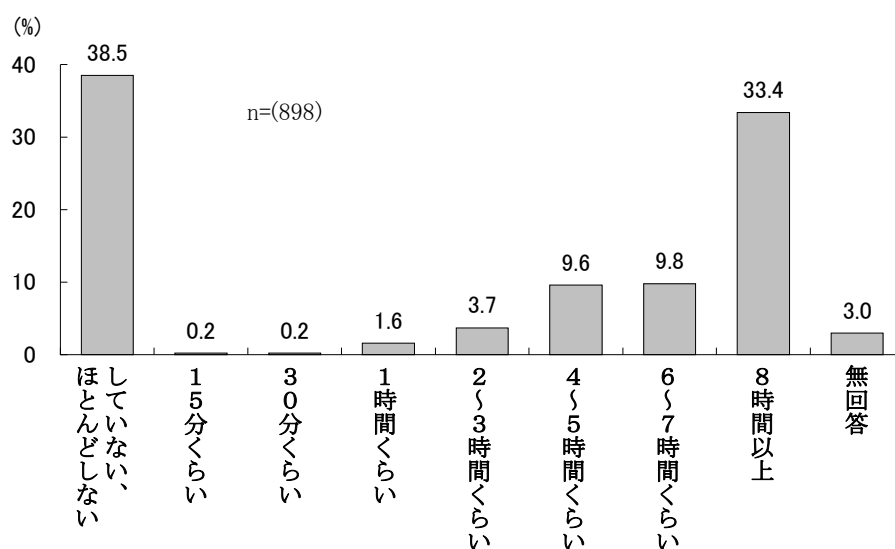
反対に男性は前回調査と比較すると『男女平等型』が増える一方、『性別役割分担型』は減少しており、男女の認識にずれがあるように考えられる。

2. 仕事

(1) 労働や家事・育児・介護などにかかる時間

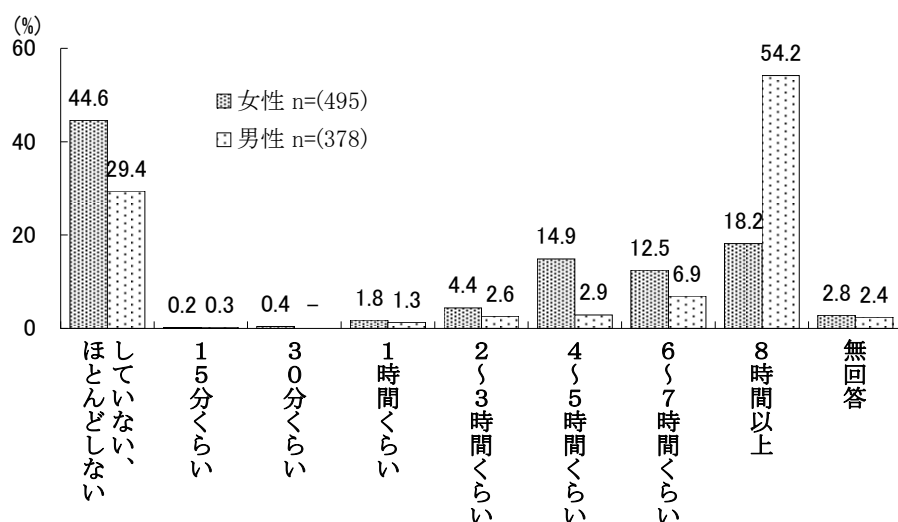
問2 あなたは、収入の得られる労働や、家庭内における家事・育児・介護などに1日平均どのくらい時間をあてていますか。それぞれについて、該当する時間数の番号を口の中に記入してください。

〈収入の得られる労働〉



収入の得られる労働は「8時間以上」(33.4%)と「していない、ほとんどしていない」(38.5%)に2分している。

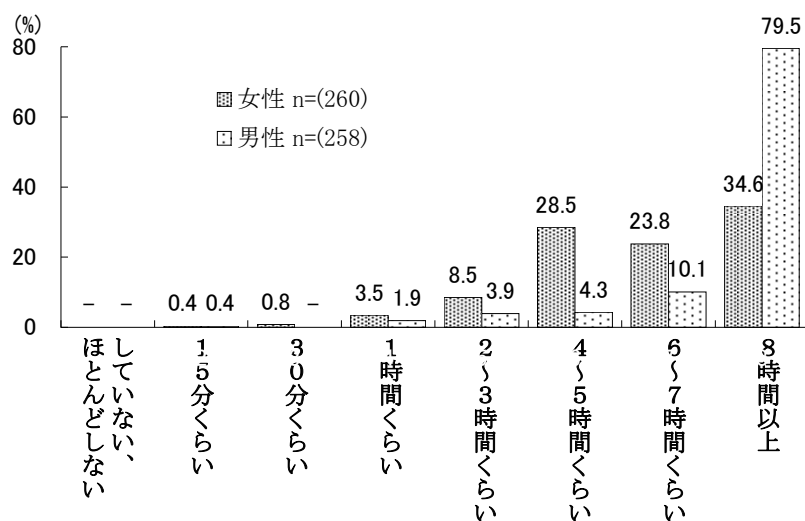
〈性別／収入の得られる労働〉



性別でみると、女性では「していない、ほとんどしていない」が44.6%と、男性(29.4%)を上回っている。

一方、男性では「8時間以上」が54.2%と、女性(18.2%)より多くなっている。

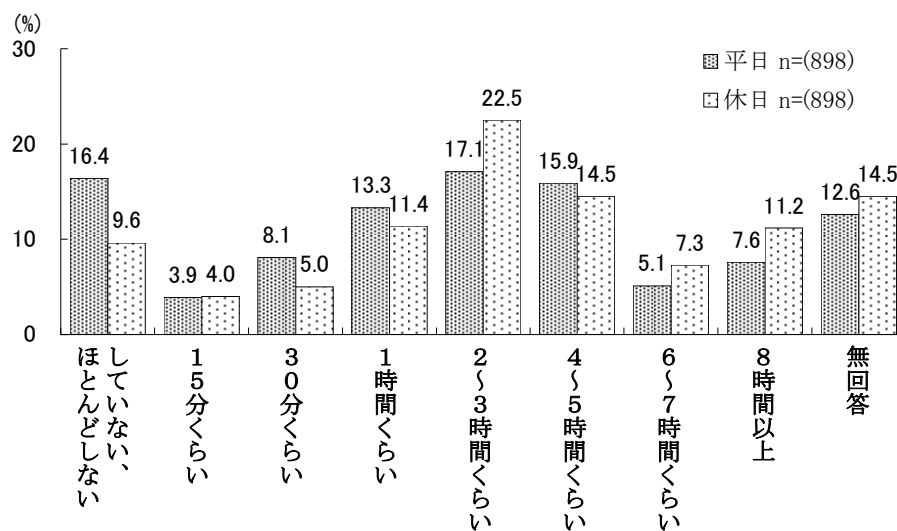
〈 有職者／性別／収入の得られる労働 〉



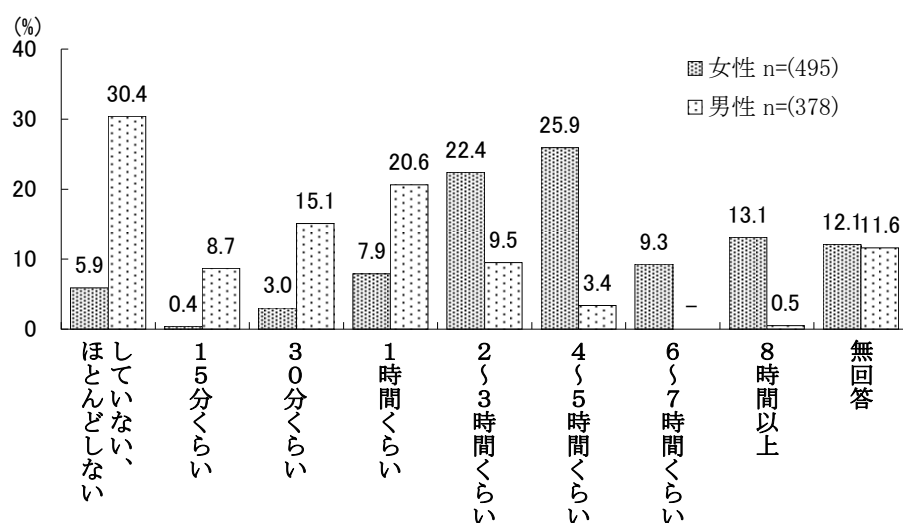
有職者に限定し、かつ性別でみると、女性は「8時間以上」が34.6%で最も多く、以下「4～5時間くらい」(28.5%)、「6～7時間くらい」(23.8%)の順で続いている。

男性は「8時間以上」が79.5%と約8割をも占める。

〈 家事・育児・介護などにかかる時間 〉



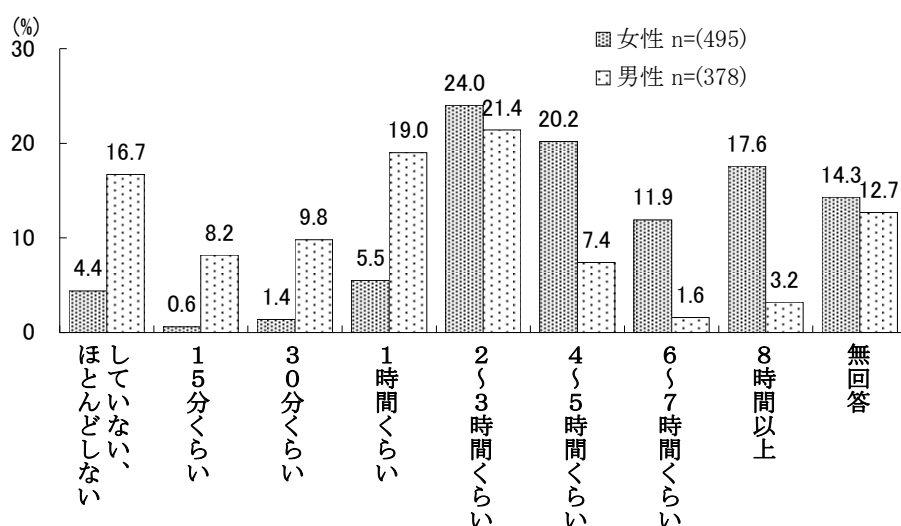
〈 性別／家事・育児・介護などにかかる時間／平日 〉



家事・育児・介護などにかかる時間を性別でみると、平日の女性では「2～3時間くらい」(22.4%)と「4～5時間くらい」(25.9%)が多く、《2時間以上》が7割を越えている。

男性では、「していない、ほとんどしない」が30.4%を占め、《2時間未満》が7割を超えている。

〈 性別／家事・育児・介護などにかかる時間／休日 〉



休日の女性では「2～3時間くらい」(24.0%)と「4～5時間くらい」(20.2%)が多く、《2時間以上》が7割を越えている。

男性では「していない、ほとんどしない」が平日の30.4%から16.7%へと減少し、「1時間くらい」(19.0%)と「2～3時間くらい」(21.4%)が多くなっている。

《2時間未満》が5割以上を占めているが、《2時間以上》も3割を超えており、平日に比べて、休日では家事・育児に参加する男性が多くなっている。

〈 性・共働き別／家事・育児・介護などにかかる時間／平日 〉

(%)

		調査数	していない、 ほとんどしない	15分くらい	30分くらい	1時間くらい	2～3時間くらい	4～5時間くらい	6～7時間くらい	8時間以上	無回答
女性	共働き	180	1.1	0.6	2.2	10.0	27.8	32.8	12.8	8.3	4.4
	夫だけ働いている	106	－	－	－	－	12.3	26.4	10.4	39.6	11.3
男性	共働き	113	29.2	8.8	13.3	27.4	10.6	3.5	－	－	7.1
	夫だけ働いている	92	43.5	10.9	14.1	15.2	5.4	2.2	－	－	8.7

平日の家事・育児・介護にかかる時間を性・共働き別でみると、女性では共働きの場合でも「2～3時間くらい」が27.8%、「4～5時間くらい」が32.8%となっており、《2時間以上》が8割を超えている。

男性では、夫だけ働いている層の「していない、ほとんどしない」が43.5%を占めているほか、共働きの層でも29.2%となっている。

こうしたことから、依然として、共働きの場合でも、家事・育児・介護の負担が女性にかかっている現実がうかがわれる。

〈 性・共働き別／家事・育児・介護などにかかる時間／休日 〉

(%)

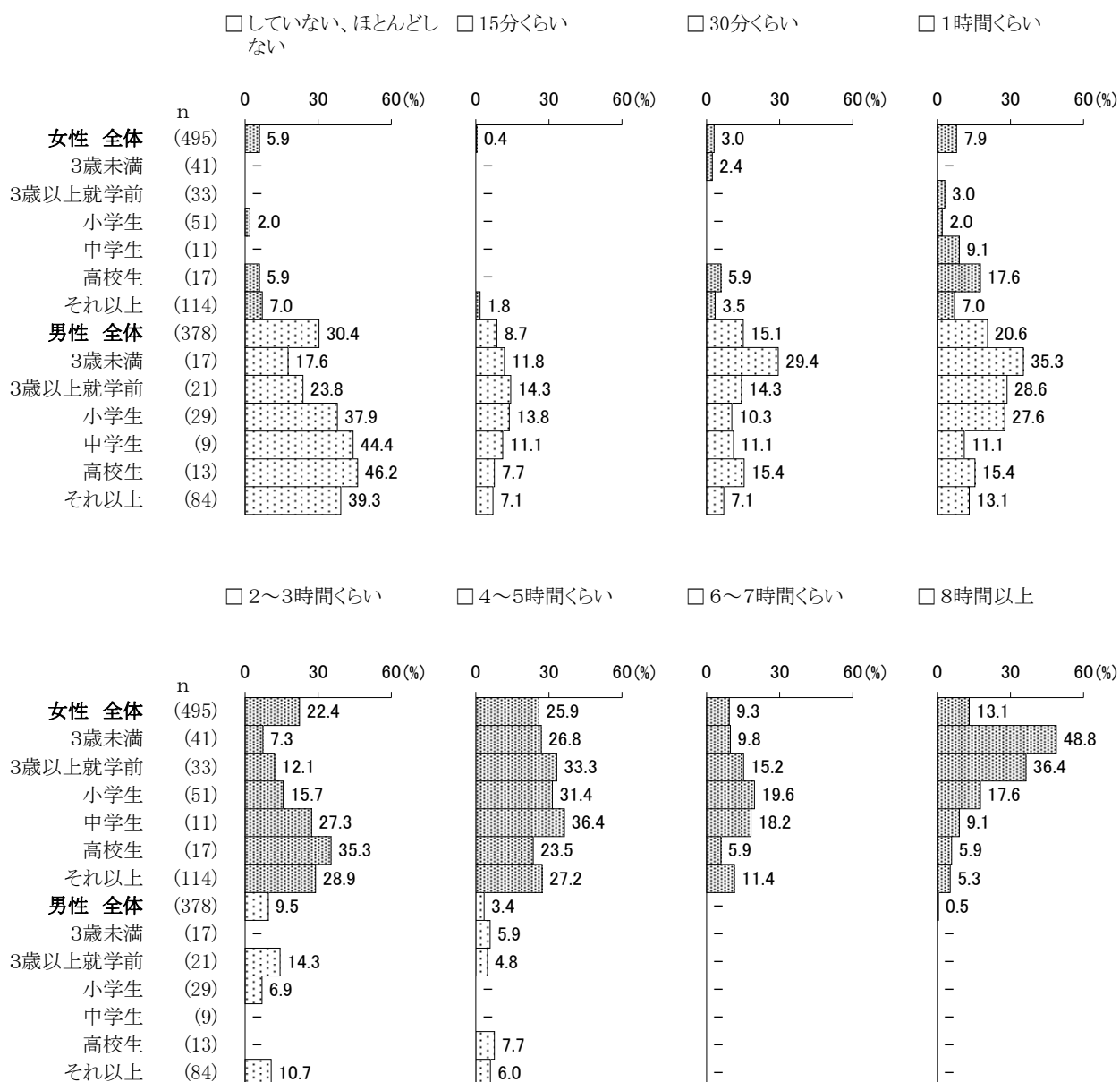
		調査数	していない、 ほとんどしない	15分くらい	30分くらい	1時間くらい	2～3時間くらい	4～5時間くらい	6～7時間くらい	8時間以上	無回答
女性	共働き	180	1.7	－	0.6	3.3	26.1	23.3	18.3	21.1	5.6
	夫だけ働いている	106	－	－	－	1.9	20.8	20.8	8.5	34.9	13.2
男性	共働き	113	13.3	7.1	7.1	18.6	25.7	12.4	2.7	4.4	8.8
	夫だけ働いている	92	9.8	9.8	10.9	18.5	27.2	5.4	3.3	5.4	9.8

休日の家事・育児・介護にかかる時間をみると、女性の場合、共働きでは「2～3時間くらい」は26.1%と、平日とほぼ変わらないが、「4～5時間くらい」は23.3%と、平日（32.8%）より低くなっている。

夫だけ働いているでは「8時間以上」が34.9%を占め、《2時間以上》は8割を超えている。

男性の場合、共働きであるかどうかにかかわらず、「1時間くらい」が2割弱、「2～3時間くらい」が2割台半を占め、《1時間以上》は5割を超えており、平日に比べて家事・育児・介護への参加は進んでいることがわかる。

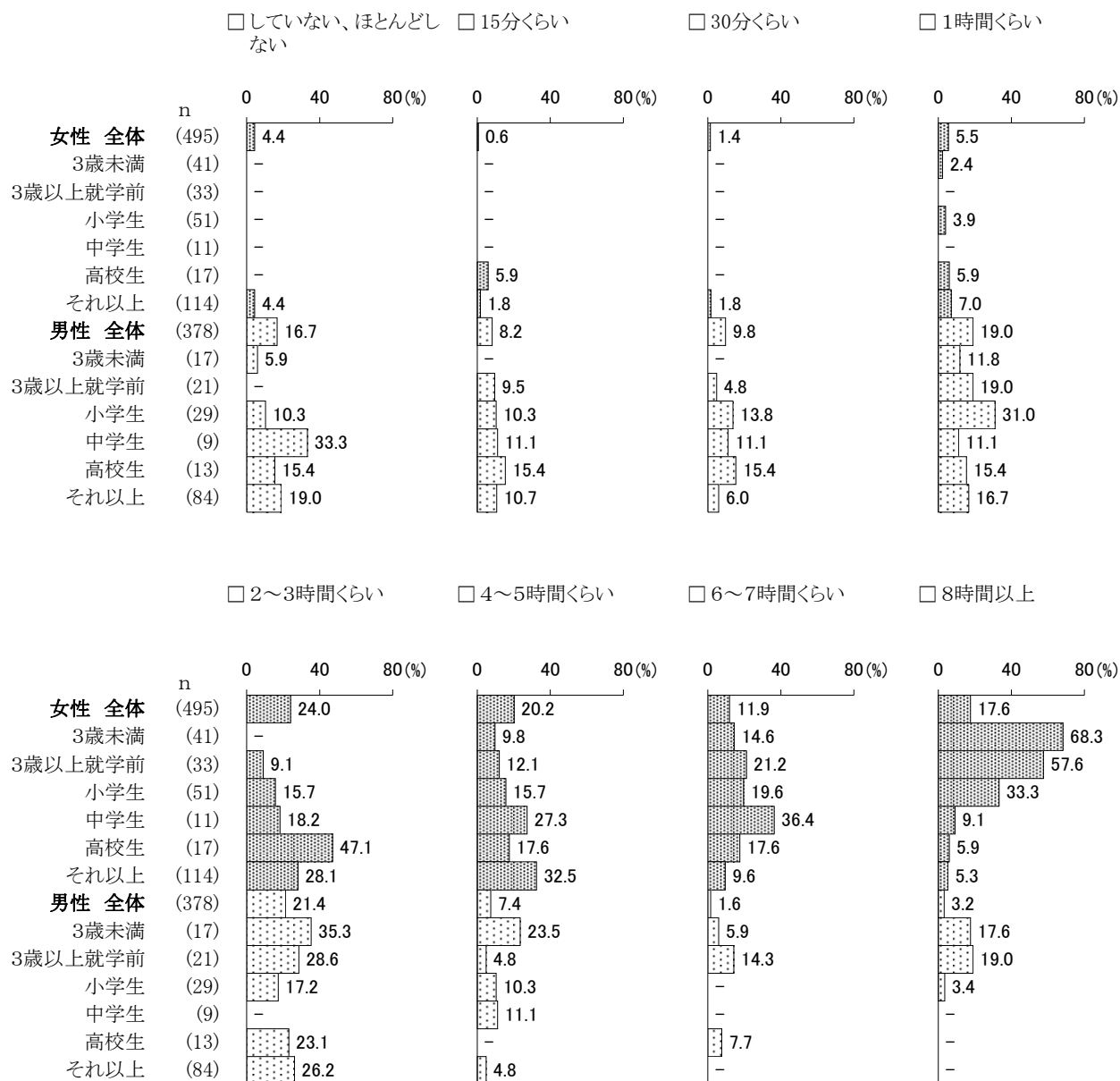
〈 性・末子の年齢別／家事・育児・介護などにかかる時間／平日 〉



性・末子の年齢別でみると、女性の場合、3歳未満では「8時間以上」が48.8%を占めているほか、3歳以上就学前でも36.4%と多くなっている。また、3歳以上就学前、小学生、中学生では、いずれも「4～5時間くらい」が3割を超えている。

男性の場合、3歳未満で「1時間くらい」が35.3%を占めているほか、3歳以上就学前、小学生でも3割近くを占めている。

〈 性・末子の年齢別／家事・育児・介護などにかかる時間／休日 〉



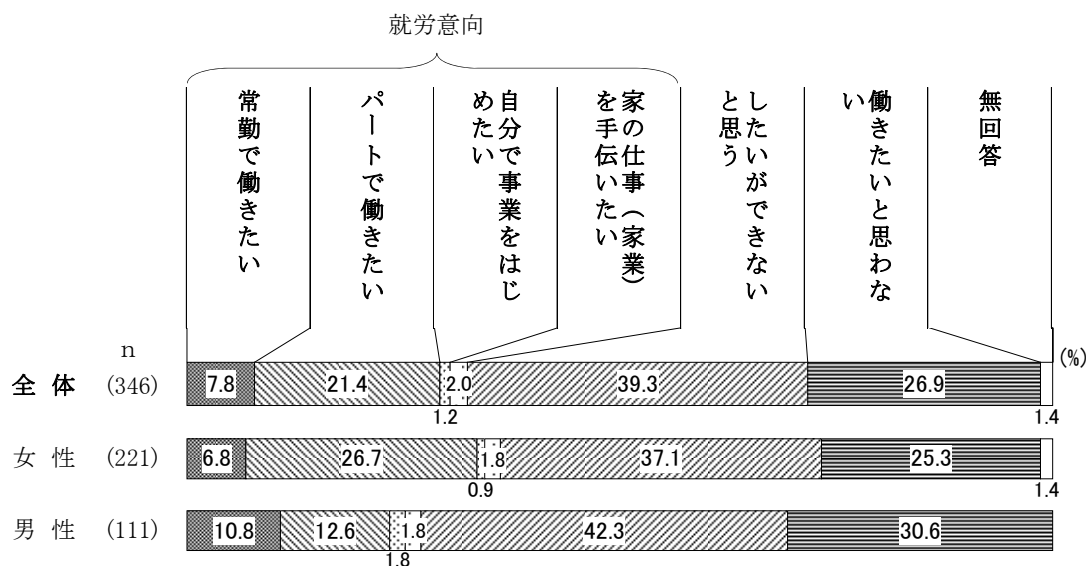
性・末子の年齢別でみると、女性の場合、3歳未満では「8時間以上」が68.3%を占めているほか、3歳以上就学前でも57.6%と多くなっている。また、中学生では、いずれも「6～7時間くらい」が3割を超えている。

男性の場合、小学生で「1時間くらい」が31.0%と多くなっている。

(2) 今後の就労意向

問2で収入の得られる労働を「1 していない、ほとんどしていない」と答えた方にうかがいます。

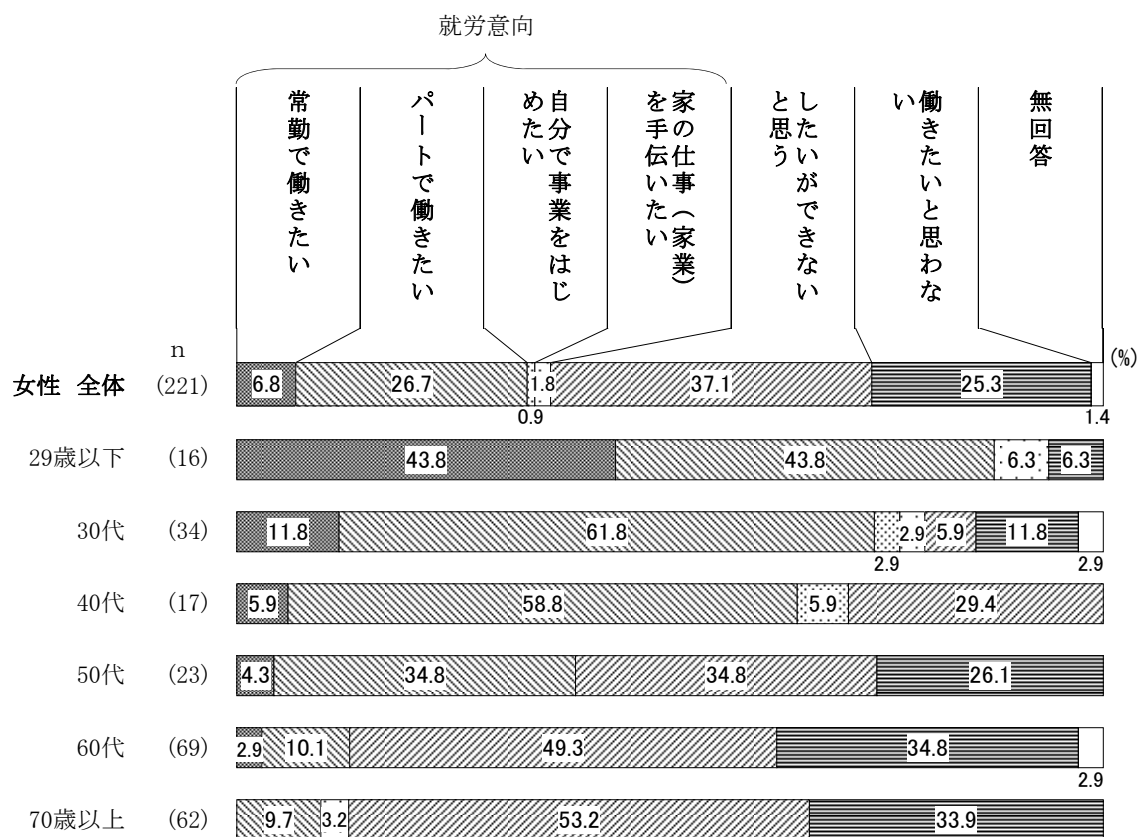
問2-1 あなたは、今後仕事をしたいと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。



収入の得られる労働をしていない、ほとんどしていないという人に就労意向をきいたところ、「パートで働きたい」は21.4%で、これに「常勤で働きたい」(7.8%)、「自分で事業をはじめたい」(1.3%)、「家の仕事(家業)を手伝いたい」(2.0%)を合わせた《就労意向》は32.4%となっている。

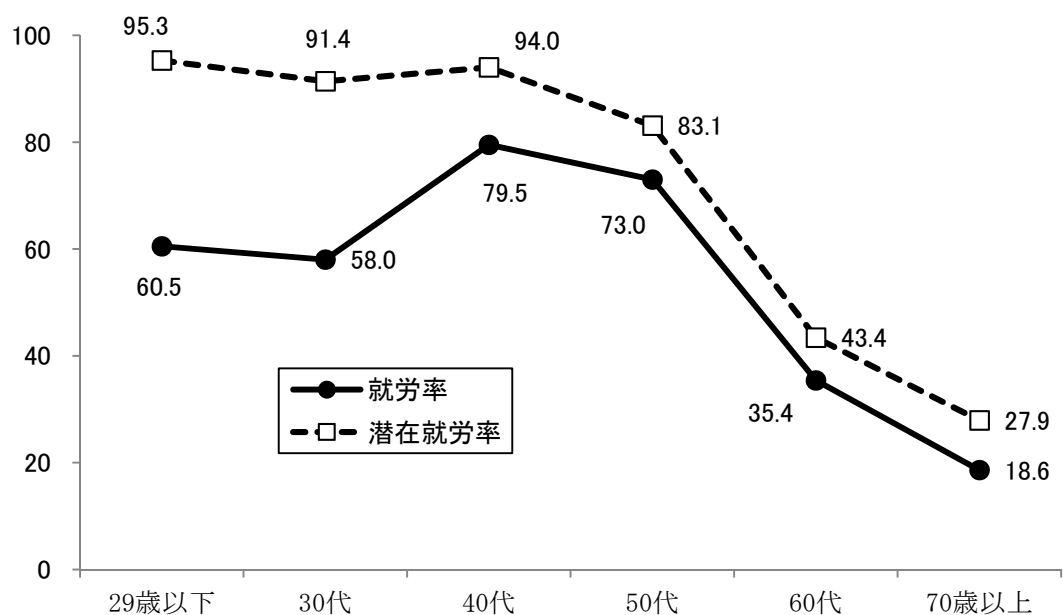
一方、「したいができないと思う」が39.3%、「働きたいと思わない」が26.9%となっている。性別でみると、《就労意向》は、女性36.2%、男性27.0%となっている。

〈 女性・年代別／今後の就労意向 〉



女性・年代別でみると、29歳以下では「常勤で働きたい」と「パートで働きたい」が、いずれも43.8%となっている。一方、30代、40代では「パートで働きたい」が、それぞれ61.8%、58.8%と、他の年代より多くなっている。

〈 女性・年代別／就労率と潜在就労率 〉



女性における先の収入を得られる労働の状況（就労率）と就労意向を加えた潜在就労率をみると、30代では就労率58.0%に対して、潜在就労率は91.4%と多くなっており、この年代では働きたくても働けない人が多いことがわかる。

■就労率とは・・・15歳以上の人口に占める就業者の割合

■潜在就労率とは・・・就労率と就労希望率を合わせたもの

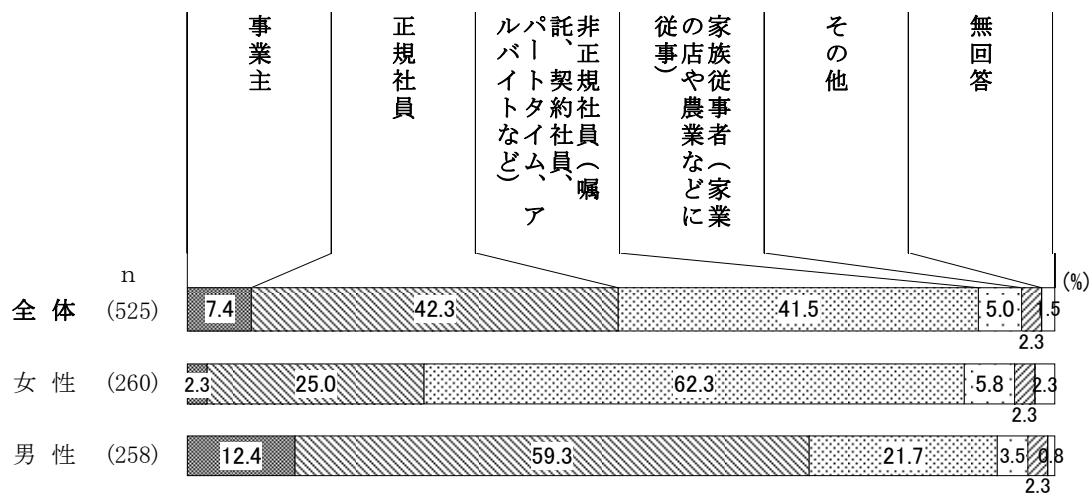
就労人口＋非就労人口のうちの就労希望者

15歳以上の人口

(3) 就業形態

問2で「収入の得られる労働」をしていると答えた方にうかがいます。

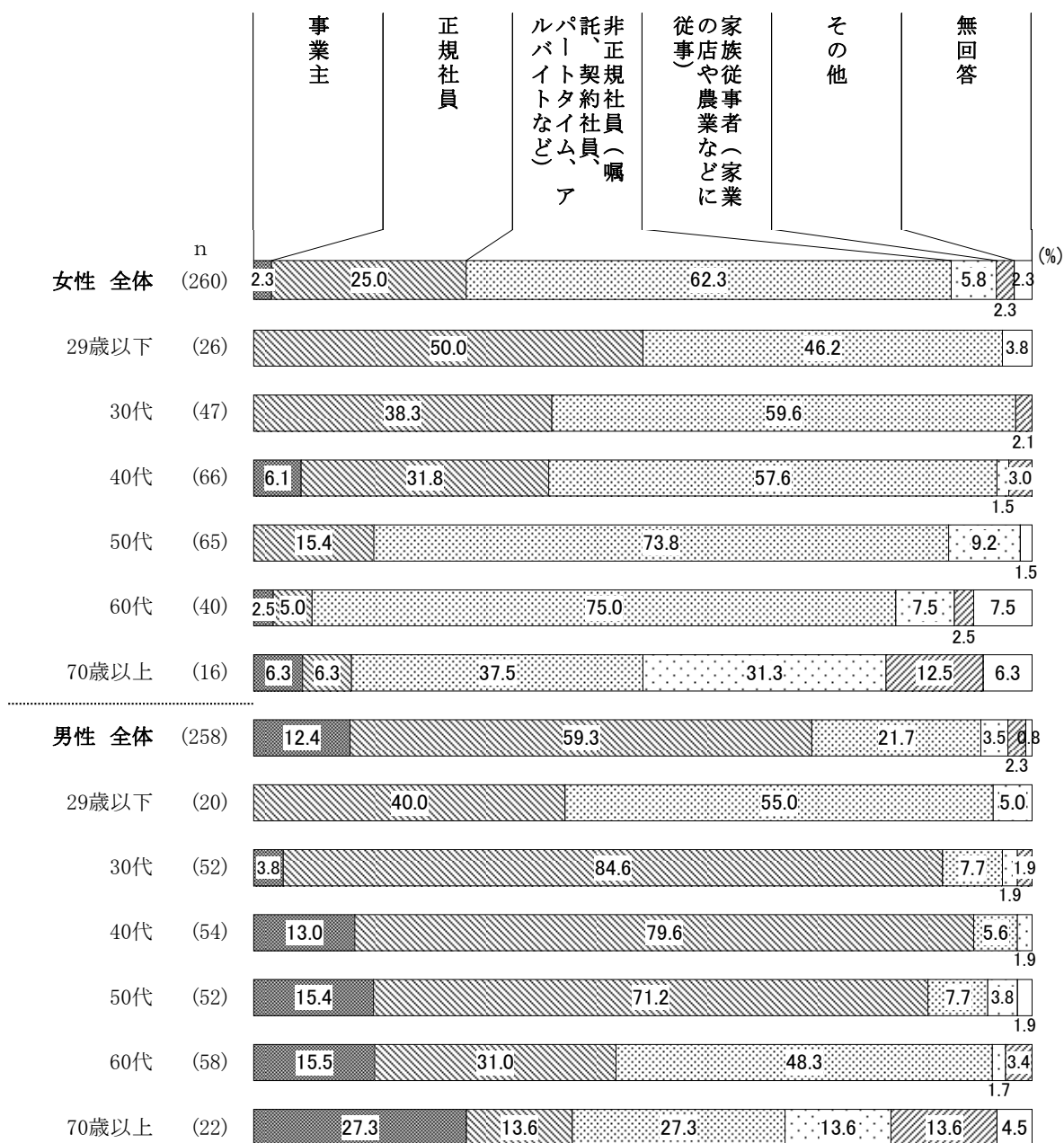
問2-2 今どのような形で働いていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。



収入を得られる労働をしている人に就業形態をきいたところ、「正規社員」(42.3%)と「非正規社員」(41.5%)が多くなっている。

性別でみると、女性では「非正規社員」が62.3%と、男性(21.7%)を上回っているのに対して、男性では「正規社員」が59.3%と、女性(25.0%)より多くなっている。

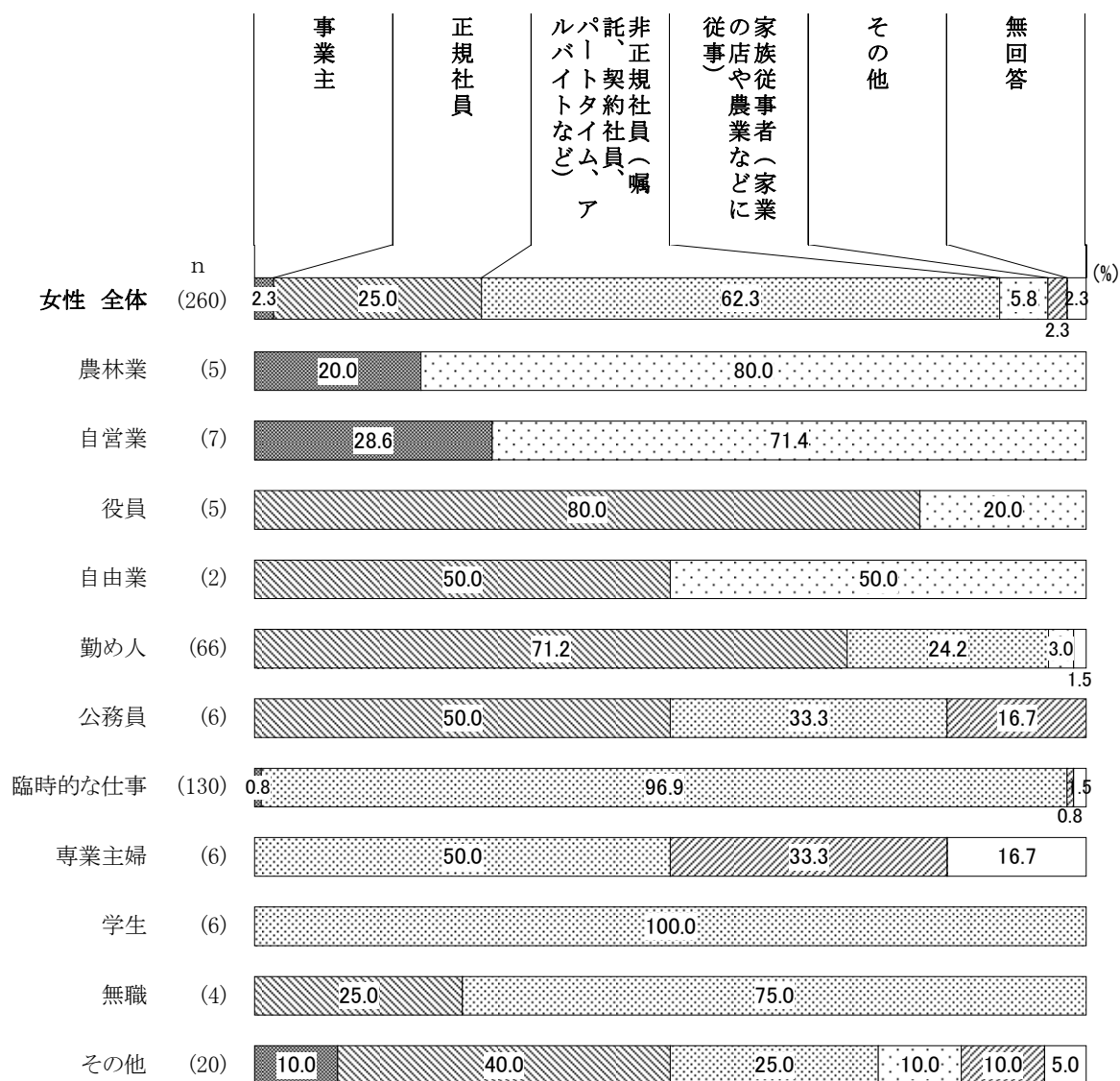
〈 性・年代別／就業形態 〉



性・年代別でみると、女性では、50代、60代で「非正規社員」が7割を超えているほか、30代、40代でも6割近くを占めている。

男性では、30代、40代、50代で「正規社員」が7割を超えている。

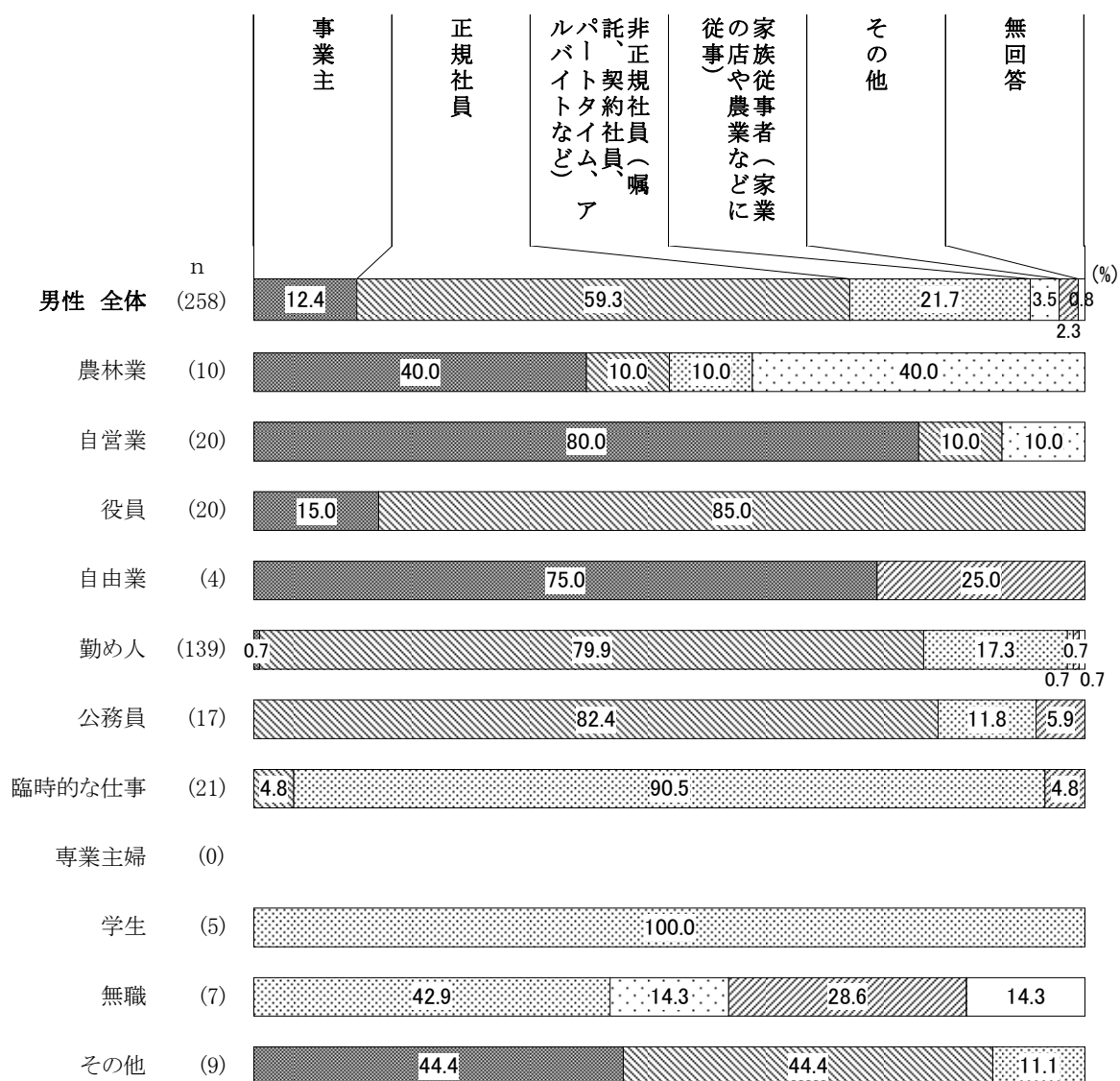
〈 女性・職業別／就業形態 〉



女性・職業別でみると、パート・アルバイト・派遣・内職などの臨時的仕事で「非正規社員」が96.9%と極めて多くなっている。

一方、勤め人では「正規社員」が71.2%と多くなっている。

〈 男性・職業別／就業形態 〉

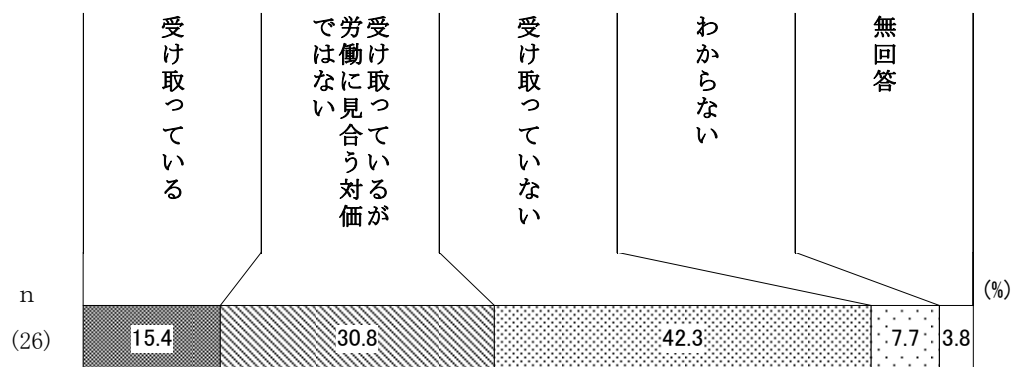


男性・職業別でみると、勤め人では「正規社員」が79.9%と多くなっている。

(4) 家業従事者の対価

問2-2で「4 家族従事者（家業の店や農業などに従事）」と答えた方にうかがいます。

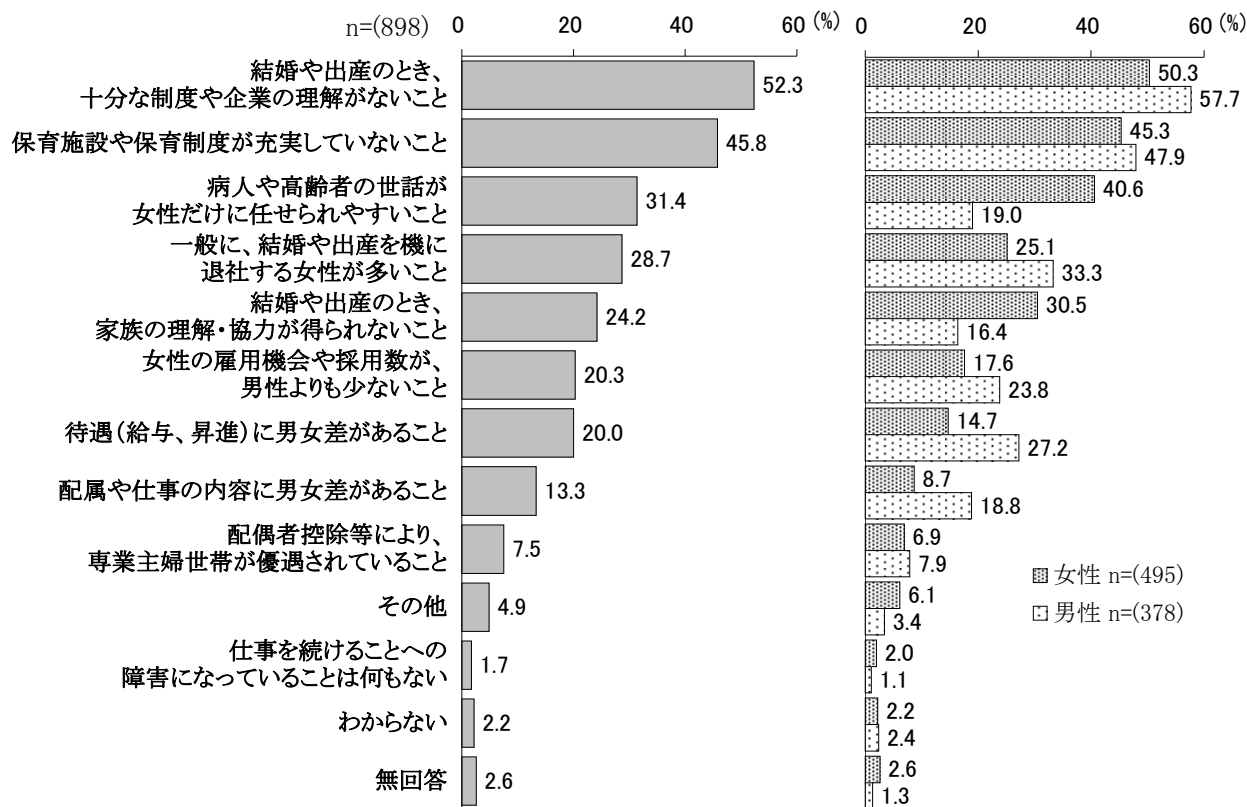
問2-2-1 家業に従事されていて、労働に見合う分の対価（給料）を受け取っていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。



就業形態が家事従事者という人に、労働に見合う対価（給料）を受け取っているかきいたところ、「受け取っている」は15.4%となっている。一方、「受け取っているが労働に見合う対価ではない」が30.8%、「受け取っていない」が42.3%となっている。

(5) 女性が仕事を続けるのは難しいとされる理由

問3 女性が仕事を続けるのは難しいとされていますが、その理由は何だと思えますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。



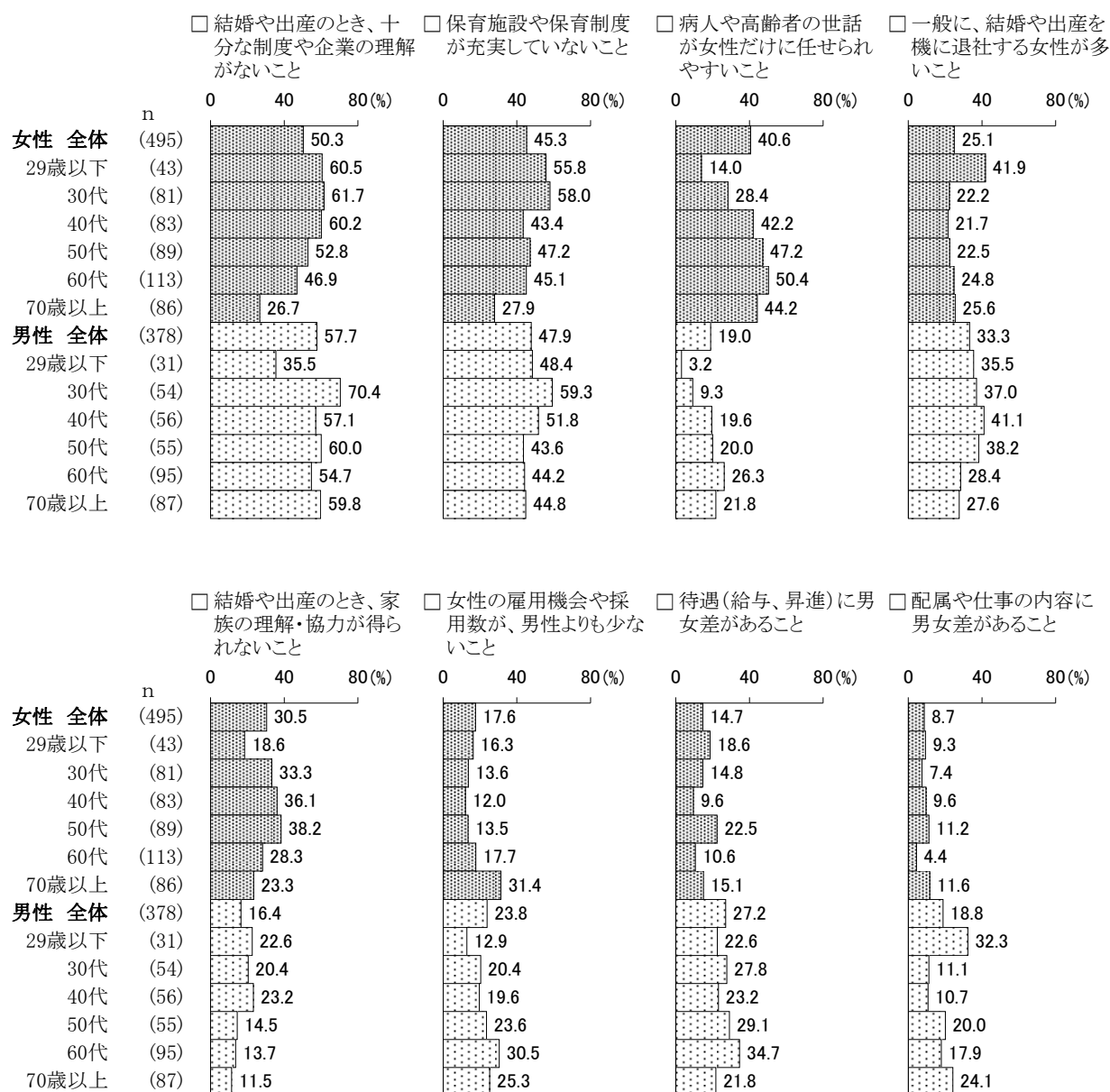
女性が仕事を続ける上での障害としては、「結婚や出産のとき、十分な制度や企業の理解がないこと」が52.3%で最も多く、以下「保育施設や保育制度が充実していないこと」(45.8%)、「病人や高齢者の世話が女性だけに任せられやすいこと」(31.4%)の順で続いている。

性別でみると、男女とも「結婚や出産のとき、十分な制度や企業の理解がないこと」が5割を、「保育施設や保育制度が充実していないこと」が4割を超えている。

また、女性では「病人や高齢者の世話が女性だけに任せられやすいこと」が40.6%と男性(19.0%)を倍以上上回っている。

男性では「一般に、結婚や出産を機に退社する女性が多いこと」(33.3%)や「待遇(給与、昇進)に男女差があること」(27.2%)が多くなっている。

〈性・年代別／女性が仕事を続けるのは難しいとされる理由／上位8項目〉

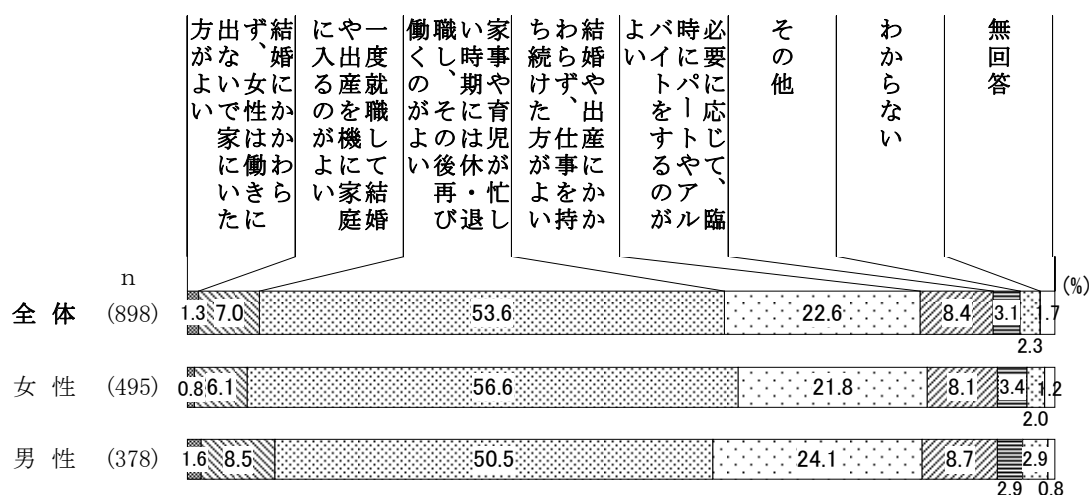


性・年代別でみると、女性の場合、20代、30代、40代では「結婚や出産のとき、十分な制度や企業の理解がないこと」が、いずれの年代でも6割を超えている。また、20代、30代では「保育施設や保育制度が充実していないこと」が5割台半ばを超え、他の年代より多くなっている。さらに、50代、60代では「病人や高齢者の世話が女性だけに任せられやすいこと」が5割前後を占めている。

男性の場合、30代では「結婚や出産のとき、十分な制度や企業の理解がないこと」が70.4%と、男女各年代中最も多くなっているほか、「保育施設や保育制度が充実していないこと」も59.3%と6割近くを占めている。

(6) 女性の働き方についての意識

問4 女性の働き方についてあなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

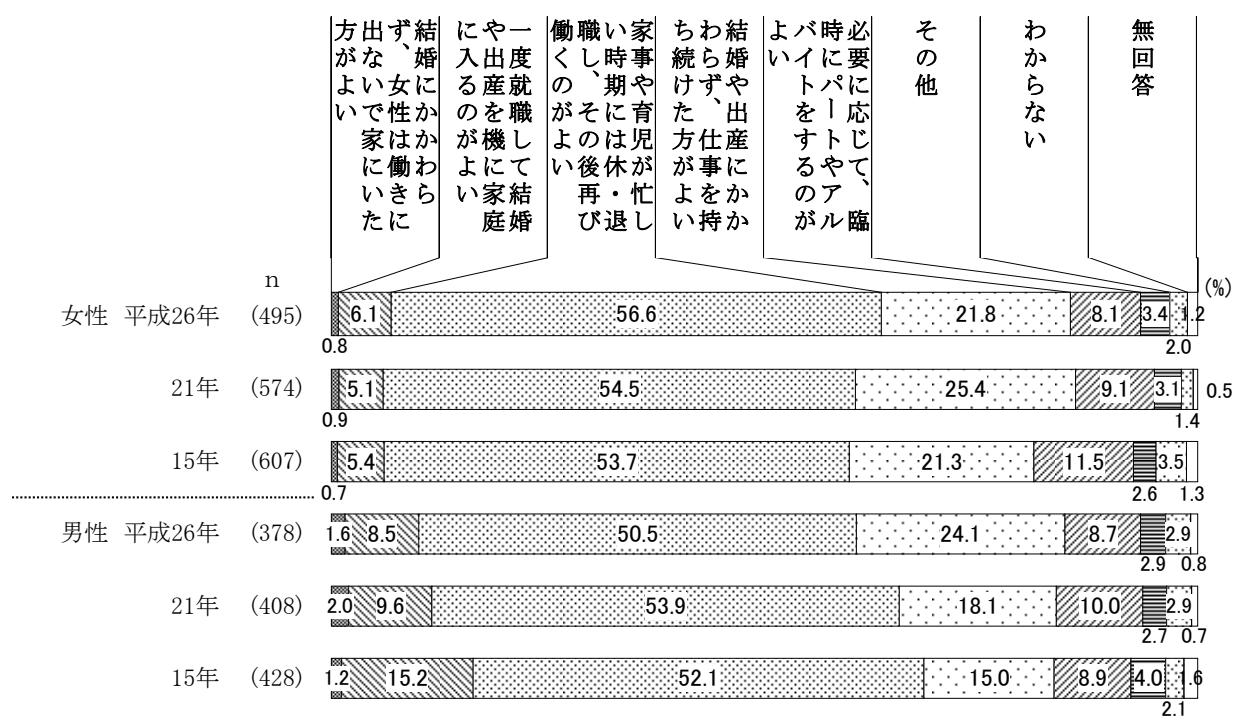


女性の働き方についての意識をみると、「家事や育児が忙しい時期には休・退職し、その後再び働くのがよい」という『中断再就職型』が53.6%で最も多く、「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けた方がよい」という『就労継続型』(22.6%)の倍以上を占めている。一方、「一度就職して結婚や出産を機に家庭に入るのがよい」という『結婚・出産型』は7.0%となっている。

性別でみると、『中断再就職型』は、女性56.6%、男性50.5%と男女とも5割を超えて多くなっている。

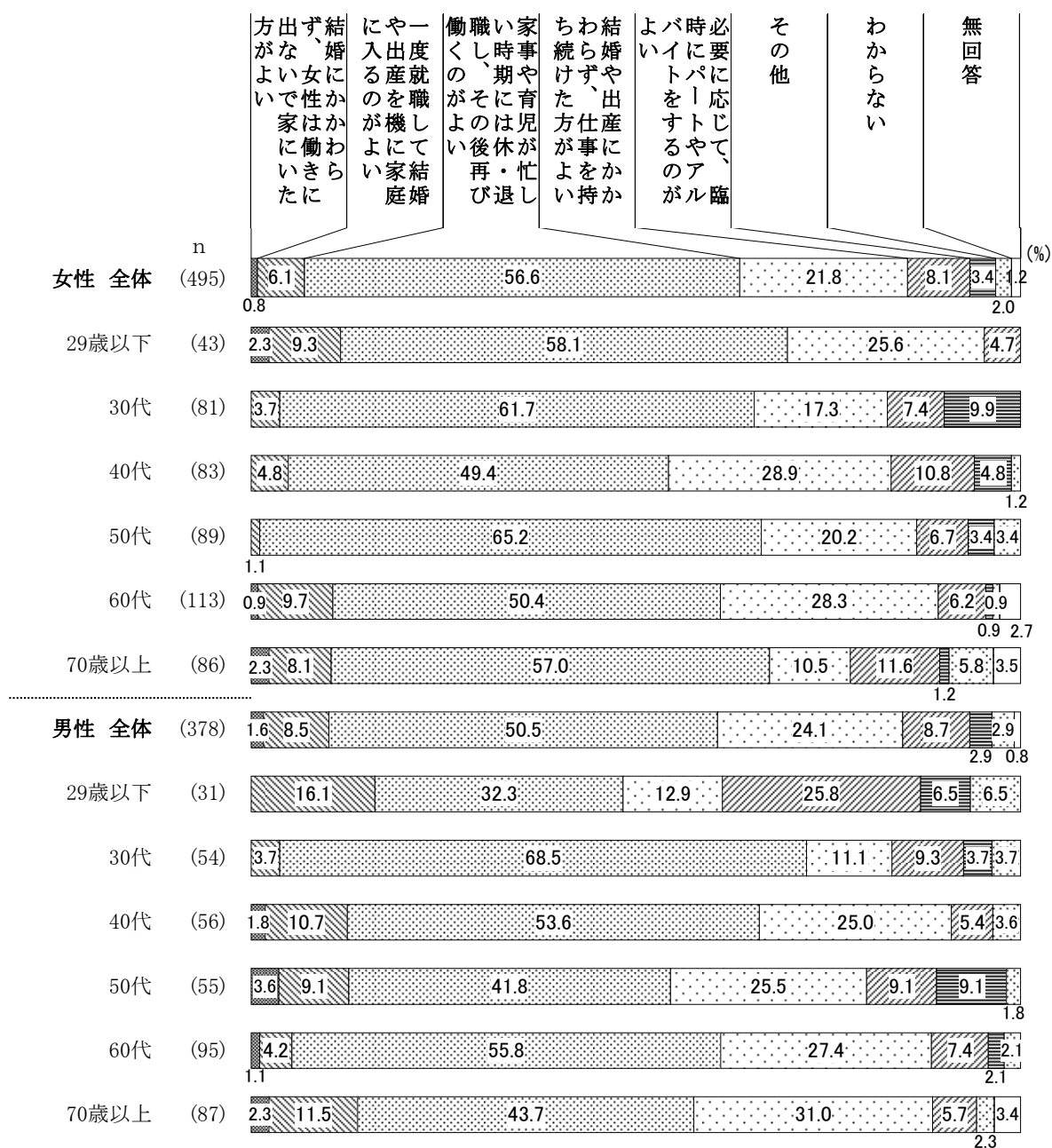
一方、女性では、『就労継続型』が21.8%と、男性(24.1%)をやや下回っている。

〈 経年比較／女性の働き方についての意識 〉



経年で比較すると、『中断再就職型』は、男女ともほぼ横ばいとなっている。
一方、『就労継続型』は、男性で増加傾向にある。

〈 性・年代別／女性の働き方についての意識 〉



性・年代別でみると、女性の場合、29歳以下、30代、50代では『中断再就職型』が6割弱から6割台半ばを占めて、他の年代より多くなっている。40代、60代では『就労継続型』が、3割弱と、他の年代よりやや多くなっている。

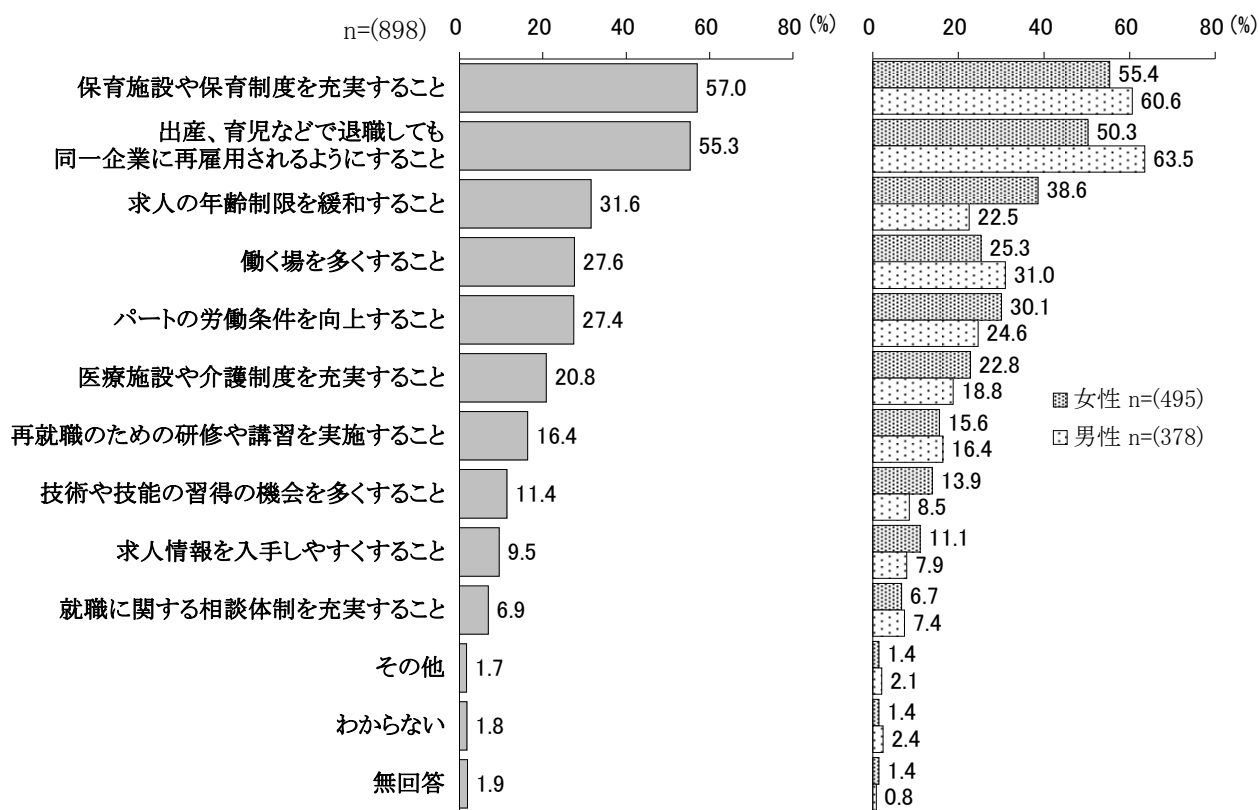
男性の場合、30代で『中断再就職型』が68.5%と男女各年代を通じて最も多くなっているほか、40代、60代でも5割を超えている。また、40代以上では『就労継続型』が、いずれも2割台半ばを超えている。

また、男性の29歳以下では、「必要に応じてパートやアルバイトをするのがよい」が、25.8%を占め、他の年代より突出して多い。

年代別に見ると、29歳以下の年代で男女とも「一度就職して結婚や出産を機に家庭に入るのがよい」とする割合が性別の平均よりも多い。

(7) 望ましい女性の再就職支援策

問5 一時期家庭に入った女性が再就職を希望する場合、どのような援助や対策が望まれると思いますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

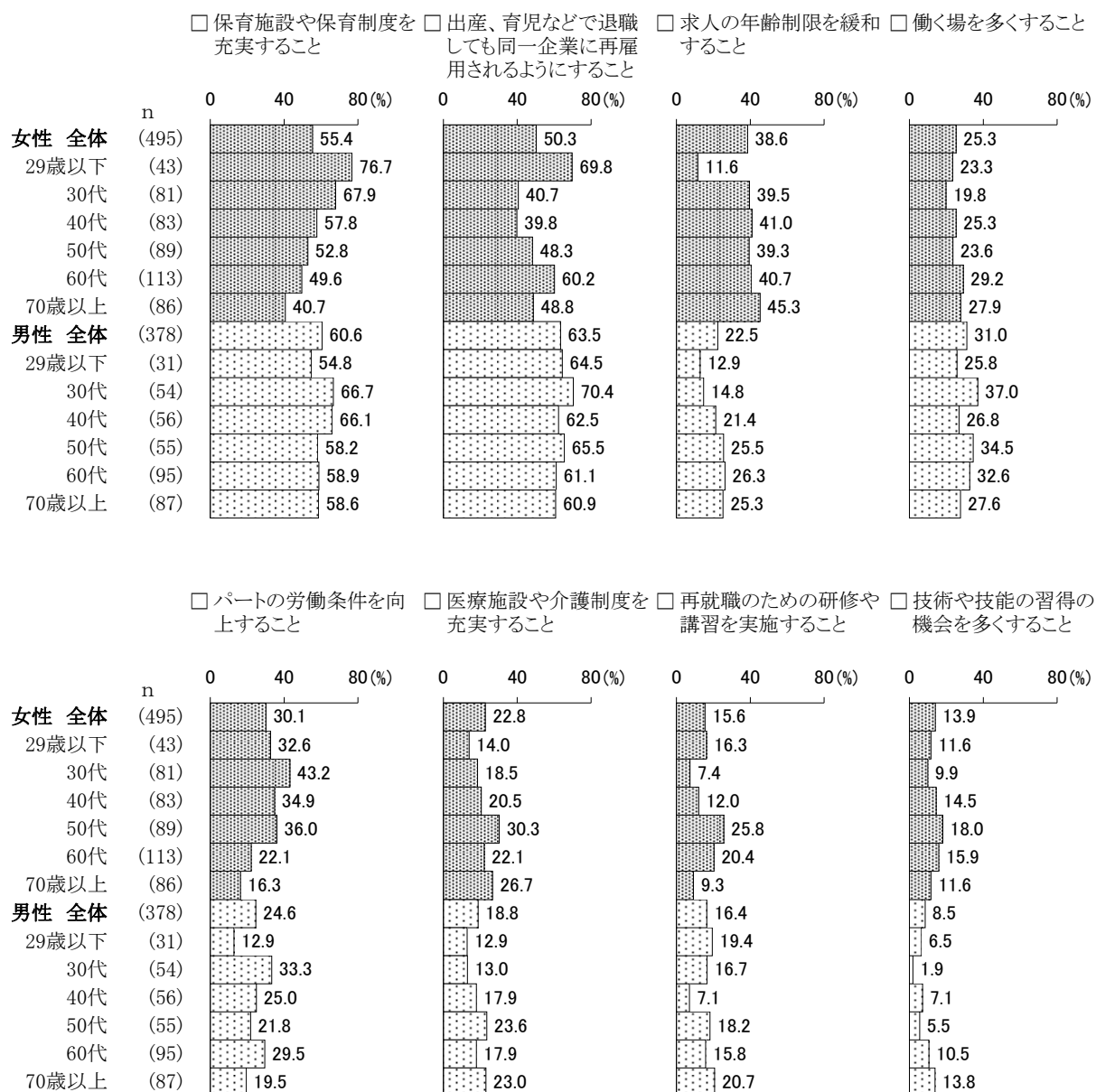


望ましい女性の再就職支援としては、「保育施設や保育制度を充実すること」(57.0%)と「出産、育児などで退職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(55.3%)が、特に多くなっている。

性別でみると、女性では「パートの労働条件を向上すること」が30.1%と、男性(24.6%)より多くなっている。

男性では、「出産、育児などで退職しても同一企業に再雇用されるようにすること」が63.5%と女性(50.3%)を上回っている。

〈 性・年代別／望ましい女性の再就職支援策／上位8項目 〉



性・年代別でみると、女性の場合、29歳以下では「保育施設や保育制度を充実すること」が76.7%となっているほか、30代でも67.9%を占めている。また、29歳以下、60代では「出産、育児などで退職しても同一企業に再雇用されるようにすること」が、いずれも6割を超えている。

女性の50代では、「再就職のための研修や講習を実施すること」「技術や技能の習得の機会を多くすること」との回答が他の年代より多く、研修や技能習得支援への需要が高いことが分かる。

男性の場合、「出産、育児などで退職しても同一企業に再雇用されるようにすること」が、30代で70.4%となっているほか、他の年代でも6割を超えている。また、30代、40代では「保育施設や保育制度を充実すること」が、6割台半ばを超えている。

全体を見ると、男女とも若い年代ほど出産や子育てに関する支援策への需要が高いことが分かる。

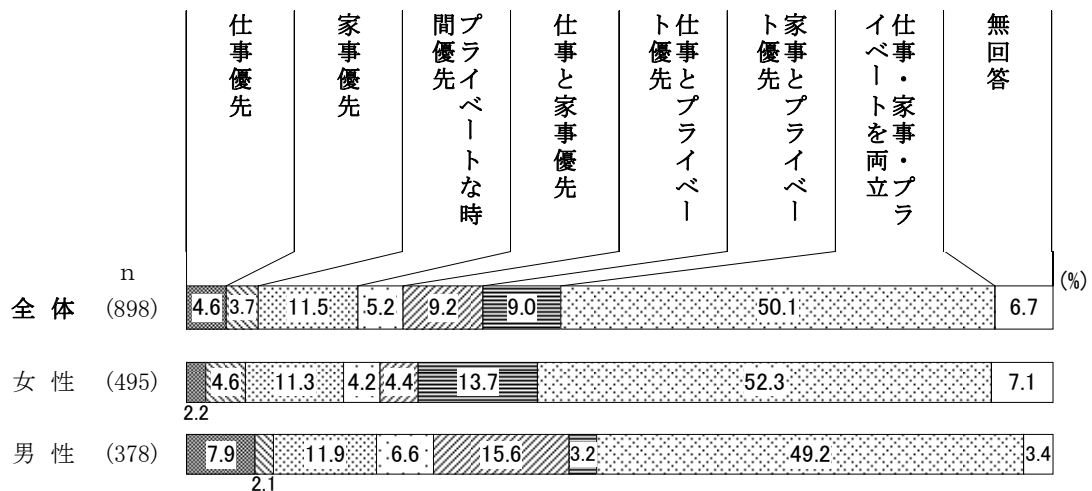
3. ワーク・ライフ・バランス

※ワーク・ライフ・バランスとは、働く人などが、仕事と家事（育児・介護含む）、プライベートな時間（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度を自分が望むバランスで実現できるようにすることをいいます。

（１）生活の中での優先度の理想と現実

問6 生活の中での、仕事・家事（育児・介護含む）・プライベートな時間（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度についておうかがいします。「理想」としての優先度と、「現実」の優先度について、あなたのお考えや現状に最も近いものを、1～7のうちから1つずつ選んで番号に○をつけてください。

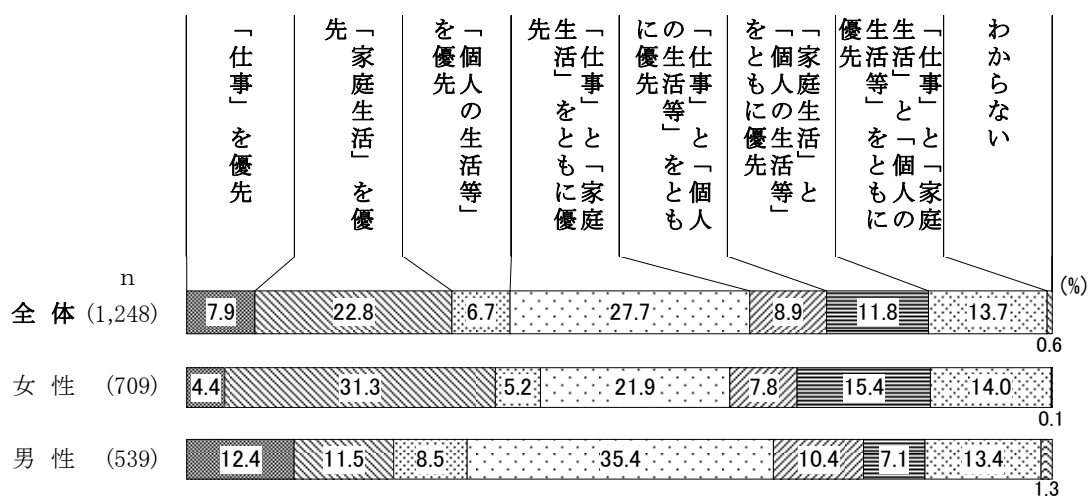
〈 理想とする生活の中での優先度 〉



生活の中での仕事・家事（育児・介護含む）・プライベートな時間（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度をみると、理想としては、「仕事・家事・プライベートを両立」が50.1%で際立って多くなっている。

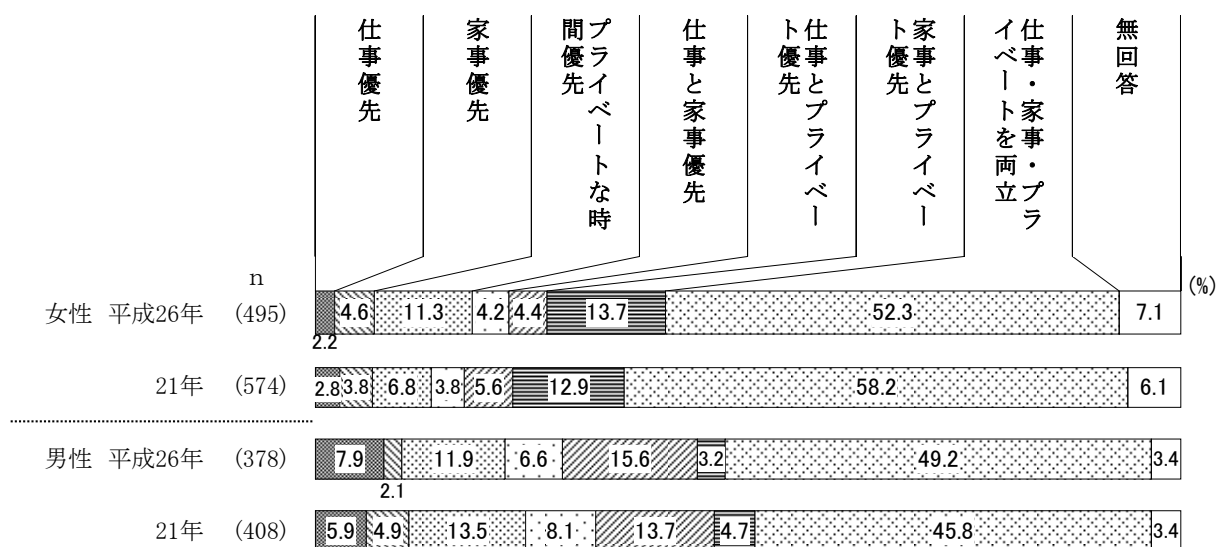
性別でみると、男女とも、「仕事・家事・プライベートを両立」が5割前後を占めて、最も多くなっている。

〈 参考／内閣府「少子化社会に関する国際意識調査（平成22年度実施）」調査結果との比較 〉



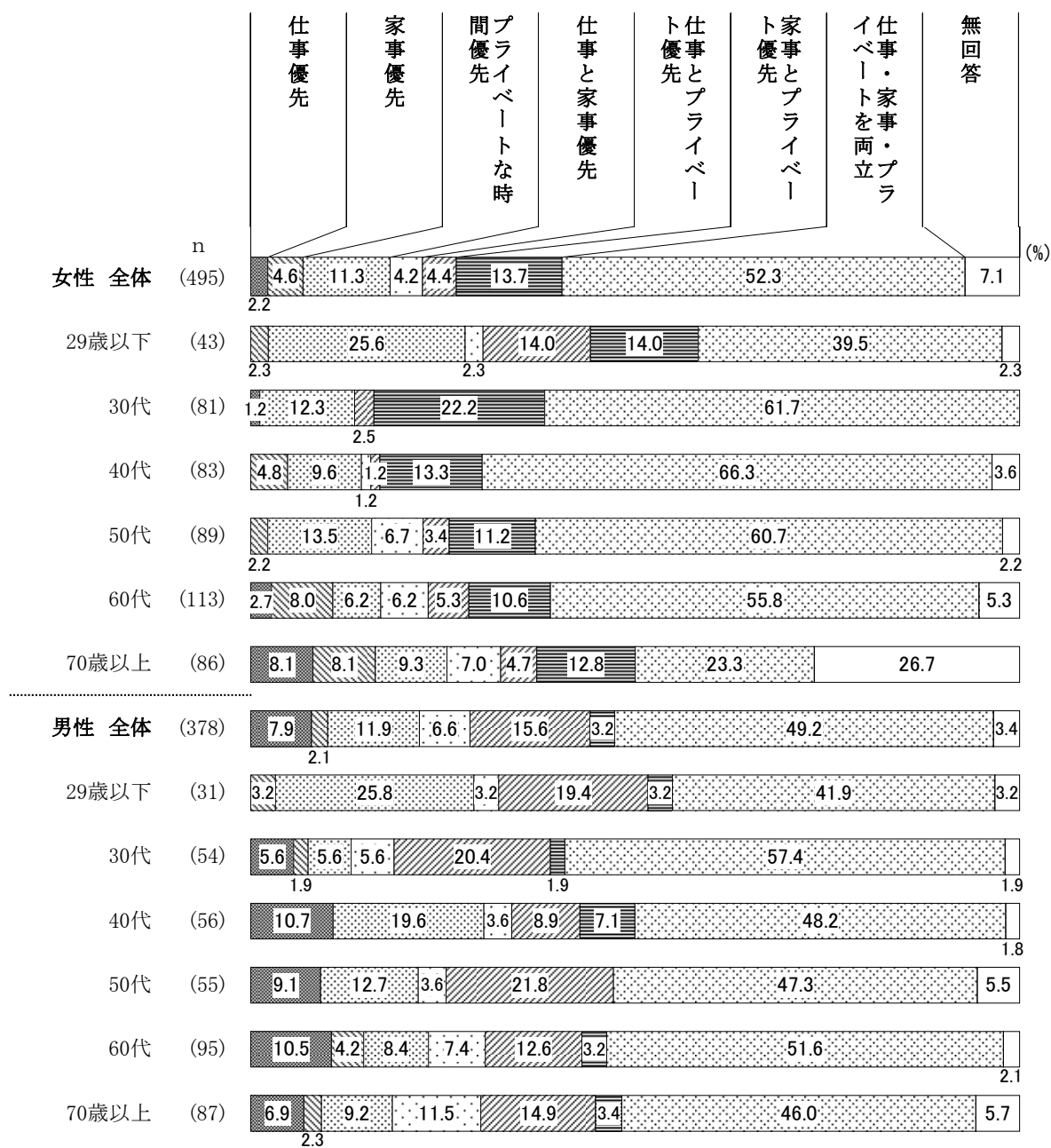
女性では『家庭生活』を優先が31.3%と多くなっているのに対して、男性では『仕事』と『家庭生活』をともに優先が35.4%と多くなっている。

〈 経年比較／理想とする生活の中での優先度 〉



経年で比較すると、女性では「仕事・家事・プライベートを両立」がやや減少し、反対に男性ではやや増加している。

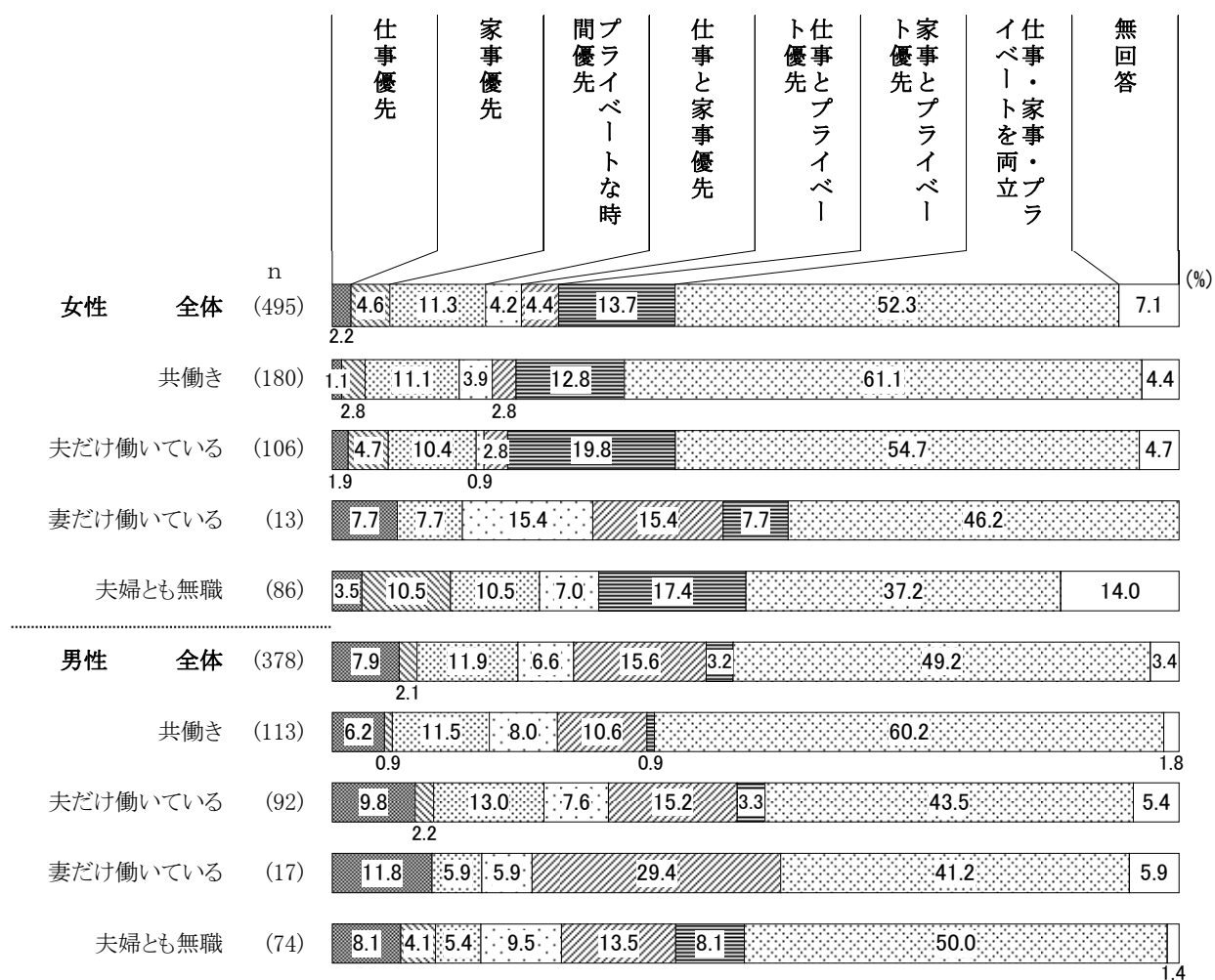
〈 性・年代別／理想とする生活の中での優先度 〉



性・年代別でみると、女性では、30代、40代、50代で「仕事・家事・プライバシーを両立」が、いずれも6割を超えている。

男性では、30代で「仕事・家事・プライバシーを両立」が57.4%と、他の年代より多くなっている。

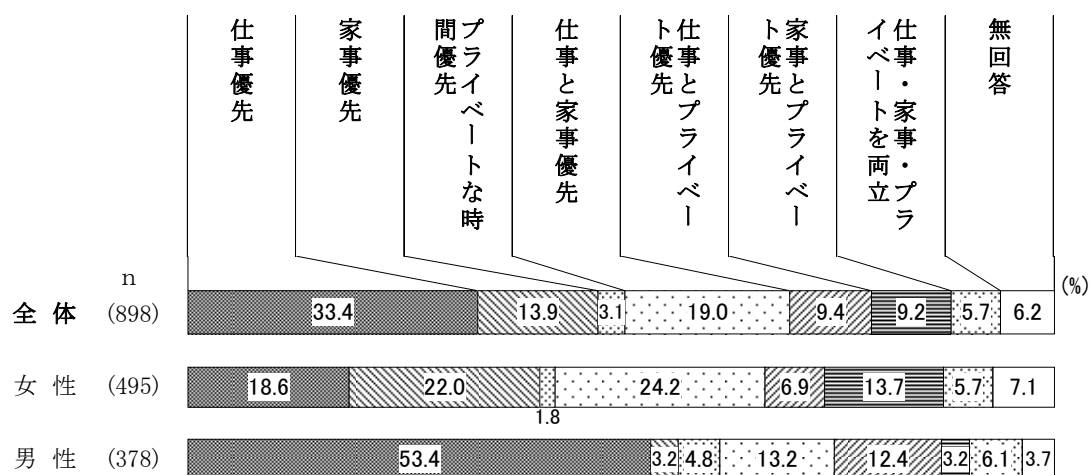
〈 性・共働き別／理想とする生活の中での優先度 〉



性・共働きの有無別でみると、女性の場合、共働きの人、夫だけ働いている人とも「仕事・家事・プライベートを両立」が、それぞれ61.1%、54.7%と多くなっている。

男性の場合、夫だけ働いている人では、「仕事・家事・プライベートを両立」が43.5%と、女性と比べて低くなっている。

〈 現実の生活の中での優先度 〉

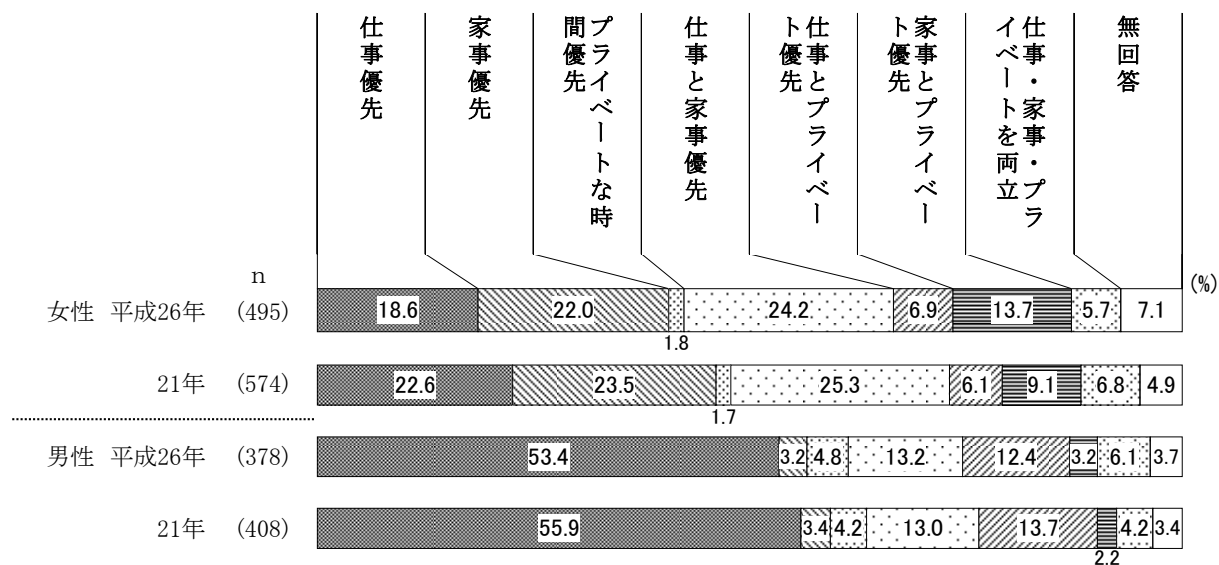


現実としては、「仕事優先」が33.4%で最も多く、次いで「仕事と家事優先」が19.0%となっている。

性別でみると、女性の場合、「仕事優先」(18.6%)、「家事優先」(22.0%)、「仕事と家事優先」(24.2%)に3分している。

男性では、「仕事優先」が53.4%と過半数を占めている。

〈 経年比較／現実の生活の中での優先度 〉



経年で比較すると、男女とも、回答傾向に大きな変化はみられない。

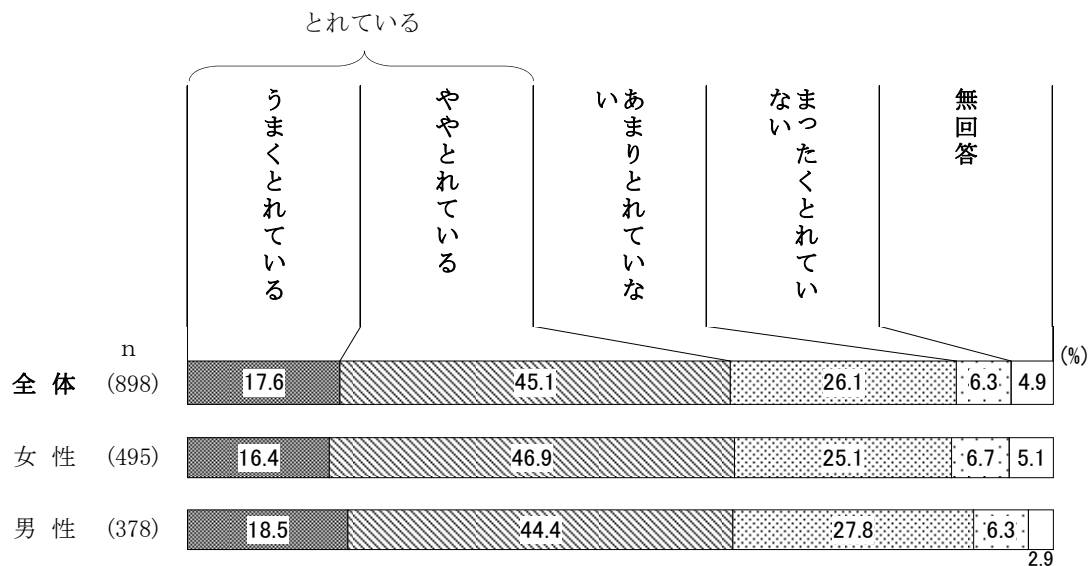
この結果を理想と比較すると、女性の理想は「仕事・家事・プライベートを両立」が52.3%となっていたにもかかわらず、現実にはそれが達成されている人は5.7%に過ぎない。

男性の場合も、「仕事・家事・プライベートを両立」が理想とする人は49.2%を占めているものの、現実には6.1%に留まっている。

このようにワーク・ライフ・バランスの理想と現実については、男女とも依然として大きな開きがある。

(2) 仕事・家事・プライベートな時間のバランス

問7 あなたにとって、仕事・家事・プライベートな時間のバランスは、うまくとれていると思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

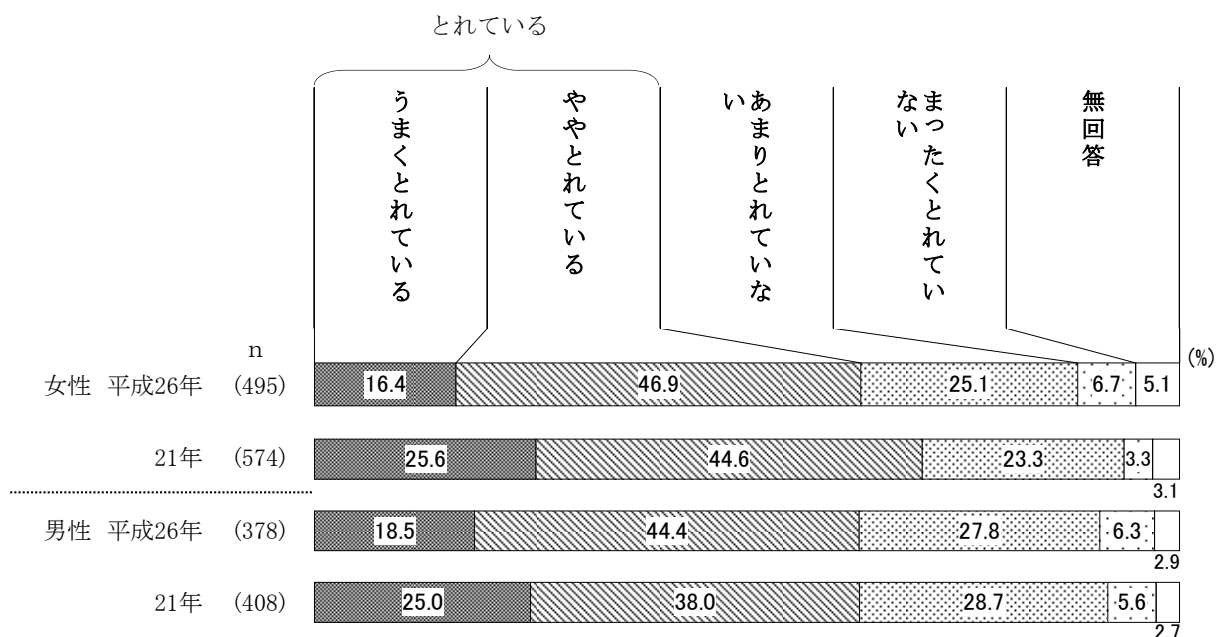


仕事・家事・プライベートな時間のバランスについて、「うまくとれている」が17.6%で、これに「ややとれている」(45.1%)を合わせた《とれている》は62.7%となっている。

一方、「あまりとれていない」は26.1%、「まったくとれていない」は6.3%である。

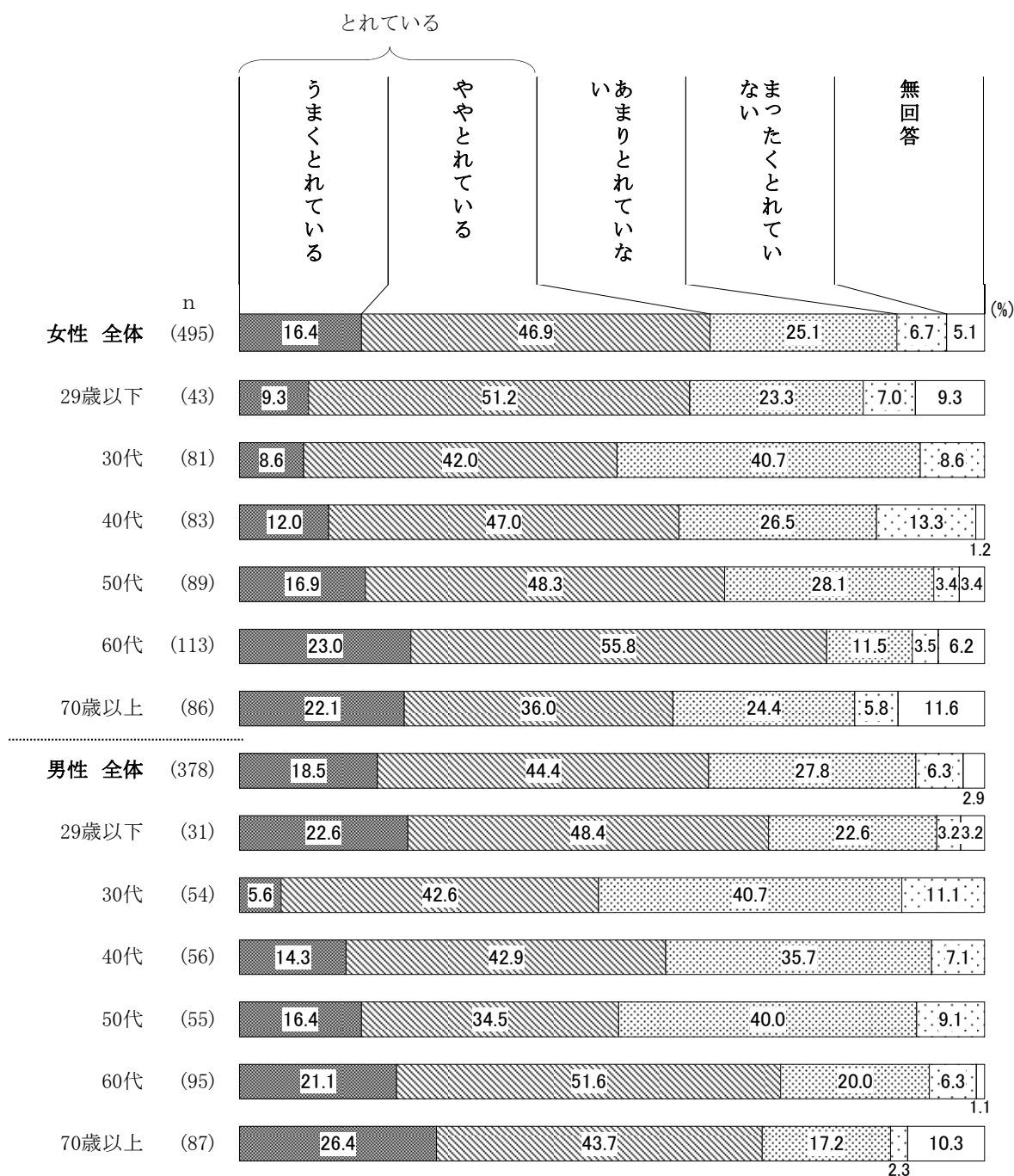
性別でみると、《とれている》は、女性63.3%、男性62.9%となっている。

〈 経年比較／仕事・家事・プライベートな時間のバランス 〉



平成21年度調査結果と比べると、女性の場合、《とれている》が、前回の70.2%から、今回63.3%へと低下している。一方、男性の場合、ほぼ横ばい状況となっている。

〈 性・年代別／仕事・家事・プライベートな時間のバランス 〉

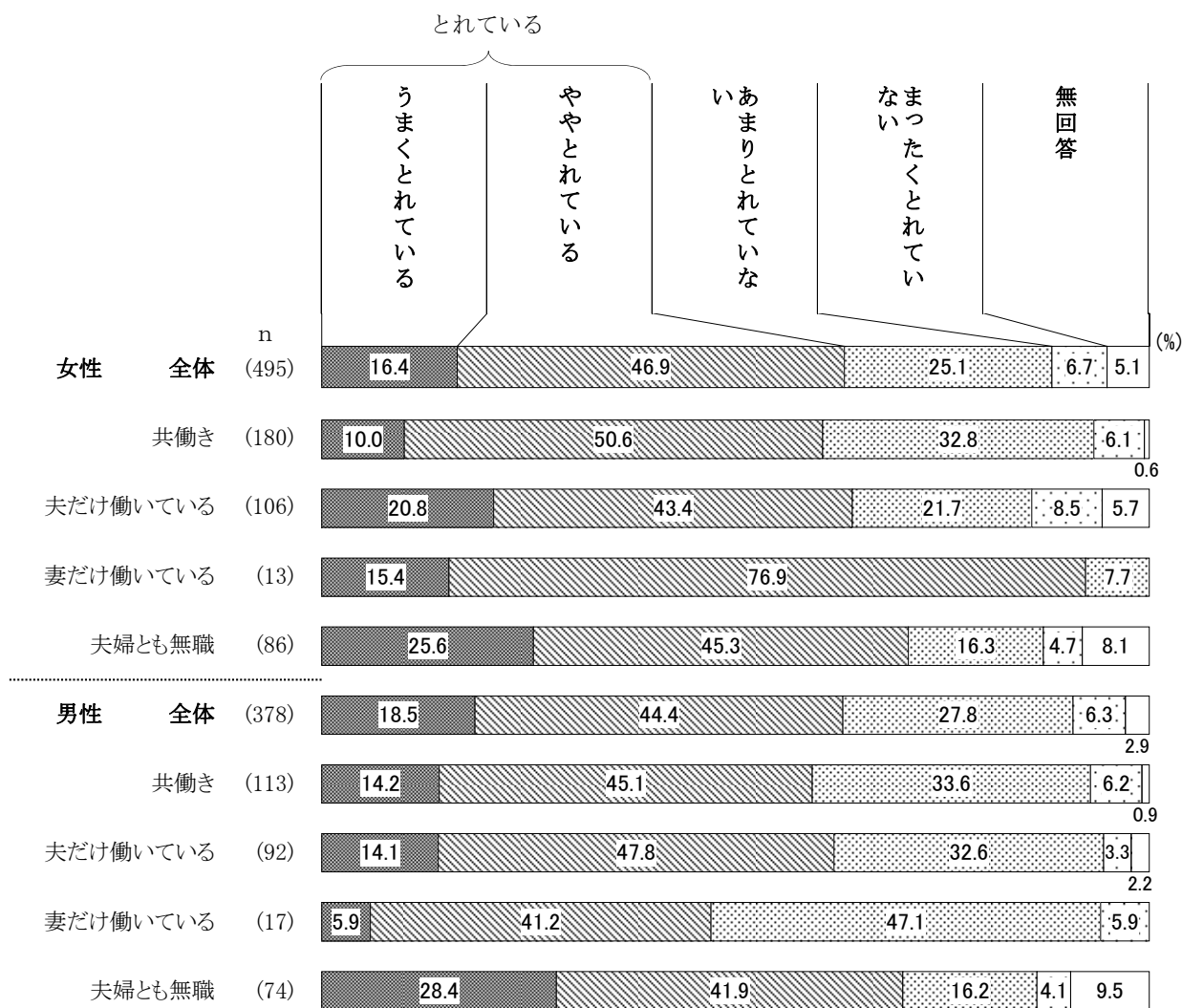


性・年代別でみると、女性では、60代で《とれている》が78.8%を占めているほか、50代で6割台半ばとなっている。

男性では、29歳以下、60代、70歳以上では《とれている》が7割を超えている。

年代別の傾向を見ると、男女ともに30代で《とれている》と回答した割合が他の年代より著しく少ない。

〈 性・共働き別／仕事・家事・プライベートな時間のバランス 〉



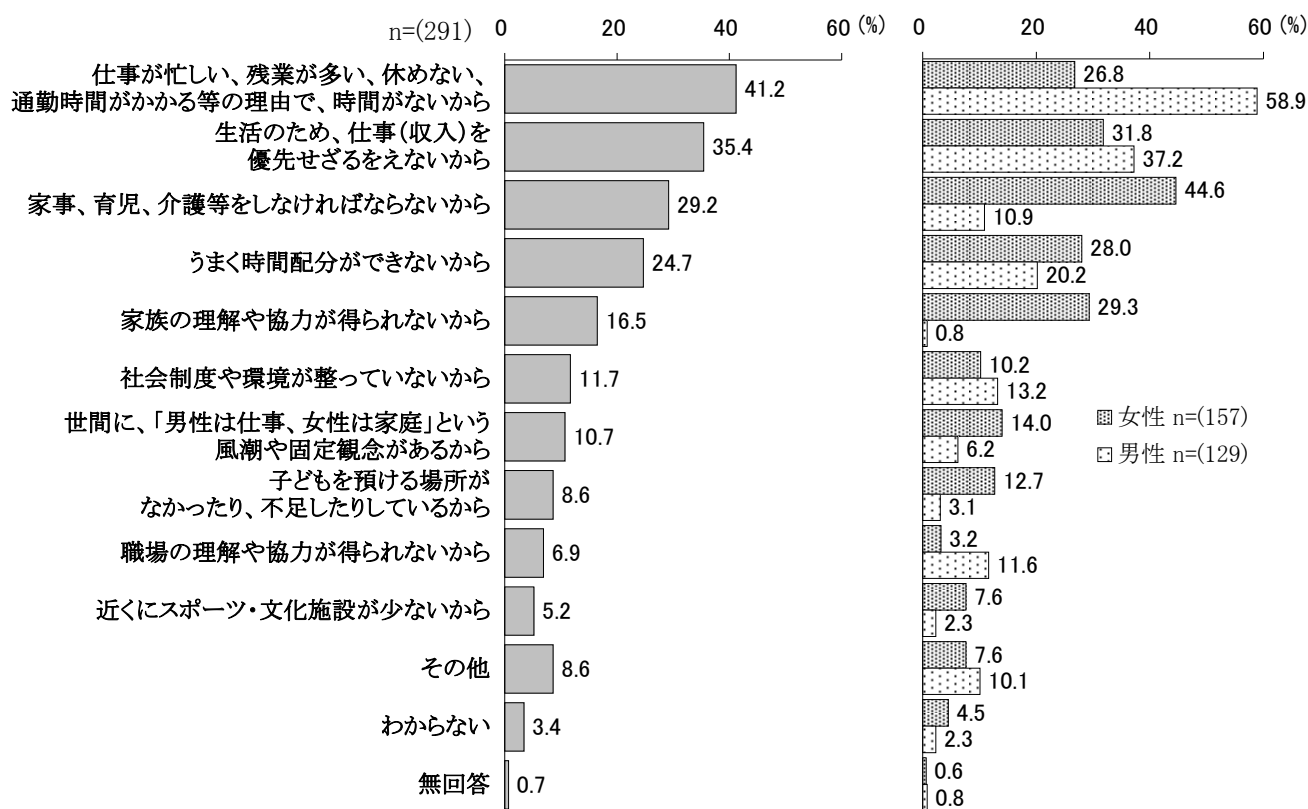
性・共働き別でみると、女性の場合、共働きの人、夫だけ働いている人ともに《とれている》が6割を超えている。

男性も、共働きであるかどうかにかかわらず、《とれている》が6割前後を占めている。

(3) 仕事・家事・プライベートな時間のバランスがうまくとれない理由

問7で「3 あまりとれていない」、または「4 まったくとれていない」と答えた方にうかがいます。

問7-1 仕事・家事・プライベートな時間のバランスがうまくとれない理由は何だと思えますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。



ワーク・ライフ・バランスが「あまりとれていない」「まったくとれていない」という人に、その理由をきいたところ、「仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから」が41.2%で最も多く、次いで「生活のため、仕事（収入）を優先せざるをえないから」（35.4%）となっている。

性別でみると、女性の場合、「家事、育児、介護等をしなければならないから」が44.6%と男性（10.9%）を上回っている。

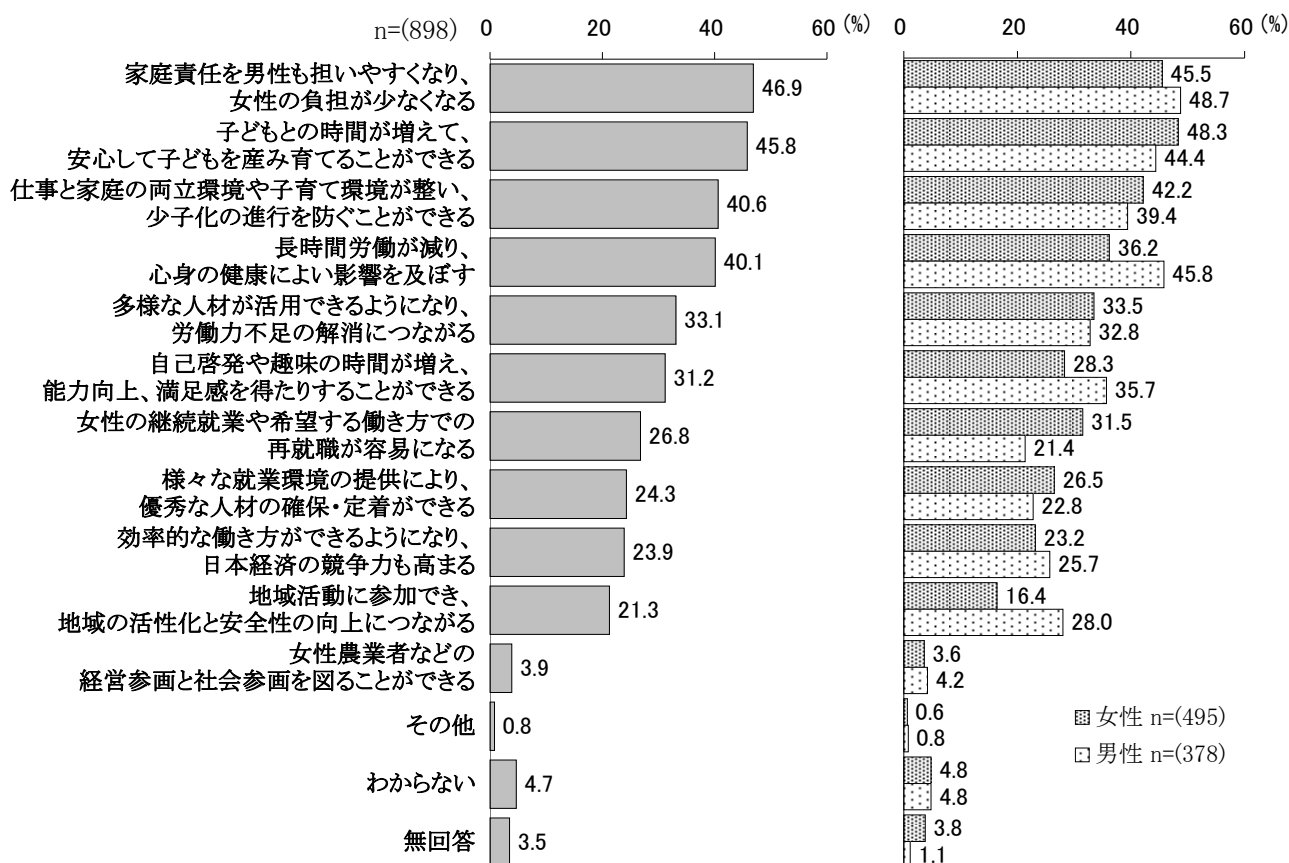
このほか、「家族の理解や協力が得られないから」「子どもを預ける場所がなかったり、不足したりしているから」といった項目で女性が男性を上回っており、女性は家事や家庭に関することを理由にあげる傾向にあることが分かる。

男性では、「仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから」が58.9%と女性（26.8%）を上回っている。

このほか、「生活のため、仕事（収入）を優先せざるをえないから」「職場の理解や協力が得られないから」といった項目で男性が女性を上回っており、男性は仕事に関することを理由に挙げる傾向にあることが分かる。

(4) 推進によるプラスの効果

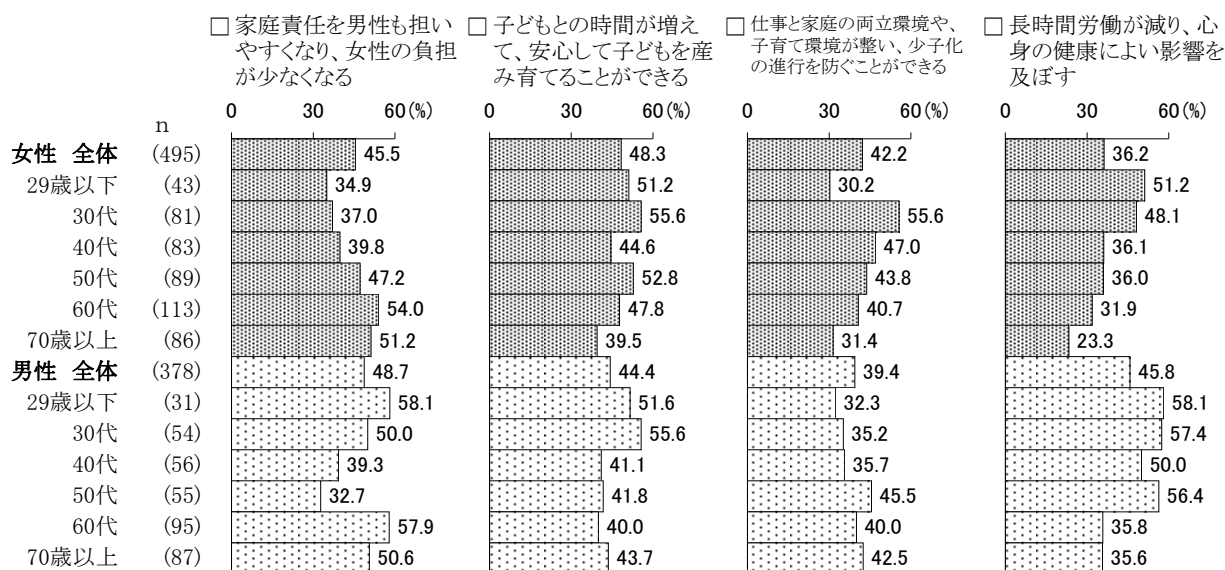
問8 ワーク・ライフ・バランスを推進することのプラスの効果として考えられるものは何だと思いますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。



ワーク・ライフ・バランスを推進することのプラス効果としては、「家事・育児・介護などの家庭責任を男性も担いやすくなり、女性の負担が少なくなる」が46.9%で最も多く、以下「仕事をもつ男女が、子どもにかかわることができる時間が増え、安心して子どもを産み育てることができる」(45.8%)、「労働時間や働き方の柔軟性などの仕事と家庭の両立環境や、子育て環境が整い、ひいては少子化の進行を防ぐことができる」(40.6%)の順で続いている。

性別でみると、上位項目は、男女ともほぼ共通しているが、「長時間労働が減り、心身の健康にいい影響を及ぼす」については、男性が45.8%と、女性(36.2%)を上回っている。

〈 性・年代別／推進によるプラス効果／上位4項目 〉

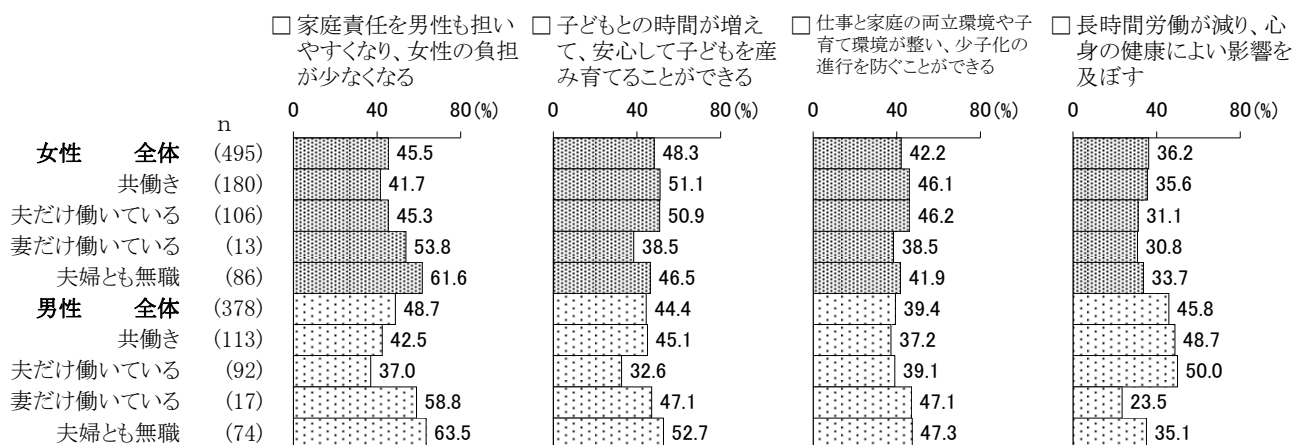


性・年代別でみると、女性の場合、60代、70歳以上では「家事・育児・介護などの家庭責任を男性も担いやすくなり、女性の負担が少なくなる」が、いずれも5割を超えている。

また、29歳以下、30代、50代では「仕事をもつ男女が、子どもにかかわることができる時間が増え、安心して子どもを産み育てることができる」が、5割を超えている。

男性の場合、29歳以下から50代では「長時間労働が減り、心身の健康にいい影響を及ぼす」が、5割を超えている。

〈 性・共働き別／推進によるプラス効果／上位4項目 〉



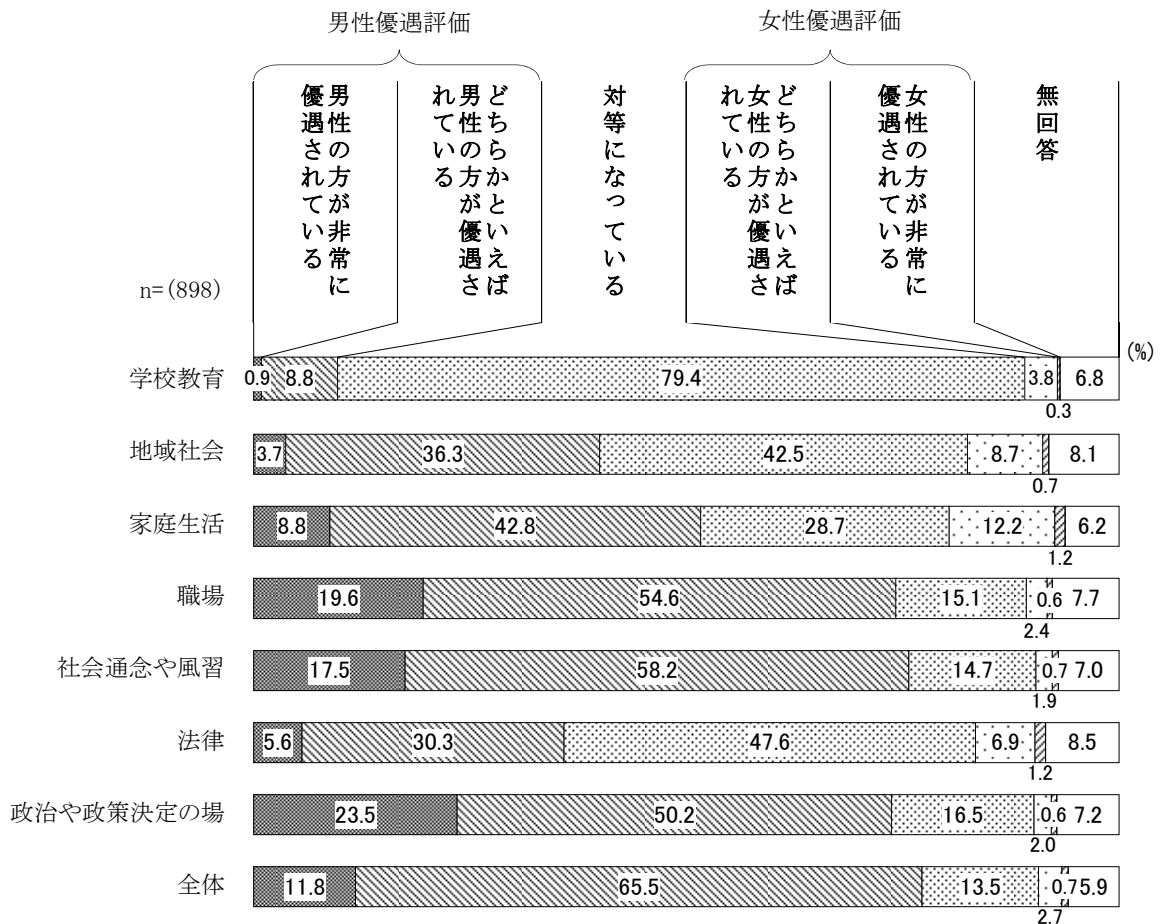
性・共働き別でみると、女性の場合、夫だけ働いている人では「家事・育児・介護などの家庭責任を男性も担いやすくなり、女性の負担が少なくなる」が45.3%と、共働きの人より多くなっている。

男性の場合、共働きであるかどうかにかかわらず、「長時間労働が減り、心身の健康にいい影響を及ぼす」が、5割前後を占めている。

4. 男女平等

(1) 分野別男女平等観

問9 次の各項目で、男女は対等な立場にあると思いますか。A～Hの項目について、お考えに最も近い段階を、それぞれ1つずつ選んで番号に○をつけてください。



各分野における男女平等の状況を評価してもらった。

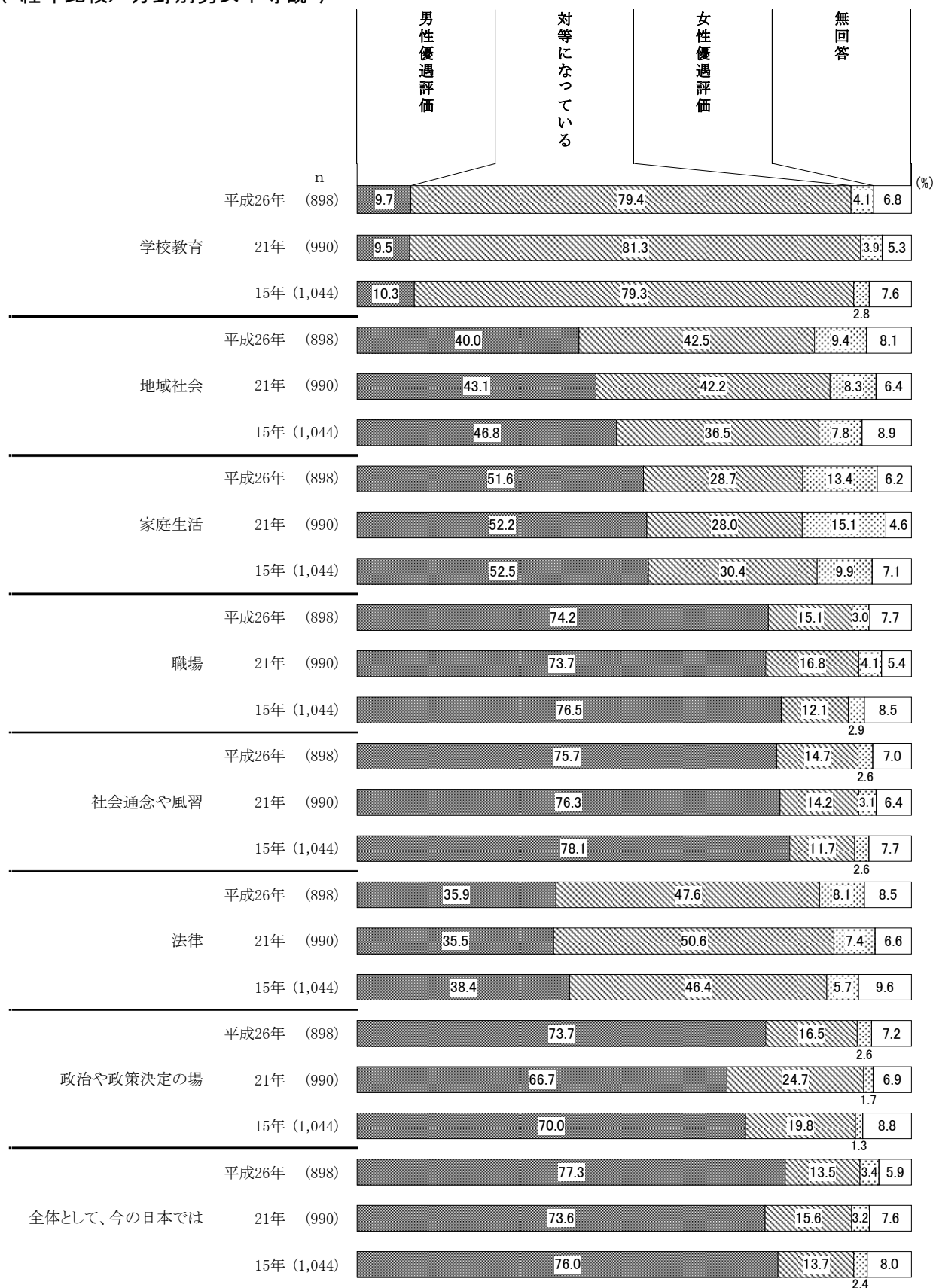
「対等になっている」との評価が最も高いのは、〈学校教育〉の79.4%であり、これに「法律」が47.6%で次いでいる。

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇評価』をみると、〈社会通念や風習〉(75.7%)、〈職場〉(74.2%)、〈政治や政策決定の場〉(73.7%)の3項目が高く、これに〈家庭生活〉(51.6%)と〈地域社会〉(40.0%)が続いている。

「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせた『女性優遇評価』は、最も高い〈家庭生活〉でも13.4%と、各分野にわたって低くなっている。

こうしたことから、社会全体として今の日本に対しては『男性優遇評価』が77.3%と圧倒的に高く、「対等になっている」は13.5%、『女性優遇評価』は僅か3.4%となっている。

〈 経年比較／分野別男女平等観 〉

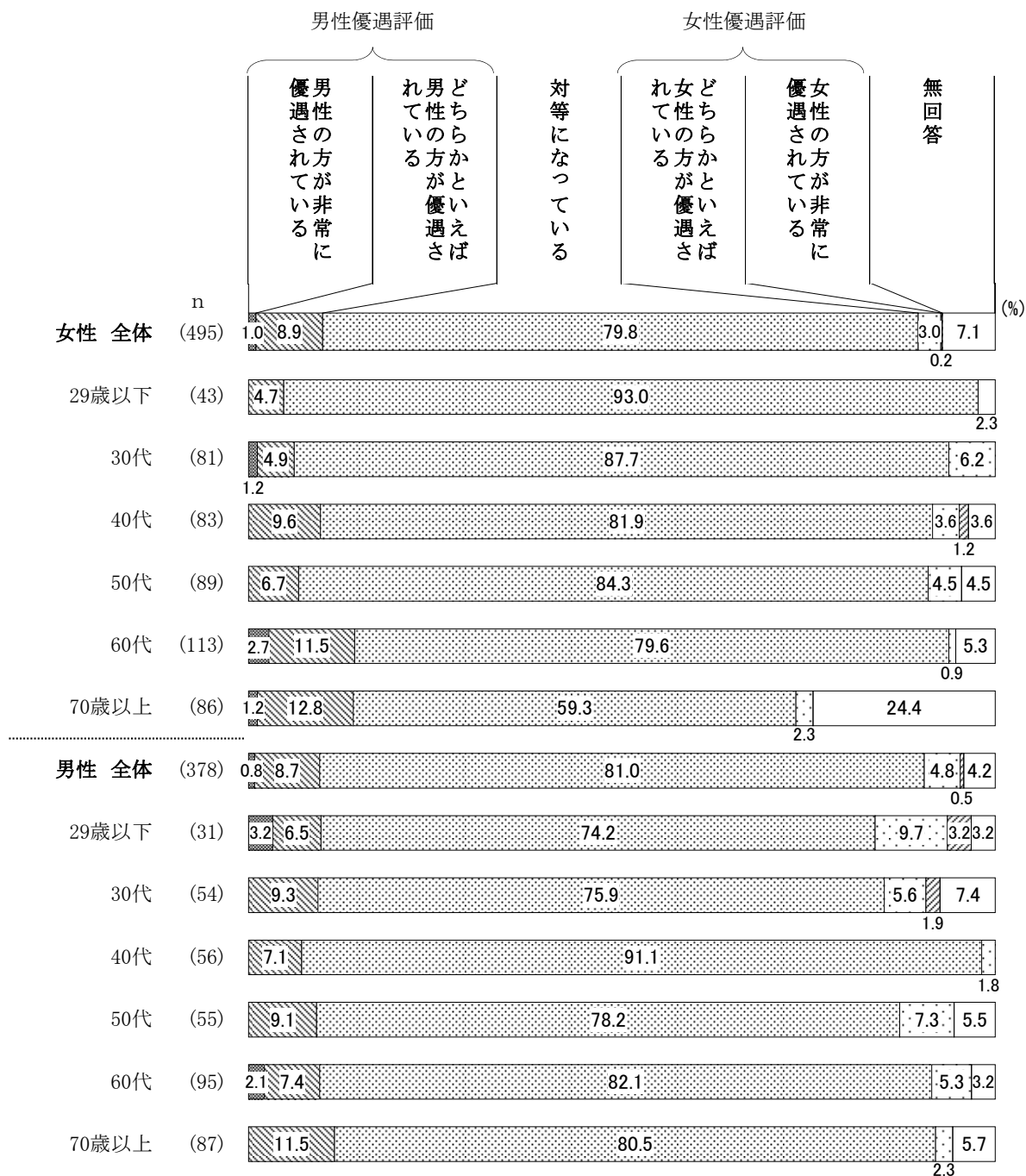


経年で比較すると、地域社会で『男性優遇評価』が少なくなっているのが顕著である。一方、〈政治や政策決定の場〉では7.0%、〈全体として、今の日本では〉では3.7%、『男性優遇評価』が増えている。

性別でみると、女性の場合、いずれの分野においても、女性では『男性優遇評価』が男性を上回っており、男女の認識の差が浮き彫りにされる結果となっている。

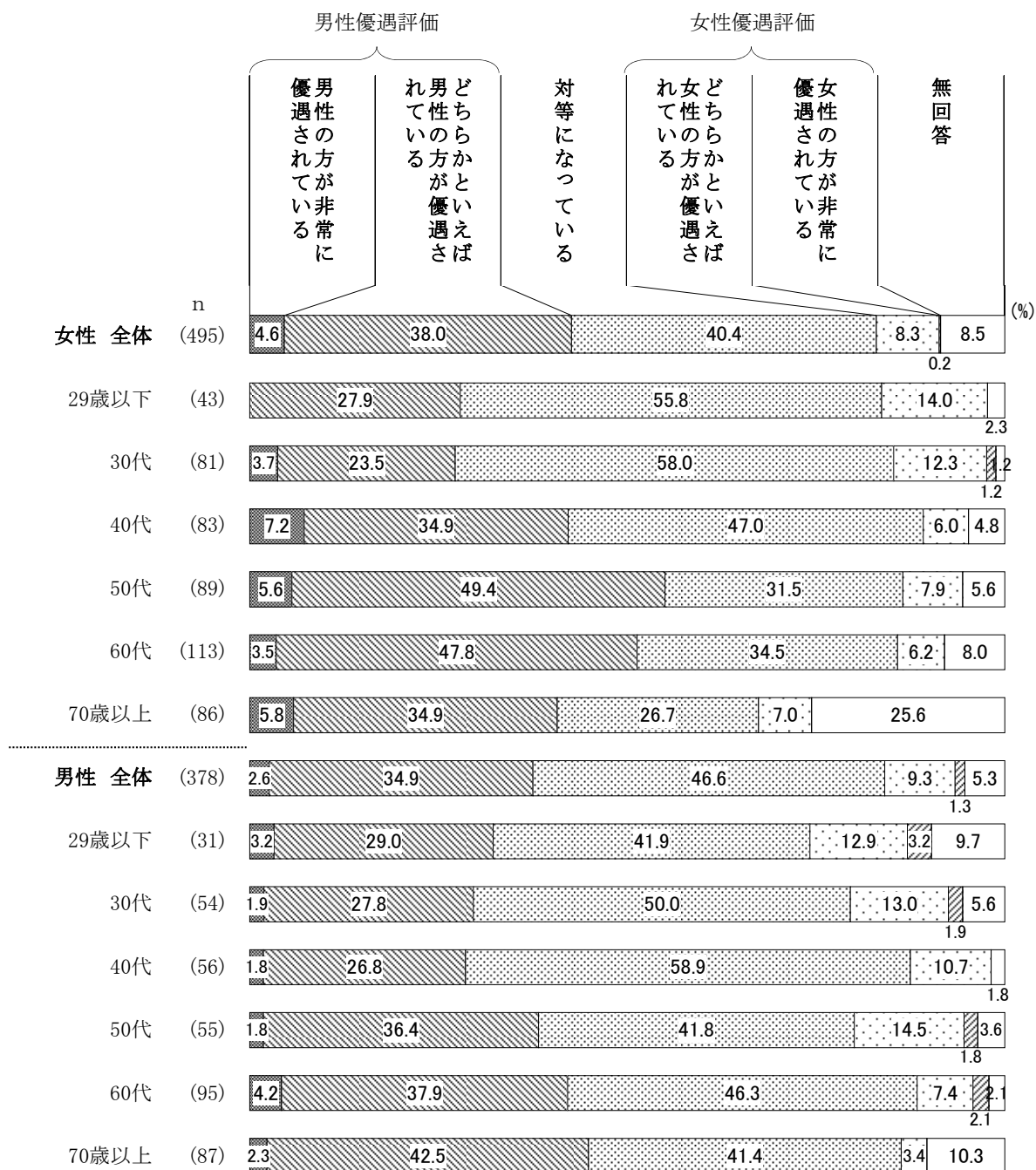
以下、各分野についてみていく。

〈性別、性・年代別／分野別男女平等観／学校教育〉



〈学校教育〉では「対等になっている」は女性79.8%、男性81.0%と、男女とも高くなっている。男女全年代にわたって「対等になっている」との評価が高く、“男女平等が達成されている”との評価が幅広い年代に浸透していることがわかる。

〈性別、性・年代別／分野別男女平等観／地域社会〉

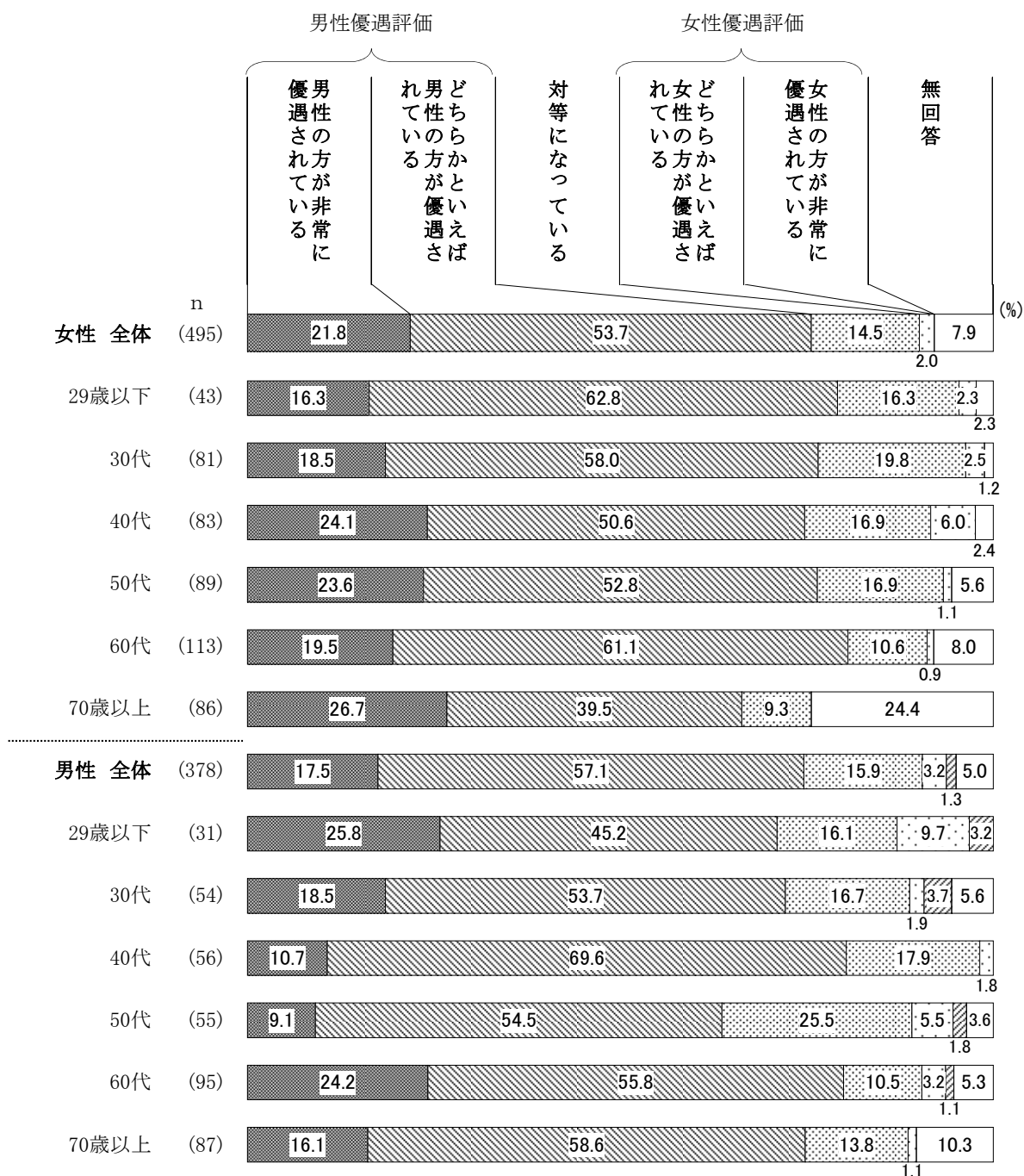


〈地域社会〉では『男性優遇評価』が女性42.6%で男性（37.5%）を上回っている。

女性の50代・60代で『男性優遇評価』が5割を超え、同年代の男性との間に認識の隔たりが現れている。また、男女とも30代では「対等になっている」が5割台を占めている。

さらに、男性の40代では「対等になっている」が58.9%と、男女全年代を通じて最も多くなっている。

〈性別、性・年代別／分野別男女平等観／職場〉

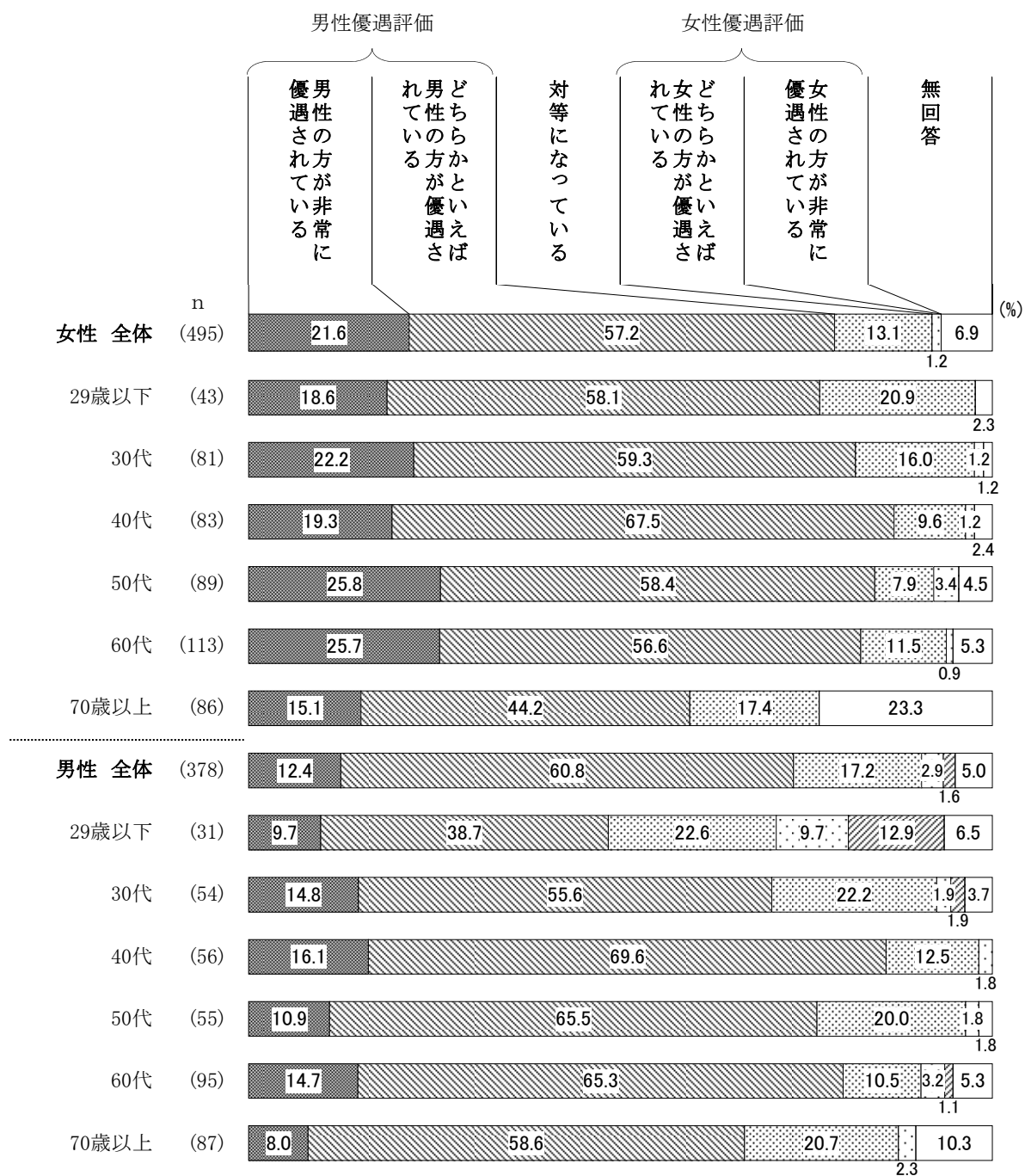


〈職場〉については、男女差はあまり見られないものの、ともに『男性優遇評価』が7割を超えている。

女性の60代で『男性優遇評価』が8割を超えているほか、29歳以下から50代でも7割を超えている。

男性では、40代・60代で『男性優遇評価』が8割台となっている。

〈性別、性・年代別／分野別男女平等観／社会通念や風習〉

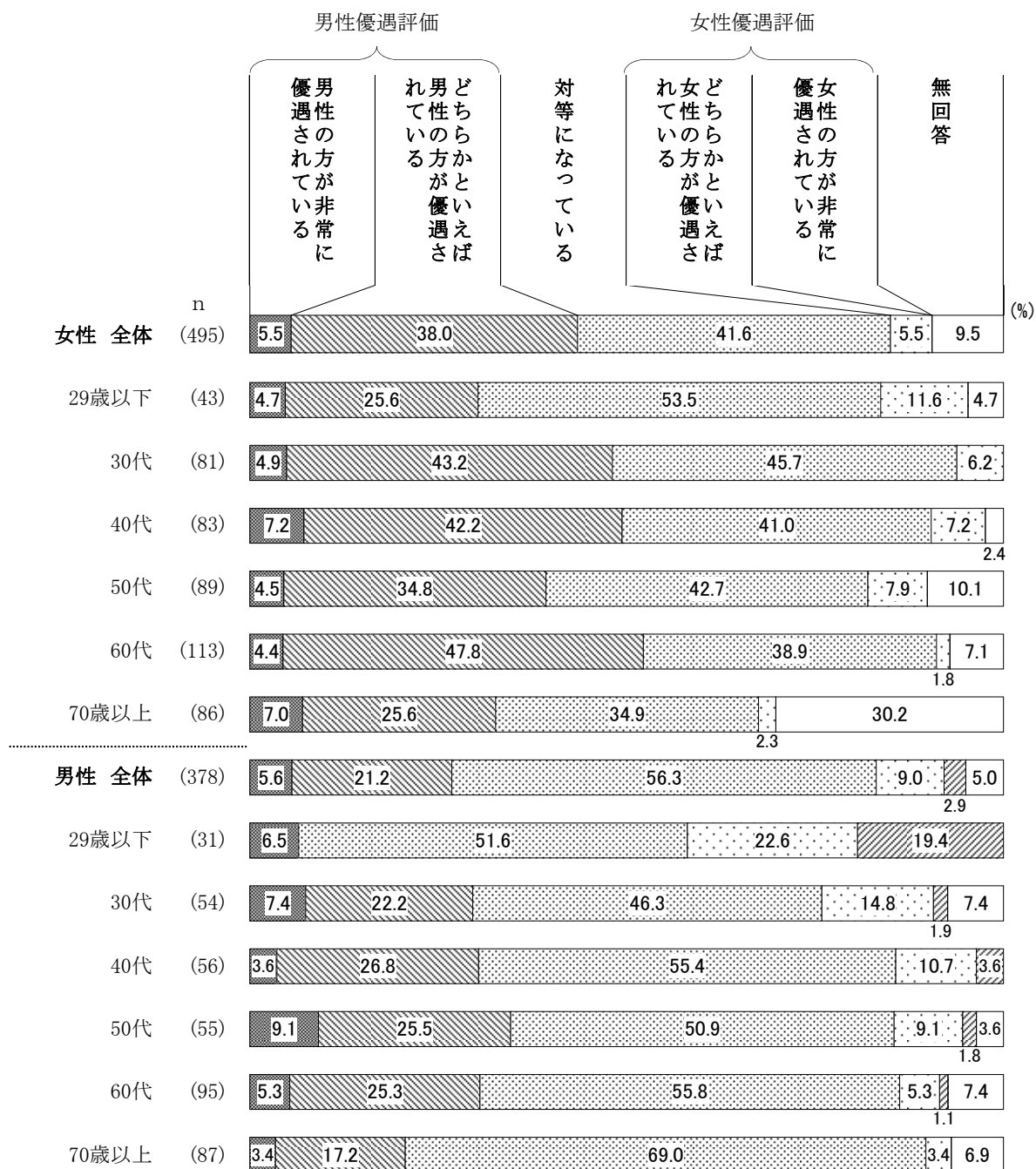


〈社会通念や風習〉では、男女とも『男性優遇評価』が7割を超えている。

男女とも各年代にわたって『男性優遇評価』が高くなっているが、男性の29歳以下・30代・50代・70歳以上では「対等になっている」との評価が2割を超えている。

また、男性の29歳以下では『女性優遇評価』も2割を超えて、高くなっている。

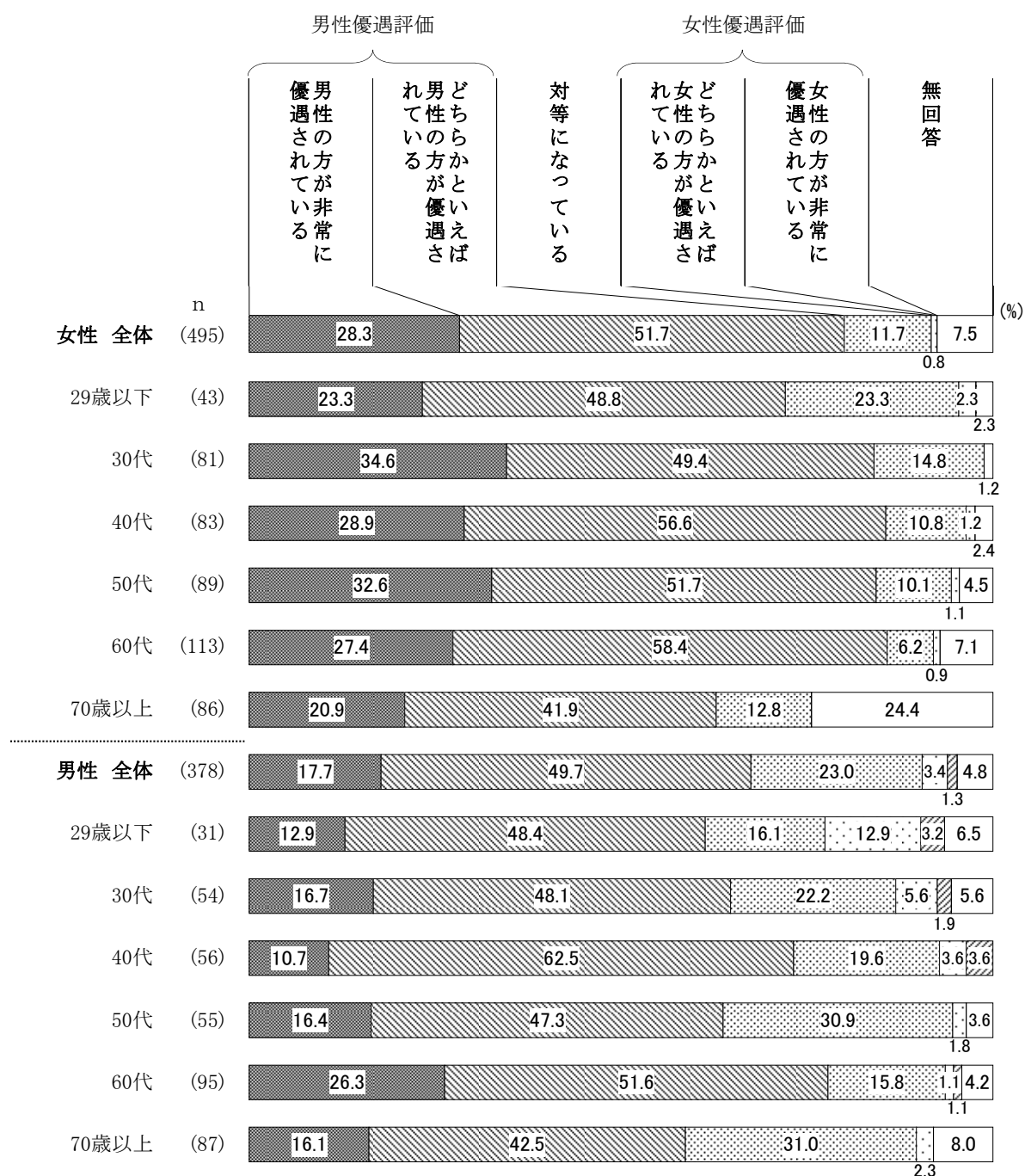
〈 性別、性・年代別／分野別男女平等観／法律 〉



〈法律〉では最も男女の認識の差が顕著に現われており、女性では『男性優遇評価』が43.5%、「対等になっている」が41.6%であるのに対して、男性では、それぞれ26.8%・56.3%となっている。

また、女性の30代・40代・60代で『男性優遇評価』が5割前後、男性の29歳以下で『女性優遇評価』が4割を超えて、それぞれ高くなっている。

〈性別、性・年代別／分野別男女平等観／政治や政策決定の場〉

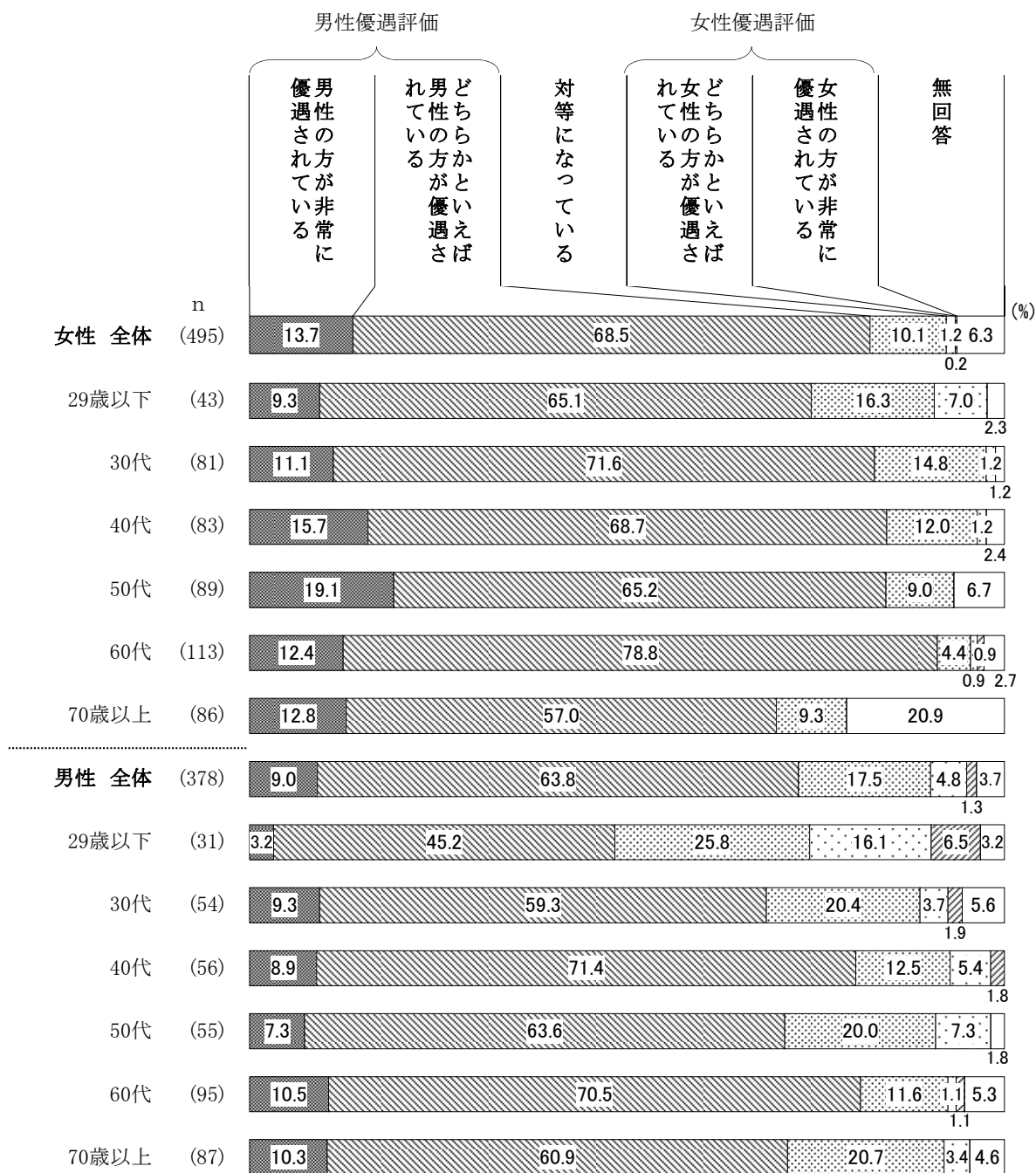


〈政治や政策決定の場〉では「対等になっている」が男性23.0%なのに対して、女性は11.7%に留まっている。

女性の場合『男性優遇評価』が、30代から60代で8割を超えている。

男性では、年代より評価に差があり、50代・70歳以上で「対等になっている」が3割を超えている。

〈性別、性・年代別／分野別男女平等観／全体として、今の日本では〉



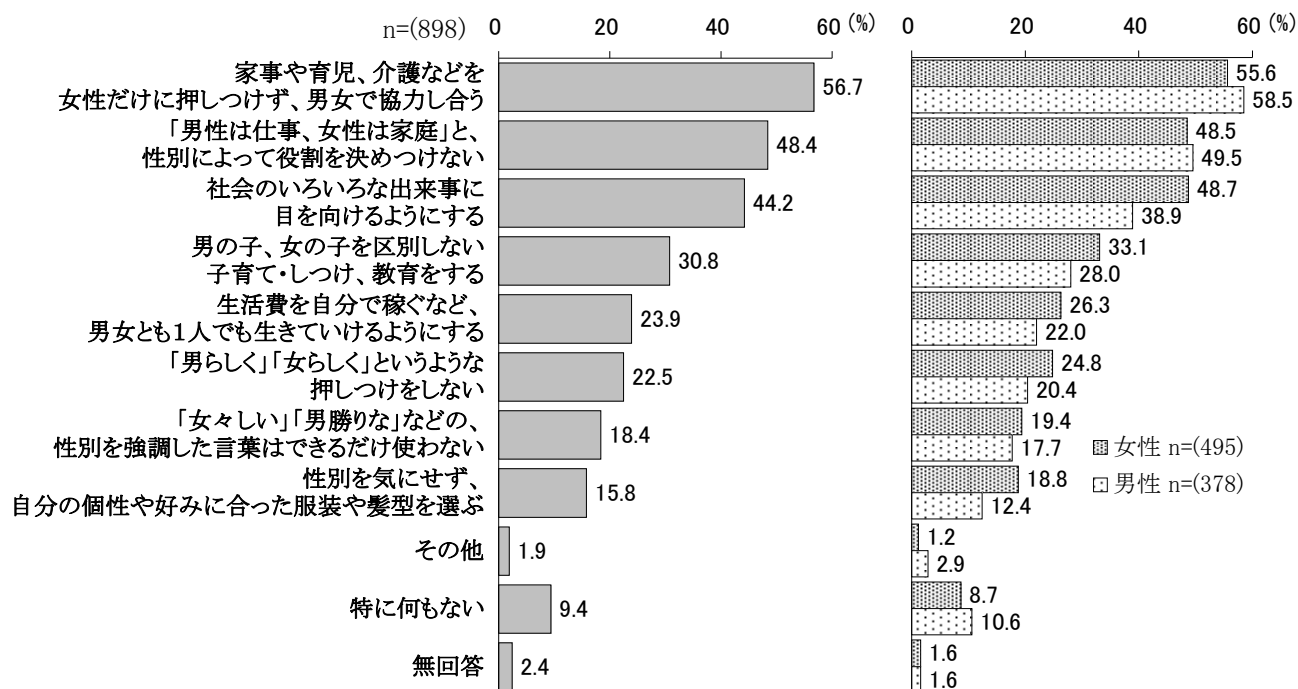
〈全体として、今の日本では〉女性82.2%、男性72.8%が『男性優遇評価』としている。

女性の場合、30代から60代で『男性優遇評価』が8割を超え、特に60代では9割を超えているなど、全年代にわたって厳しい認識が示されている。

男性でも30代以上で『男性優遇評価』が7割前後から8割を占めるなど高くなっており、29歳以下で『女性優遇評価』が4割を超えているのを除くと、いずれの年代でも、女性ほどではないものの、現状に対する評価はかなり厳しいものとなっている。

(2) 男女平等推進のために心がけていること

問10 男女平等をいっそう進めるため、日ごろから心がけていることがありますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。



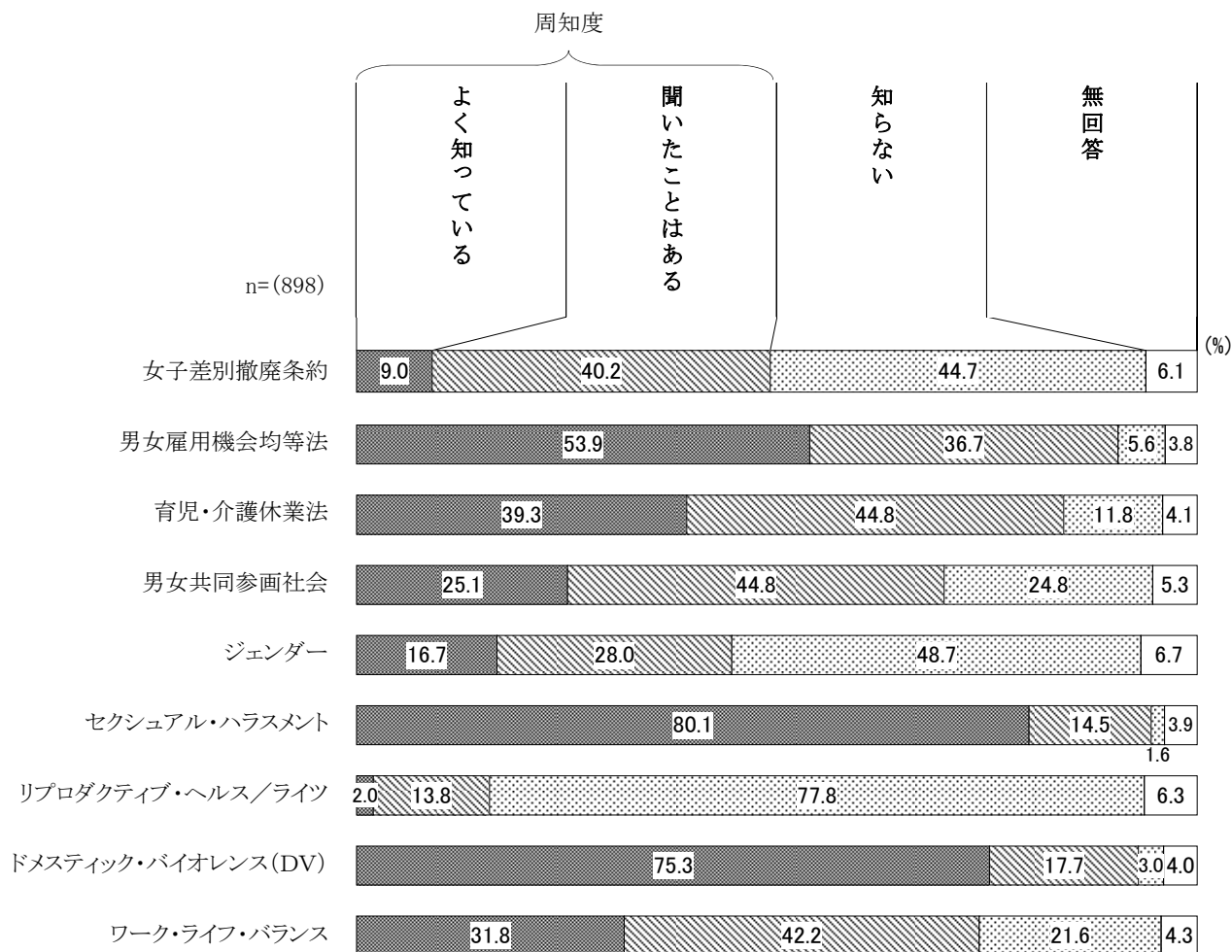
男女平等のために心がけていることとしては、「家事や育児、介護などを女性だけに押しつけず、男女で協力し合う」が56.7%で最も多く、以下『男性は仕事、女性は家庭』と、性別によって役割を決めつけない（48.4%）、「社会のいろいろな出来事に目を向けるようにする」（44.2%）の順で続いている。

性別でみると、男女とも、「家事や育児、介護などを女性だけに押しつけず、男女で協力し合う」と『男性は仕事、女性は家庭』と、性別によって役割を決めつけないの2項目が多くなっている。

女性では、「社会のいろいろな出来事に目を向けるようにする」が48.7%と、男性（38.9%）を上回っている。

(3) 用語の周知状況

問11 次のA～Iの言葉を知っていますか。それぞれの言葉について最も近い段階を、1つずつ選んで番号に○をつけてください。

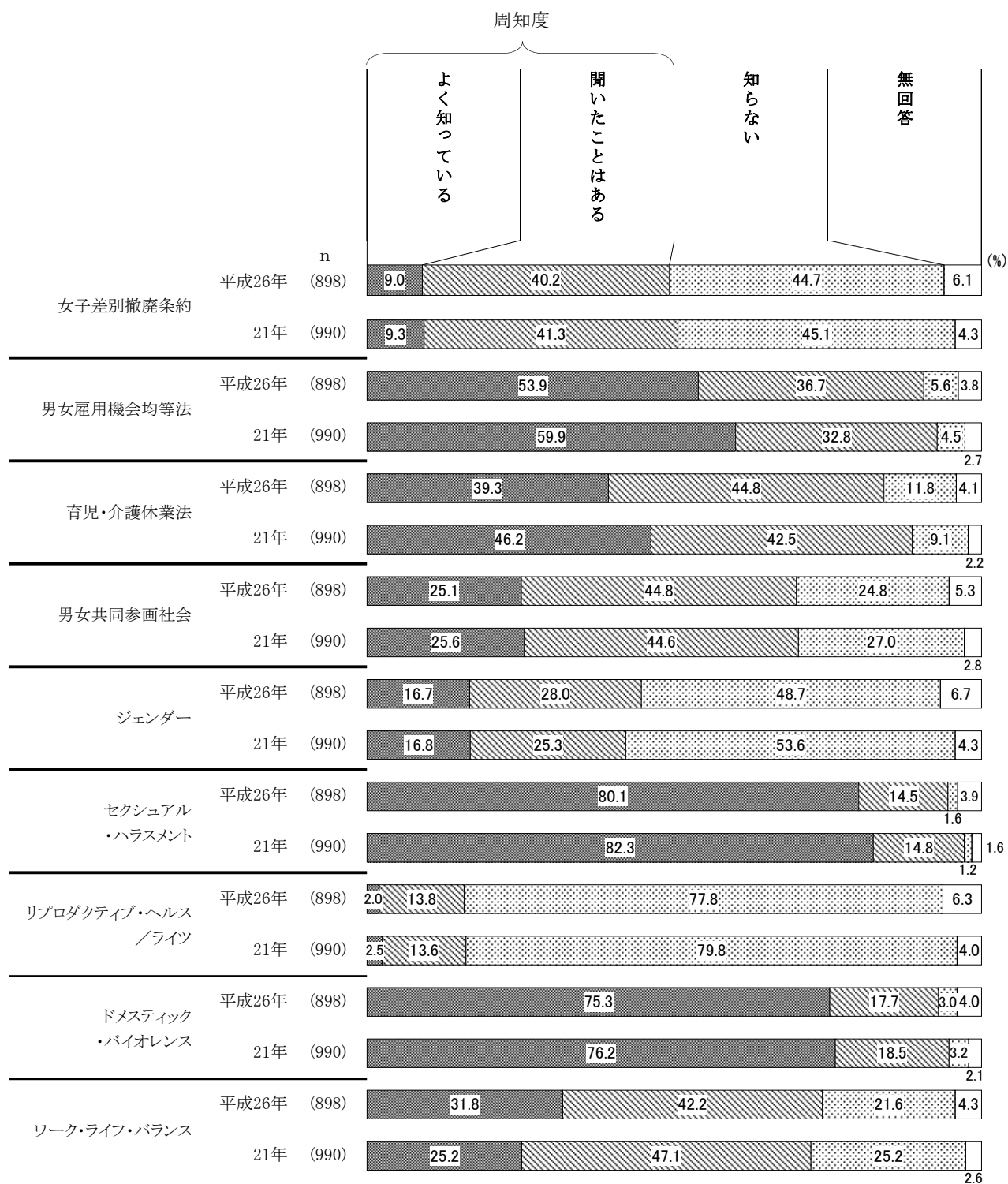


男女共同参画に関する用語の周知状況を、《周知度》（「よく知っている」＋「聞いたことはある」）の多い順でみると、「セクシュアル・ハラスメント」が94.6%で最も多く、以下「ドメスティック・バイオレンス」（93.0%）、「男女雇用機会均等法」（90.6%）の順が続いている。

特に、「セクシュアル・ハラスメント」「ドメスティック・バイオレンス」については、「よく知っている」が、それぞれ80.1%、75.3%を占めており、内容についても広く社会に周知されていることがわかる。

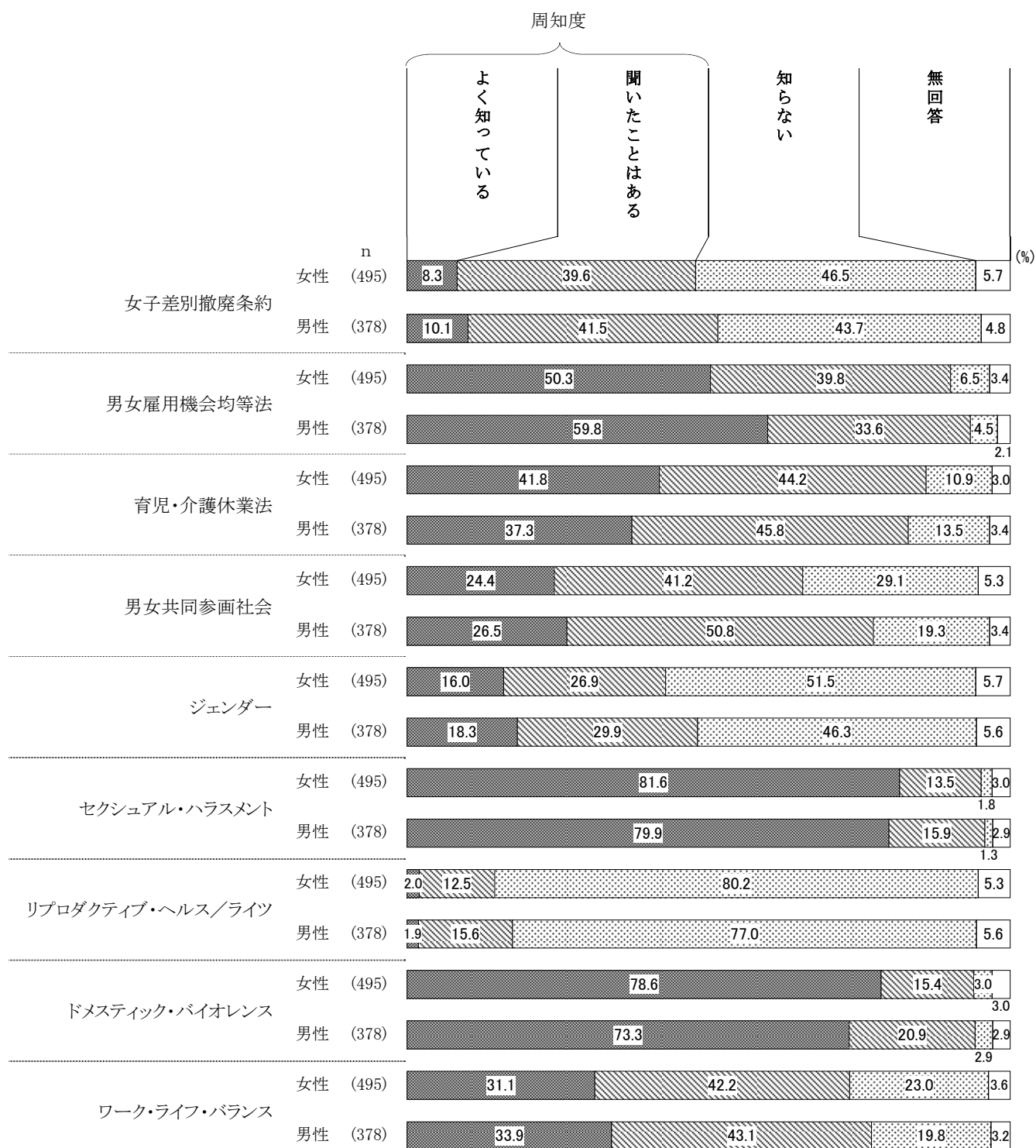
一方、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」については、周知度が15.8%に留まっている。

〈 経年比較／用語の周知状況 〉



平成21年調査結果と比べると、〈ワーク・ライフ・バランス〉の《周知度》は、前回の72.3%から、今回74.0%へと微増している。一方、〈男女雇用機会均等法〉〈育児・介護休業法〉〈セクシュアル・ハラスメント〉〈ドメスティック・バイオレンス〉は、前回に比べて微減している。

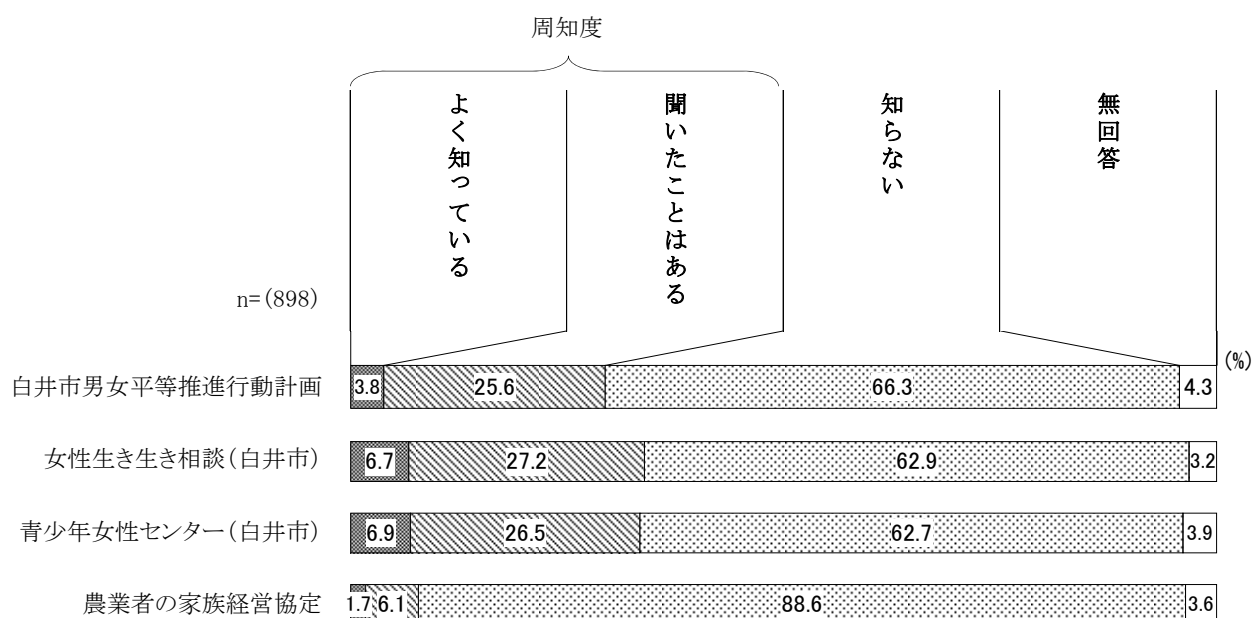
〈 性別／用語の周知状況 〉



性別でみると、周知度について、大きな男女差はみられない。

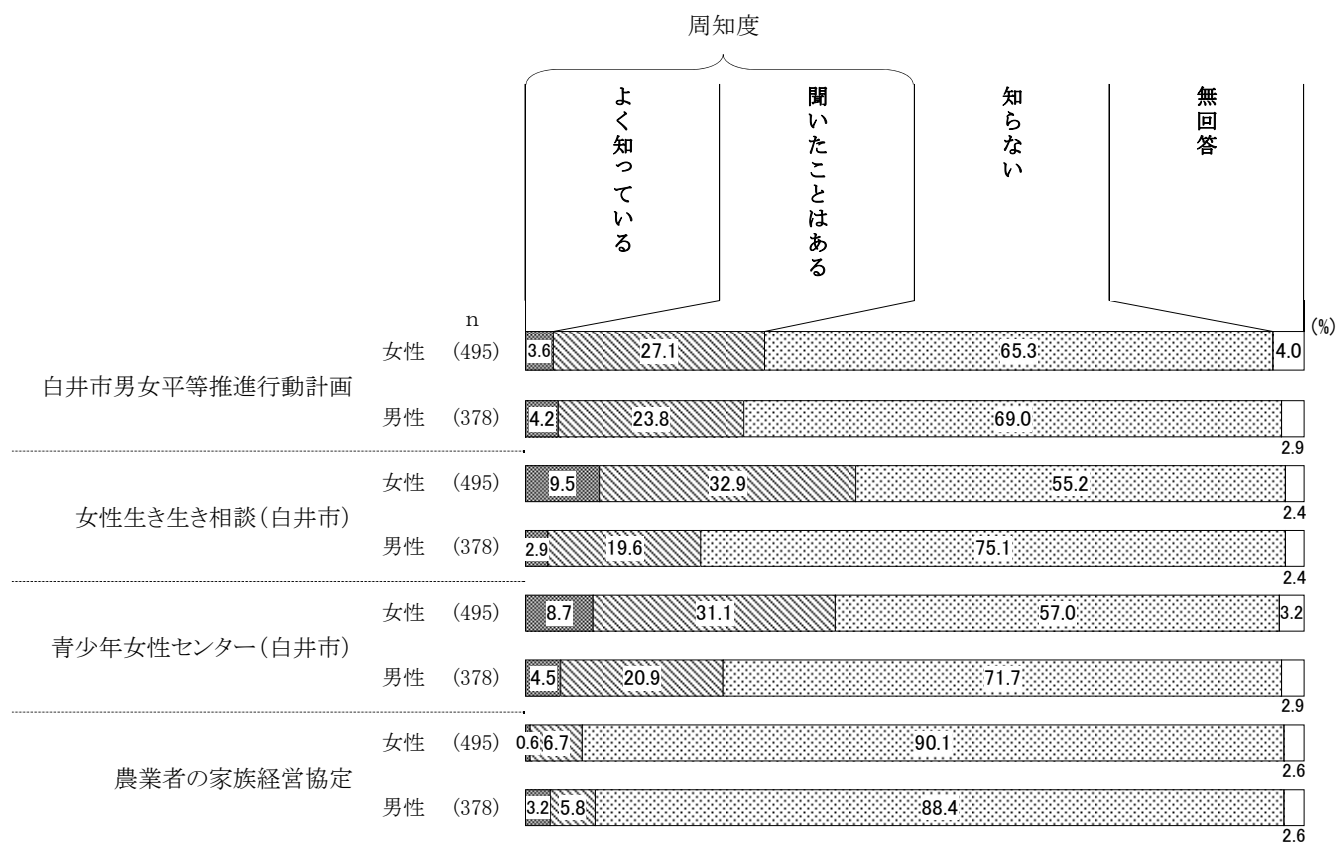
(4) 事業の周知状況

問12 次のA～Dを知っていますか。それぞれの言葉について最も近い段階を、1つずつ選んで番号に○をつけてください。



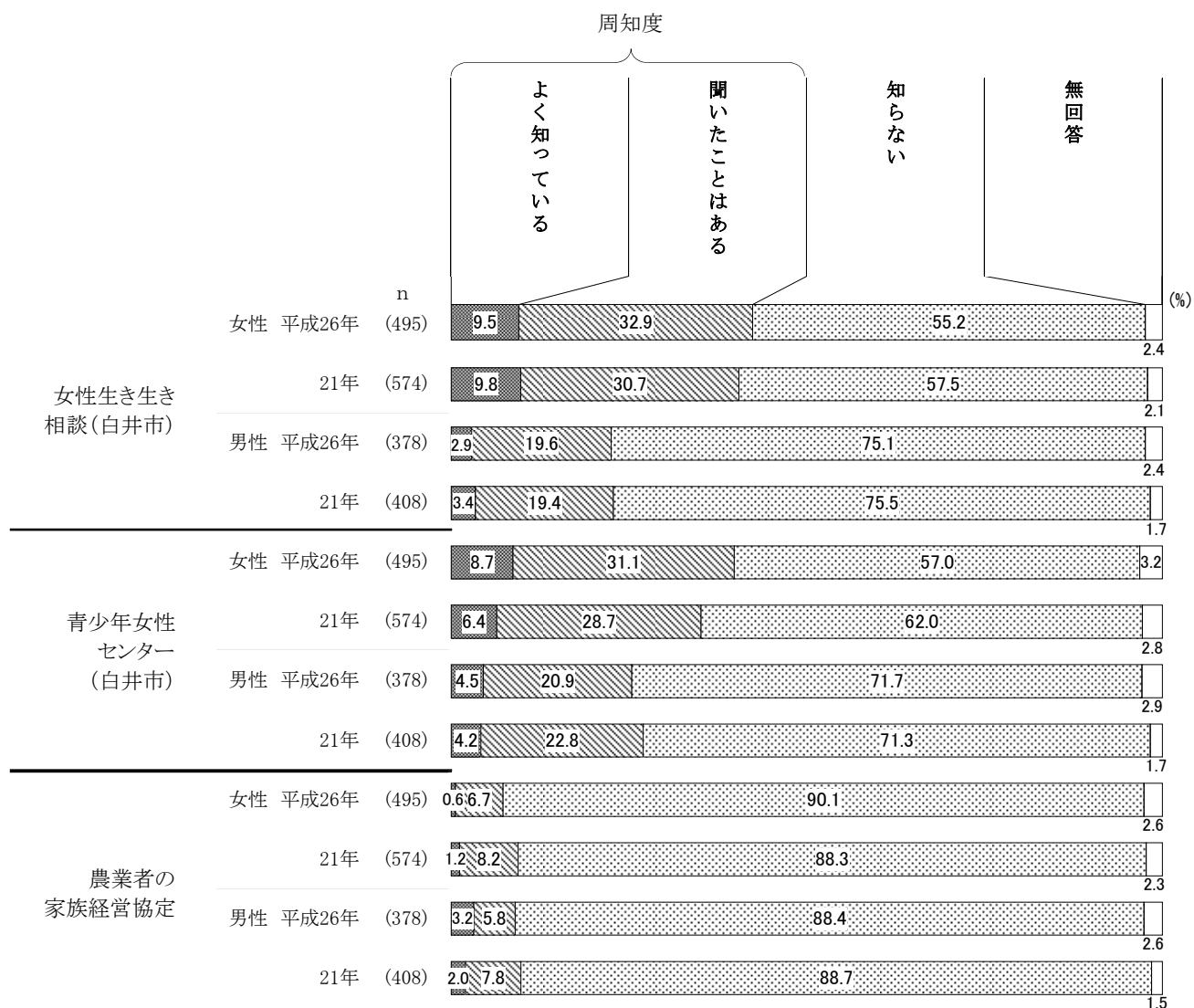
事業の周知状況を、《周知度（「よく知っている」＋「聞いたことはある」）の多い順でみると、「女性生き生き相談（白井市）」が33.9%で最も多く、以下「青少年女性センター（白井市）」（33.4%）、「白井市男女平等推進行動計画」（29.4%）の順が続いている。

〈 性別／事業の周知状況 〉



性別でみると、女性では「女性生き生き相談（白井市）」の《周知度》が42.4%と、男性（22.5%）を上回っているほか、「青少年女性センター（白井市）」（39.8%）、「白井市男女平等推進行動計画」（30.7%）も、男性より多くなっている。

〈 経年比較／事業の周知状況 〉



平成21年調査結果と比べると、〈青少年女性センター（白井市）〉の《周知度》が、女性の場合、前回の35.1%から、今回39.8%へと増加している。

5. ドメスティック・バイオレンス

※「ドメスティック・バイオレンス（DV）」とは、配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人という親しい関係にある、またあったものから振るわれる暴力の事を指します。

（1）経験の有無

問13 あなたはこれまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人などのパートナーから、次にあげるA～Mのような経験がありますか。それぞれ1つずつ選んで番号に○をつけてください。



ドメスティック・バイオレンスの経験についてきいたところ、「したことがある」「されたことがある」「両方ある（「したこと」も「されたこと」もある）」を合わせた《経験あり》を多い順でみると、〈大声で怒鳴る〉29.4%、〈「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をする〉（16.0%）、〈容姿について傷つくようなことを言う〉（14.9%）、〈何を言っても無視〉（14.2%）の順で続いている。

最も多い〈大声で怒鳴る〉をみると「両方ある（「したこと」も「されたこと」もある）」が12.0%を占めているほか、「したことがある」が7.5%、「されたことがある」が9.9%となっている。また、〈「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をする〉については「両方ある（「したこと」も「されたこと」もある）」が6.1%となっているほか、「したことがある」が2.9%、「されたことがある」が7.0%である。

性別でみると〈大声で怒鳴る〉については、女性では「されたことがある」（16.2%）が、男性では「したことがある」（13.5%）、「両方ある（「したこと」も「されたこと」もある）」（13.0%）が多くなっている。

〈「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をする〉については、女性では「されたことがある」（11.1%）が、男性では「したことがある」（4.8%）、「両方ある（「したこと」も「されたこと」もある）」（5.0%）が多くなっている。

〈容姿について傷つくようなことを言う〉については、女性では「されたことがある」（10.3%）が、男性では「両方ある（「したこと」も「されたこと」もある）」（6.3%）が多くなっている。

〈何を言っても無視〉については、男性で「両方ある（「したこと」も「されたこと」もある）」が8.5%と、女性（5.9%）より多くなっている。

次に、身体的暴力に注目してみると、〈医師の治療が必要ではない程度の暴力〉については、《経験あり》が6.3%で、その内訳は「されたことがある」が4.7%、「両方ある（「したこと」も「されたこと」もある）」が0.9%、「したことがある」が0.7%である。

〈命の危険を感じるくらいの暴力〉〈医師の治療が必要となる暴力〉についても、《経験あり》が、それぞれ2.4%、1.4%となっている。

性別でみると〈医師の治療が必要ではない程度の暴力〉については、女性で「されたことがある」が7.5%で、これに「両方ある（「したこと」も「されたこと」もある）」（0.6%）を合わせると“受けた経験がある”は8.1%と1割近くに達する。

〈命の危険を感じるくらいの暴力〉については、女性で「されたことがある」が3.0%（女性回答者495人中の15人）のほか、〈医師の治療が必要となる暴力〉についても2.2%（女性回答者495人中の11人）いる。

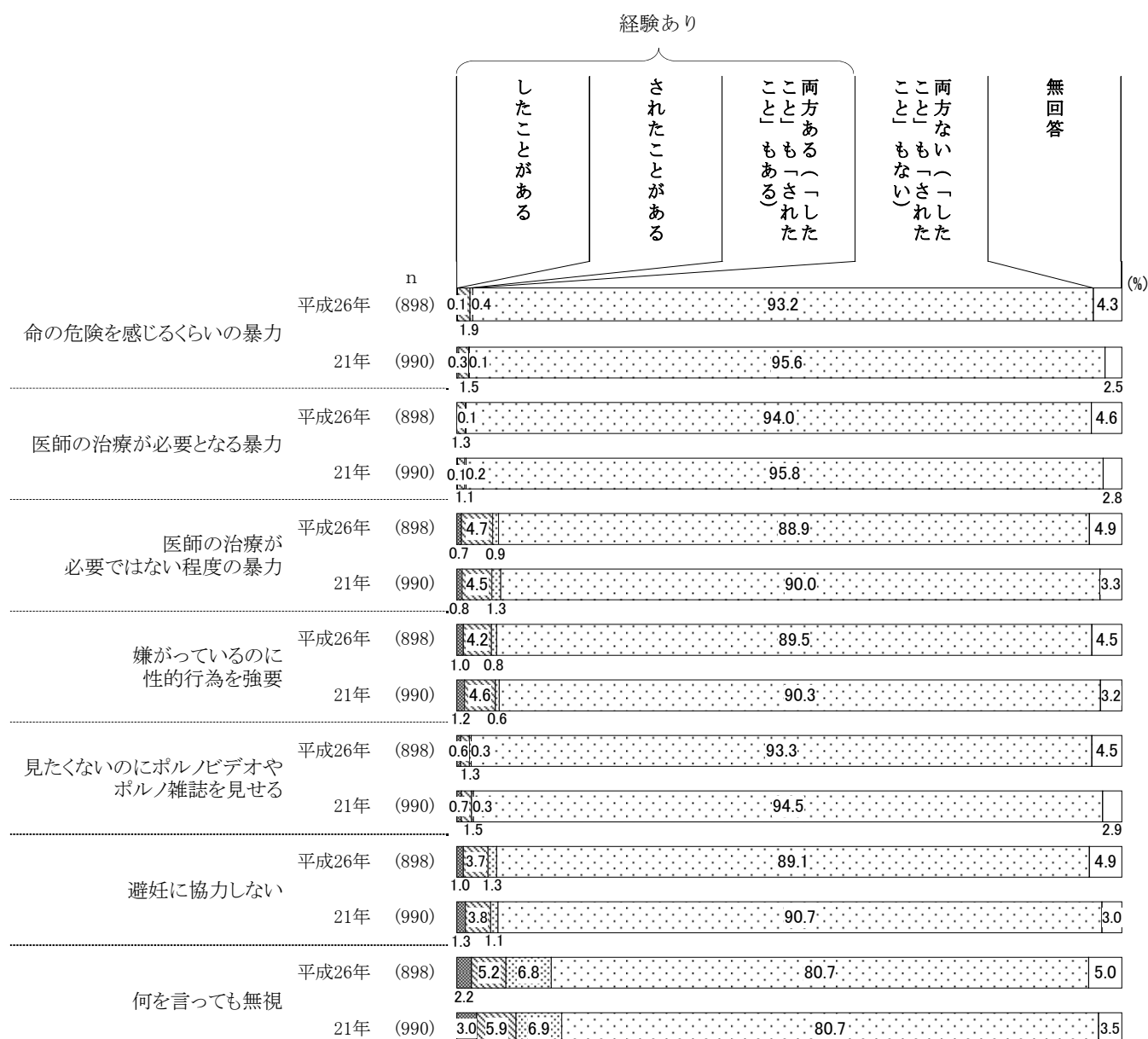
この結果からもわかるように、比率は少ないものの、身体的暴力を受けた経験のある女性はかなり数の数にのぼっており、ドメスティック・バイオレンスの問題は深刻である。

性・年代別でみると〈大声で怒鳴る〉については、女性の場合、29歳以下・60代を除くと、各年代とも「されたことがある」が1割台半ばから2割台前半となっている。これに「両方ある（「したこと」も「されたこと」もある）」を合わせると、30代から50代では“受けた経験がある”が3割台前半から半ばを占め、特に50代では34.8%に達している。

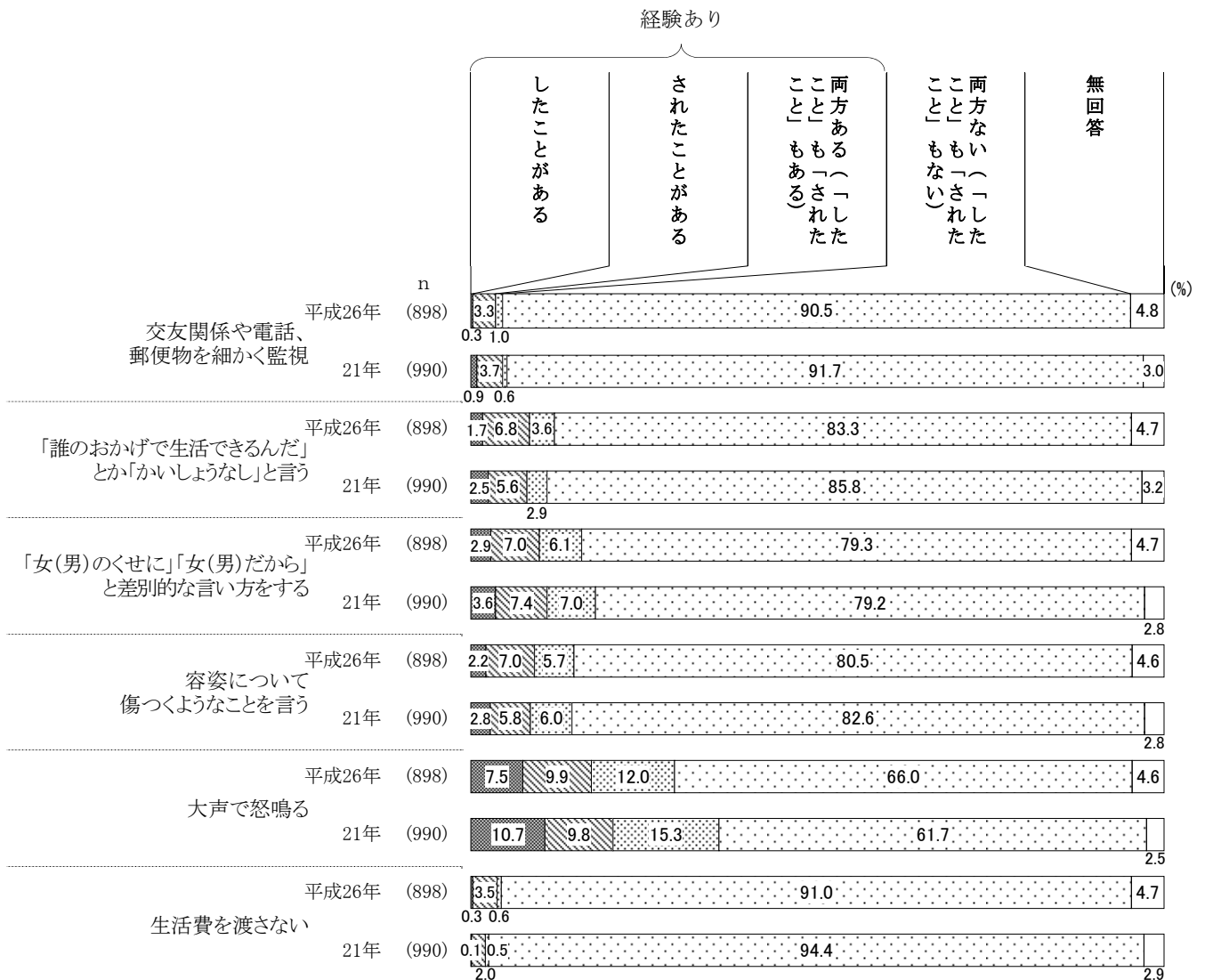
男性では60代・70歳以上で「したことがある」が2割を超えている。これに「両方ある（「したこと」も「されたこと」もある）」を合わせた“した経験がある”では、30代から50代で2割、60代・70歳以上で3割を超え、特に60代では33.7%と多くなっている。

〈容姿について傷つくようなことを言う〉については、女性の40代・50代で「されたことがある」が、それぞれ15.7%、13.5%と、他の年代よりやや多くなっている。

〈経年比較／経験の有無①〉

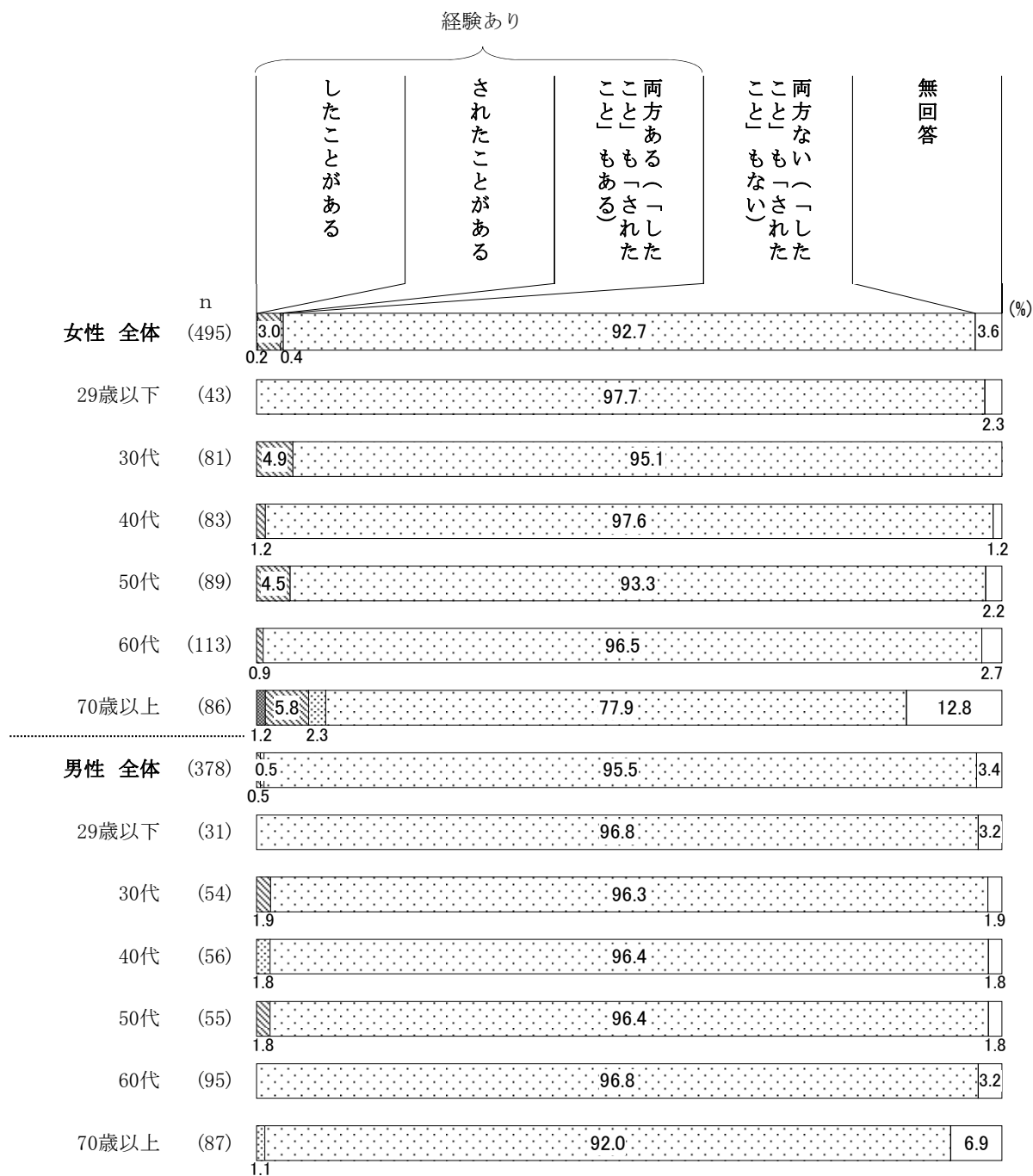


〈 経年比較／経験の有無② 〉

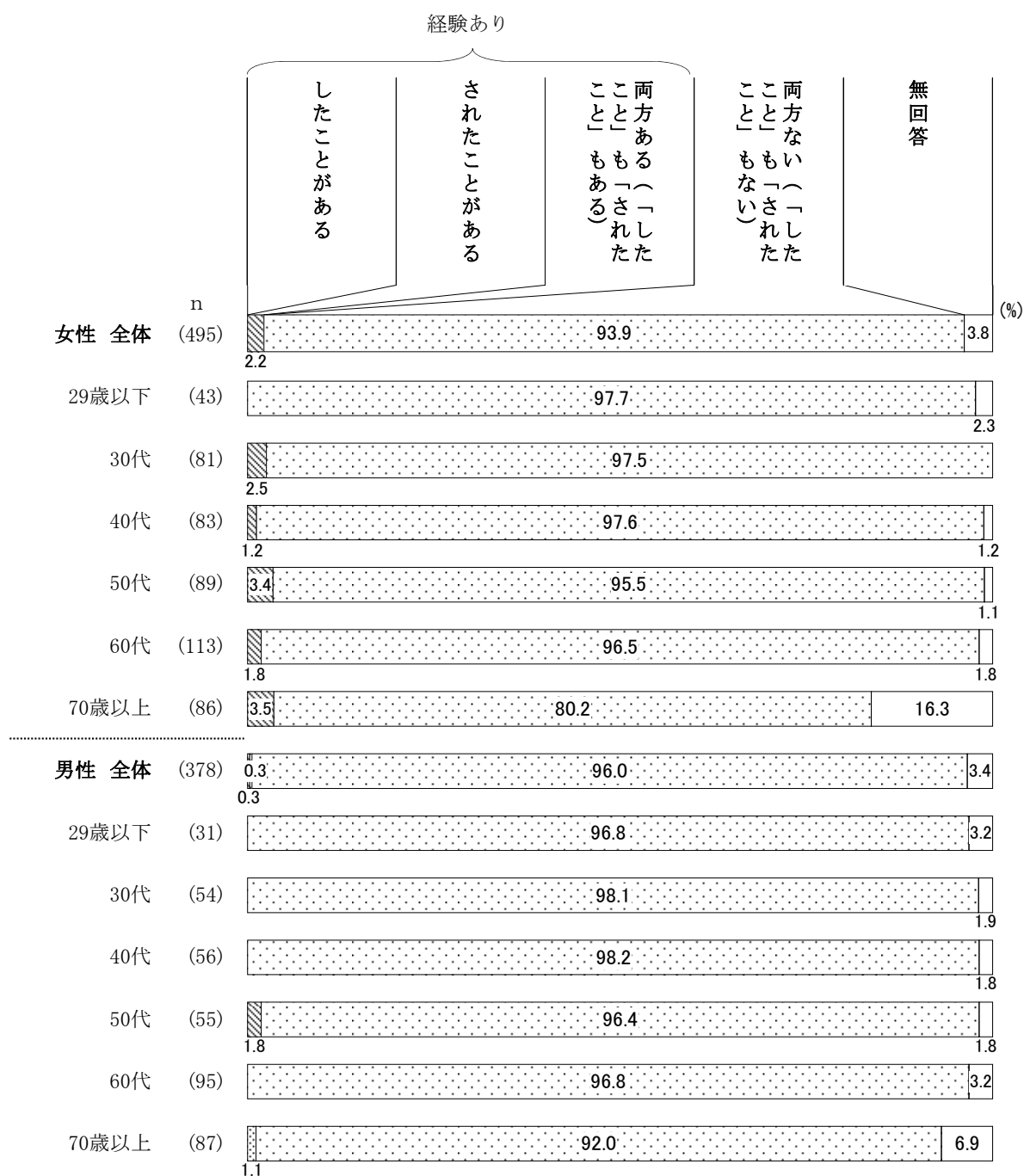


平成21年度調査結果と比べると、ほとんどの項目について、《経験あり》は、ほぼ横ばい状況にあるが、〈大声で怒鳴る〉は、平成21年の35.8%から、今回29.4%へと減少している。

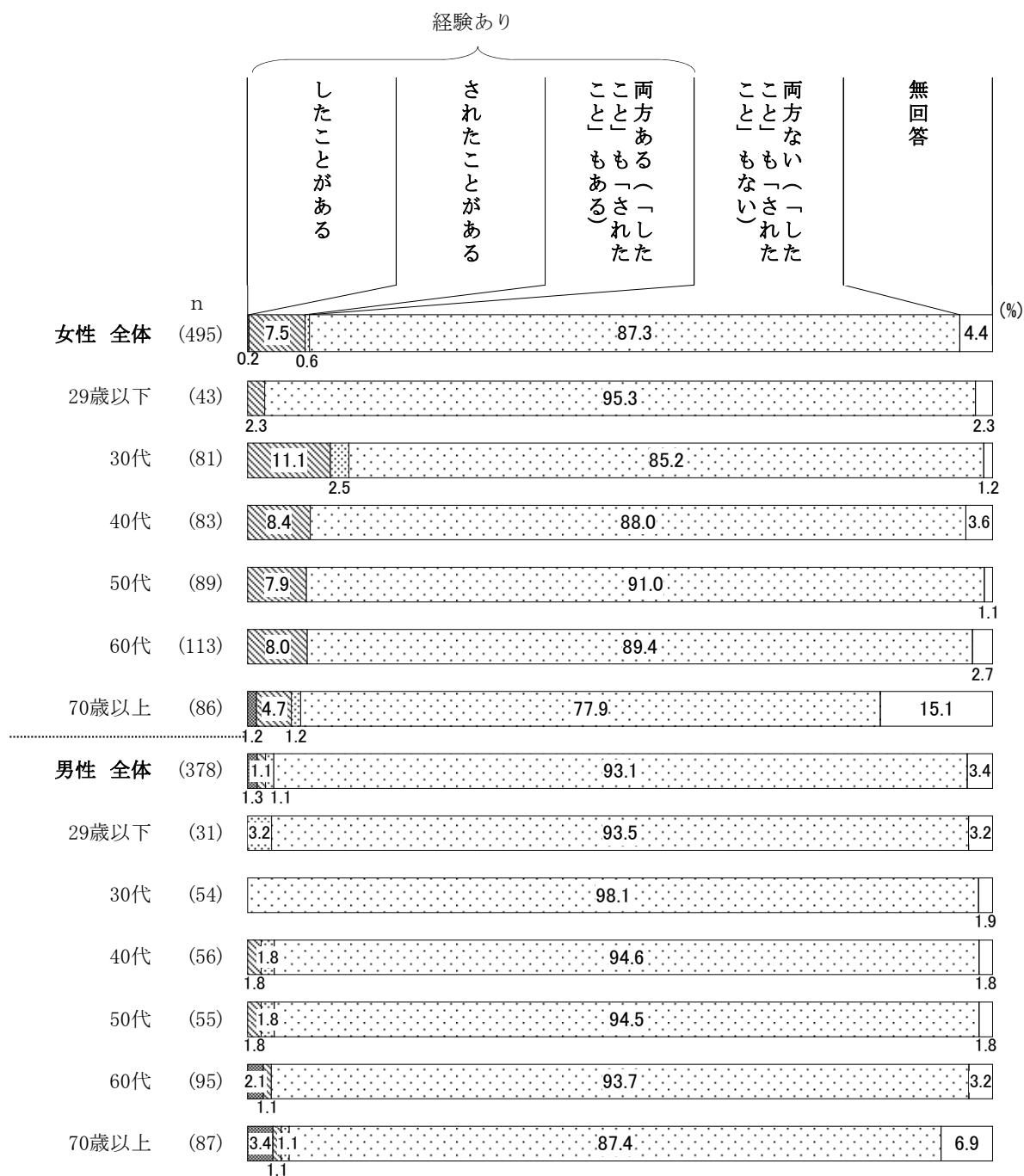
〈 性別、性・年代別／経験の有無／命の危険を感じるくらいの暴力 〉



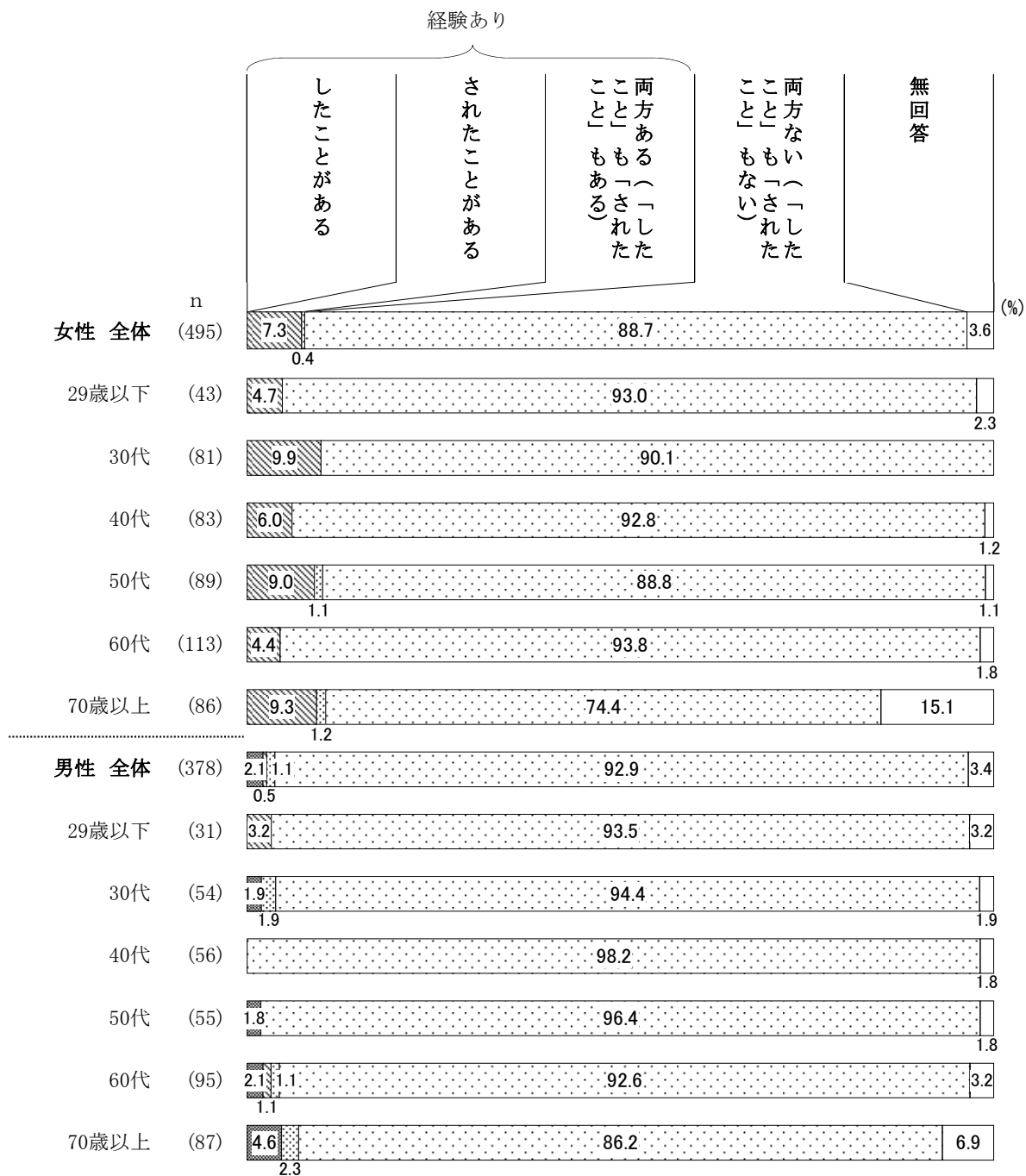
〈性別、性・年代別／経験の有無／医師の治療が必要となる暴力〉



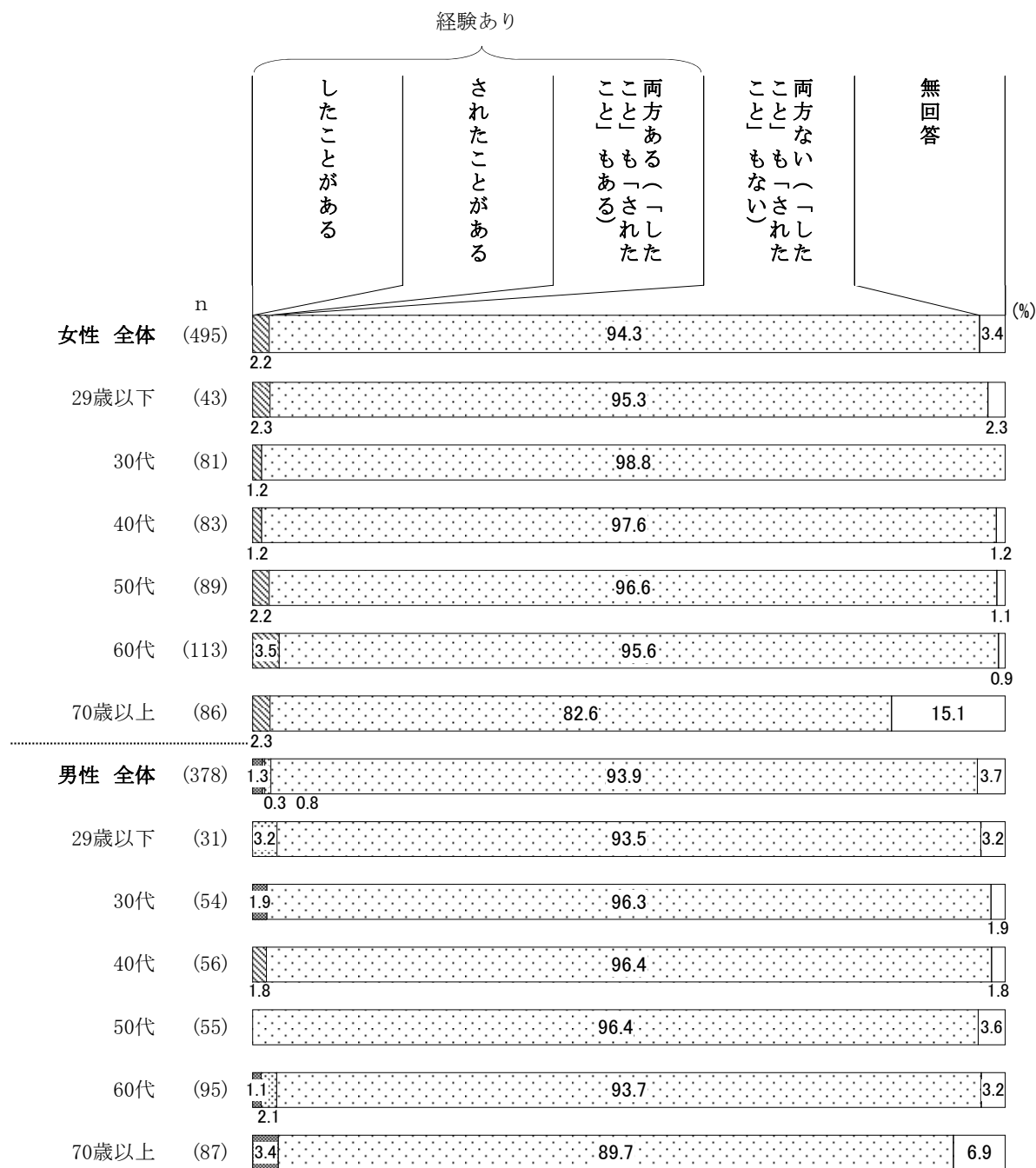
〈 性別、性・年代別／経験の有無／医師の治療が必要ではない程度の暴力 〉



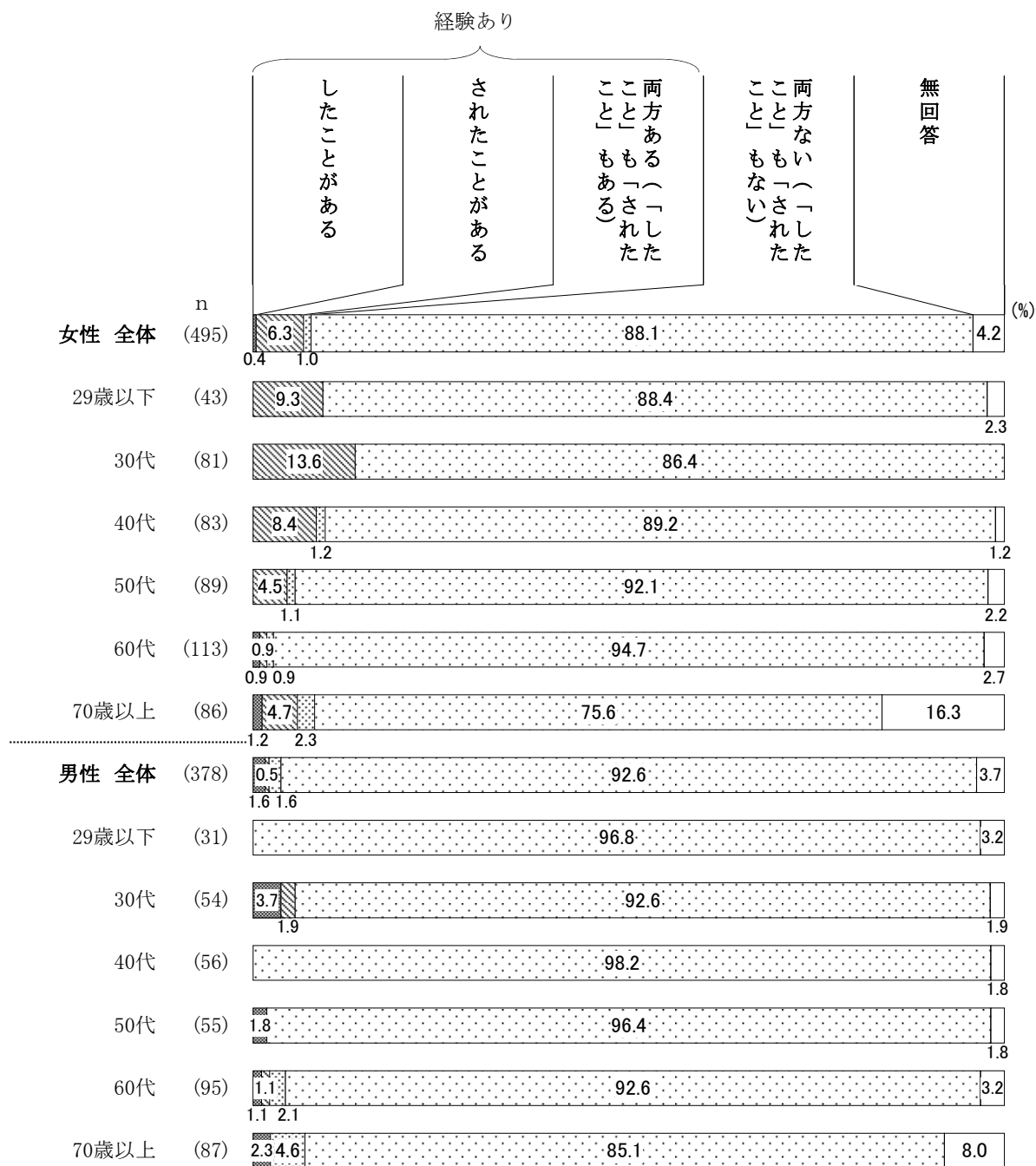
〈 性別、性・年代別／経験の有無／嫌がっているのに性的行為を強要 〉



〈 性別、性・年代別／経験の有無／見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる 〉



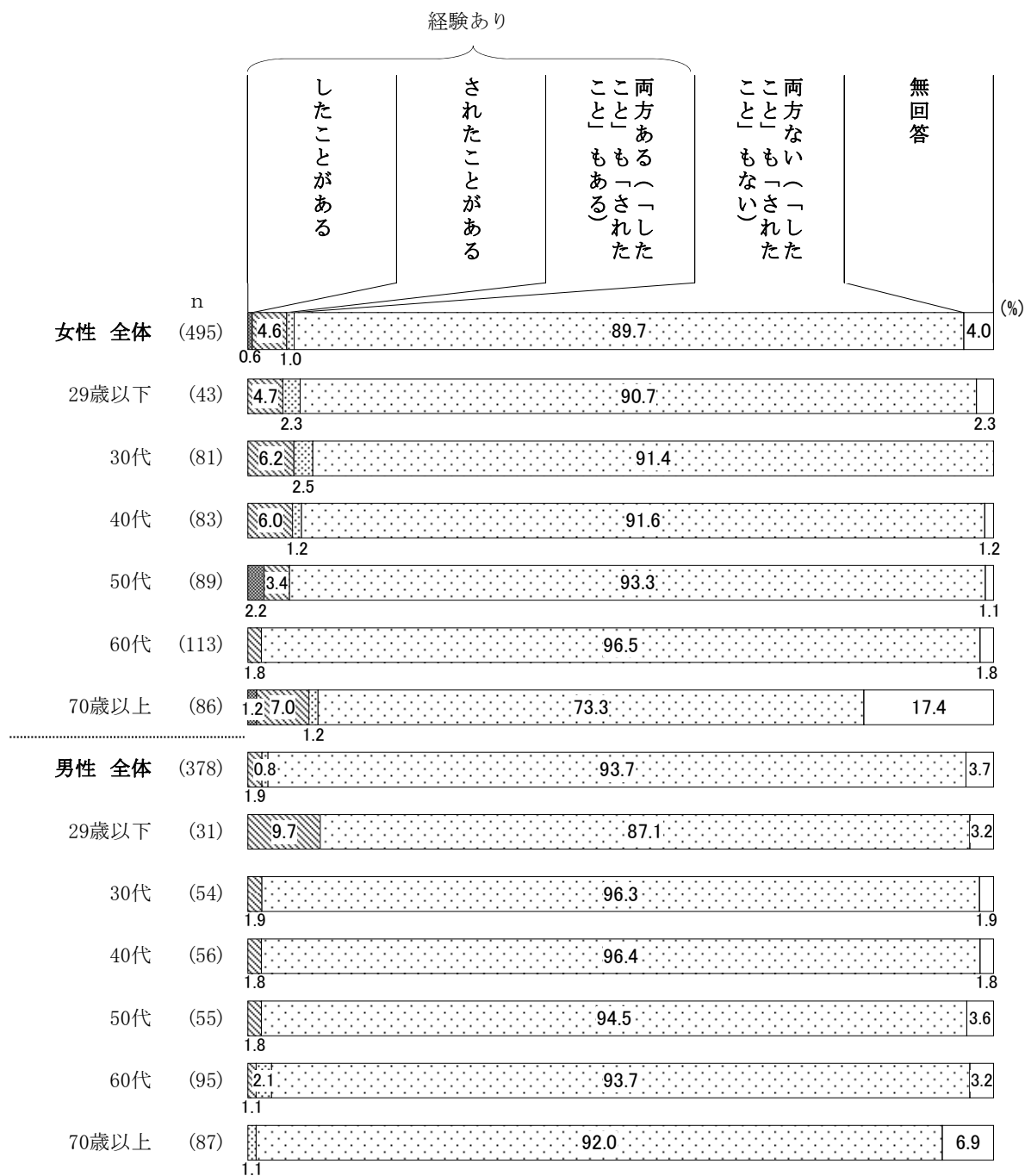
〈 性別、性・年代別／経験の有無／避妊に協力しない 〉



〈 性別、性・年代別／経験の有無／何を言っても無視 〉

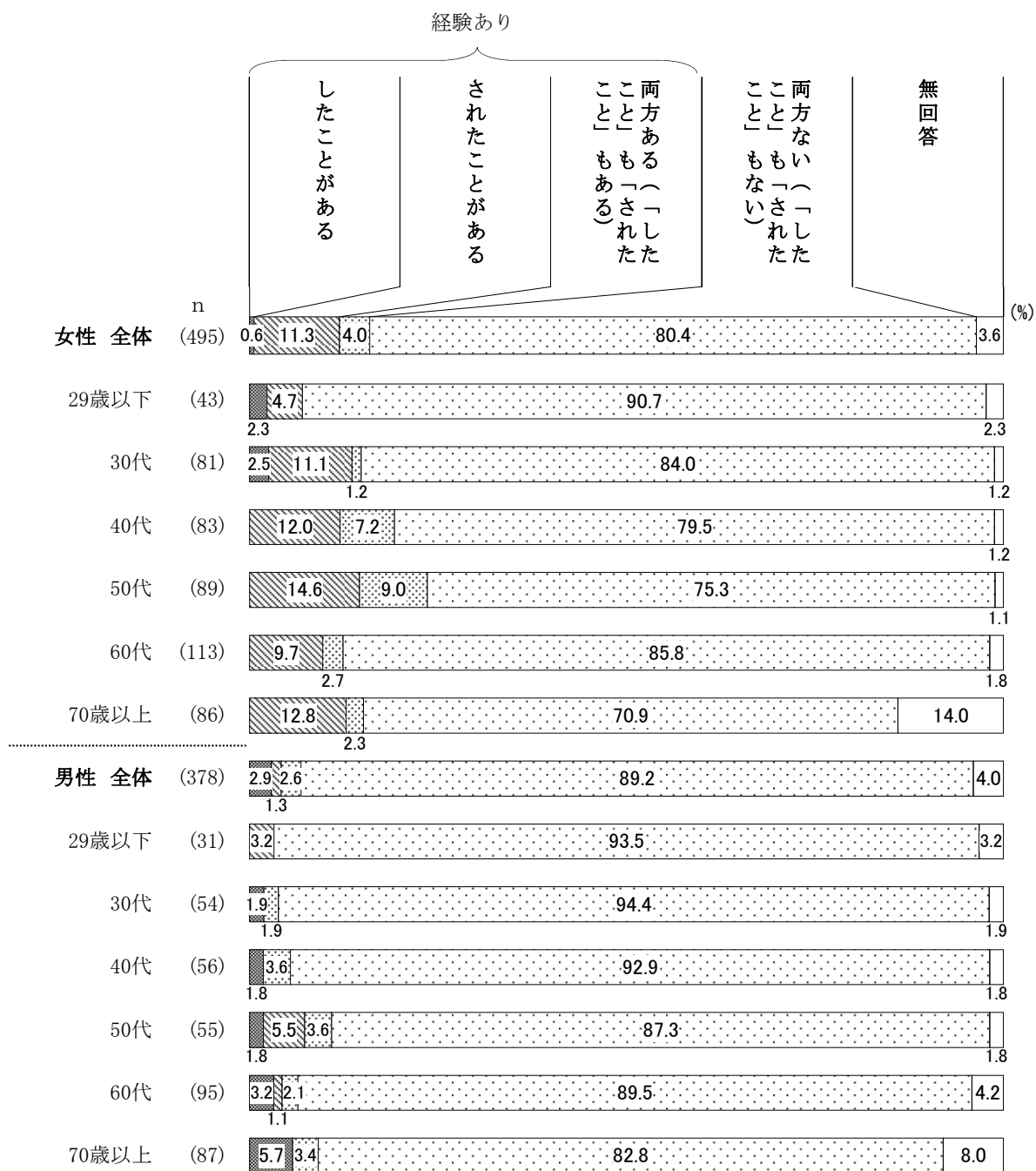


〈 性別、性・年代別／経験の有無／交友関係や電話、郵便物を細かく監視 〉



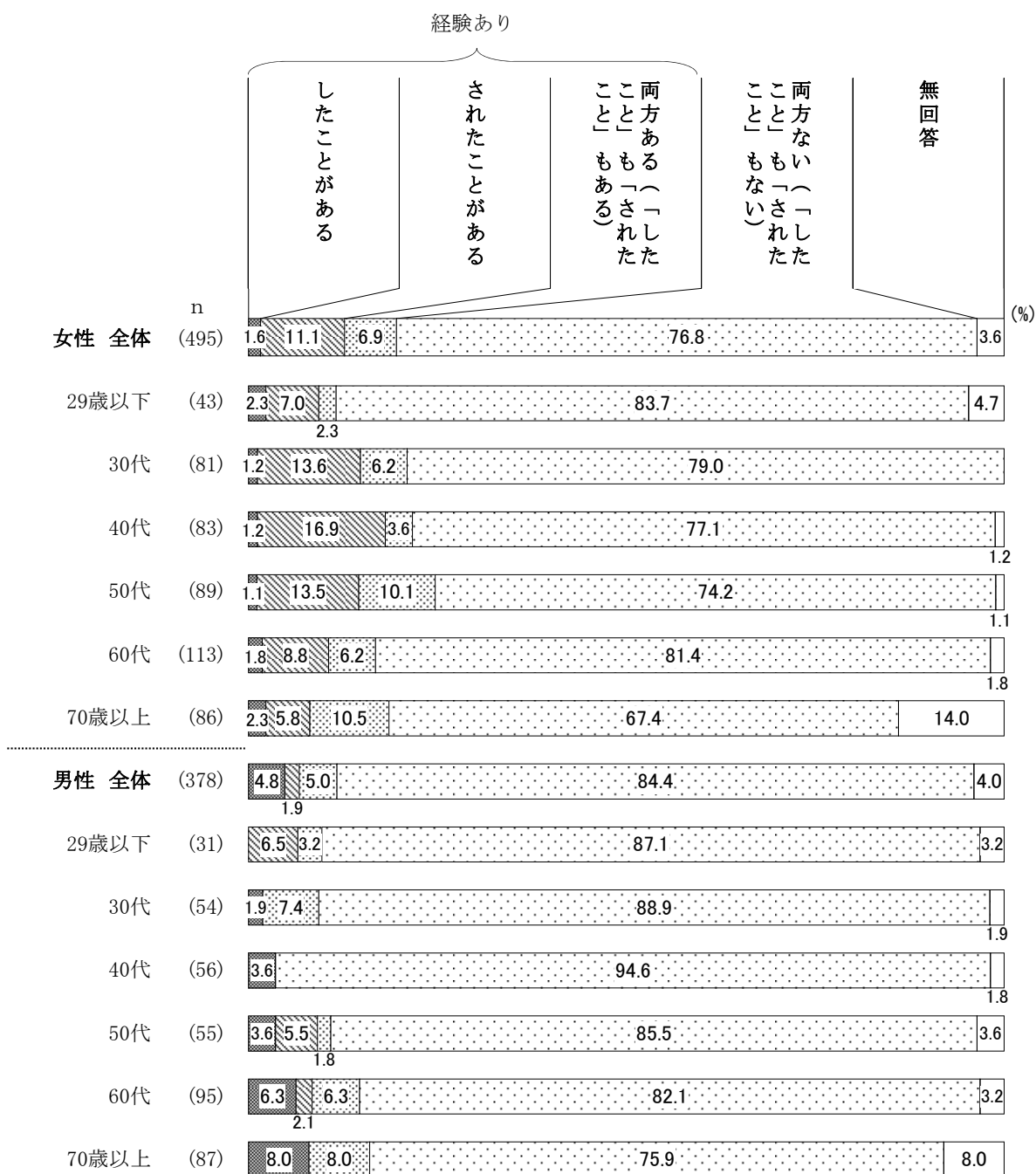
く 性別、性・年代別／経験の有無

／「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言うく

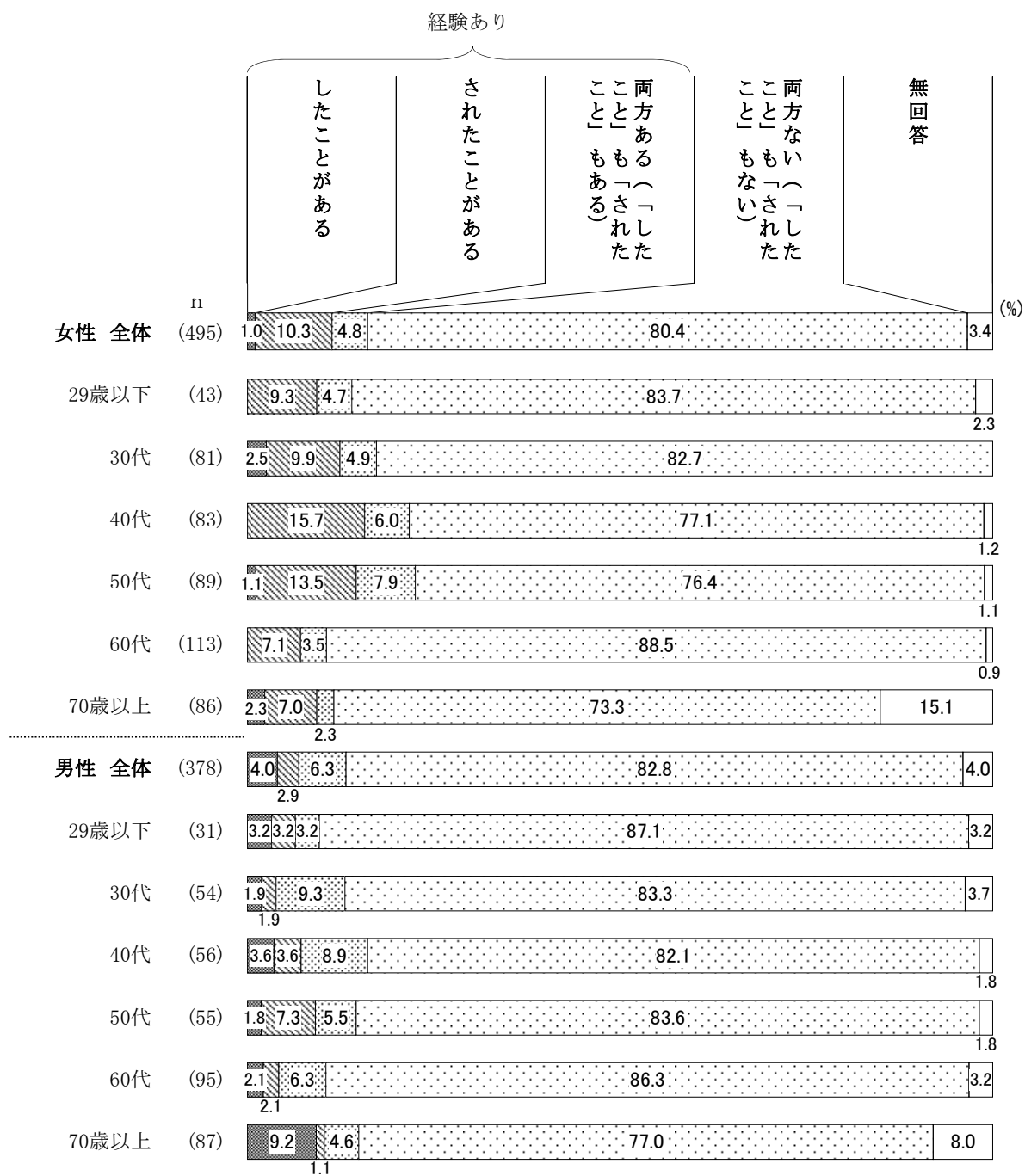


〈 性別、性・年代別／経験の有無

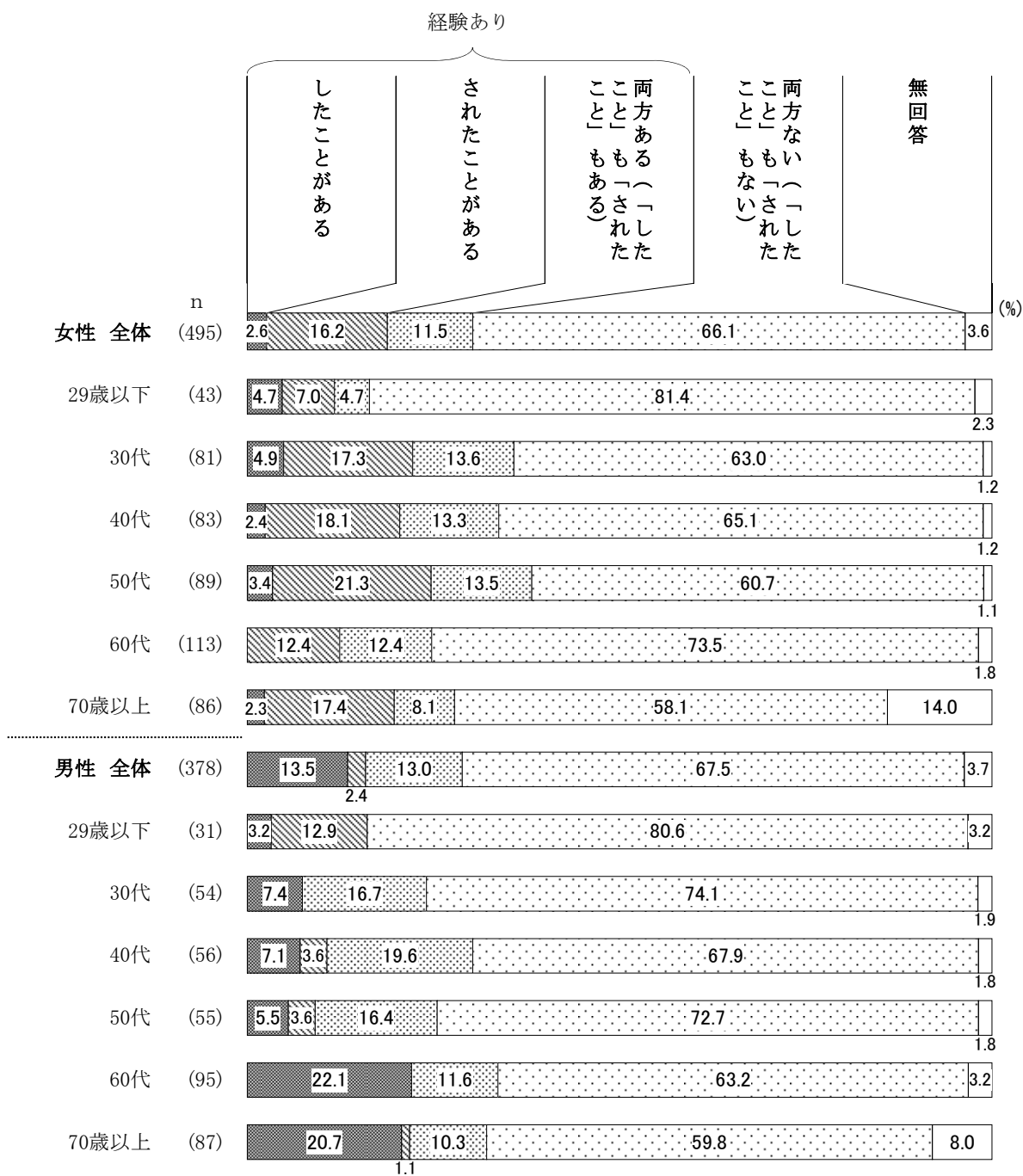
／「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をする 〉



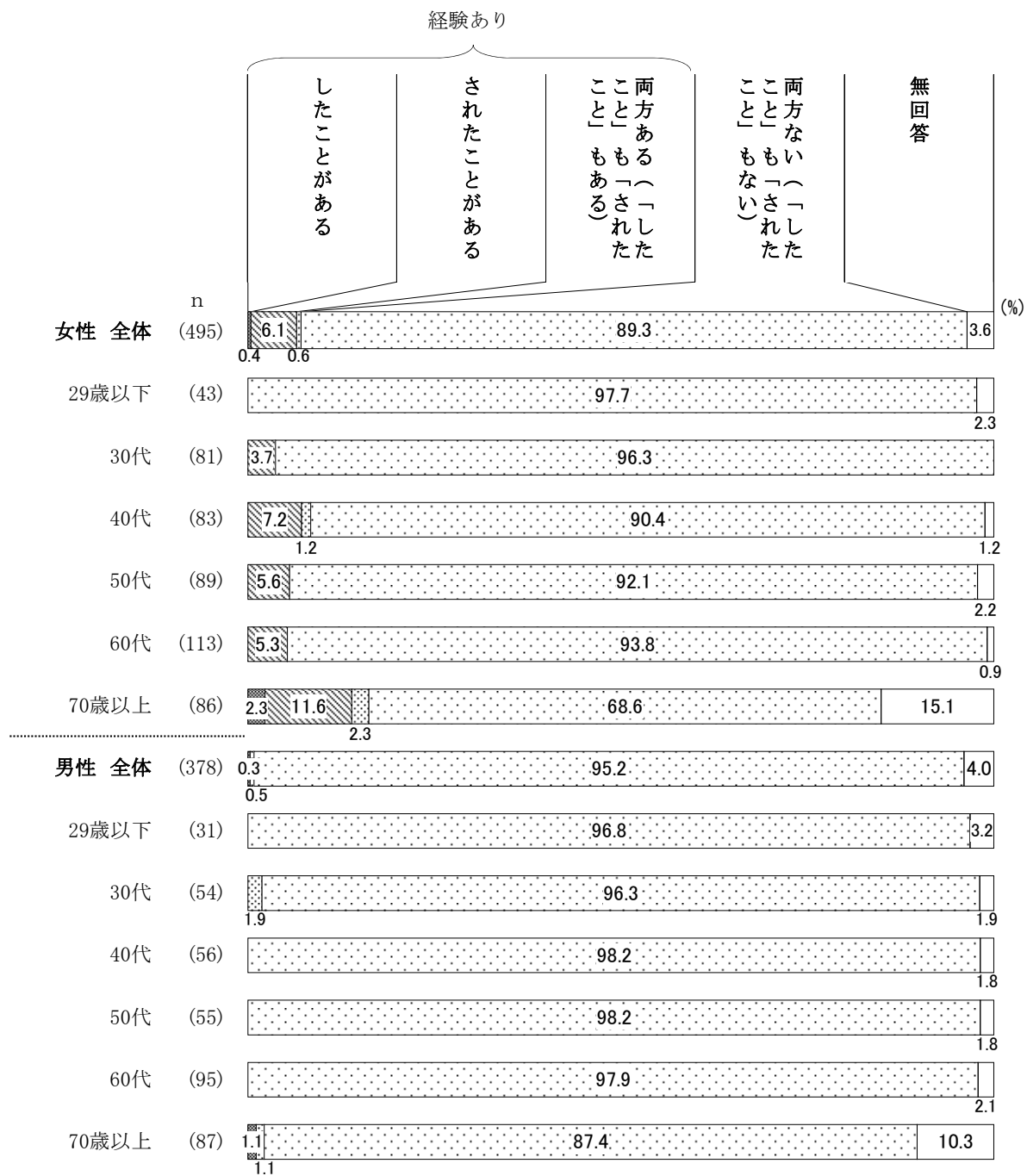
〈 性別、性・年代別／経験の有無／容姿について傷つくようなことを言う 〉



〈 性別、性・年代別／経験の有無／大声で怒鳴る 〉



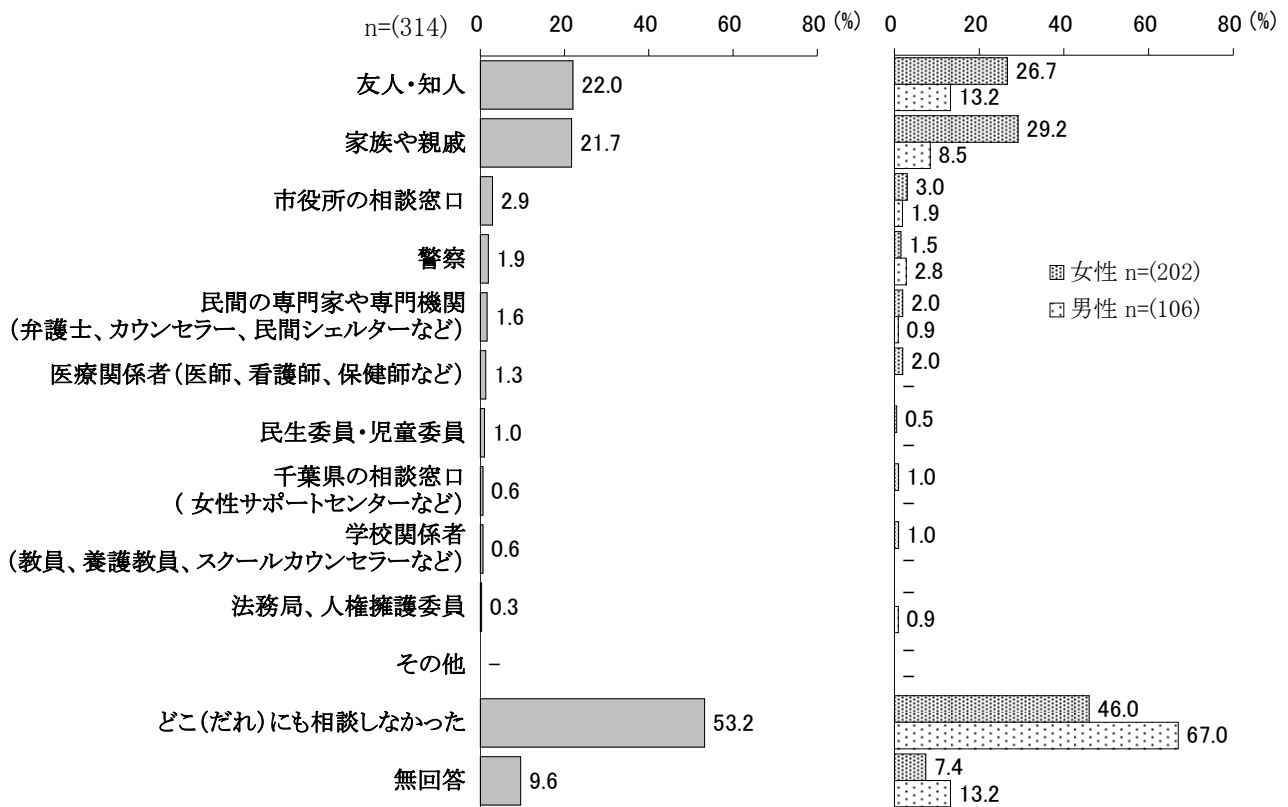
〈性別、性・年代別／経験の有無／生活費を渡さない〉



(2) 受けたときの相談先

問13で「されたことがある」、または「両方ある」と、ひとつでも答えた方にうかがいます。
「両方ある」とお答えになった方は「された」時のことを思い浮かべて、お答えください。

問13-1 そのとき、だれ、もしくはどこに相談しましたか。該当するものすべての番号に○をつけてください。



ドメスティック・バイオレンスを受けた経験のある人に、相談先についてきいたところ、「友人・知人」(22.0%)と「家族や親戚」(21.7%)が、いずれも2割を超えて多くなっている。一方、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が53.2%と過半数を占めている。

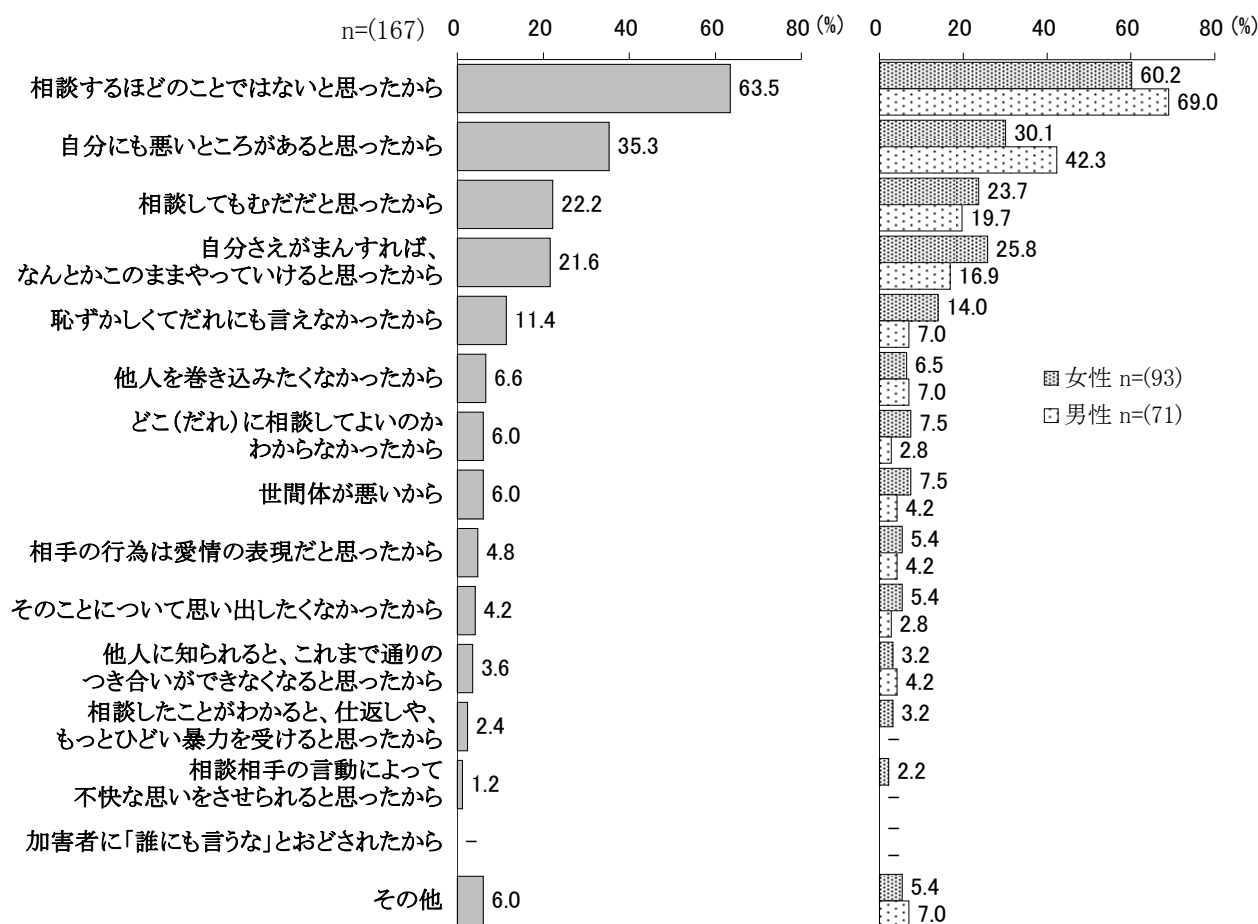
性別でみると、女性では、「家族や親戚」(29.2%)と「友人・知人」(26.7%)が、いずれも男性より多くなっている。

男性では「どこ(だれ)にも相談しなかった」が67.0%と、女性(46.0%)を大きく上回っている。

(3) 相談しなかった理由

問13-1で「12 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にうかがいます。

問13-1-1 どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）理由は何ですか。該当するものすべての番号に○をつけてください。



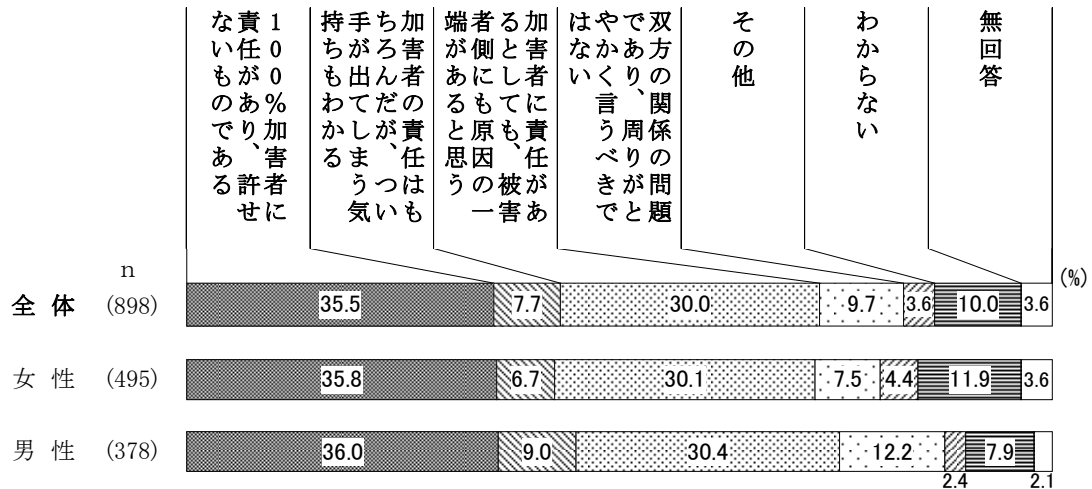
ドメスティック・バイオレンスを受けた経験があるものの、「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人に、その理由をきいたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が63.5%で最も多く、以下「自分にも悪いところがあると思ったから」（35.3%）、「相談してもむだだと思ったから」（22.2%）、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（21.6%）の順で続いている。

性別でみると、女性では「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が25.8%と、男性（16.9%）より多くなっている。

男性では、「相談するほどのことではないと思ったから」が69.0%と、女性（60.2%）を上回っているほか、「自分にも悪いところがあると思ったから」も42.3%と、女性に比べて多くなっている。

(4) ドメスティック・バイオレンスについての考え

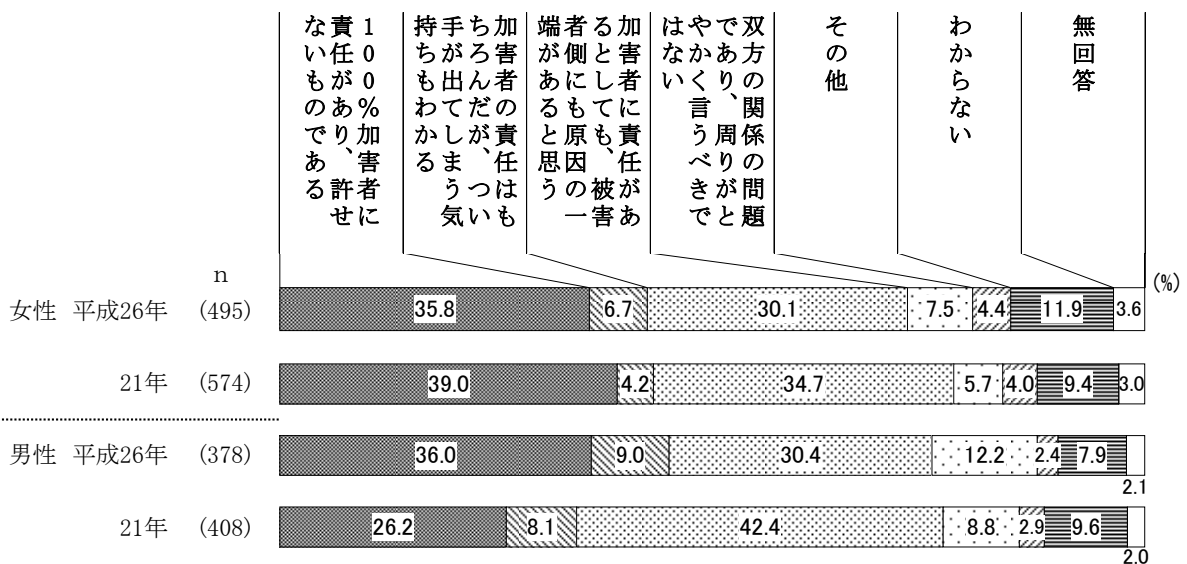
問14 あなたは、このような配偶者やパートナーからの暴力についてどのようにお考えですか。1つ選んで番号に○をつけてください。



ドメスティック・バイオレンスについての考え方としては、「100%加害者に責任があり、許せないものである」が35.5%で最も多く、次いで「加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」が30.0%となっている。

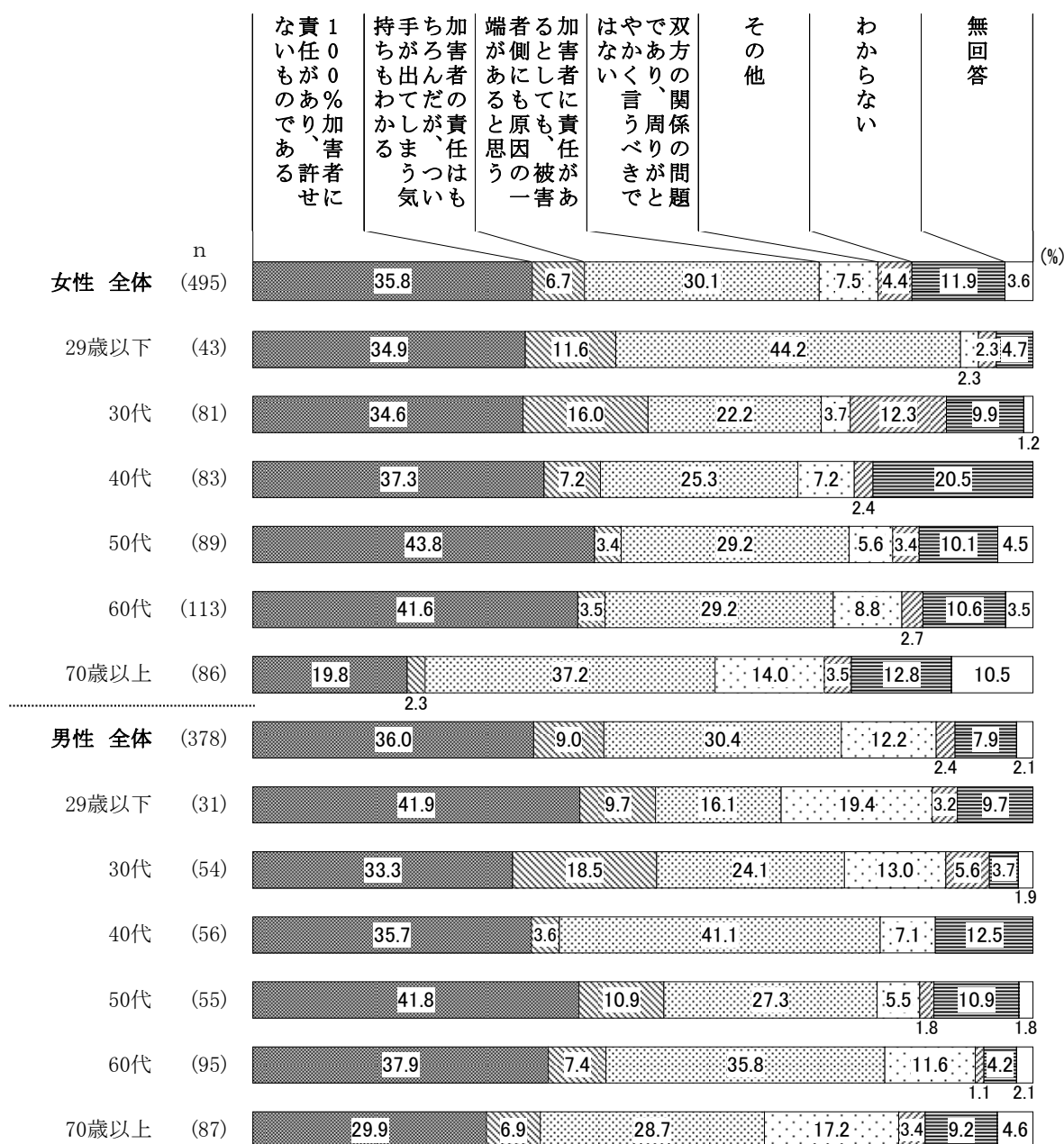
性別でみると、男女の回答傾向に、大きな差はみられない。

〈 経年比較／ドメスティック・バイオレンスについての考え 〉



平成21年調査結果と比べると、女性の場合、大きな変化はないが、男性の場合、「100%加害者に責任があり、許せないものである」が、平成21年の26.2%から、今回36.0%へと大きく増加している。

〈 性・年代別／ドメスティック・バイオレンスについての考え 〉

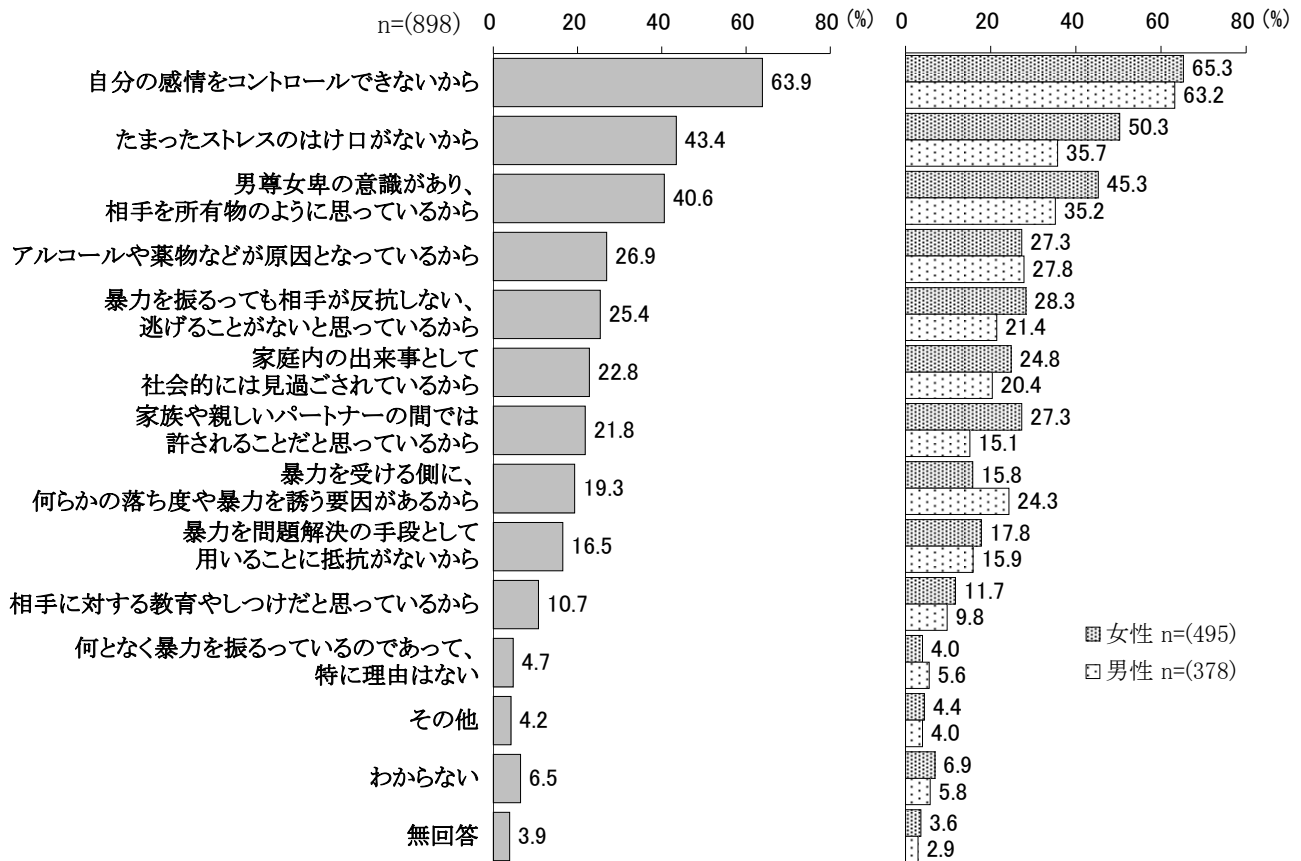


性・年代別でみると、女性の場合、29歳以下では「加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」が44.2%と多くなっている。50代、60代では「100%加害者に責任があり、許せないものである」が、いずれも4割を超えている。

男性の場合、29歳以下、50代では「100%加害者に責任があり、許せないものである」が、いずれも4割を超えている。40代では「加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う」が41.1%と、他の年代に比べて多くなっている。

(5) 暴力を振るう理由

問15 配偶者やパートナーが暴力を振るう理由は何だと思えますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。



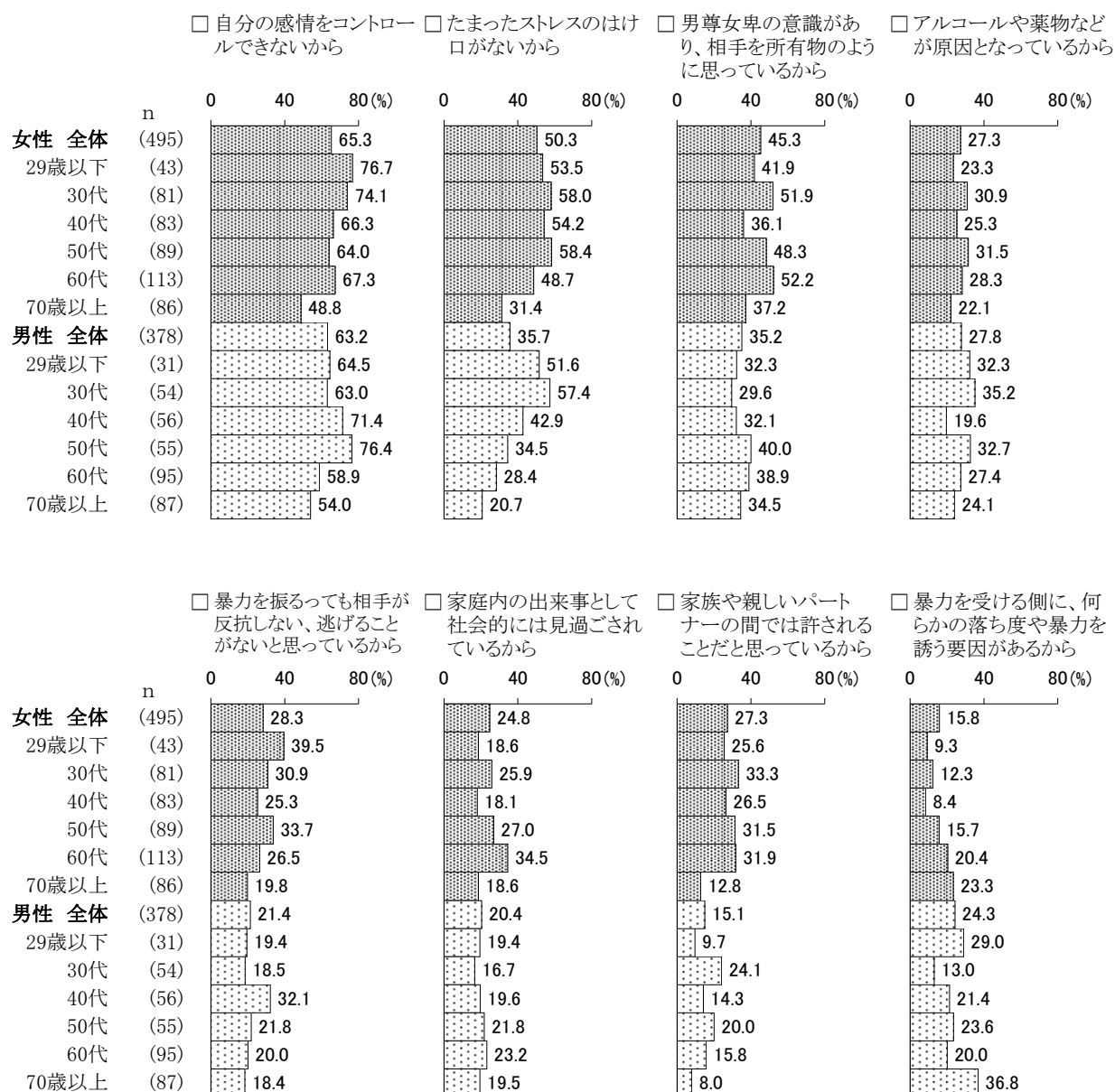
配偶者やパートナーが暴力をふるう理由としては、「自分の感情をコントロールできないから」が63.9%で最も多く、以下「たまったストレスのはけ口がないから」(43.4%)、「男尊女卑の意識が残っており、相手を自分の所有物であるかのように思っているから」(40.6%)の順で続いている。

性別でみると、女性では「たまったストレスのはけ口がないから」が50.3%と、男性(35.7%)を上回っているほか、「男尊女卑の意識が残っており、相手を自分の所有物であるかのように思っているから」も45.3%と、男性より多くなっている。

そのほか、「暴力を振るっても相手が反抗しない、逃げることがないと思っているから」「家族や親しいパートナーの間では許されることだと思っているから」でも女性が男性より多い。

一方、「暴力を受ける側に、何らかの落ち度や暴力を誘う要因があるから」では、男性が女性を大きく上回っている。

〈 性・年代別／暴力を振るう理由／上位8項目 〉



性・年代別でみると、女性の場合、29歳以下から50代では「たまったストレスのはけ口がないから」が、どの年代でも5割を超えている。また、30代・50代・60代では「男尊女卑の意識が残っており、相手を自分の所有物であるかのように思っているから」が、5割前後と他の年代より多くなっている。

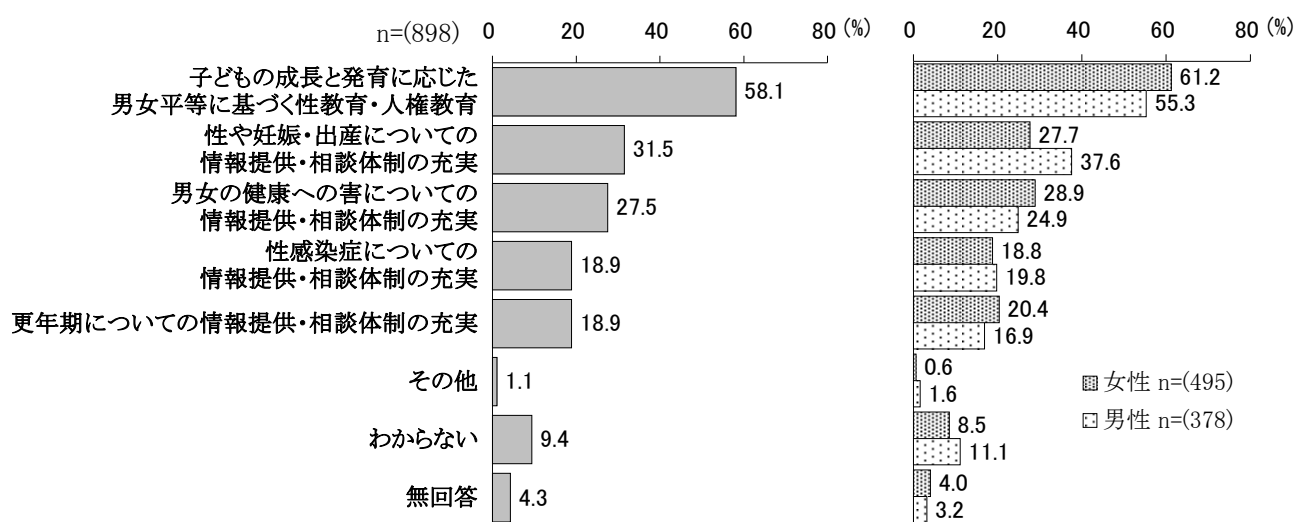
男性の場合、40代・50代では「自分の感情をコントロールできないから」が、いずれも7割を超えて、他の年代より多くなっている。

6. 性と生殖に関する健康・権利

※性と生殖に関する健康・権利とは、リプロダクティブ・ヘルス／ライツとも言い、身体的・精神的・社会的に良好な状態を保障し、性生活や妊娠・出産などでの女性の自己決定権を尊重する考え方をいいます。

(1) 女性の生涯にわたる健康を守るために必要なこと

問16 あなたは、女性の生涯にわたる健康を守るために、性や妊娠・出産に関して女性自身で決めるうえで、どのようなことが必要だと思いますか。2つまで選んで番号に○をつけてください。

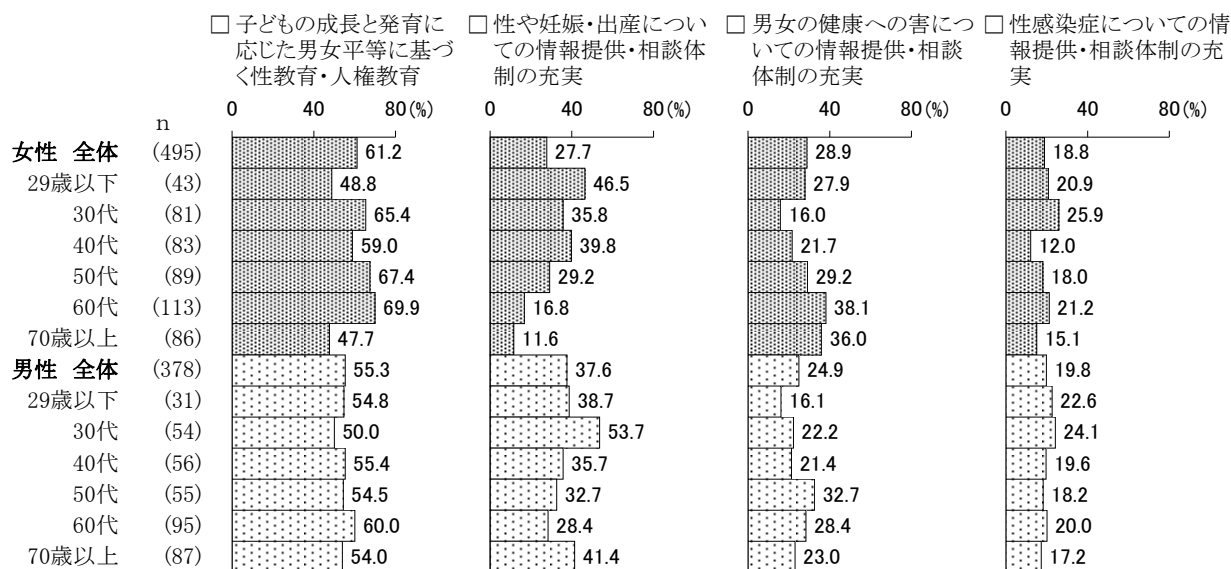


リプロダクティブ・ヘルス／ライツについて必要なこととしては、「子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育」が58.1%で最も多く、以下「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」(31.5%)、「喫煙や薬物など、男女の健康への害についての情報提供・相談体制の充実」(27.5%)の順が続いている。

性別でみると、女性では「子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育」が61.2%と、男性(55.3%)より多くなっている。

男性では、「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」が37.6%と、女性(27.7%)を上回っている。

〈 性・年代別／女性の生涯にわたる健康を守るために必要なこと／上位4項目 〉



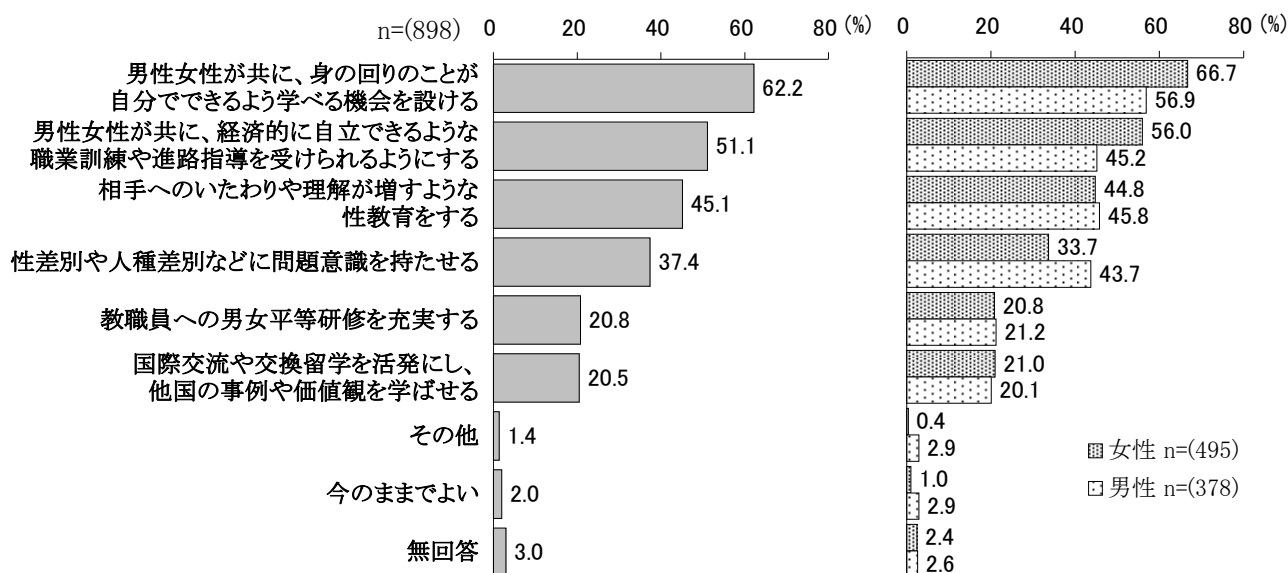
性・年代別でみると、女性の場合、30代・50代・60代では「子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育」が、いずれも6割台半ばを超えて、他の年代より多くなっている。また、「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」については、29歳以下（46.5%）、30代（35.8%）、40代（39.8%）と他の年代より多くなっている。

男性の場合、30代で「性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実」が53.7%と、極めて多くなっている。

7. 子育てや学校教育

(1) 学校教育で男女平等の意識を深めるために大切なこと

問17 学校教育の中で男女平等の意識を深めるためには、特に何が大切だと思いますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

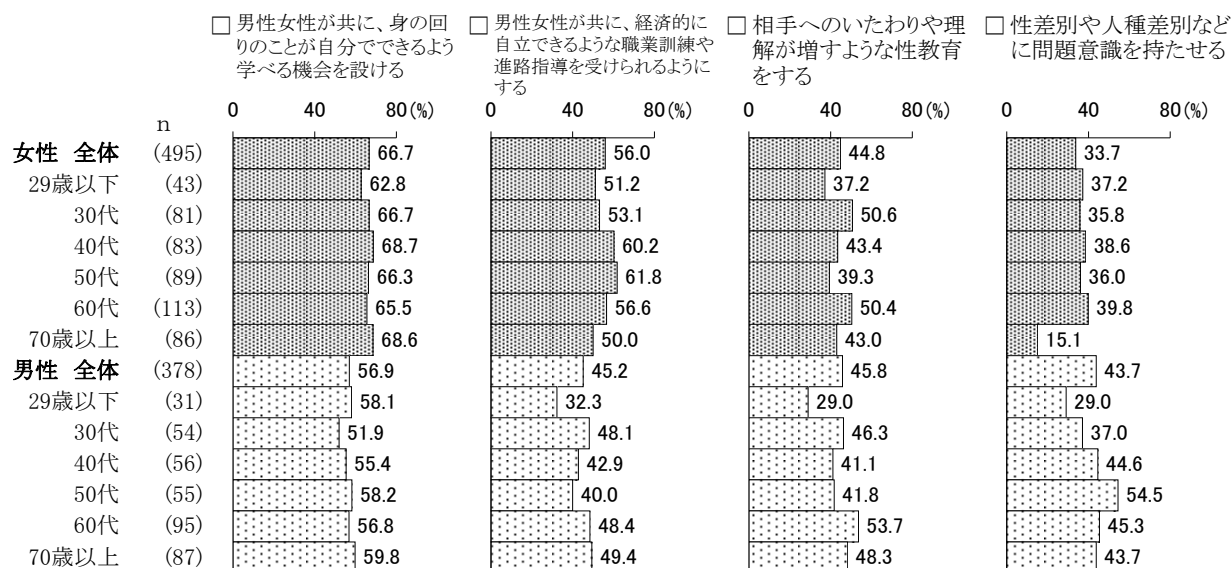


学校教育で大切なこととしては、「男性女性が共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける」が62.2%で最も多く、以下「男性女性が共に、経済的に自立できるような職業訓練や進路指導を受けられるようにする」(51.1%)、「相手へのいたわりや理解が増すような性教育をする」(45.1%)の順で続いている。

性別でみると、女性では「男性女性が共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける」が66.7%と、男性(56.9%)を上回っているほか、「男性女性が共に、経済的に自立できるような職業訓練や進路指導を受けられるようにする」も56.0%と、男性より多くなっている。

男性では、「性差別や人種差別などに問題意識を持たせる」が43.7%と、女性(33.7%)を上回っている。

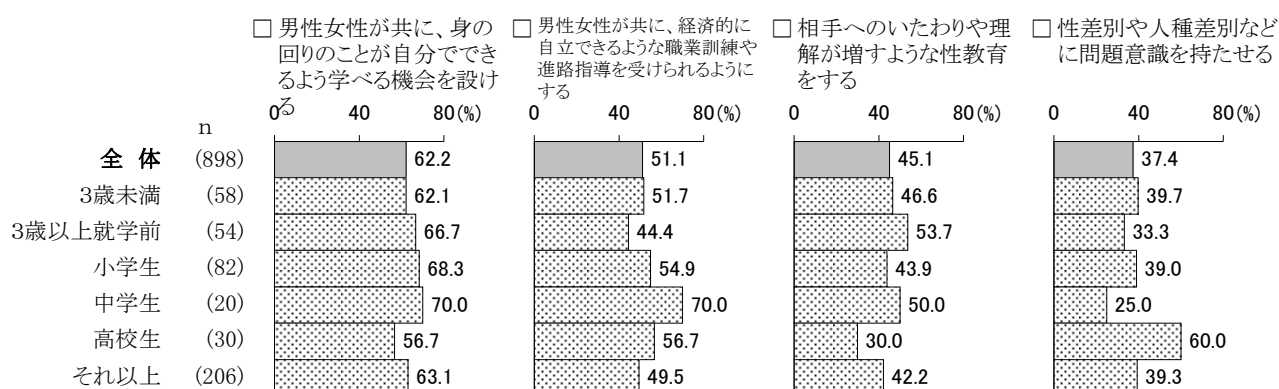
〈 性・年代別／学校教育で男女平等の意識を深めるために大切なこと／上位4項目 〉



性・年代別でみると、女性の場合、すべての年代で「男性女性が共に、身の回りのことが自分でするよう学べる機会を設ける」が6割を超えている。また、40代・50代では「男性女性が共に、経済的に自立できるような職業訓練や進路指導を受けられるようにする」が6割を超えて、他の年代より多くなっている。

男性の場合、50代で「性差別や人種差別などに問題意識を持たせる」が54.5%を占めているほか、40代・60代・70歳以上でも4割を超えている。

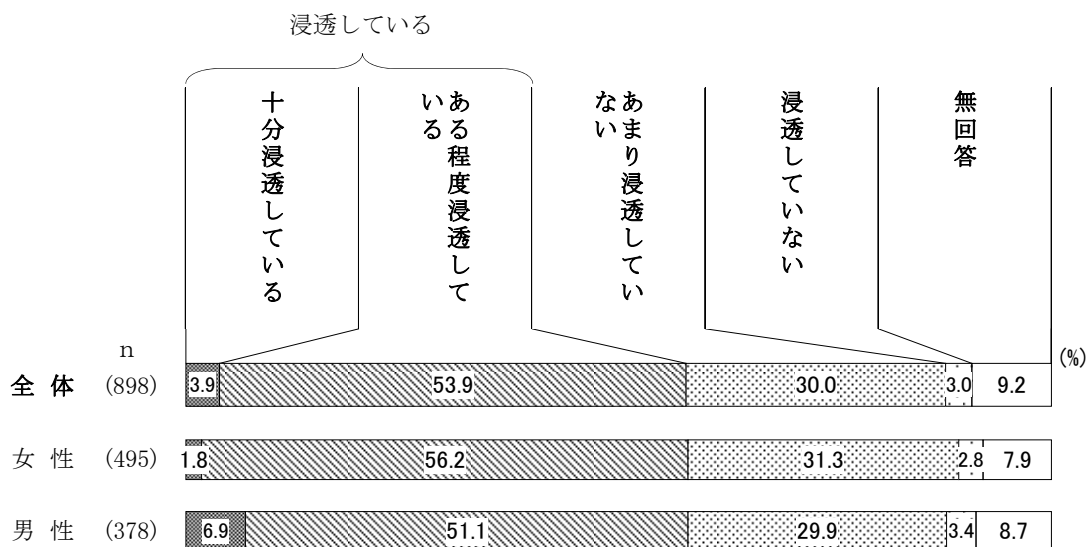
〈 末子の年齢別／学校教育で男女平等の意識を深めるために大切なこと／上位4項目 〉



末子の年齢別でみると、高校生で「性差別や人種差別などに問題意識を持たせる」が60.0%と多くなっている。

(2) 子どもたちの男女平等意識の浸透度

問18 今の子どもたちには、男女平等の意識がどの程度浸透していると思いますか。

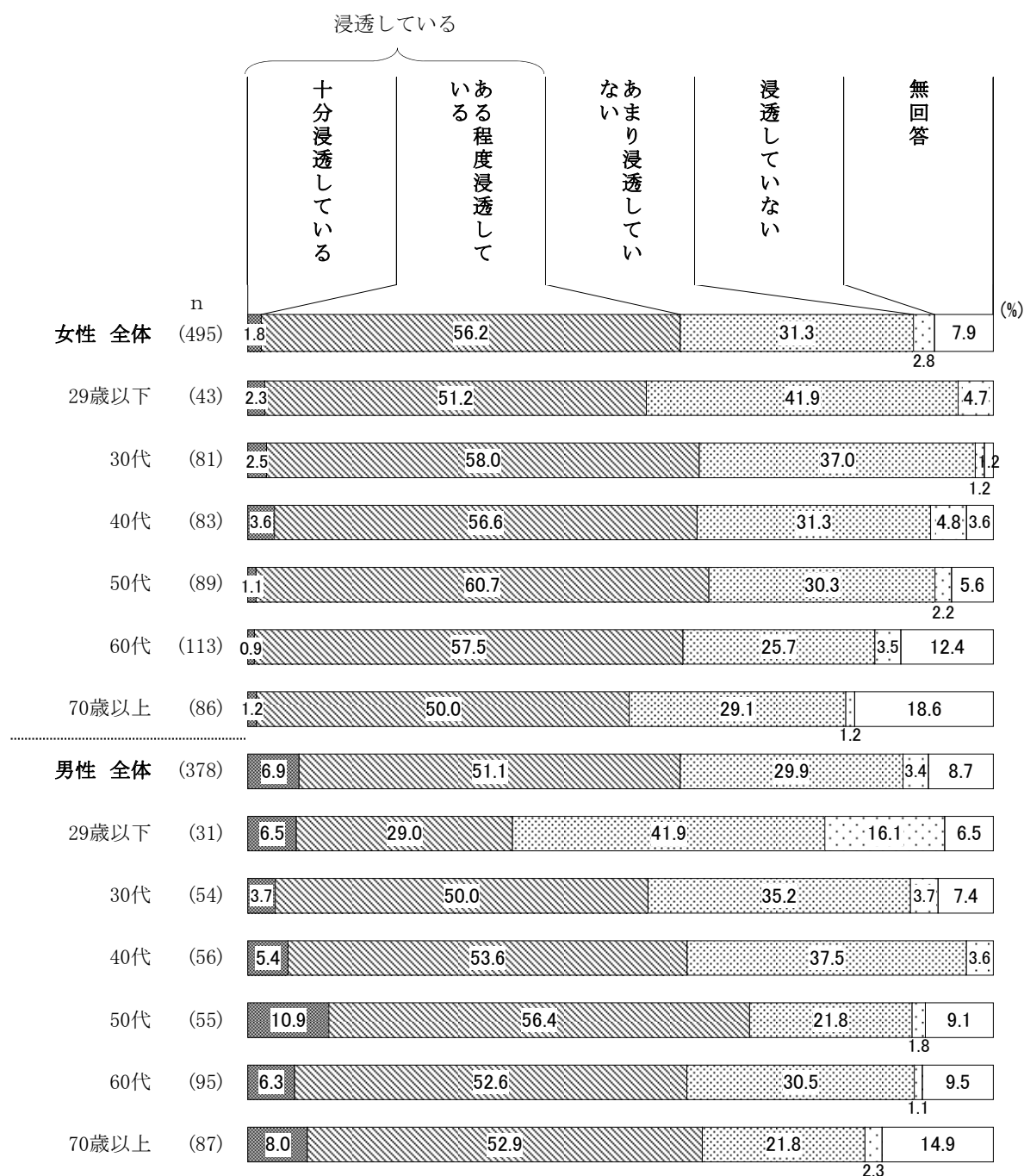


子どもたちの男女平等意識の浸透度をみると、「十分に浸透している」が3.9%で、これに「ある程度浸透している」(53.9%)を合わせた《浸透している》が57.8%となっている。

一方、「あまり浸透していない」が30.0%、「浸透していない」が3.0%となっている。

性別でみると、《浸透している》は男女とも58.0%となっている。

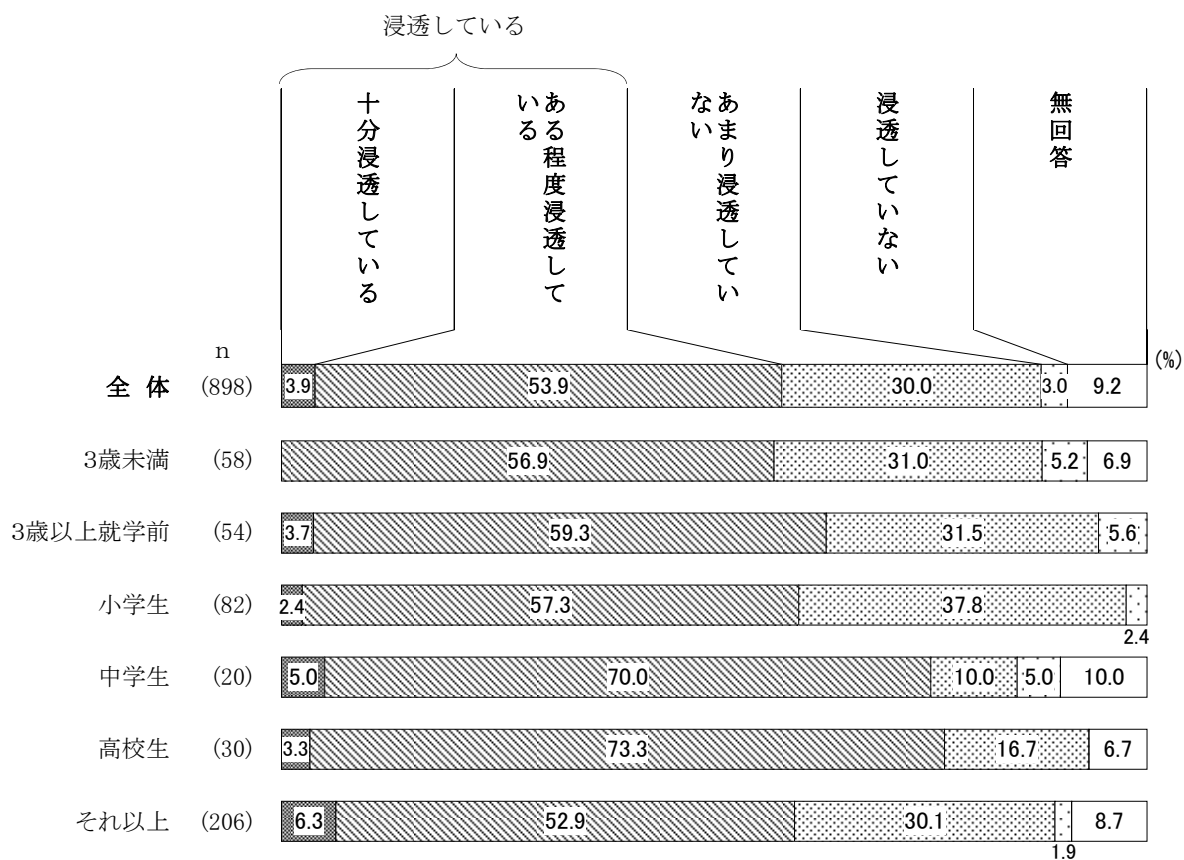
〈 性・年代別／子どもたちの男女平等意識の浸透度 〉



性・年代別でみると、女性の場合、30代から60代では《浸透している》が6割前後を占めている。

男性では、50代で《浸透している》が67.3%を占めているほか、40代・60代・70歳以上でも6割前後となっている。一方、29歳以下では、《浸透していない》が58.0%と半数以上を占め、他の年代との違いが顕著である。

〈 末子の年齢別／子どもたちの男女平等意識の浸透度 〉

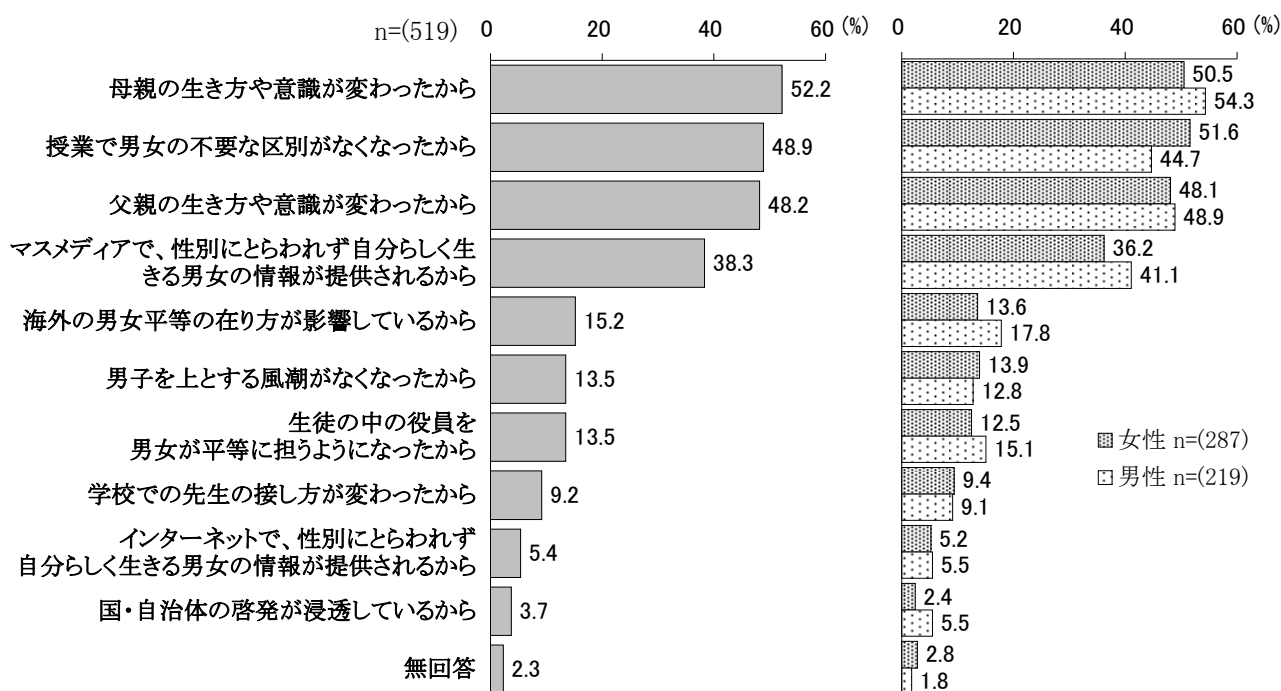


末子の年齢別でみると、高校生で《浸透している》が7割台半ばを占めている。

(3) 浸透している理由

問18で「1 十分浸透している」、または「2 ある程度浸透している」と答えた方にうかがいます。

問18-1 その理由は、下記のどれにあたりますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

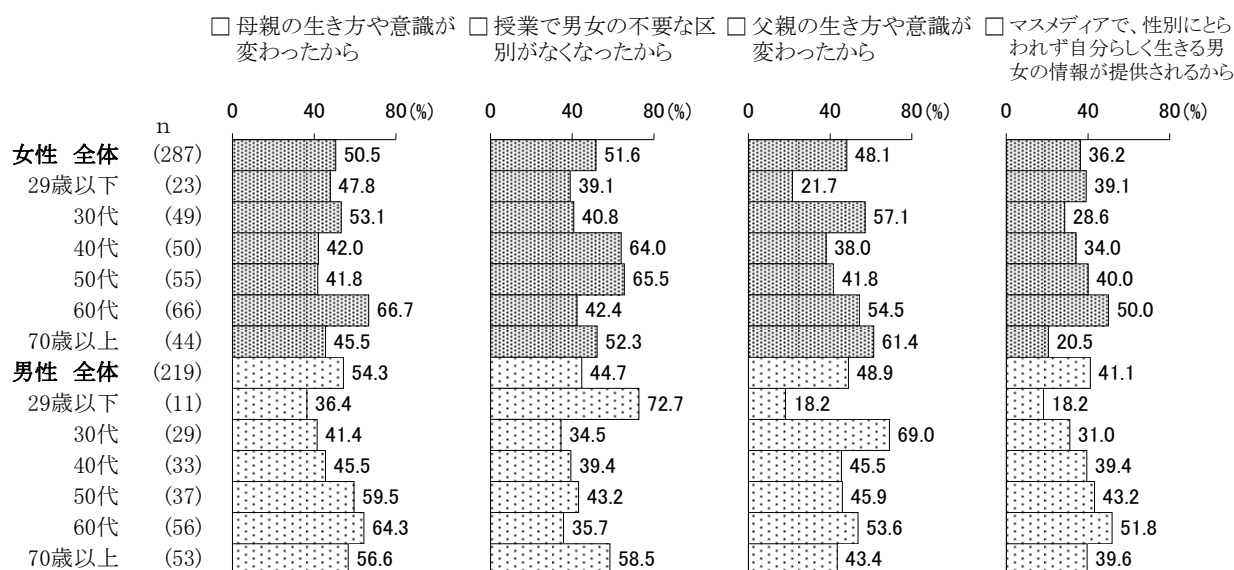


子どもたちに男女平等意識が《浸透している》と回答した人に、その理由をきくと、「母親が仕事をしたり、地域活動に参加したりするなど、母親の生き方や意識が変わったから」(52.2%)、「技術科・家庭科を男女が共に学ぶようになるなど、授業で男女の不要な区別がなくなったから」(48.9%)、「父親も家事・育児に参加するなど、父親の生き方や意識が変わったから」(48.2%)の3項目が、5割前後を占めて、特に多くなっている。

性別でみると、女性では「技術科・家庭科を男女が共に学ぶようになるなど、授業で男女の不要な区別がなくなったから」が51.6%と、男性(44.7%)を上回っている。

男性では、「母親が仕事をしたり、地域活動に参加したりするなど、母親の生き方や意識が変わったから」が54.3%と、女性(50.5%)より多くなっているほか、「テレビや新聞などのマスメディアで、性別にとらわれず自分らしく生きる男女の情報が提供されるから」も41.1%と、女性を上回っている。

〈 性・年代別／浸透している理由／上位4項目 〉



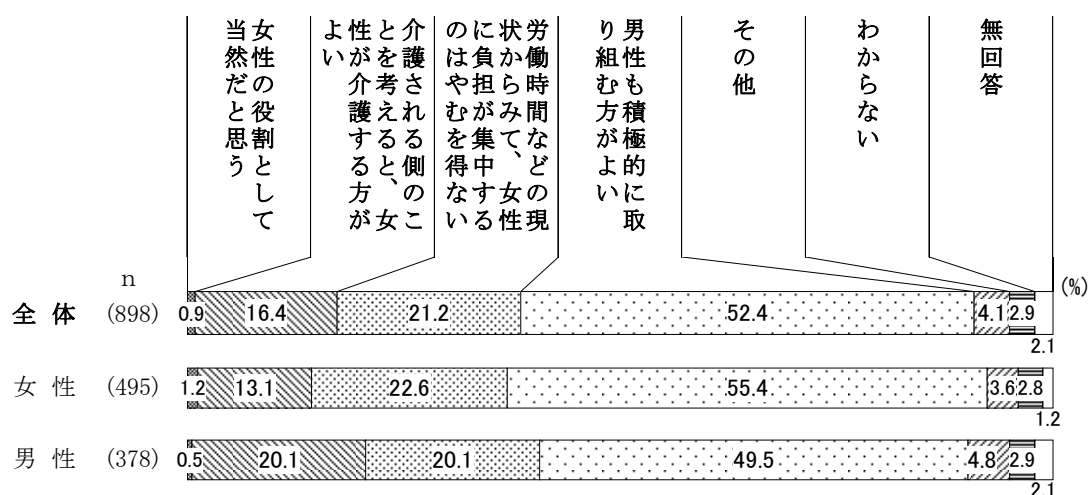
性・年代別でみると、女性の場合、40代、50代では「技術科・家庭科を男女が共に学ぶようになるなど、授業で男女の不要な区別がなくなったから」が、60代では「母親が仕事をしたり、地域活動に参加したりするなど、母親の生き方や意識が変わったから」が、70歳以上では「父親も家事・育児に参加するなど、父親の生き方や意識が変わったから」が、それぞれ6割を超えて、多くなっている。

男性の場合、30代では「父親も家事・育児に参加するなど、父親の生き方や意識が変わったから」が69.0%と、他の年代より多くなっている。また、60代では「母親が仕事をしたり、地域活動に参加したりするなど、母親の生き方や意識が変わったから」が64.3%と多くなっている。

8. 高齢期の暮らし

(1) 高齢者や病人などの介護者

問19 高齢者や病人の介護は、主として女性（妻、娘、息子の配偶者）の役割になりがちです。このことについてあなたはどのように思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

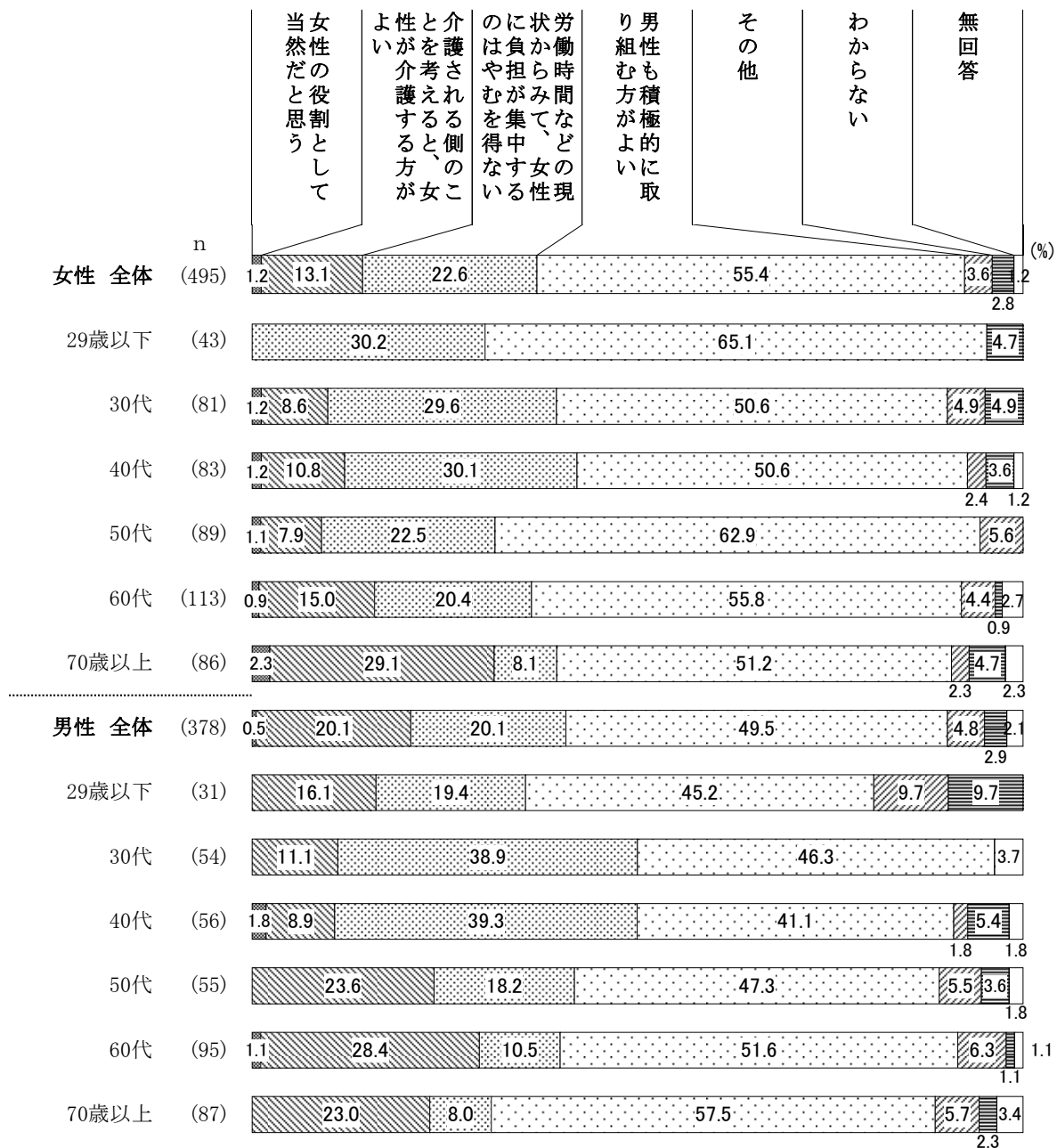


家庭での介護が主として女性の役割になりがちな現状については、「男性も積極的に取り組む方がよい」が52.4%で最も多く、以下「労働時間などの現状からみて、女性に負担が集中するのはやむを得ない」(21.2%)、「介護される側のことを考えると、女性が介護する方がよい」(16.4%)の順で続いている。

性別でみると、女性では「男性も積極的に取り組む方がよい」が55.4%と、男性(49.5%)を上回っている。

一方、男性では「介護される側のことを考えると、女性が介護する方がよい」が20.1%と、女性(13.1%)より多くなっている。

〈 性・年代別／高齢者や病人などの介護者 〉



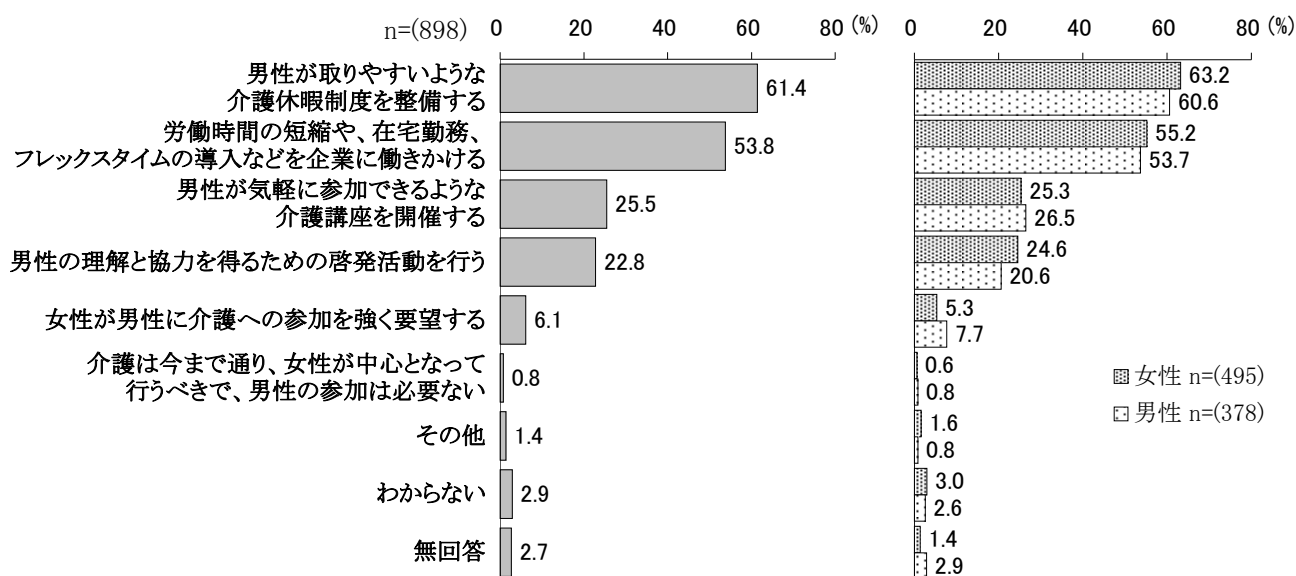
性・年代別でみると、女性の場合、29歳以下、50代では「男性も積極的に取り組むのがよい」が、いずれも6割を超えて、他の年代より多くなっている。

男性では、60代・70歳以上で「男性も積極的に取り組むのがよい」が5割を超えている。また、50代から70歳以上では「介護される側のことを考えると、女性が介護する方がよい」が、いずれの年代でも2割を超えている。

男性の30代、40代では、女性の負担を肯定する、あるいはやむを得ないとする回答が合わせて約5割となっている。

(2) 男性の介護への参加促進に必要なこと

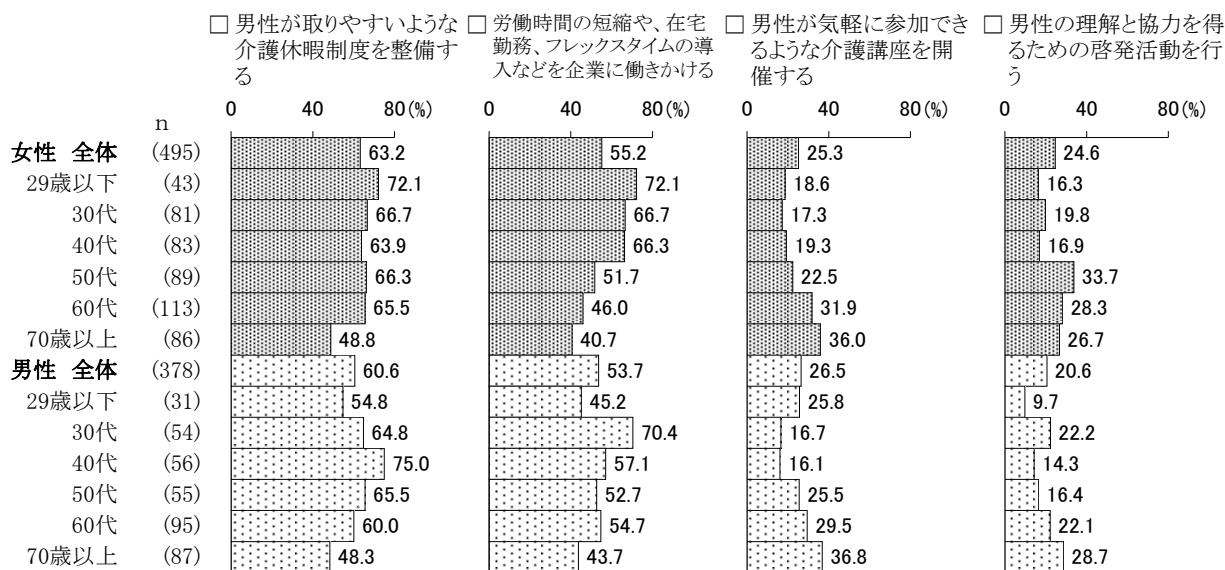
問20 これからは公的サービスの整備とともに、男性、女性共に介護を担うことが求められます。男性の介護への参加を進めるためには、特にどのようなことが必要だと思われますか。2つまで選んで番号に○をつけてください。



男性の介護への参加を進めるのに必要なこととしては、「男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する」が61.4%で最も多く、次いで「労働時間の短縮や、在宅勤務、フレックスタイムの導入などを企業に働きかける」が53.8%となっている。

性別でみると、上位3項目は男女とも一致しているが、女性では「男性の理解と協力を得るための啓発活動を行う」が24.6%と、男性（20.6%）を上回っている。

〈 性・年代別／男性の介護への参加促進に必要なこと／上位4項目 〉



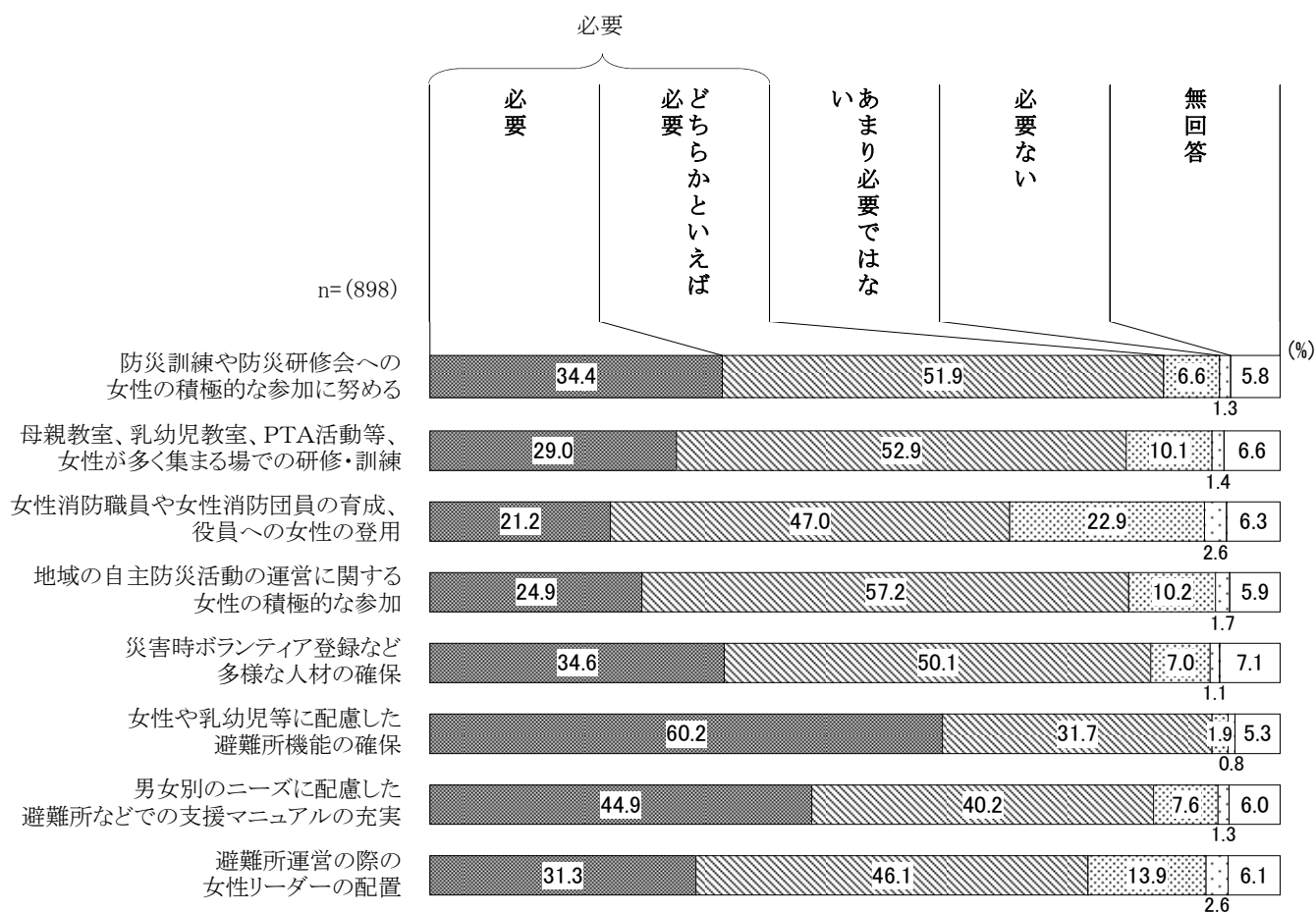
性・年代別でみると、女性の場合、29歳以下で「男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する」が72.1%を占めているほか、30代から60代のいずれの年代でも6割を超えている。また、29歳以下から40代では「労働時間の短縮や、在宅勤務、フレックスタイムの導入などを企業に働きかける」が、6割台半ばを超えて、他の年代より多くなっている。

男性の場合、40代で「男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する」が75.0%を占めているほか、30代、50代、60代のいずれの年代でも6割を超えている。

9. 防災・避難

(1) 防災活動に関しての男女共同参画推進に必要なこと

問21 東日本大震災の教訓として、防災・避難について女性の視点が欠けていたため、避難者が不便を強いられたことが指摘されています。防災（災害復興も含む）活動に関して男女共同参画を推進していくためには、特にどのようなことが必要と考えますか。A～Hの項目について、それぞれ1つずつ選んで番号に○をつけてください。

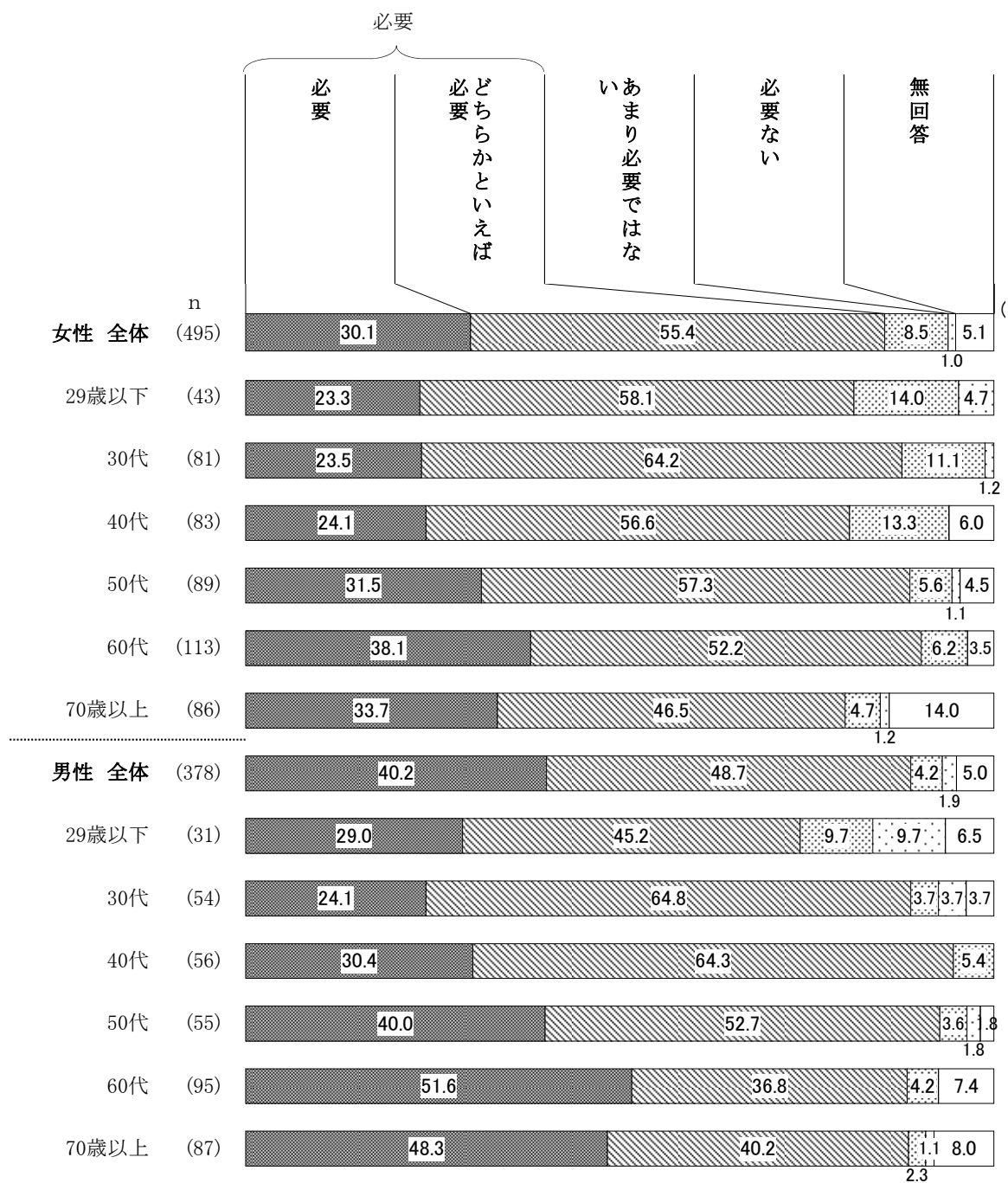


防災面での男女共同参画の推進について必要なことを、《必要》（「必要」＋「どちらかといえば必要」）の多い順でみると、「女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保」が91.9%で最も多く、以下「男女別のニーズに配慮した避難所などでの支援マニュアルの充実」（85.1%）、「防災訓練や防災研修会への女性の積極的な参加に努める」（86.3%）、「災害時ボランティア登録などの多様な人材の確保」（84.7%）の順で続いている。

性別でみると、各項目にわたって、男女の認識はほぼ一致している。

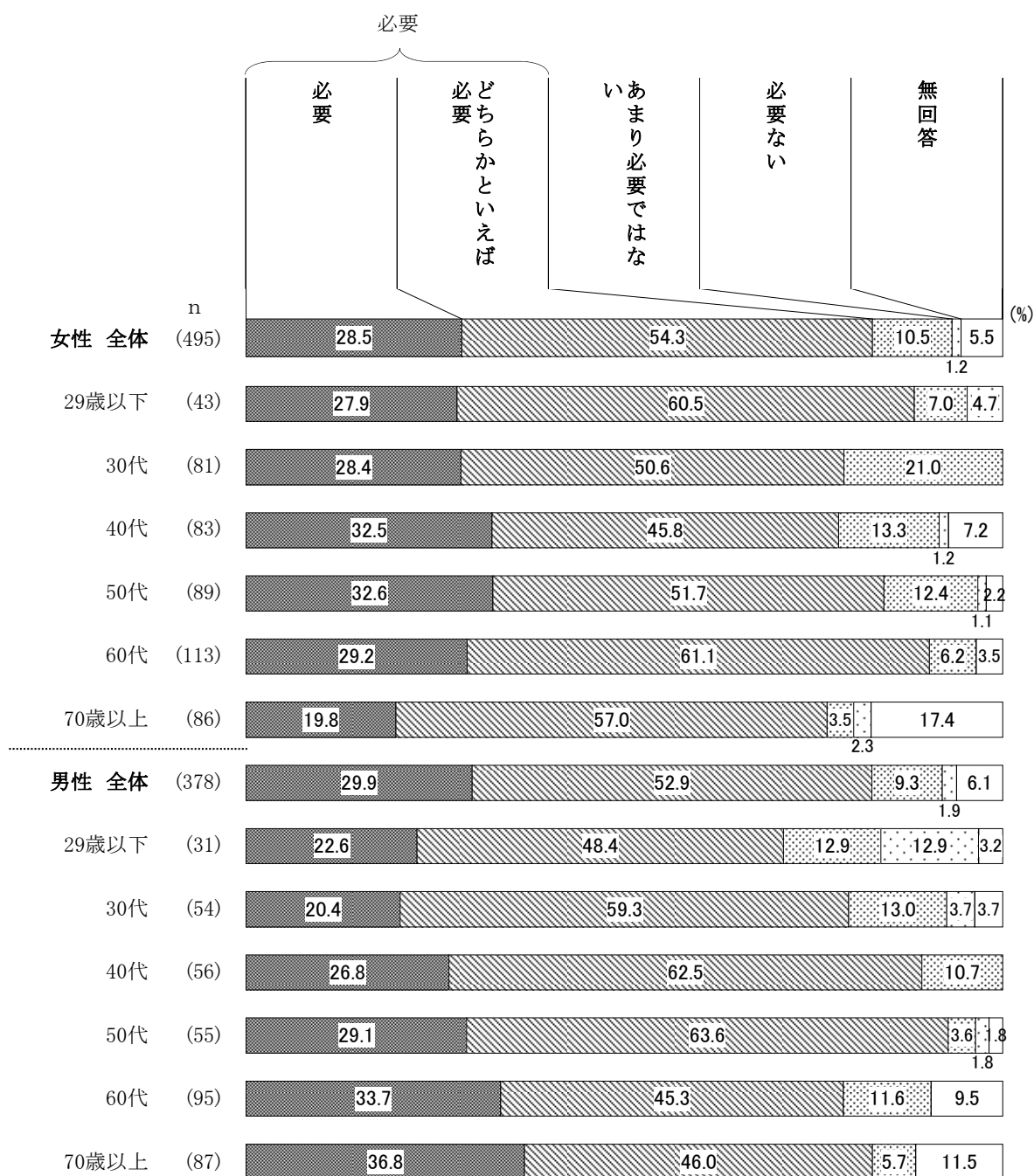
〈 性別、性・年代別／防災活動に関しての男女共同参画推進に必要なこと

／防災訓練や防災研修会への女性の積極的な参加に努める 〉



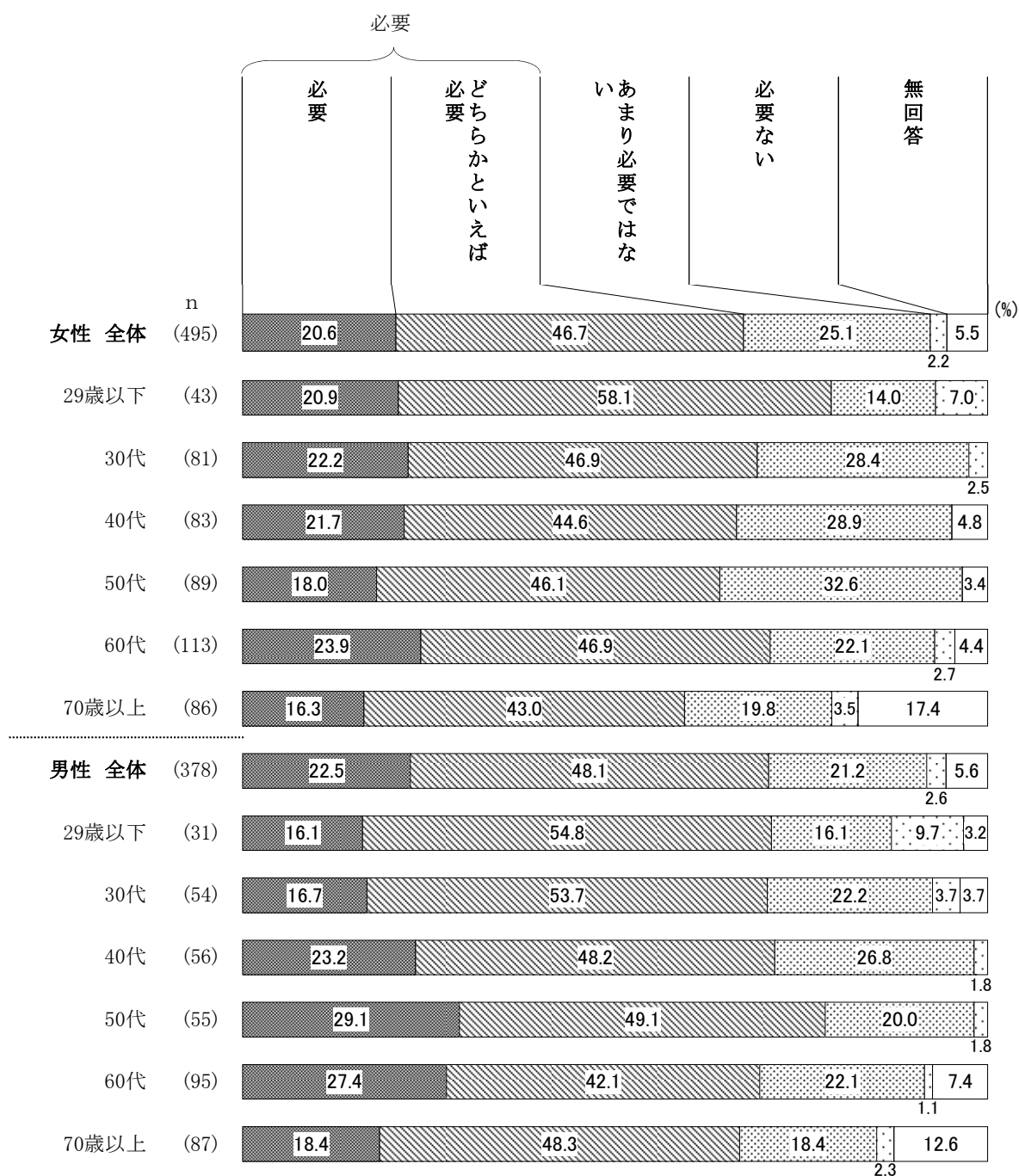
〈 性別、性・年代別／防災活動に関する男女共同参画推進に必要なこと

／母親教室、乳幼児教室、PTA活動等、女性が多く集まる場での研修・訓練 〉



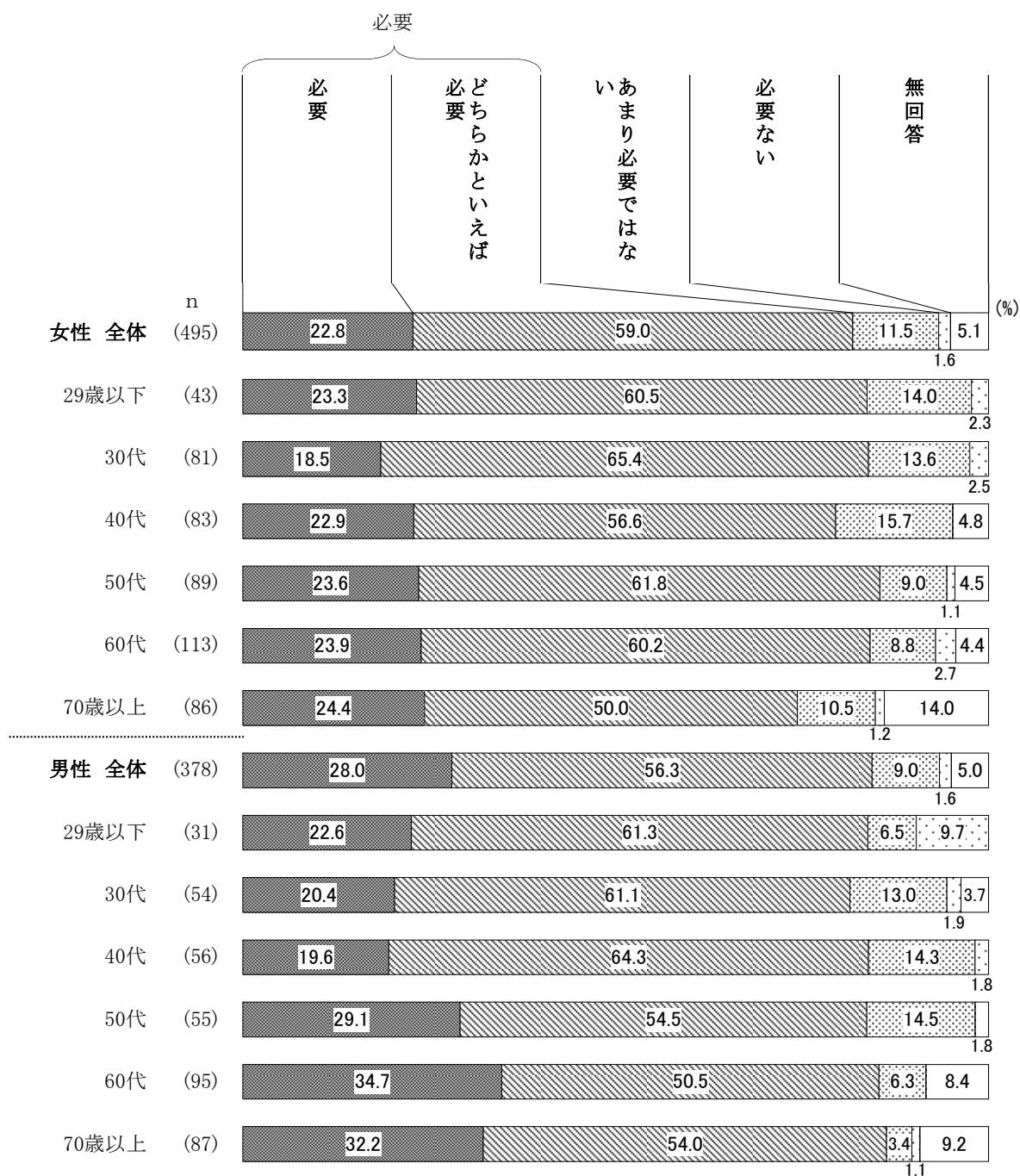
〈 性別、性・年代別／防災活動に関する男女共同参画推進に必要なこと

／女性消防職員や女性消防団員の育成、役員への女性の登用 〉

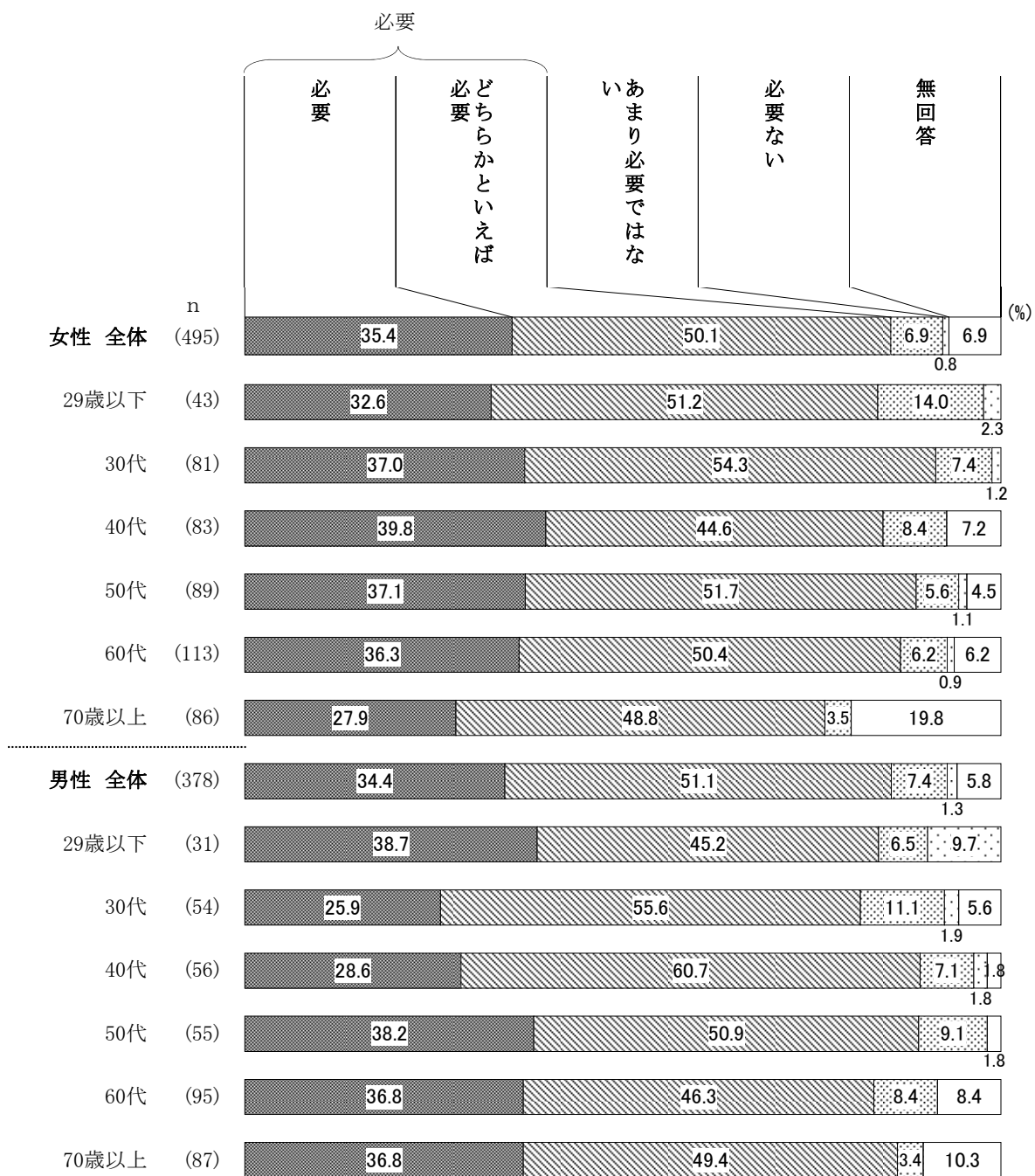


〈 性別、性・年代別／防災活動に関する男女共同参画推進に必要なこと

／地域の自主防災活動の運営に関する女性の積極的な参加 〉

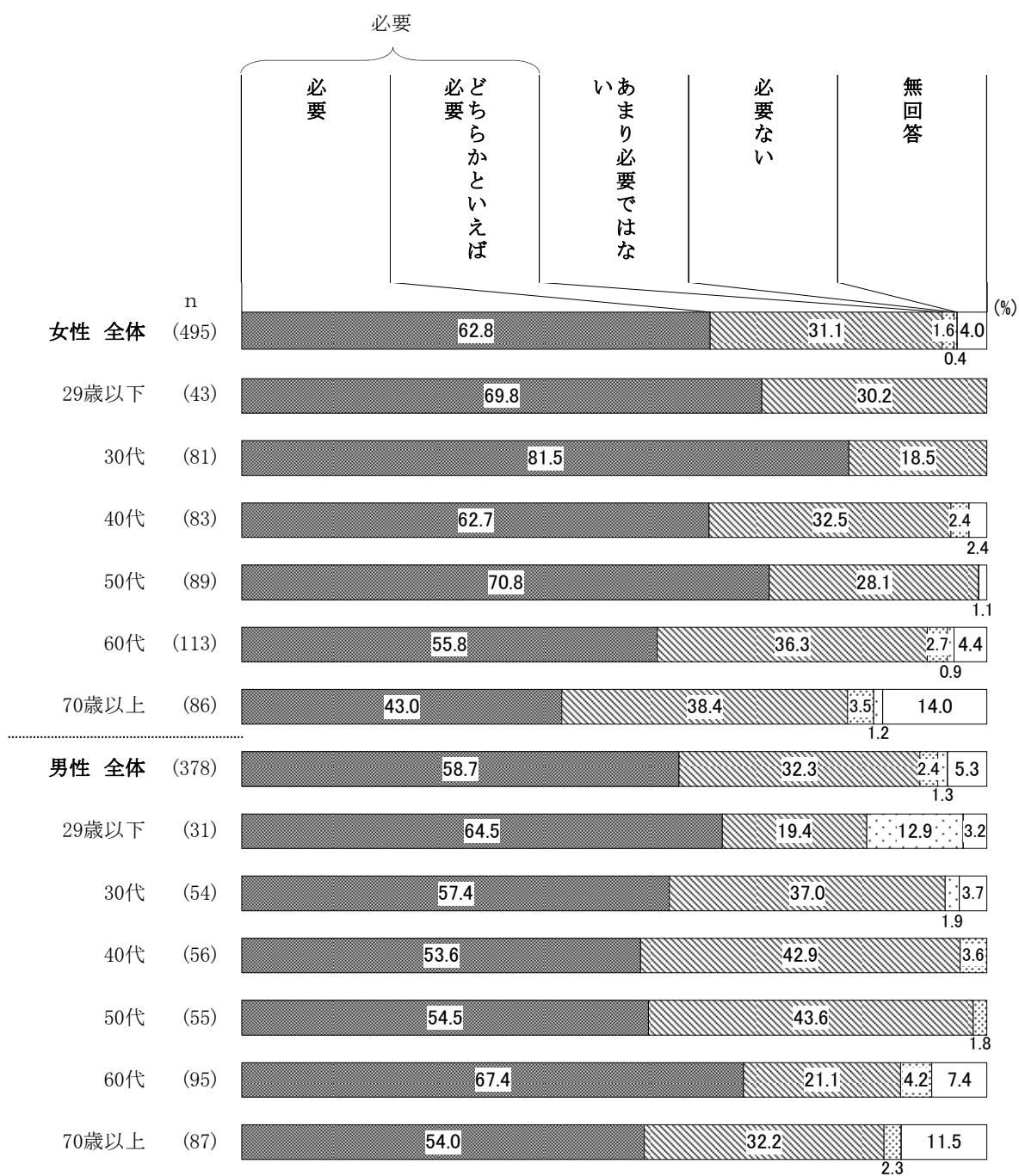


〈 性別、性・年代別／防災活動に関しての男女共同参画推進に必要なこと
／災害時ボランティア登録など多様な人材の確保 〉



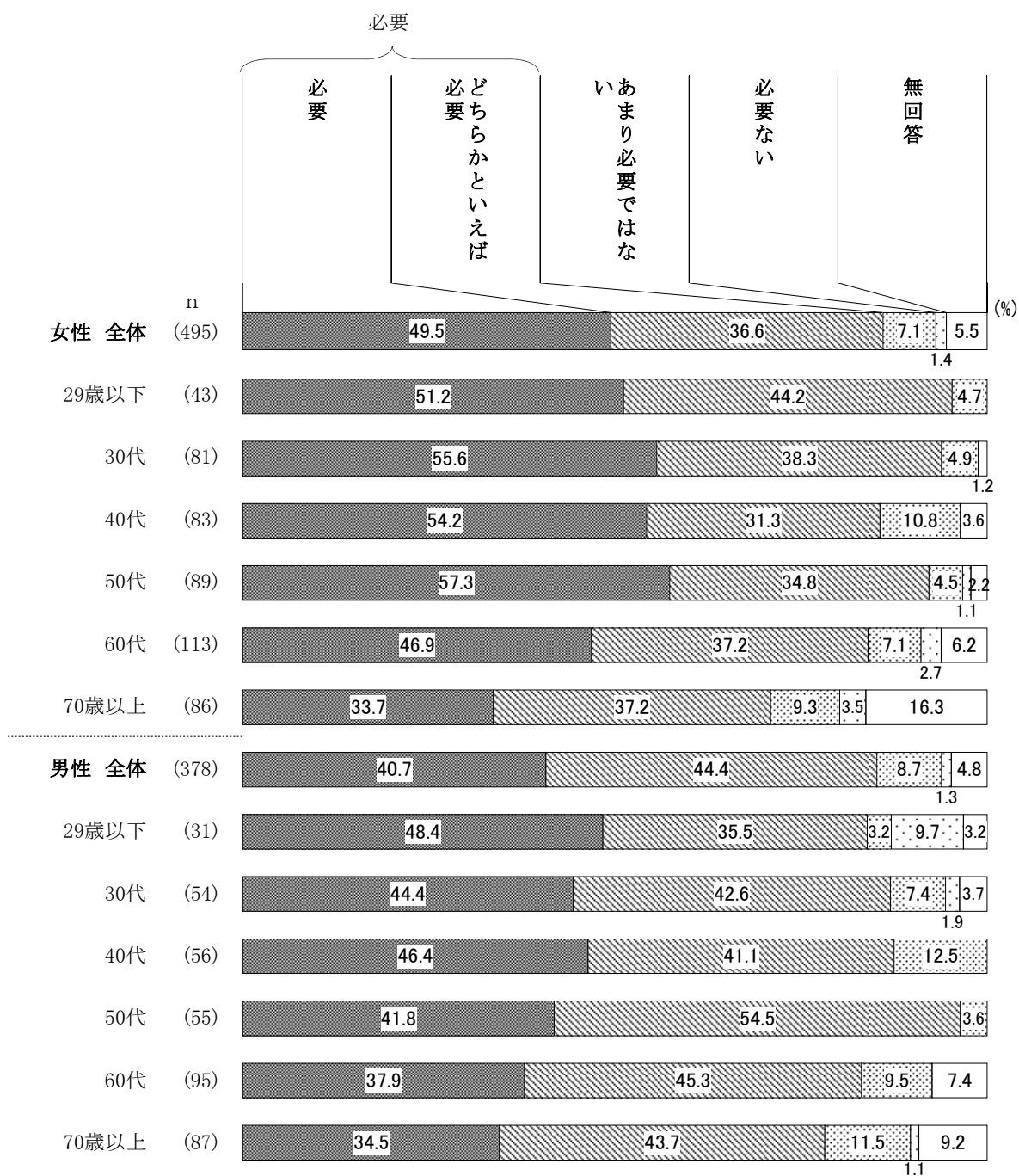
〈 性別、性・年代別／防災活動に関しての男女共同参画推進に必要なこと

／女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保 〉



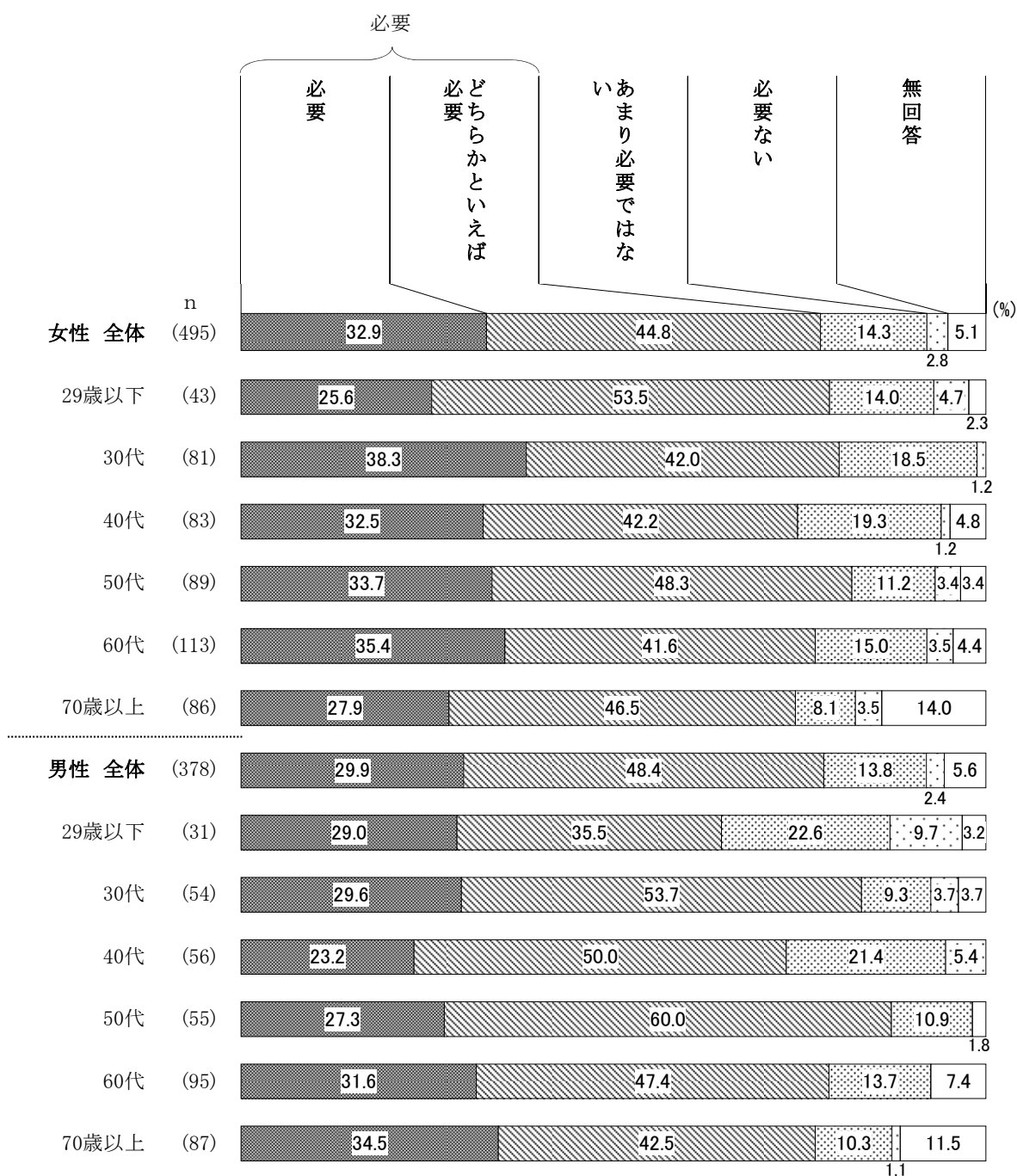
〈 性別、性・年代別／防災活動に関する男女共同参画推進に必要なこと

／男女別のニーズに配慮した避難所などでの支援マニュアルの充実 〉



〈 性別、性・年代別／防災活動に関しての男女共同参画推進に必要なこと

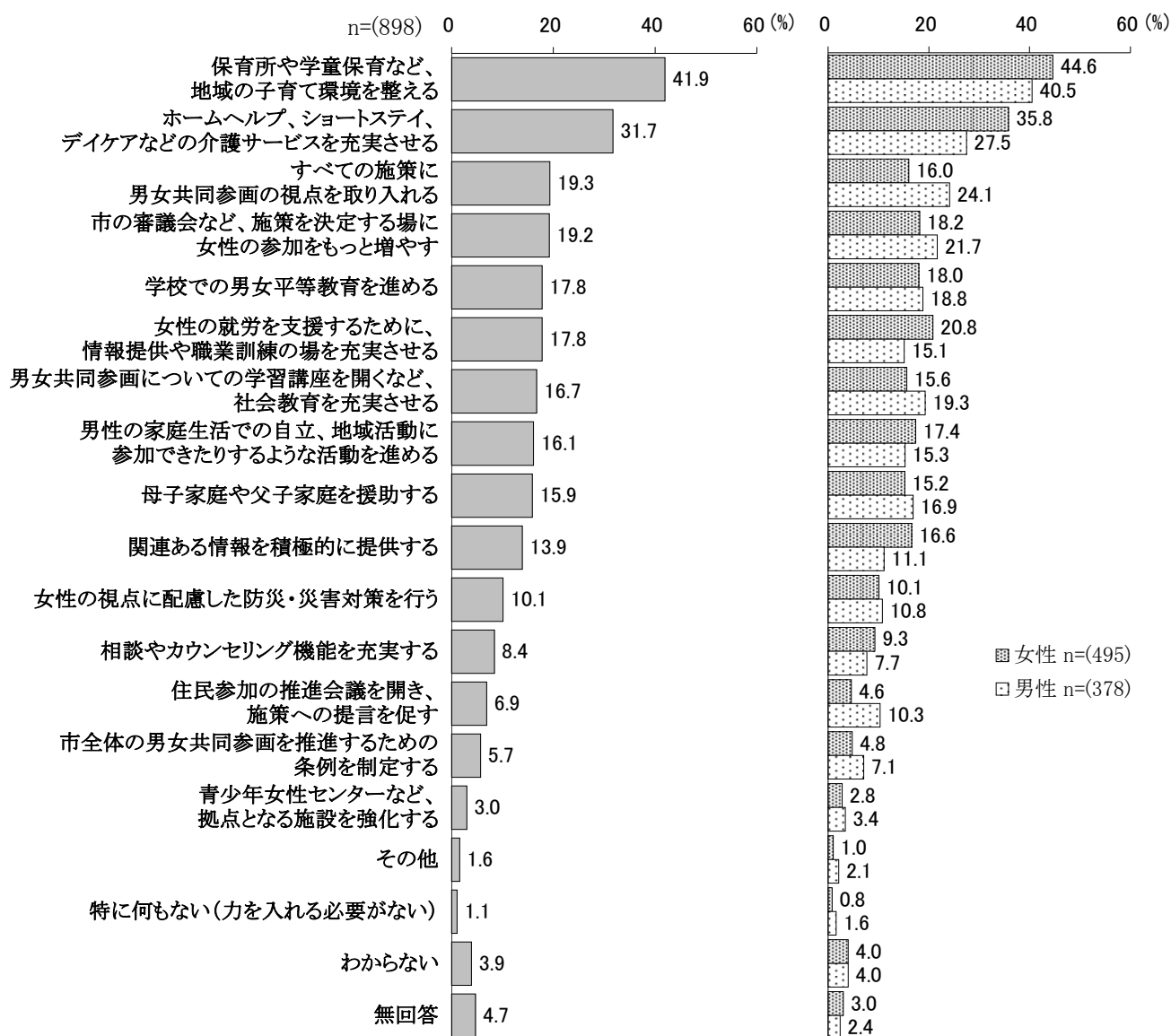
／避難所運営の際の女性リーダーの配置 〉



10. 白井市への要望

(1) 男女共同参画推進のため、市が特に力を入れて取り組むべきこと

問22 男女の共同参画を進めるため、これから市が特に力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。



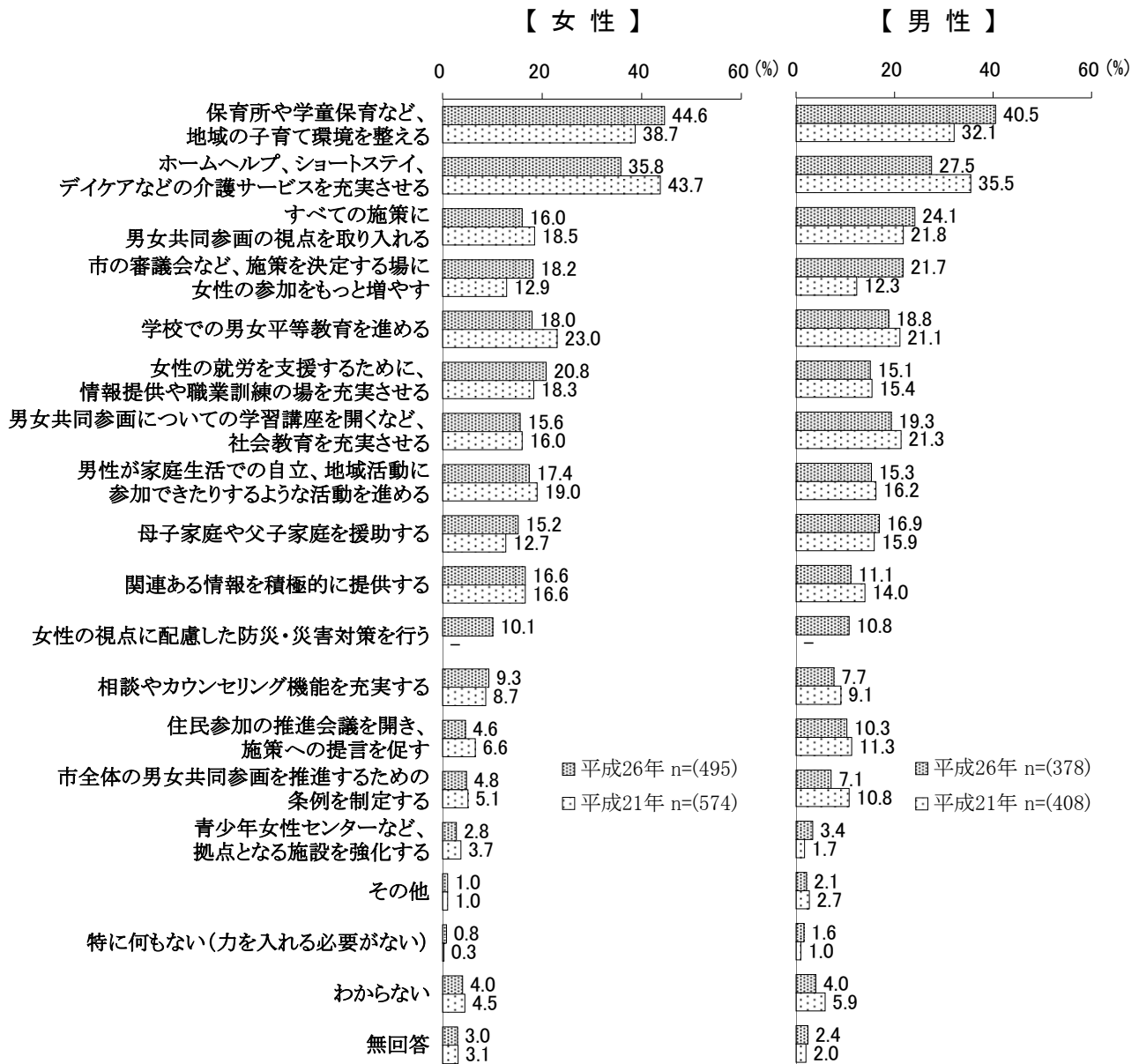
男女共同参画社会を実現するために行政に要望することとしては、「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が41.9%で最も多く、以下「ホームヘルプ、ショートステイ、デイケアなどの介護サービスを充実させる」(31.7%)、「すべての施策に男女共同参画の視点を取り入れる」(19.3%)、「市の審議会など、施策を決定する場に女性の参加をもっと増やす」(19.2%)の順で続いている。

第2章 一般市民調査の調査結果・分析

性別でみると、女性では「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が44.6%と、男性（40.5%）より多くなっているほか、「ホームヘルプ、ショートステイ、デイケアなどの介護サービスを充実させる」も35.8%と男性（27.5%）を上回っている。

一方、男性では「すべての施策に男女共同参画の視点を取り入れる」が24.1%と、女性（16.0%）を上回っている。

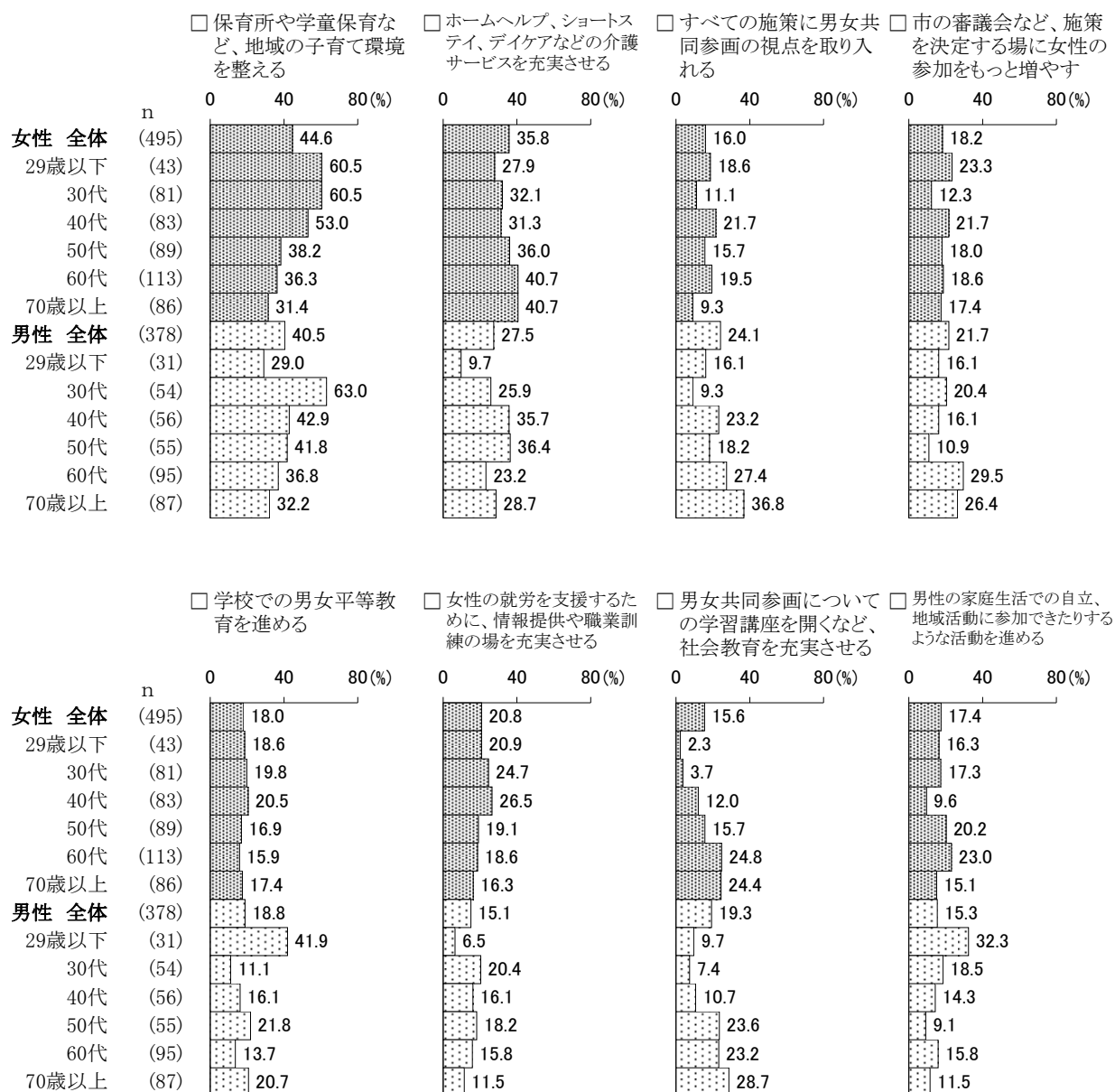
〈 経年比較／男女共同参画推進のため、市が特に力を入れて取り組むべきこと 〉



平成21年調査結果と比べると、女性の場合、「ホームヘルプ、ショートステイ、デイケアなどの介護サービスを充実させる」が、平成21年調査の43.7%から今回35.8%へと低下している。一方、「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」は、平成21年調査の38.7%から今回44.6%へと増加している。

男性の場合も、「ホームヘルプ、ショートステイ、デイケアなどの介護サービスを充実させる」が、平成21年調査の35.5%から今回27.5%へと低下している。一方、「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」は、平成21年調査の32.1%から今回40.5%へと増加している。

〈性・年代別／男女共同参画推進のため、市が特に力を入れて取り組むべきこと／上位8項目〉

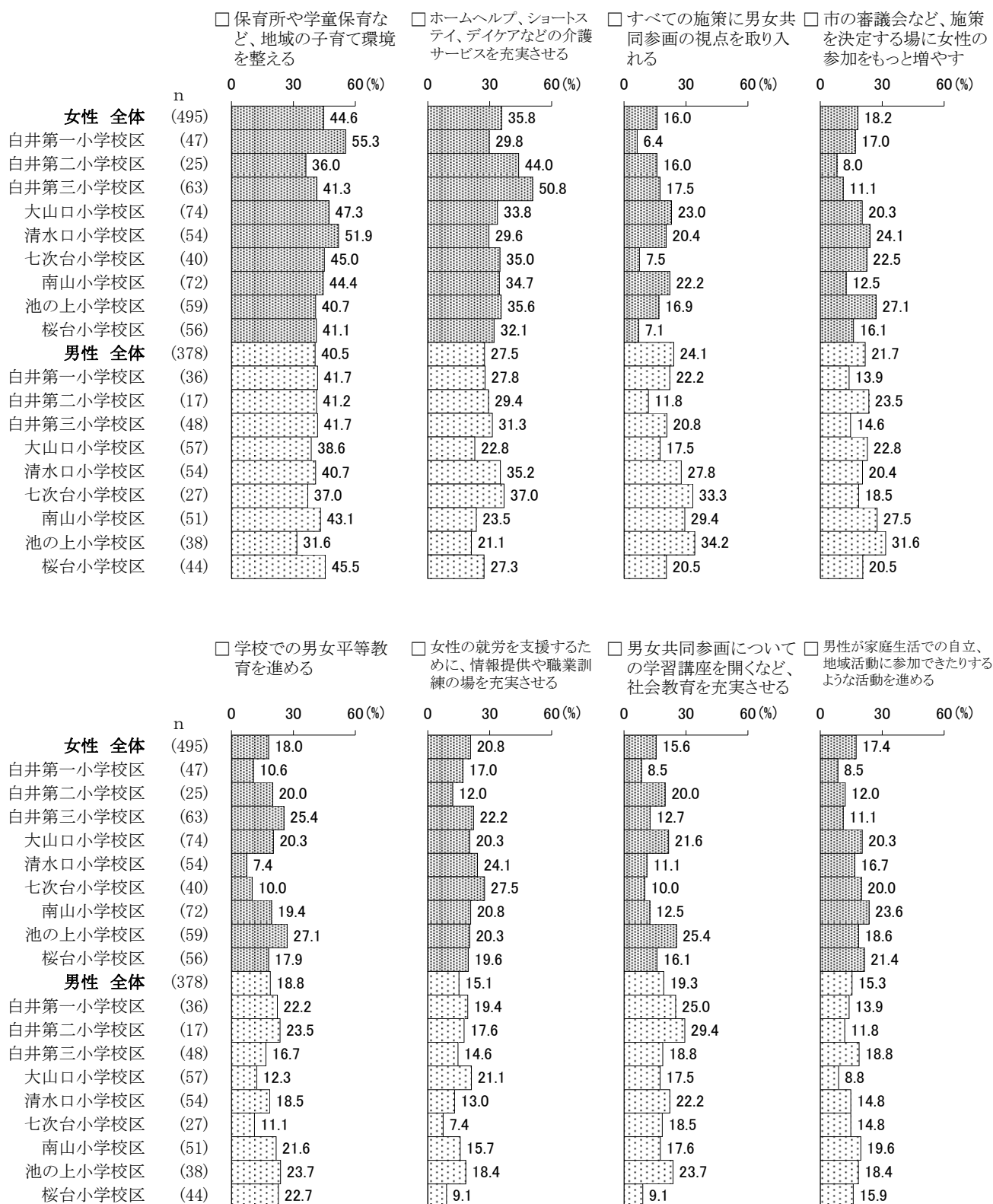


性・年代別でみると、女性の場合、29歳以下・30代では「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が6割を超えているほか、40代でも53.0%を占めている。60代、70歳以上では「ホームヘルプ、ショートステイ、デイケアなどの介護サービスを充実させる」が、いずれの年代でも4割を超えて、他の年代より多くなっている。

また、30代・40代では「女性の就労を支援するために、情報提供や職業訓練の場を充実させる」が2割台半ば前後と、他の年代よりやや多くなっている。

男性の場合、30代では「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が63.0%と、男女各年代を通じて最も多くなっている。また、60代・70歳以上では「すべての施策に男女共同参画の視点を取り入れる」と「市の審議会など、施策を決定する場に女性の参加をもっと増やす」が、2割台半ば以上を占めて、他の年代より多くなっている。

〈 性・居住地区別／男女共同参画推進のため、市が特に力を入れて取り組むべきこと／上位8項目 〉



地区別でみると、女性の場合、「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」は白井第一小学校区で55.3%と、他の地区より高くなっている。また、「ホームヘルプ、ショートステイ、デイケアなどの介護サービスを充実させる」については白井第三小学校区で50.8%と、他の地区より高くなっている。

11. 自由回答

最後に、男女平等に関してのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

〈 女 性 〉

意見・要望（自由記入）については、女性73人より回答が寄せられた。1人で2つ以上の内容の記入があった場合は、これを1件とせず延べ件数として集計したもので、合計件数は回答者数より多くなっている。

合計 111 件

1. 男女平等について	67
男女の違いや役割の認識と、お互いの尊重が大切	12
家庭や学校で子どもの頃からの教育が必要である	8
平等でないのは仕方ない、難しい、何でも平等が良いと思わない、男女は全て平等ではない	7
職場環境の改善・女性の労働機会の増加など	5
男性の育児・家事・介護への参加機会を増やす	5
企業側の理解や教育が必要	4
女性への軽視や差別や偏見がある	4
男女間の賃金格差など考えた方がよい	3
家族間の協力が必要であること	3
女性に目が向けられ、優遇されている事への懸念	2
女性が職場復帰できる施策や環境	2
性差別・DV等に関する懸念	2
女性側の意識改革も必要である	2
男性の方が偉い、でよい	1
女性が男性と同様に働くのは体力的に無理	1
女性の過度な社会進出が少子化の要因のひとつ	1
役員や管理職への女性登用に関する懸念	1
以前より男性が協力的になった	1
子ども達の女性教師に対する態度について	1
法律や社会制度が大事だが追い付いていないし、改革も必要	1
男女平等や共同参画と言葉にすること自体が、まだ平等ではないということ	1
2. 行政への意見・要望	24
介護・子育て・待機児童への支援について	4
各相談窓口の設置や広報での周知	4
リタイヤ世代の人材活用	3
よい取り組みをしている、よい市・町である	3

男女平等推進行動計画を知らない、周知方法を考慮すべき	2
講習会や研修の開催時間の再考	2
防犯・防災・災害時の対応策を講じる	2
取り組みが遅い	1
雇用場所・雇用機会の促進	1
医療・福祉等の充実	1
市の教室やクラブなどもっと開催して欲しい	1

3. アンケートについて	11
年齢や対象者を考えて行うべき	3
用語の意味が分かって良い（用語ページを貰った）	2
設問が多い	1
設問内容をもっと検討すべき	1
アンケート内容を公表すべき	1
アンケート内容が多すぎて頭に入っていない	1
アンケート内容が良かった	1
なぜこんなアンケートをするのかピンとこない	1

4. その他	9
---------------	----------

〈 男 性 〉

男性53人より回答が寄せられた。

合計 80 件

1. 男女平等について	51
男女の違いや役割の認識と、お互いの尊重が大切	10
積極的な女性の登用・参画への参加推進	5
家庭や学校で子どもの頃からの教育が必要である	4
平等でないのは仕方ない、難しい、何でも平等が良いと思わない、男女は全て平等ではない	3
女性が職場復帰できる施策や環境	3
家族間の協力が必要であること	3
現在は男女平等である	2
行き過ぎた平等意識の弊害がある、あった	2
女性に目が向けられ、優遇されている事への懸念	2
女性への軽視や差別や偏見がある	2
役員や管理職への女性登用についての懸念	2

法律や社会制度が大事だが追い付いていないし、改革も必要	2
男女平等や共同参画と言葉にすること自体が、まだ平等ではないということ	2
女性専用や女子会などあり、女性が優位だ	1
男性の長時間労働をなくす（サラリーマンの意識改革）	1
職場環境の改善・女性の労働機会の増加など	1
女性の過度な社会進出が少子化の要因のひとつ	1
男女間の賃金格差など考えた方がよい	1
性差別・DV等に関しての懸念	1
権利と義務があることを知るべき	1
女性側の意識改革も必要である	1
男性の育児・家事・介護への参加機会を増やす	1

2. 行政への意見・要望	15
介護・子育て・待機児童への支援について	5
市の人事等について意見がある	3
講習会・研修会など変化がなく面白くない	1
取り組みが遅い	1
医療・福祉等の充実	1
政府の理念とリンクし、地方自治体として障害の排除に取り組んでほしい	1
若い男女が行事や活動に参加できる地域社会づくり	1
活動実績が見えない高齢議員の定年制を希望	1
防犯・防災・災害時の対応策を講じる	1

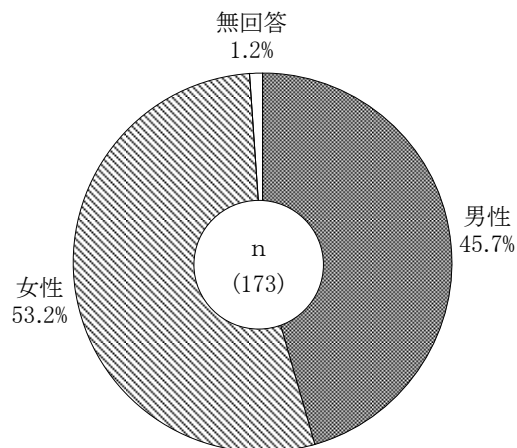
3. アンケートについて	6
年齢や対象者を考えて行うべき	2
用語の意味が分かって良い（用語ページを貰った）	2
アンケート内容を公表すべき	1
該当する答えが少ないので直接記入型が良いのではないかと	1

4. その他	8
---------------	----------

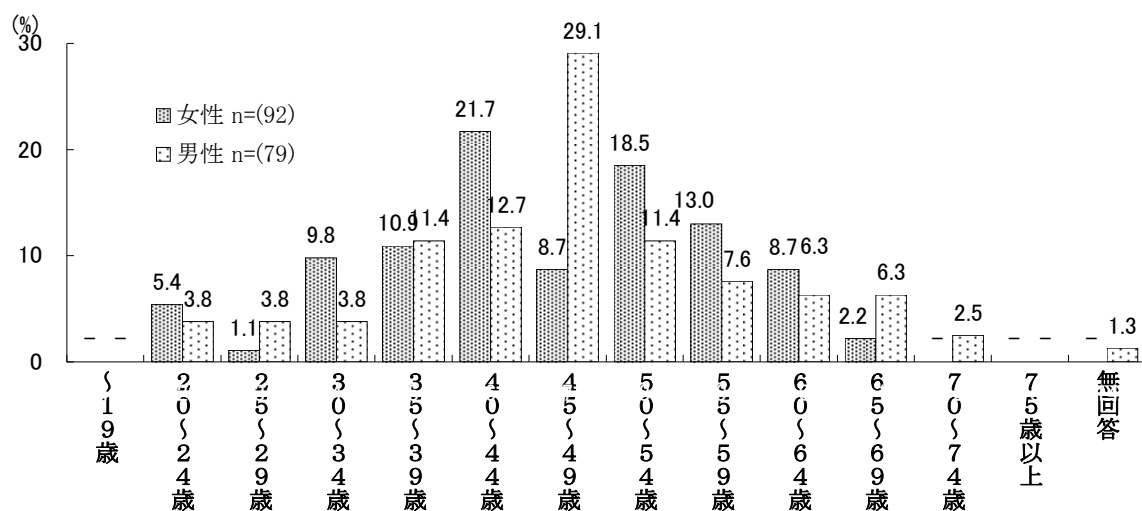
第 3 章 市内企業調査の調査結果・分析

回答者の属性

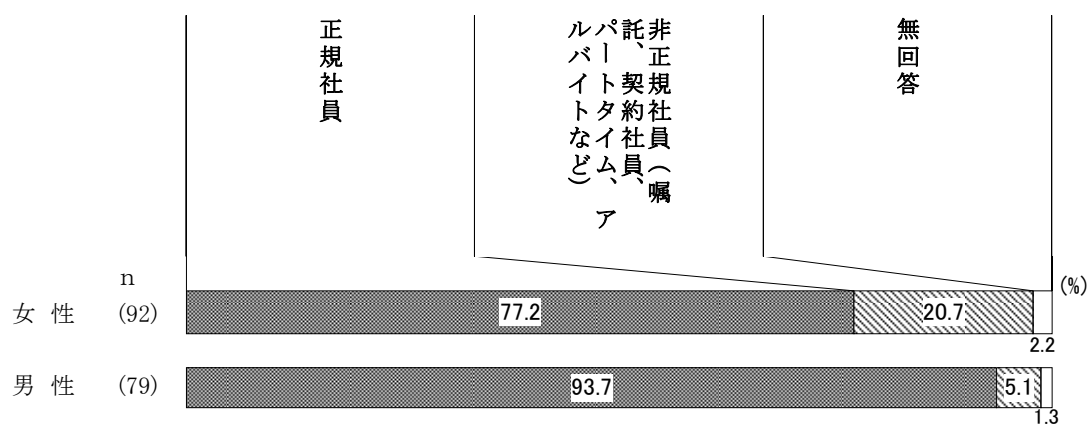
〈性別〉



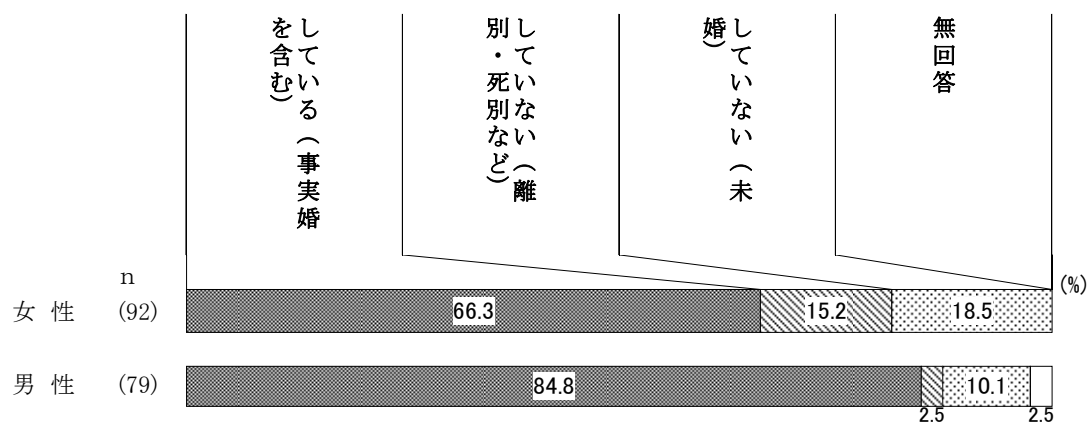
〈年齢〉



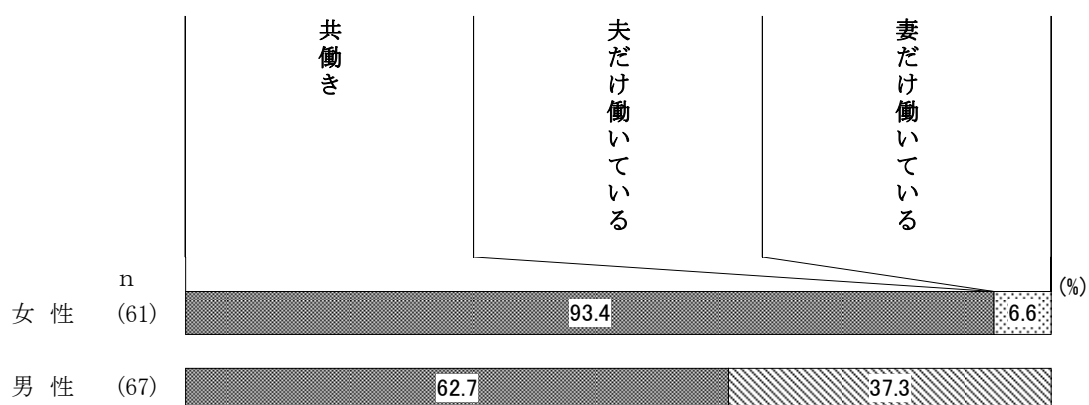
〈就労形態〉



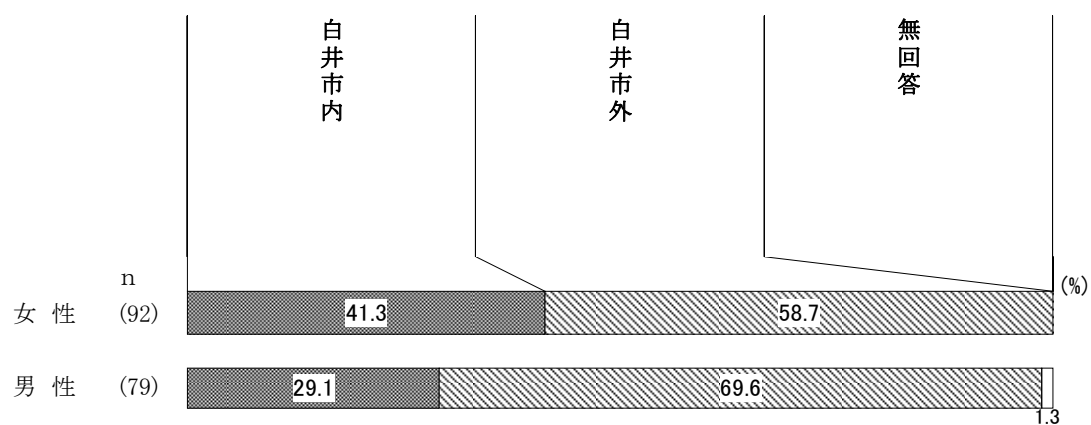
〈 未婚 〉



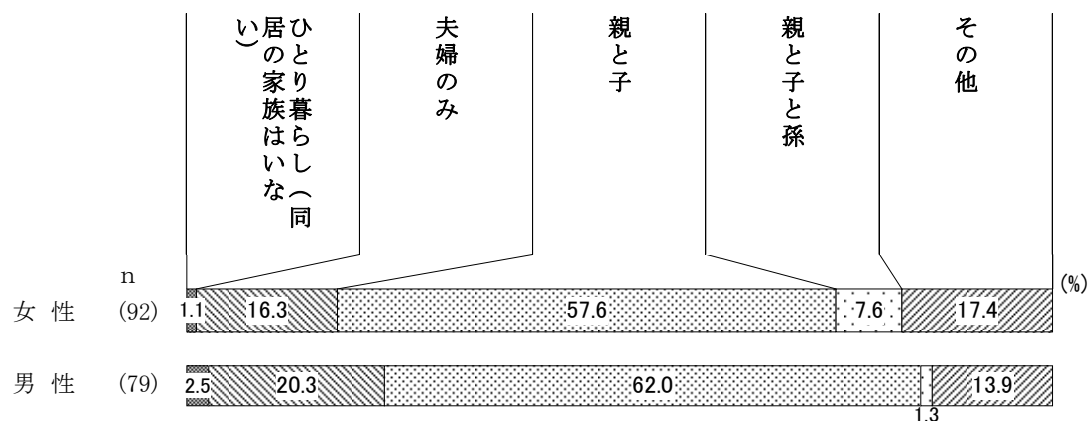
〈 共働き状況 〉



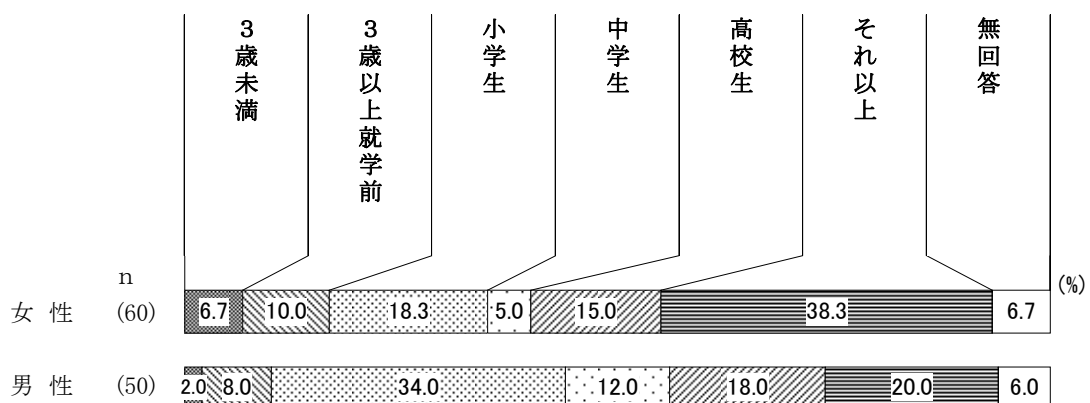
〈 居住地 〉



〈 家族構成 〉



〈 末子の年齢 〉

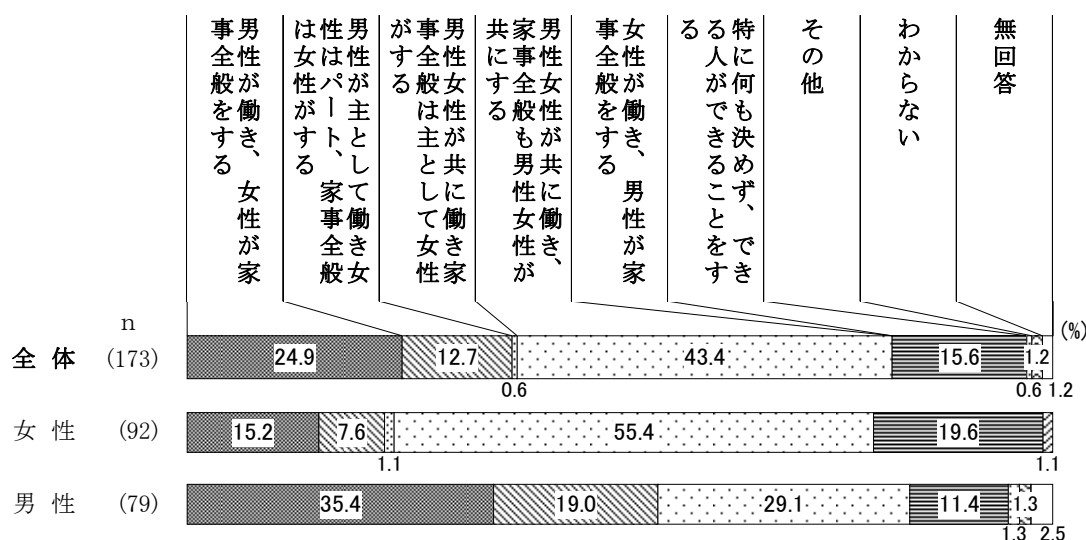


1. 家庭生活

(1) 男女の役割分担の理想と現実

問1 あなたが理想とする男女の役割分担は、次のどれに最も近いですか、また、現在のご家庭の状況（一人暮らしの人は、これまでの家庭での状況）は、次のどれに最も近いですか。1つずつ選んで番号に○をつけてください。

〈理想とする男女の役割分担〉

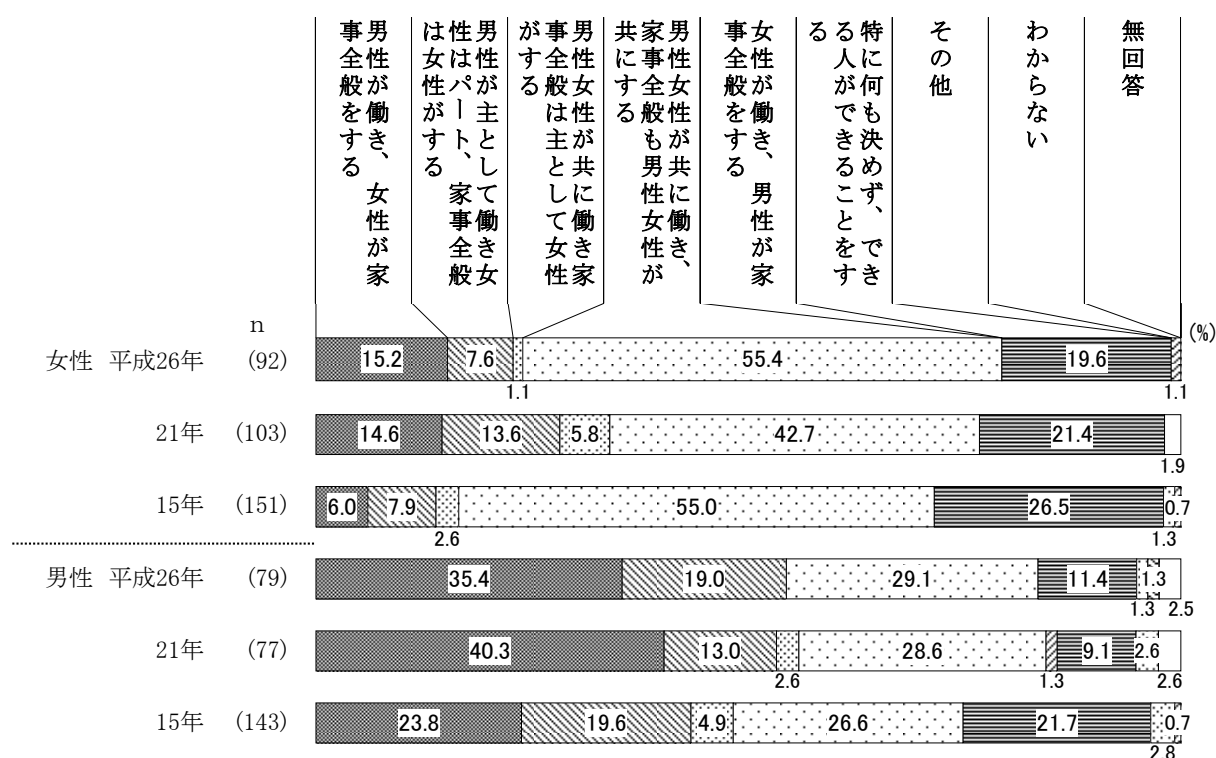


家庭内の役割分担の理想としては、「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」という『男女平等型』が43.4%で最も多く、これに「男性が働き、女性が家事全般をする」という『性別役割分担型』(24.9%)、「特に何も決めず、できる人ができることをする」という『状況対応型』(15.6%)が次いでいる。

性別でみると、女性では『男女平等型』が55.4%と、男性(29.1%)を上回っている。

一方、男性では、『性別役割分担型』が35.4%と、女性(15.2%)を上回っている。

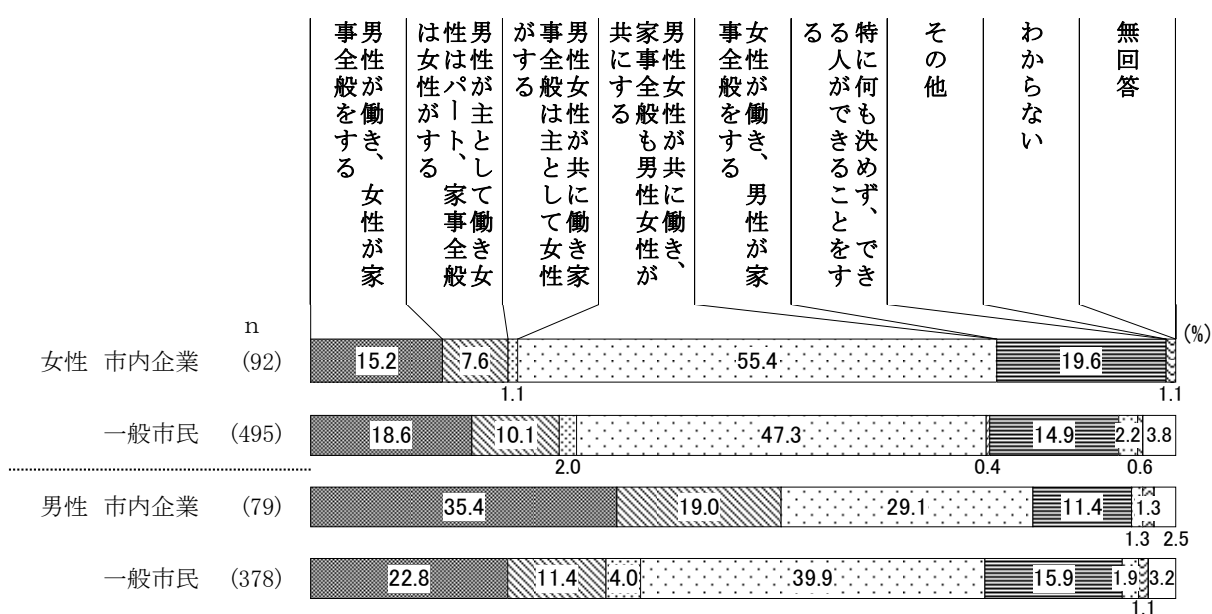
〈 経年比較／理想とする男女の役割分担 〉



経年で比較すると、女性では『男女平等型』が平成21年の42.7%から55.4%へと大幅に増加し、平成15年と同程度となっている。

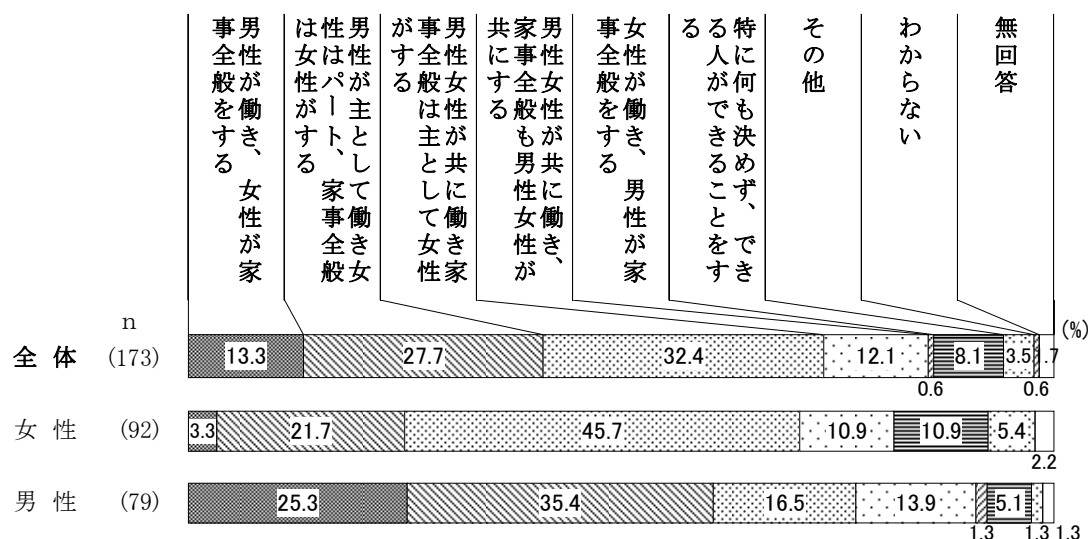
一方、男性では『男女平等型』が、平成15年26.6%→平成21年28.6%→平成26年29.1%と、微増している。

〈 一般市民調査との比較／理想とする男女の役割分担 〉



一般市民調査と比較すると、女性の『男女平等型』が55.4%と、一般の女性より多くなっている。男性では、役割分担型が合わせて54.4%と、一般の男性より非常に多くなっている。

〈 現実の男女の役割分担 〉

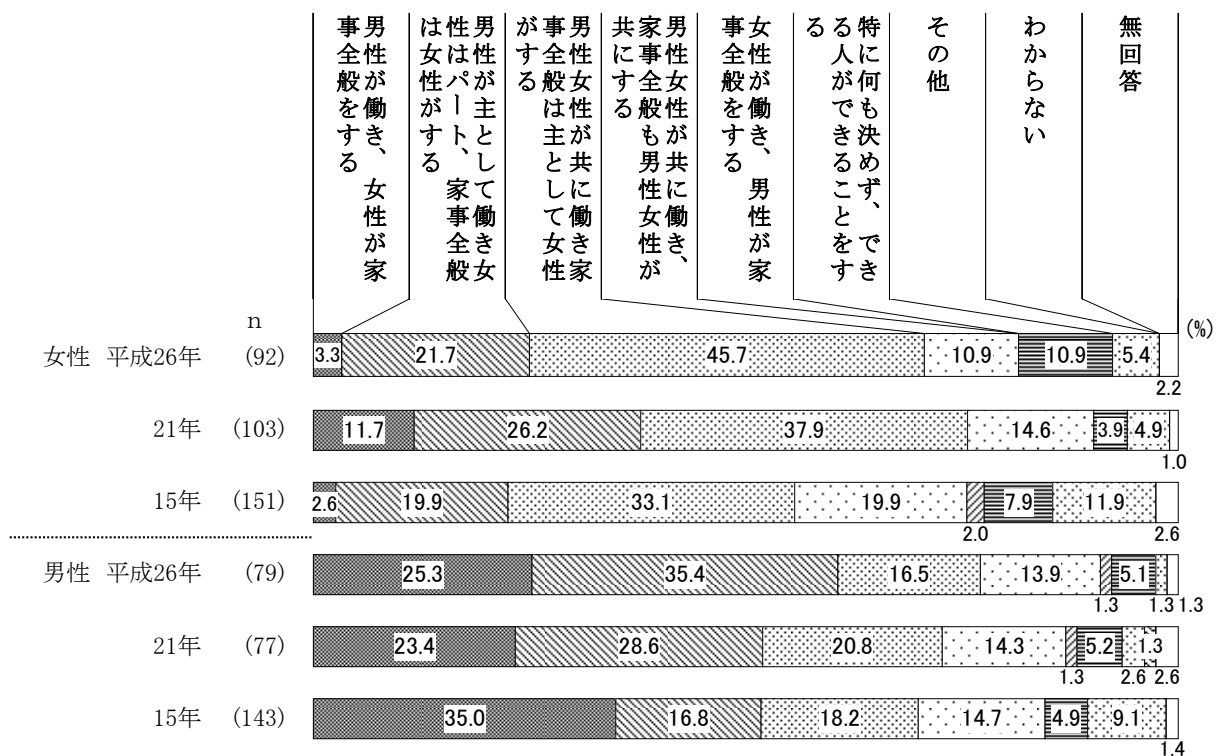


次に、実際の家庭内の役割分担をみると、「男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする」という『女性負担型』（32.4%）と「男性が主として働き、女性はパート、家事全般は女性がする」という『条件付役割分担型』（27.7%）が、多くなっている。

一方、「男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする」という『男女平等型』は12.1%に留まっている。

理想では男女とも『男女平等型』を理想とする人が最も多かったが、実際の家庭生活においては、依然として女性に負担のかかるケースが多いというのが現状である。以前と比べて、『男女平等型』を理想とする女性が増えているだけに、理想と現実の隔たりは大きくなっているといえるだろう。

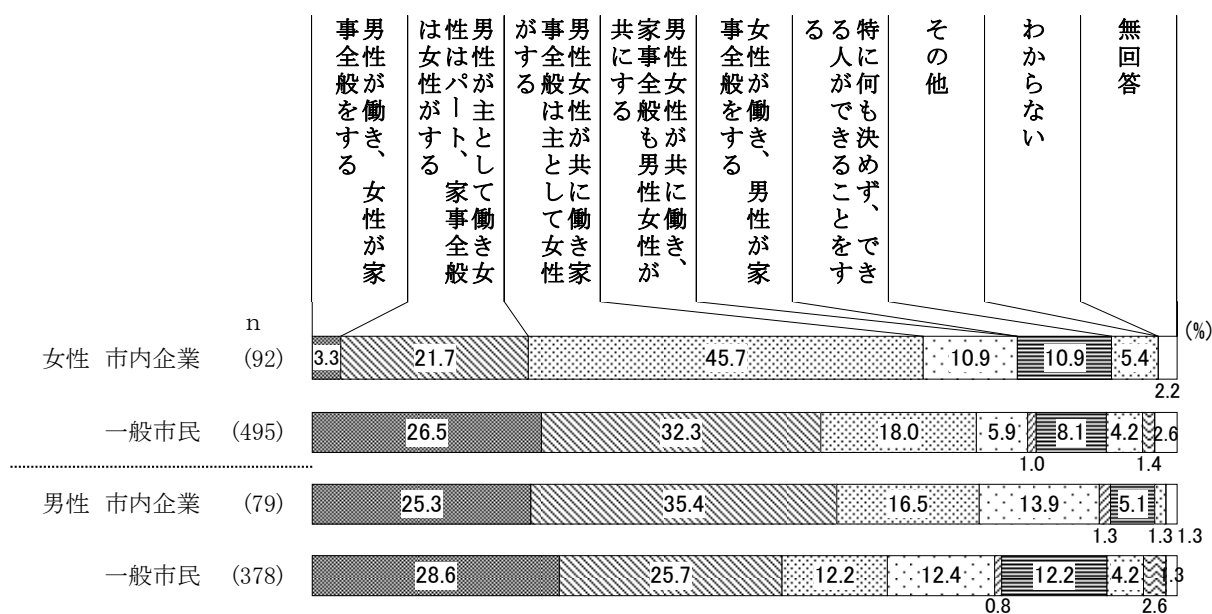
〈 経年比較／現実の男女の役割分担 〉



経年で比較すると、女性では『女性負担型』が、平成15年33.1%→平成21年37.9%→平成26年45.7%へと増加している。

男性では『条件付役割分担型』が、平成15年16.8%→平成21年28.6%→平成26年35.4%へと増加している。

〈一般市民調査との比較／現実の男女の役割分担〉



一般市民の調査結果と比較すると、女性の場合、市内企業調査では『女性負担型』が45.7%と、一般の2倍以上となっている。

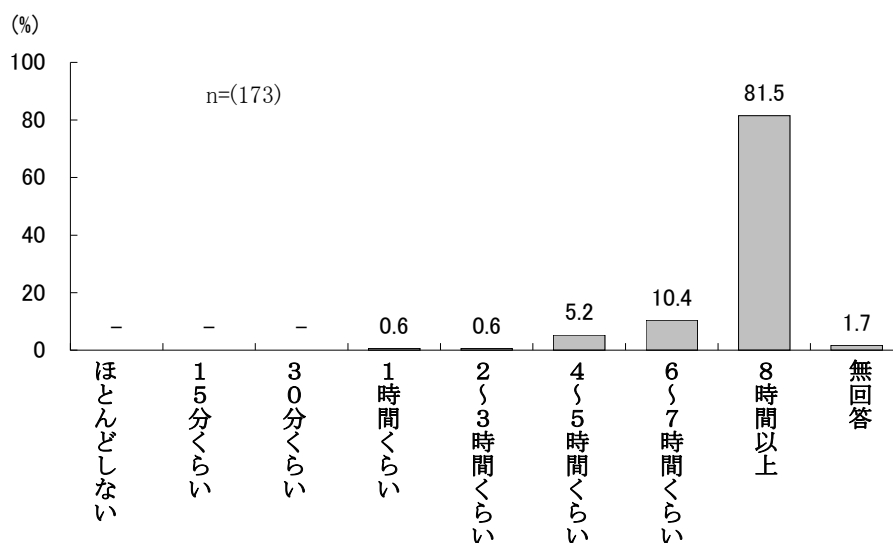
男性の場合、『条件付役割分担型』が35.4%と、一般より多くなっている。

2. 仕事

(1) 労働や家事・育児・介護などにかかる時間

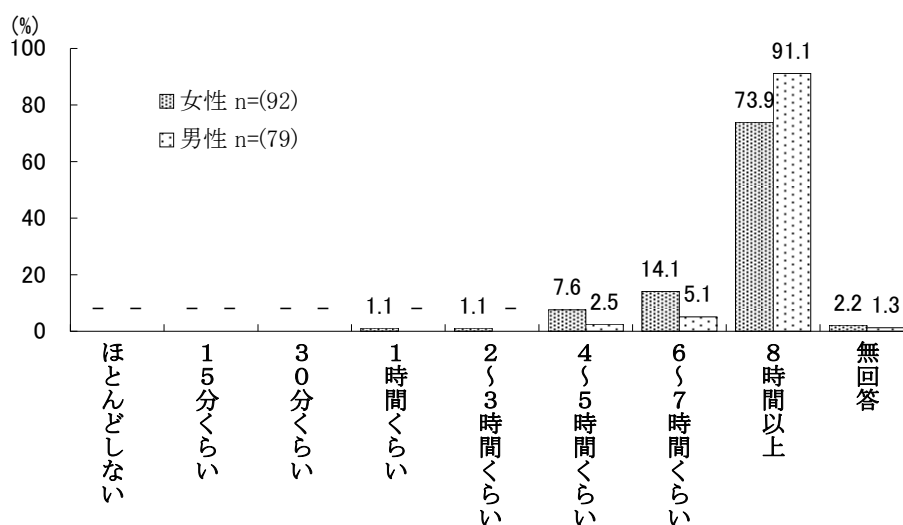
問2 あなたは、収入の得られる労働や、家庭内における家事・育児・介護などに1日平均どのくらい時間をあてていますか。それぞれについて、該当する時間数の番号を口の中に記入してください。

〈収入の得られる労働〉



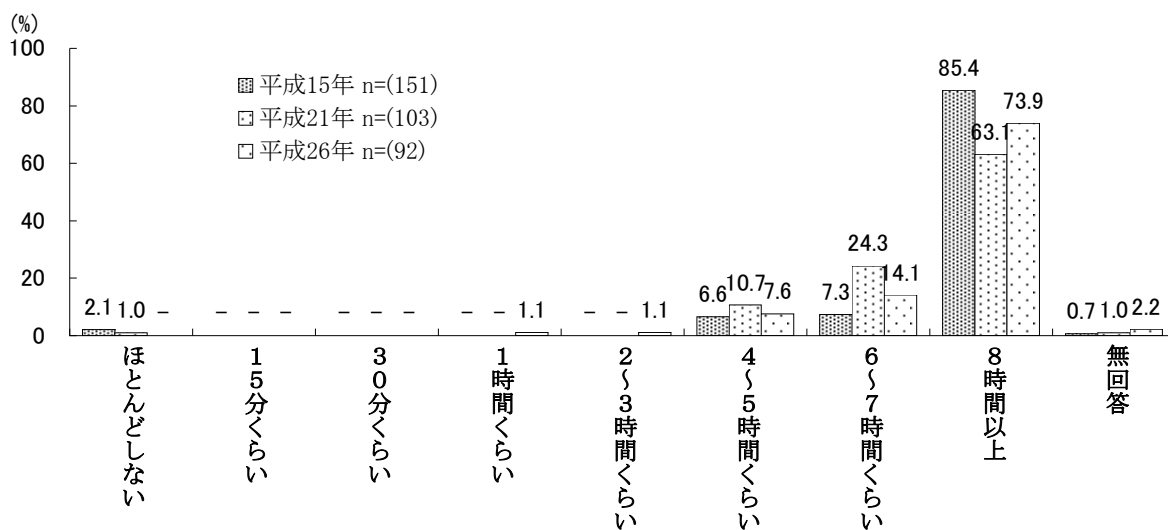
収入の得られる労働は「8時間以上」(81.5%)と圧倒的に多くなっている。

〈性別／収入の得られる労働〉



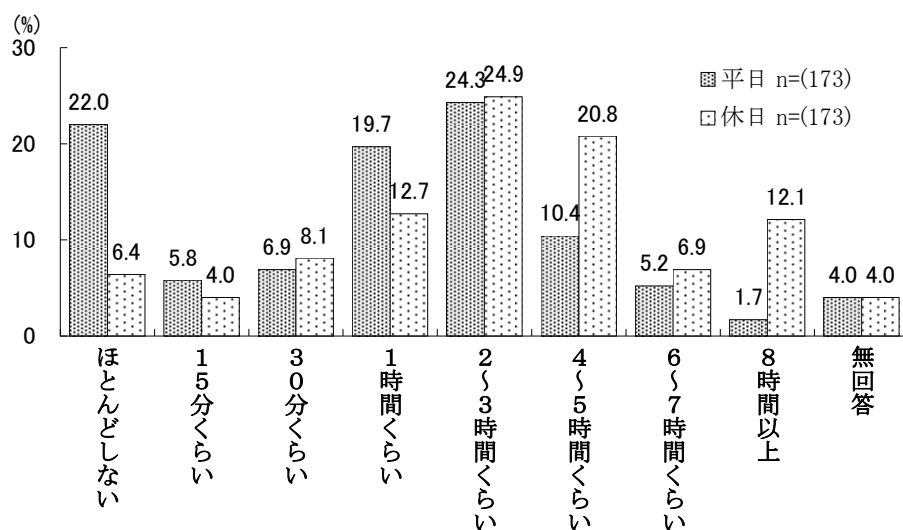
性別でみると、男性では「8時間以上」が91.1%と、女性(73.9%)より多くなっている。

〈 経年比較／女性／収入の得られる労働 〉

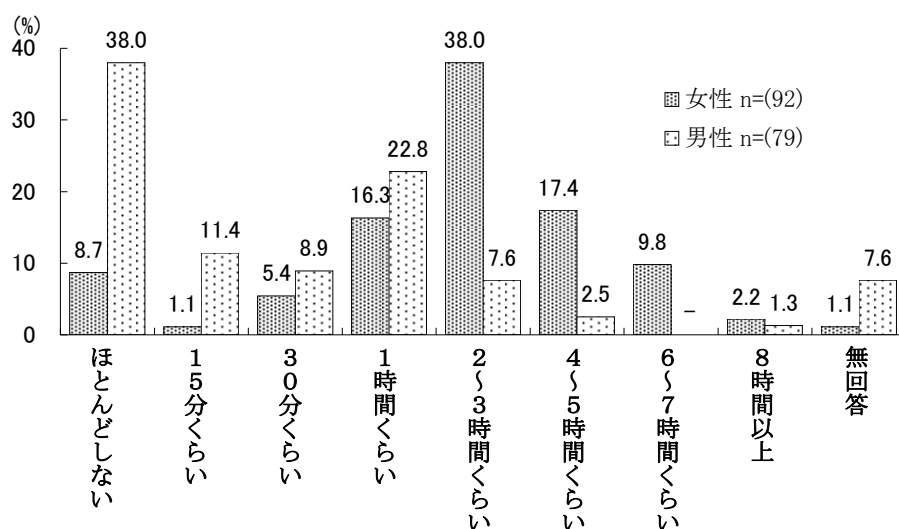


経年で比較すると、女性の「8時間以上」が63.1%から73.9%へと増加している。

〈 家事・育児・介護などにかかる時間 〉

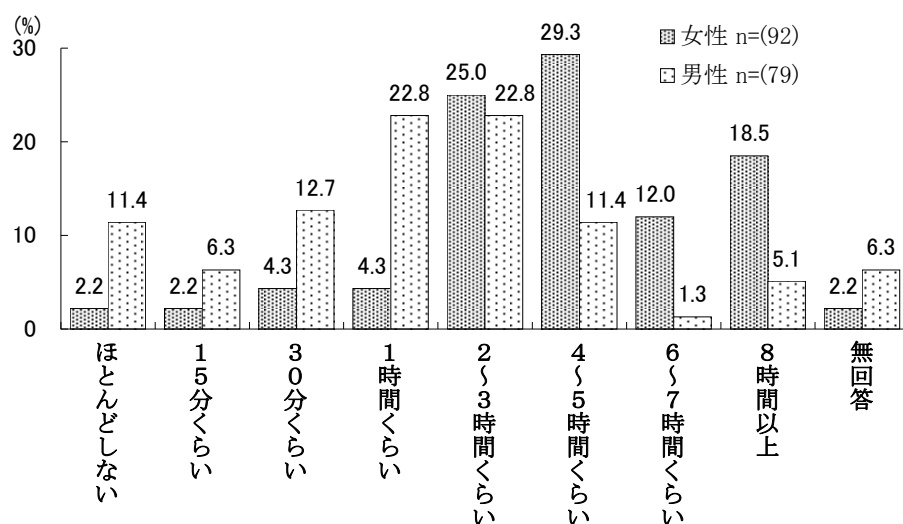


〈 性別／家事・育児・介護などにかかる時間／平日 〉



家事・育児・介護などにかかる時間を性別でみると、平日の女性では「2～3時間くらい」(38.0%)と「4～5時間くらい」(17.4%)が多く、《2時間以上》が7割を越えている。男性では、「ほとんどしない」が38.0%を占め、《2時間未満》が7割近くを占めている。

〈 性別／家事・育児・介護などにかかる時間／休日 〉

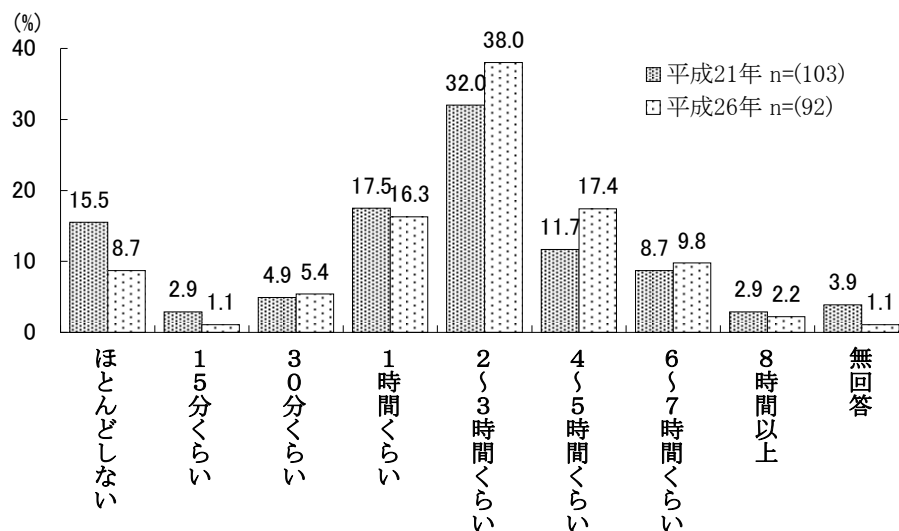


休日の女性では「2～3時間くらい」(25.0%)と「4～5時間くらい」(29.3%)が多く、《2時間以上》が8割を越えている。

男性では「ほとんどしない」が平日の38.0%から11.4%へと減少し、「1時間くらい」(22.8%)と「2～3時間くらい」(22.8%)が多くなっている。

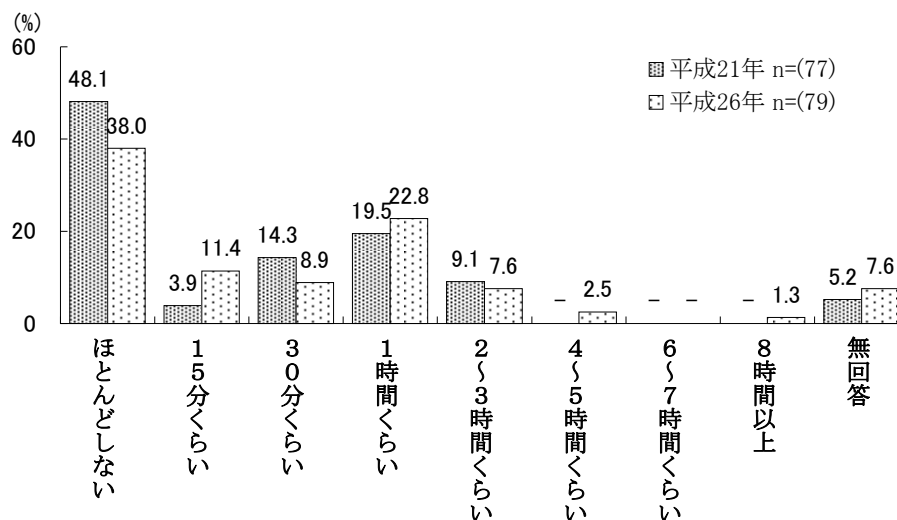
《2時間未満》が5割以上を占めているが、《2時間以上》も4割を超えており、平日に比べて、休日では家事・育児に参加する男性が多くなっている。

〈 経年比較／女性／家事・育児・介護などにかかる時間／平日 〉



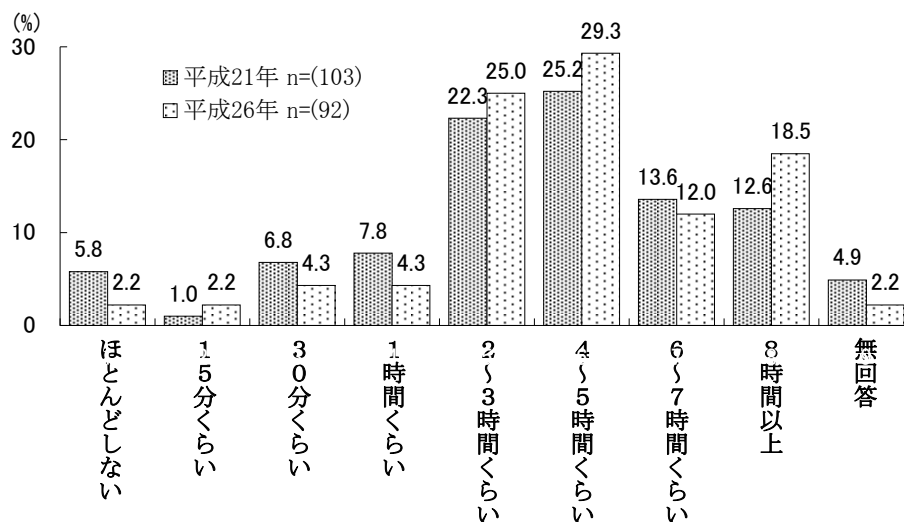
平成21年調査と比較すると、「2～3時間くらい」が、平成21年調査の32.0%から今回38.0%へと増加している。

〈 経年比較／男性／家事・育児・介護などにかかる時間／平日 〉



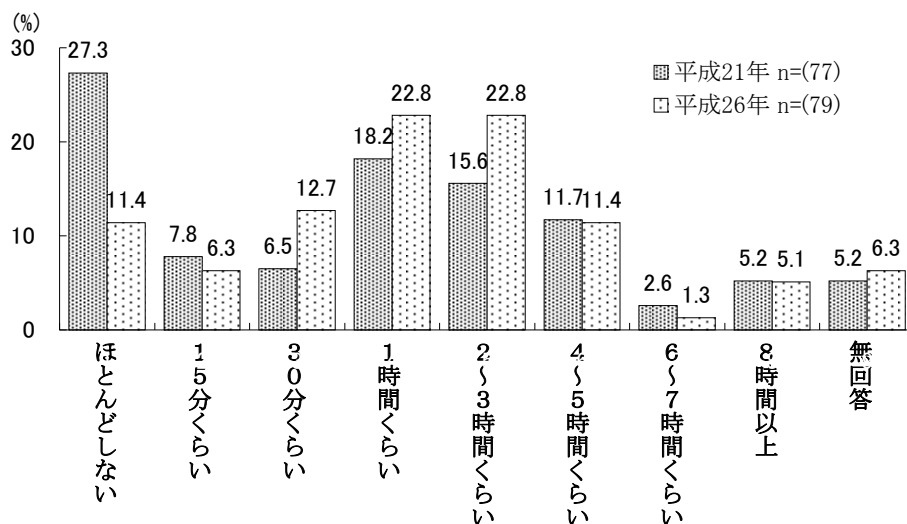
平成21年調査と比較すると、「ほとんどしない」が、平成21年調査の48.1%から今回38.0%へと減少している。

〈 経年比較／女性／家事・育児・介護などにかかる時間／休日 〉



平成21年調査と比較すると、「4～5時間くらい」が、平成21年調査の25.2%から、今回29.3%へと増加している。

〈 経年比較／男性／家事・育児・介護などにかかる時間／休日 〉



平成21年調査と比較すると、「ほとんどしない」が、平成21年調査の27.3%から今回11.4%へと減少している。

〈 一般市民調査との比較／性別／家事・育児・介護などにかかる時間 〉

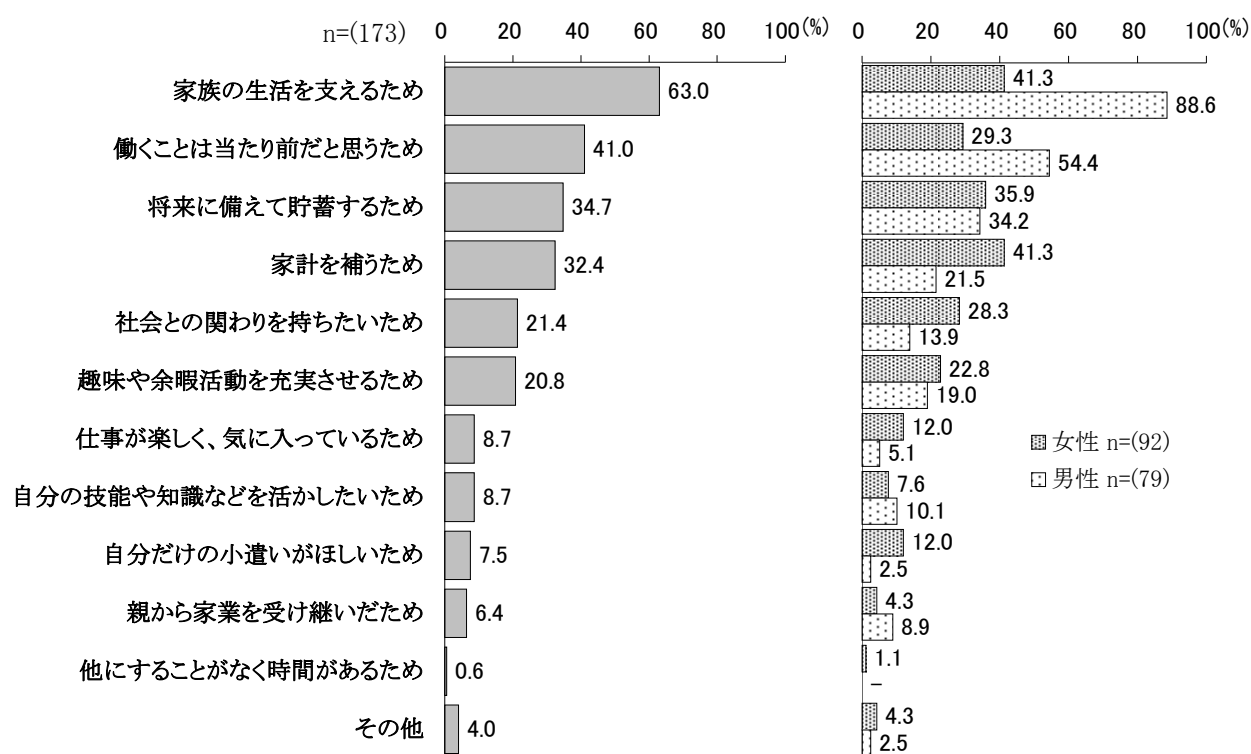
(%)

			調査数	ほとんどしない	15分くらい	30分くらい	1時間くらい	2～3時間くらい	4～5時間くらい	6～7時間くらい	8時間以上	無回答
市内企業調査	平日	女性	92	8.7	1.1	5.4	16.3	38.0	17.4	9.8	2.2	1.1
		男性	79	38.0	11.4	8.9	22.8	7.6	2.5	－	1.3	7.6
	休日	女性	92	2.2	2.2	4.3	4.3	25.0	29.3	12.0	18.5	2.2
		男性	79	11.4	6.3	12.7	22.8	22.8	11.4	1.3	5.1	6.3
一般市民調査	平日	女性	495	5.9	0.4	3.0	7.9	22.4	25.9	9.3	13.1	12.1
		男性	378	30.4	8.7	15.1	20.6	9.5	3.4	－	0.5	11.6
	休日	女性	495	4.4	0.6	1.4	5.5	24.0	20.2	11.9	17.6	14.3
		男性	378	16.7	8.2	9.8	19.0	21.4	7.4	1.6	3.2	12.7

一般市民の調査結果と比較すると、男女の回答傾向に大きな差はみられない。

(2) 仕事をしている理由

問3 あなたが仕事をしている理由は次のどれに近いですか。3つまで選んで番号に○をつけてください。



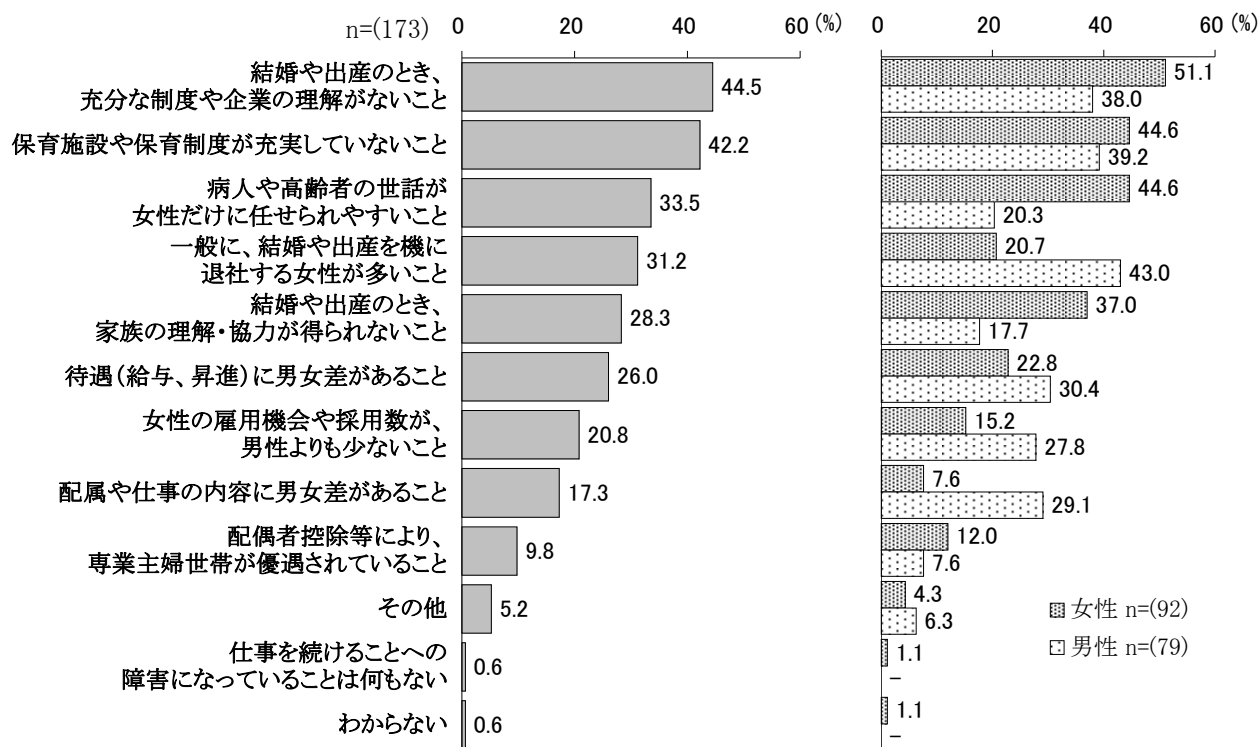
仕事をしている理由としては、「家族の生活を支えるため」が63.0%で最も多く、以下「働くことは当たり前だと思うため」(41.0%)、「将来に備えて貯蓄するため」(34.7%)の順が続いている。

性別でみると、女性では「家計を補うため」が41.3%と、男性(21.5%)を上回っているほか、「社会との関わりを持ちたいため」も28.3%と多くなっている。

一方、男性では「家族の生活を支えるため」が88.6%と、女性(41.3%)より多くなっているほか、「働くことは当たり前だと思うため」も54.4%を占めている。

（3）女性が仕事を続けるのは難しいとされる理由

問4 女性が仕事を続けるのは難しいとされていますが、その理由は何だと思いますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

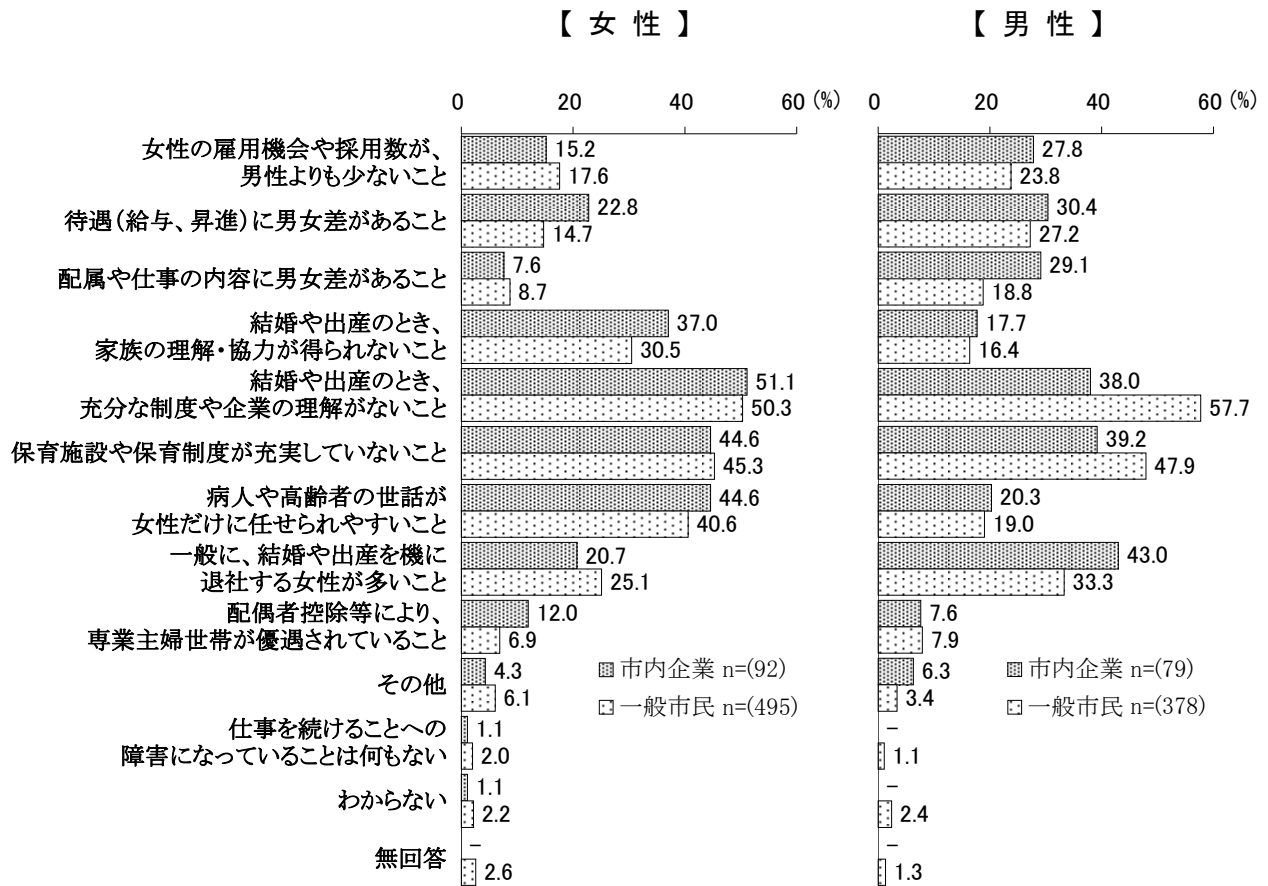


女性が仕事を続けるのは難しいとされる理由としては、「結婚や出産のとき、十分な制度や企業の理解が得られないこと」が44.5%で最も多く、以下「保育施設や保育制度が充実していないこと」（42.2%）、「病人や高齢者の世話が女性だけに任せられやすいこと」（33.5%）の順で続いている。

性別でみると、女性では、「結婚や出産のとき、十分な制度や企業の理解が得られないこと」が51.1%と、男性（38.0%）を上回っているほか、「保育施設や保育制度が充実していないこと」「病人や高齢者の世話が女性だけに任せられやすいこと」が、いずれも44.6%と、男性より多くなっている。

男性では「一般に、結婚や出産を機に退社する女性が多いこと」が43.0%と、女性（20.7%）より多くなっているほか、「配属や仕事の内容に男女差があること」（29.1%）、「待遇（給与、昇進）に男女差があること」（30.4%）が多くなっている。

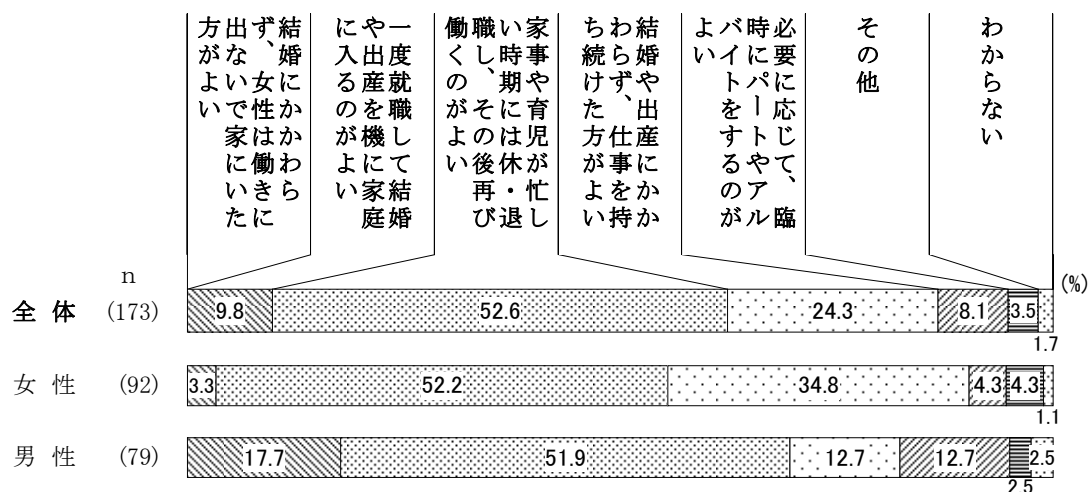
〈 一般市民調査との比較／女性が仕事を続けるのは難しいとされる理由 〉



一般市民意識調査の結果と比較すると、女性で回答傾向に大きな差はみられない。男性では、「一般に、結婚や出産を機に退社する女性が多いから」や「配属や仕事の内容に男女差があること」が、一般より多くなっている。

(4) 女性の働き方についての意識

問5 女性の働き方についてあなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。1つ選んで番号に○をつけてください。



女性の働き方についての意識をみると、「家事や育児が忙しい時期には休・退職し、その後再び働くのがよい」という『中断再就職型』が52.6%で最も多く、「結婚や出産にかかわらず、仕事をもち続けた方がよい」という『就労継続型』(24.3%)の倍以上を占めている。

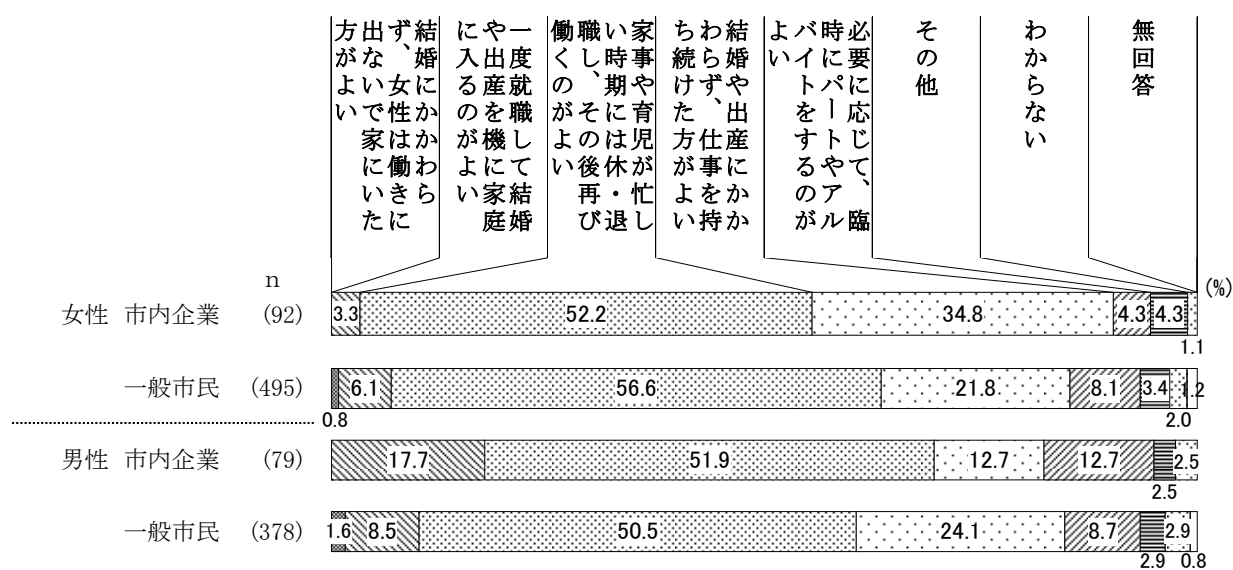
一方、「一度就職して結婚や出産を機に家庭に入るのがよい」という『結婚・出産型』は9.8%となっている。

性別でみると、『中断再就職型』は、女性52.2%、男性51.9%と、男女とも5割を超えて多くなっている。

一方、女性では、『就労継続型』が34.8%と、男性(12.7%)を上回っている。

反対に、男性では「一度就職して結婚や出産を機に家庭に入るのがよい」と答える人が17.7%と、約2割いる。

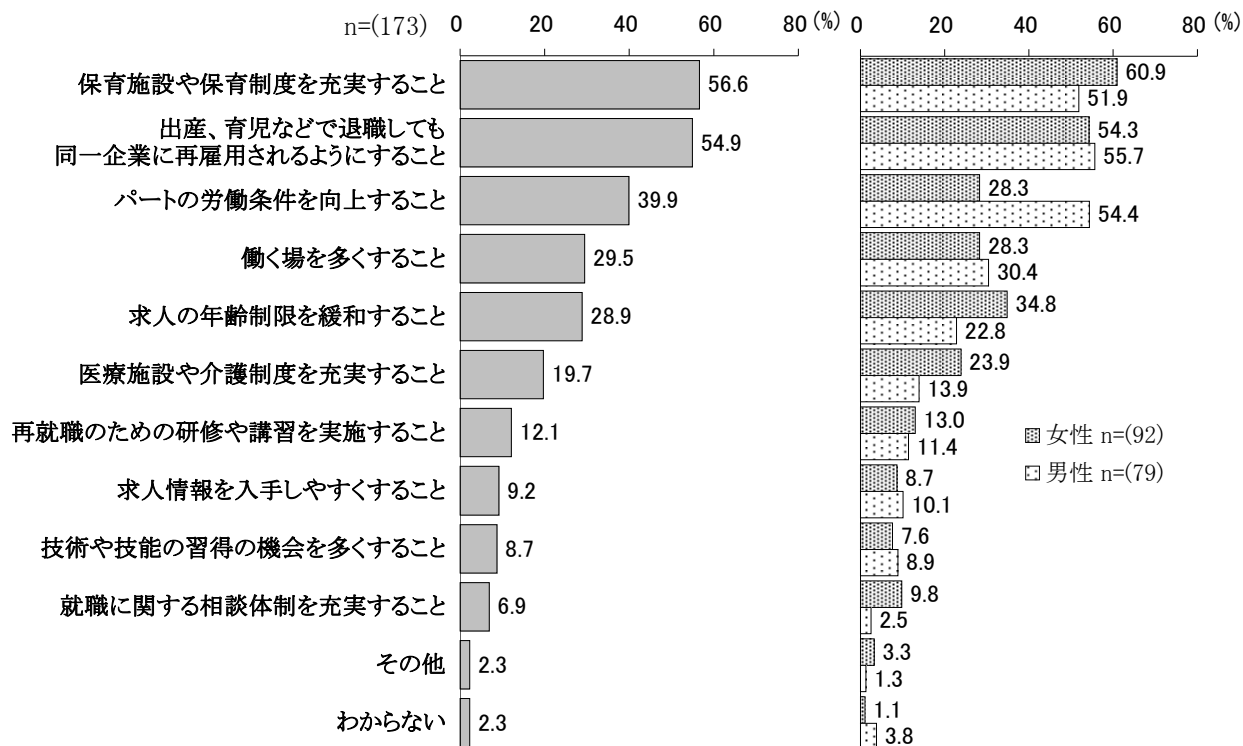
〈 一般市民調査との比較／女性の働き方についての意識 〉



一般市民調査の結果と比較すると、女性の場合、市内企業調査の結果の方が、『就労継続型』が多くなるという結果となっている。

(5) 望ましい女性の再就職支援策

問6 一時期家庭に入った女性が再就職を希望する場合、どのような援助や対策が望まれると思いますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

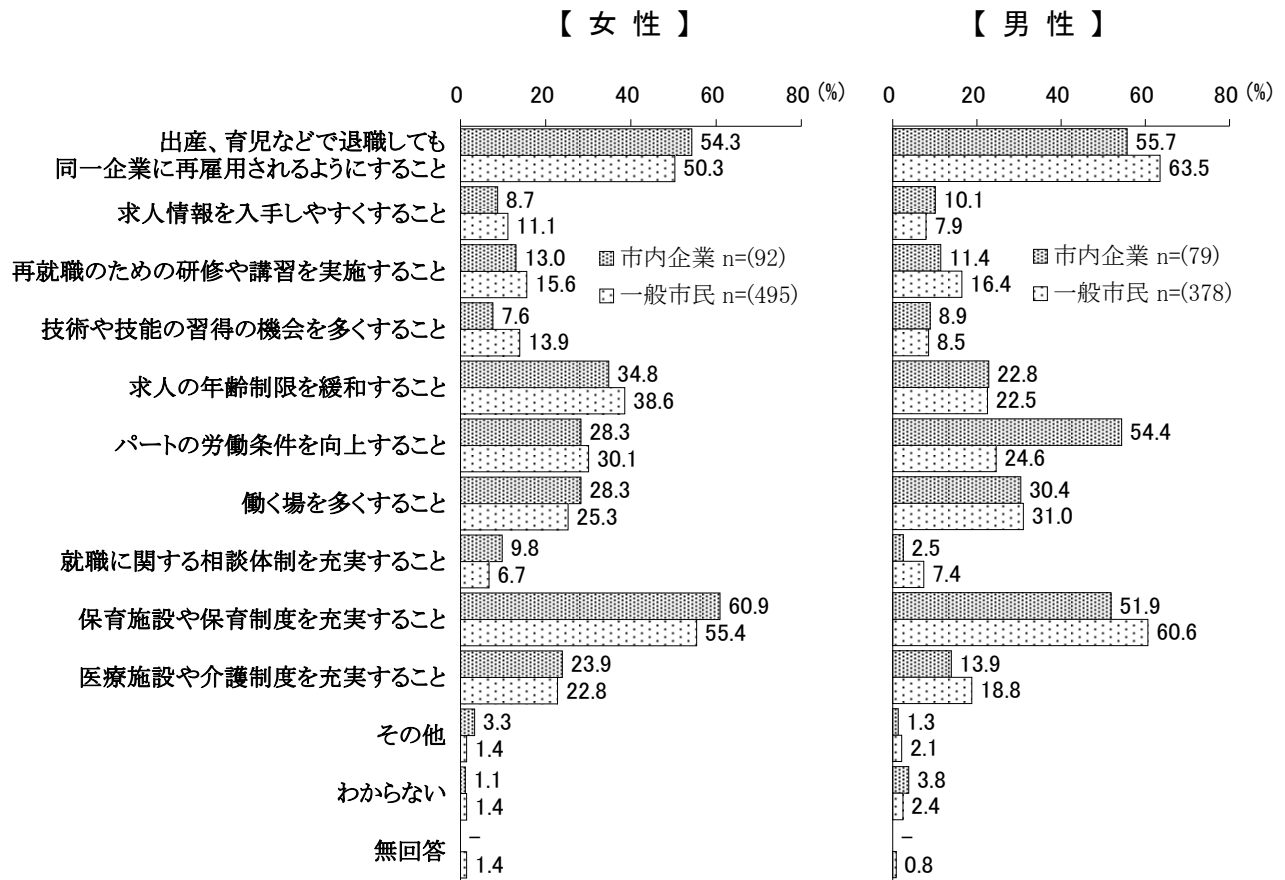


望ましい女性の再就職支援としては、「保育施設や保育制度を充実すること」(56.6%)と「出産、育児などで退職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(54.9%)が、特に多くなっている。

性別でみると、女性では「求人の年齢制限を緩和すること」が34.8%と、男性(22.8%)を上回っている。

一方、男性では、「パートの労働条件を向上すること」が54.4%と、女性(28.3%)より多くなっている。

〈 一般市民調査との比較／望ましい女性の再就職支援策 〉



一般市民調査の結果と比較すると、市内企業調査では、男性で「パートの労働条件を向上すること」が、一般市民調査の結果を大きく上回っている。

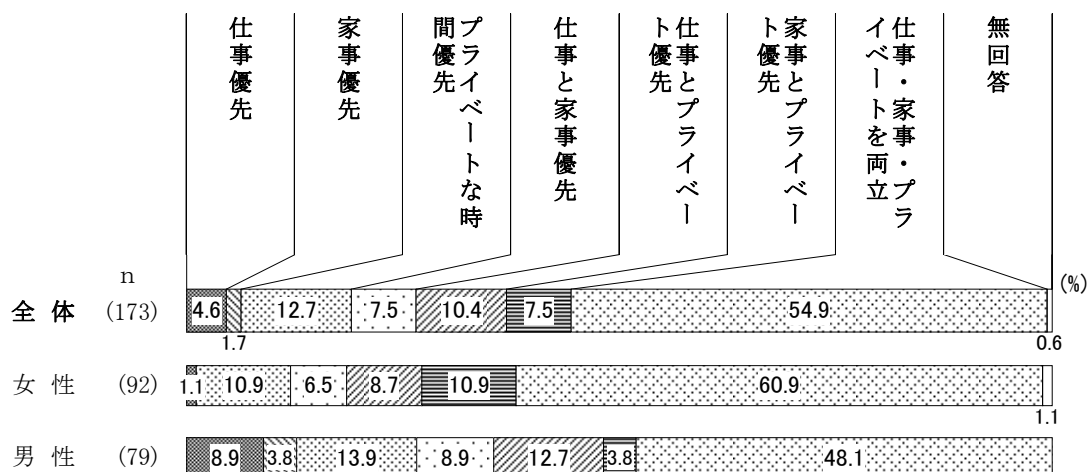
3. ワーク・ライフ・バランス

※ワーク・ライフ・バランスとは、働く人などが、仕事と家事（育児・介護含む）、プライベートな時間（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度を自分が望むバランスで実現できるようにすることをいいます。

（１）生活の中での優先度の理想と現実

問7 生活の中での、仕事・家事（育児・介護含む）・プライベートな時間（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度についておうかがいします。「理想」としての優先度と、「現実」の優先度について、あなたのお考えや現状に最も近いものを、1～7のうちから1つずつ選んで番号に○をつけてください。

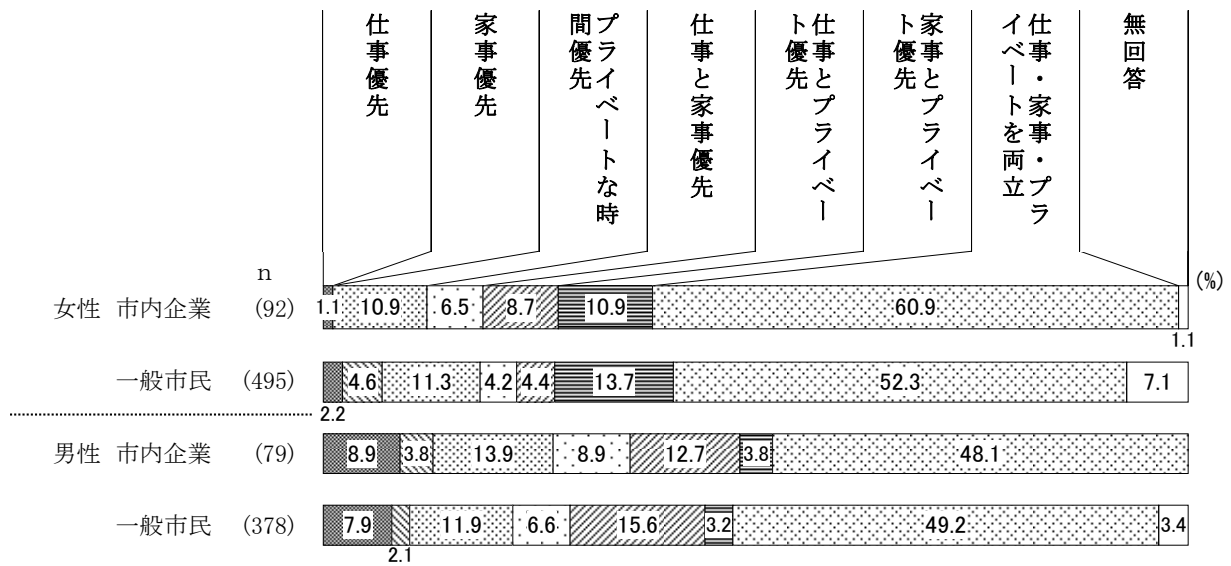
〈 理想とする生活の中での優先度 〉



生活の中での仕事・家事（育児・介護含む）・プライベートな時間（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度をみると、理想としては、「仕事・家事・プライベートを両立」が54.9%で際立って多くなっている。

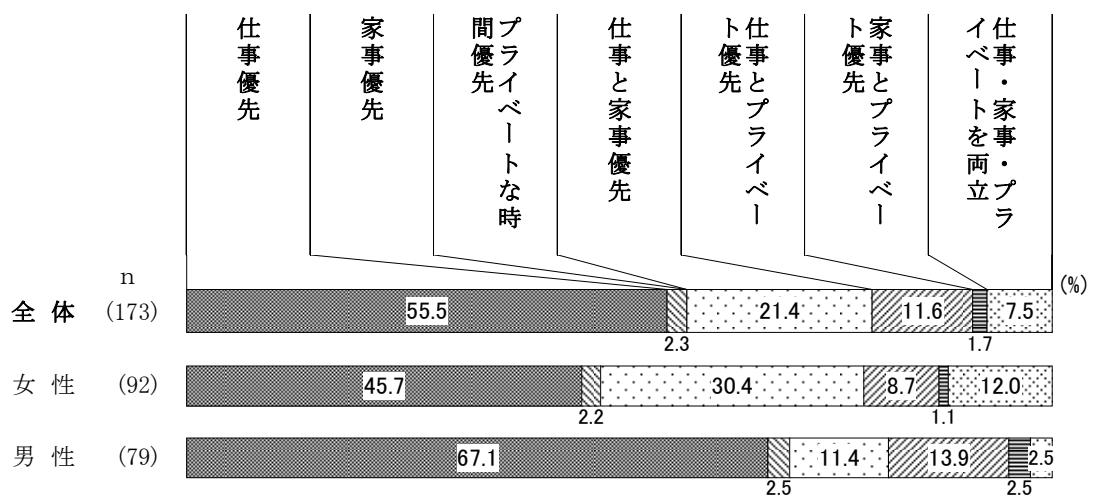
性別でみると、女性では、「仕事・家事・プライベートを両立」が60.9%と、男性（48.1%）を上回っている。

〈 一般市民調査との比較／理想とする生活の中での優先度 〉



一般市民調査の結果と比べると、市内企業調査では、女性の「仕事・家事・プライベートを両立」が多くなっている。

〈 現実の生活の中での優先度 〉



現実としては、「仕事優先」が55.5%で最も多く、次いで「仕事と家事優先」が21.4%となっている。

性別でみると、女性の場合、「仕事優先」(45.7%)に次いで、「仕事と家事優先」(30.4%)が多くなっている。

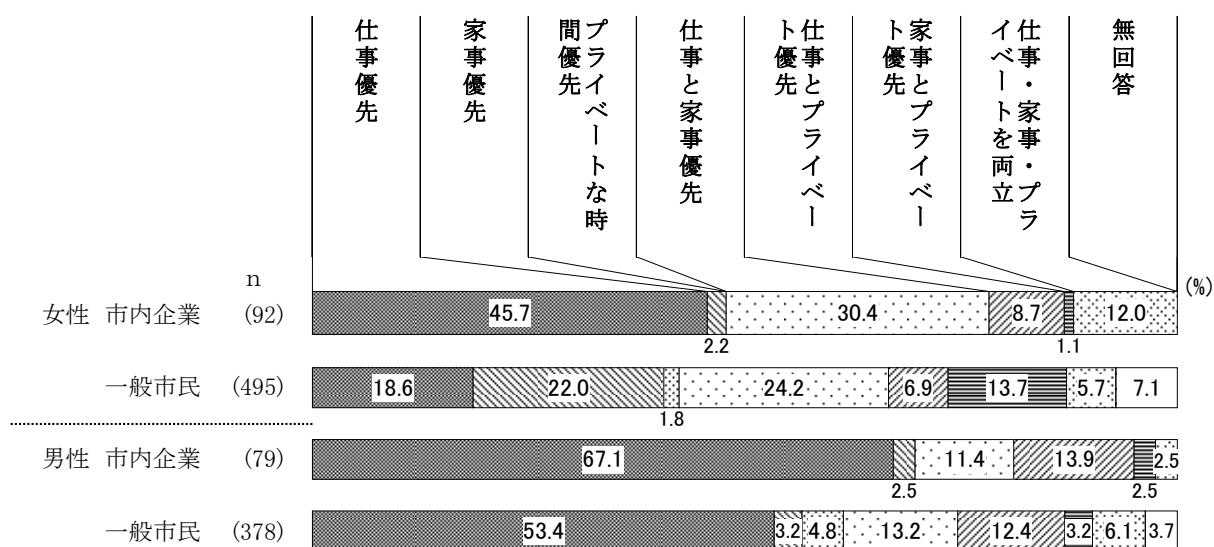
男性では、「仕事優先」が67.1%と、女性(45.7%)より多くなっている。

この結果を理想と比較すると、女性の理想は「仕事・家事・プライベートを両立」が60.9%となっていたにもかかわらず、現実にはそれが達成されている人は12.0%に過ぎない。

男性の場合も、「仕事・家事・プライベートを両立」が理想とする人は48.1%を占めているものの、現実には2.5%に留まっている。

このようにワーク・ライフ・バランスの理想と現実については、男女とも依然として大きな開きがある。

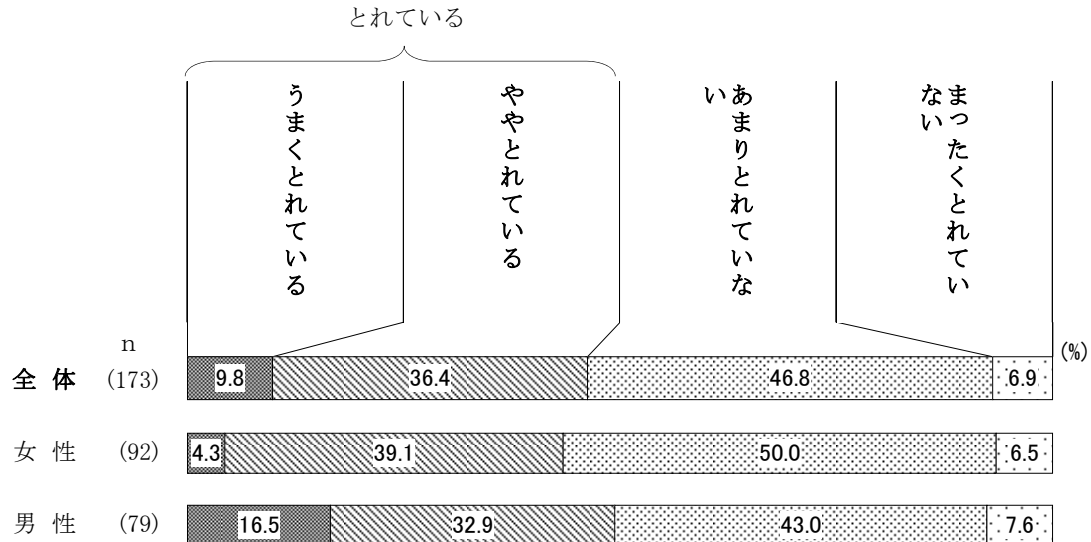
〈 一般市民調査との比較／現実の生活の中での優先度 〉



一般市民調査の結果と比べると、市内企業調査では、女性の「仕事優先」が極めて多くなっている。

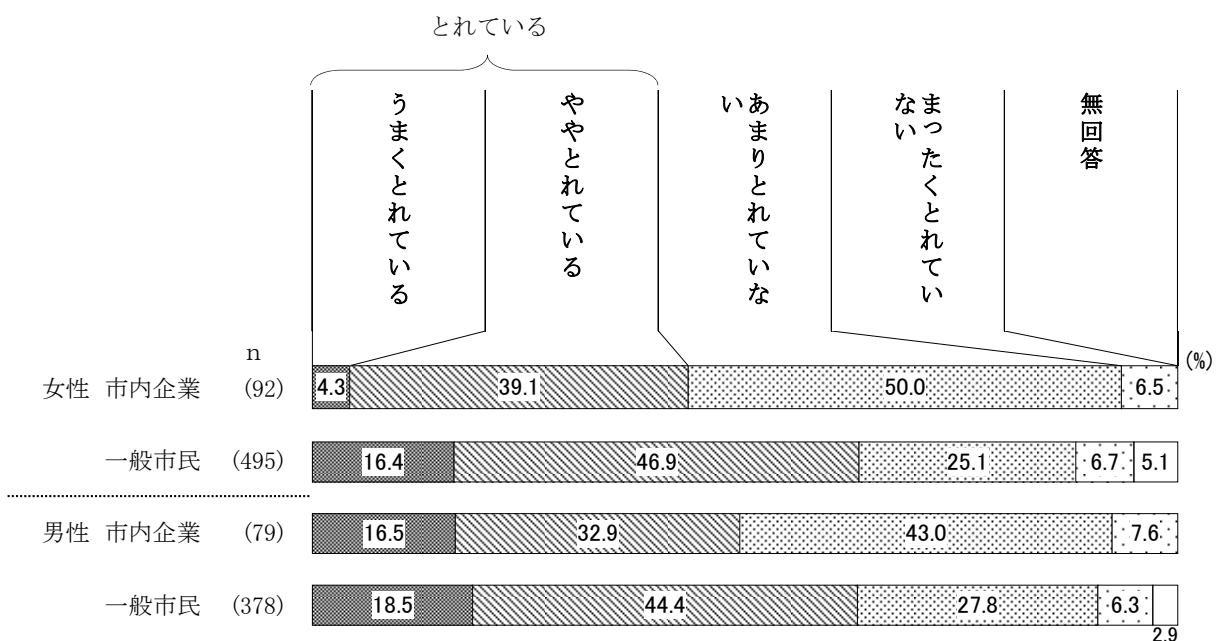
(2) 仕事・家事・プライベートな時間のバランス

問8 あなたにとって、仕事・家事・プライベートな時間のバランスは、うまくとれていると思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。



仕事・家事・プライベートな時間のバランスについて、「うまくとれている」が9.8%で、これに「ややとれている」(36.4%)を合わせた《とれている》は46.2%となっている。
 一方、「あまりとれていない」は46.8%、「まったくとれていない」は6.9%である。
 性別でみると、《とれている》は、女性43.4%、男性49.4%となっている。

〈 一般市民調査との比較／仕事・家事・プライベートな時間のバランス 〉

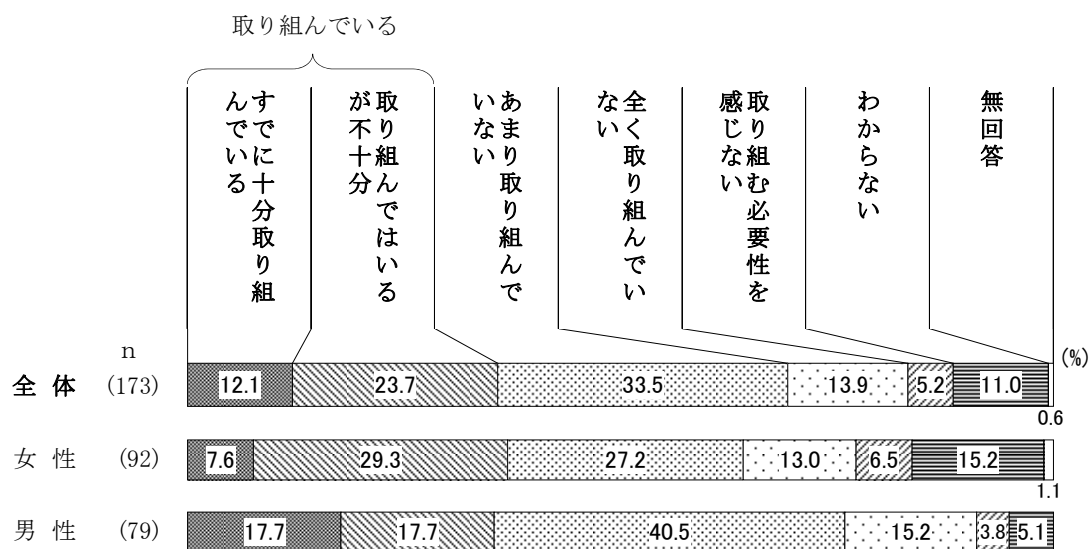


一般市民調査の結果と比較すると、市内企業調査では、男女とも《とれている》が低くなっている。

(3) 職場の現状と今後の必要性

問9 あなたの職場でのワーク・ライフ・バランスの取り組みについて、どのように認識していますか。現状および今後の必要性について、最も近いものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

〈 職場の現状 〉

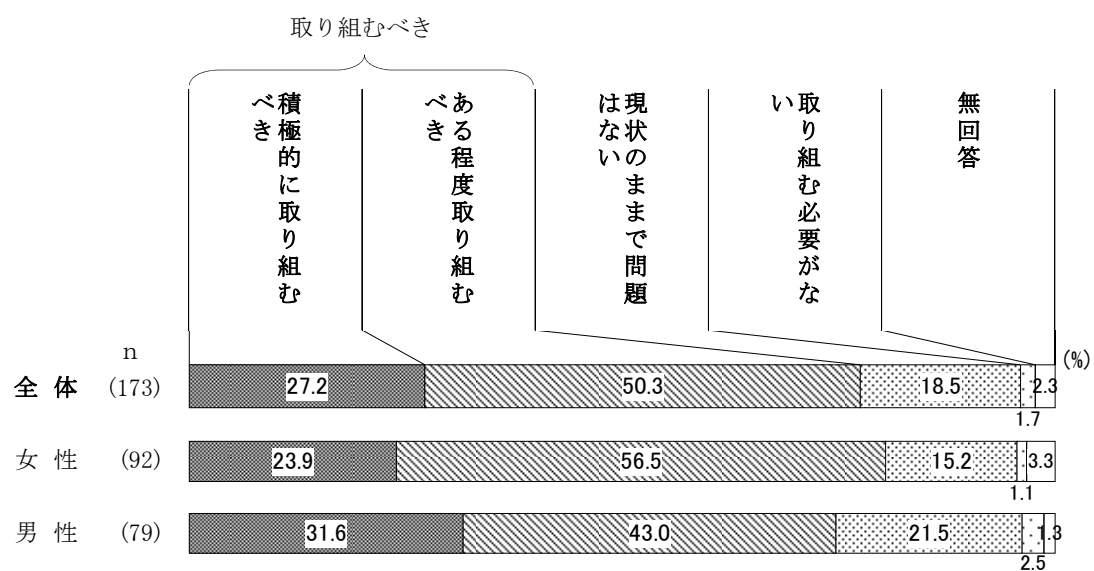


現在、仕事をしている人に、職場でのワーク・ライフ・バランスの取り組みについてきいたところ、「すでに十分に取組んでいる」は12.1%で、これに「取り組んではいるが不十分」(23.7%)を合わせた《取り組んでいる》は35.8%である。

一方、「あまり取り組んでいない」は33.5%、「全く取り組んでいない」は13.9%である。

性別でみると、《取り組んでいる》は女性36.9%、男性35.4%である。

〈 今後の必要性 〉

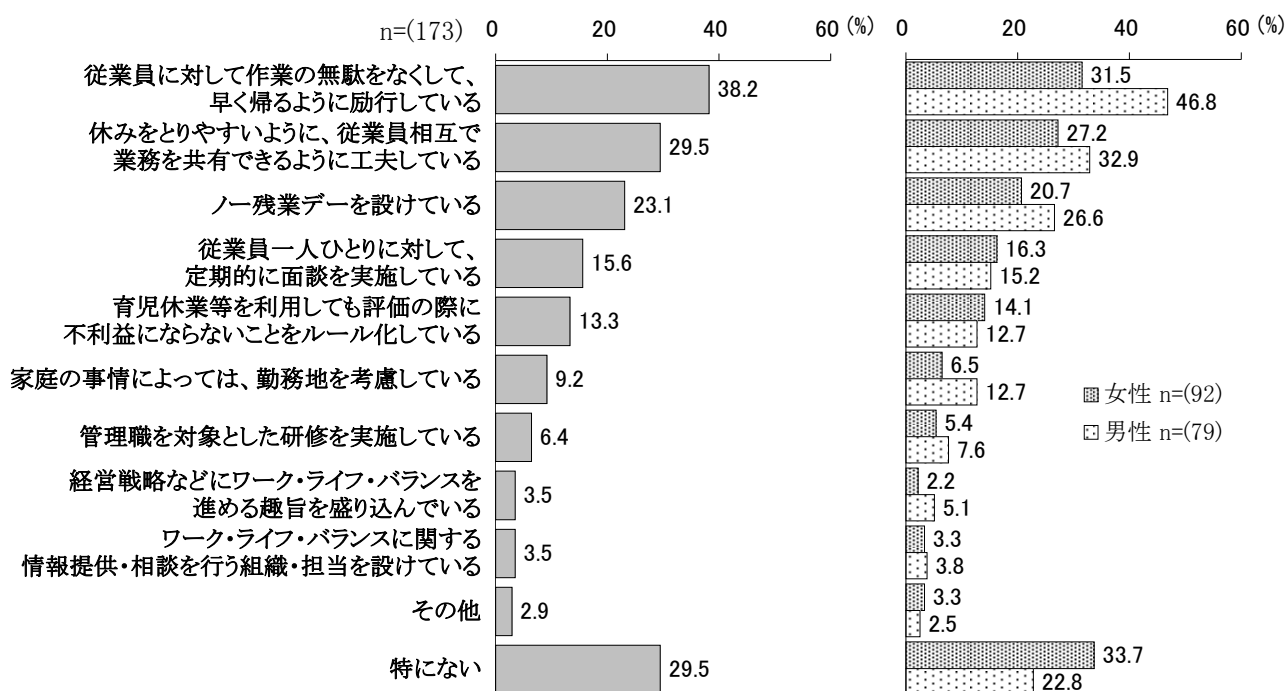


今後のワーク・ライフ・バランスへの取り組みについては、「積極的に取り組むべき」が27.2%で、これに「ある程度取り組むべき」(50.3%)を合わせた《取り組むべき》は77.5%である。一方、「現状のままで問題はない」は18.5%、「取り組む必要がない」は1.7%となっている。性別でみると、《取り組むべき》は女性80.4%、男性74.6%となっている。

(4) 職場で実施している取り組み

問10 あなたの勤めているところでは、ワーク・ライフ・バランスの取り組みとして、どのようなことを実施していますか。また、実施できれば効果のある取り組みだと思われるものは何ですか。それぞれ該当するものすべての番号に○をつけてください。

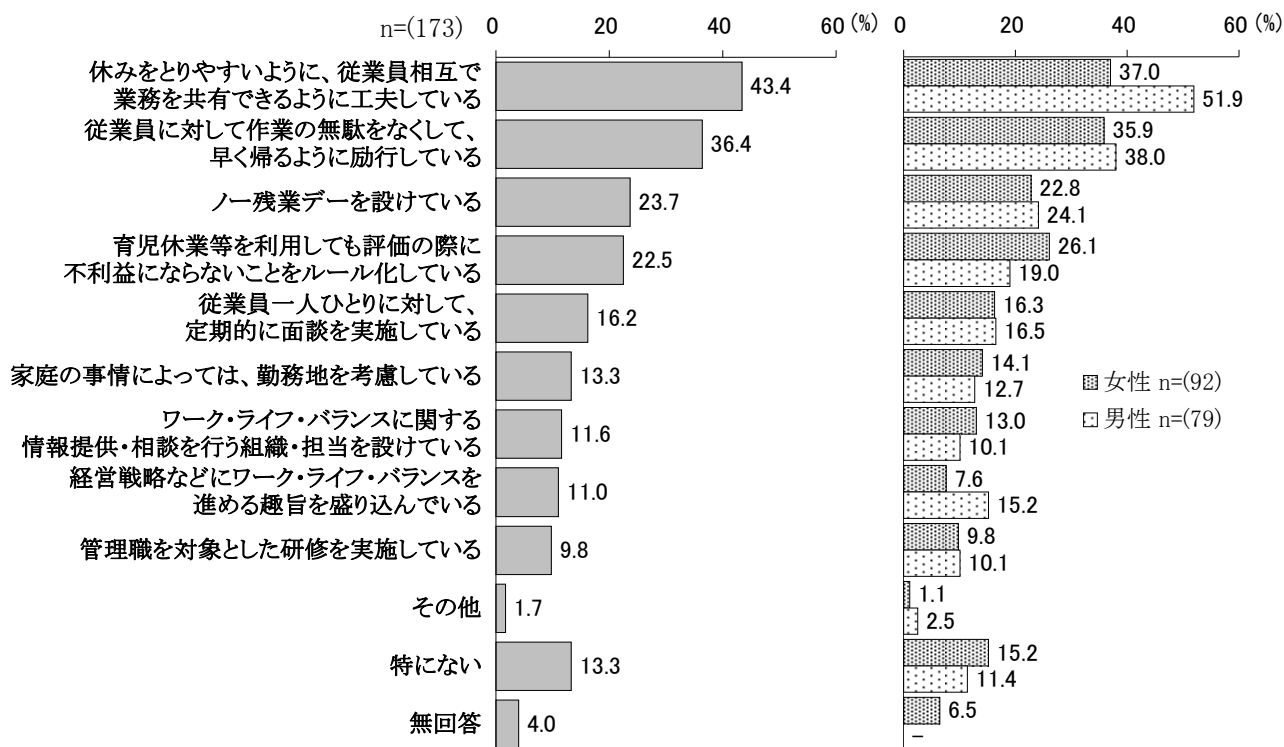
〈実施している取り組み〉



ワーク・ライフ・バランスを実現するため実施している取り組みとしては、「従業員に対して作業の無駄をなくして、早く帰るように励行している」が38.2%で最も多く、以下「従業員が休みがとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるよう工夫している」(29.5%)、「ノー残業デーを設けている」(23.1%)の順で続いている。

性別でみると、男性では「従業員に対して作業の無駄をなくして、早く帰るように励行している」が46.8%と、女性(31.5%)より多くなっている。

〈 効果があると思われる取り組み 〉



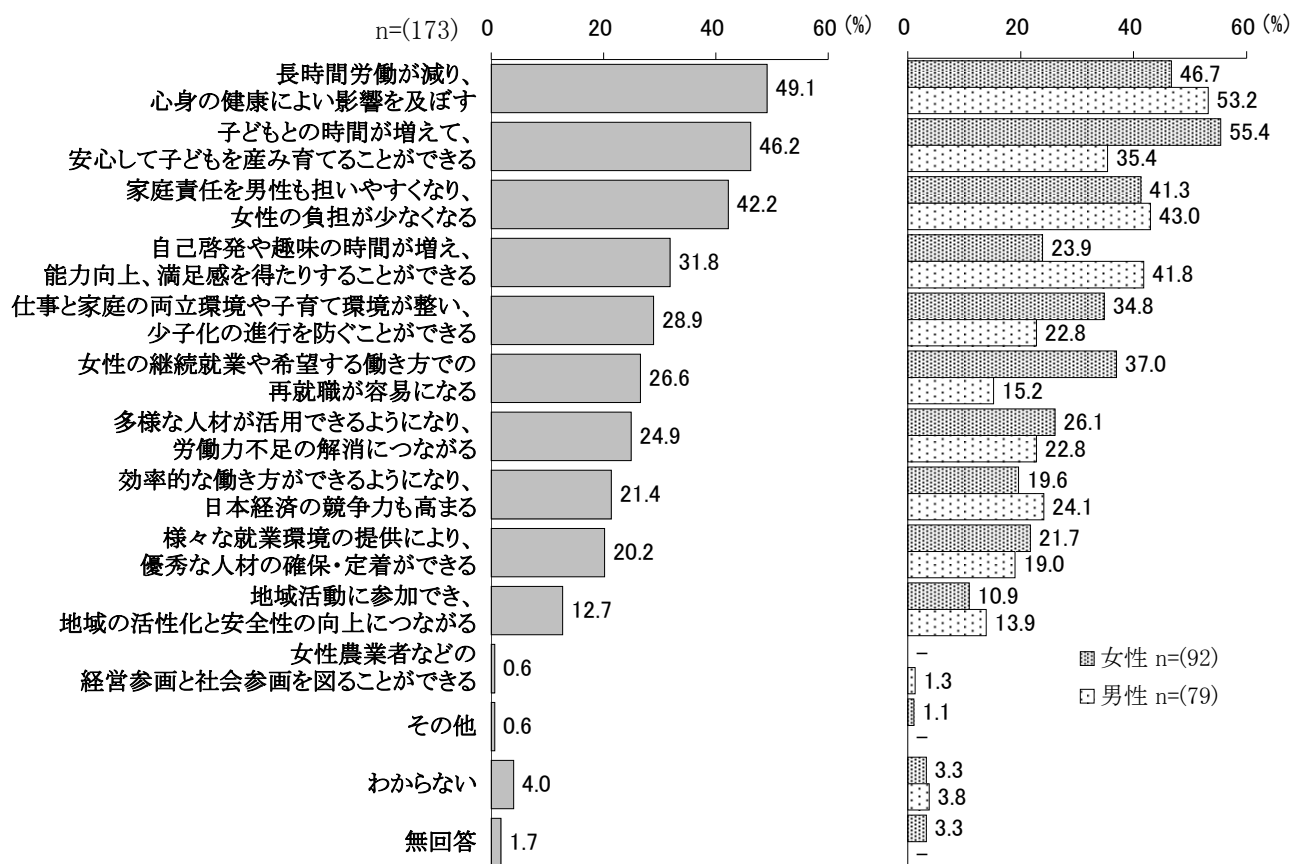
ワーク・ライフ・バランスを実現するために効果があると思われる取り組みとしては、「従業員が休みがとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるよう工夫している」が43.4%で最も多く、以下「従業員に対して作業の無駄をなくして、早く帰るように励行している」(36.4%)、「ノー残業デーを設けている」(23.7%)の順で続いている。

性別でみると、女性では「育児休業や短時間勤務制度を利用しても評価の際に不利益にならないことをルール化している」が26.1%と、男性(19.0%)より多くなっている。

一方、男性では、「従業員が休みがとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるよう工夫している」が51.9%と、女性(37.0%)を上回っている。

(5) 推進によるプラス効果

問11 ワーク・ライフ・バランスを推進することのプラスの効果として考えられるものは何だ
 と思いますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。



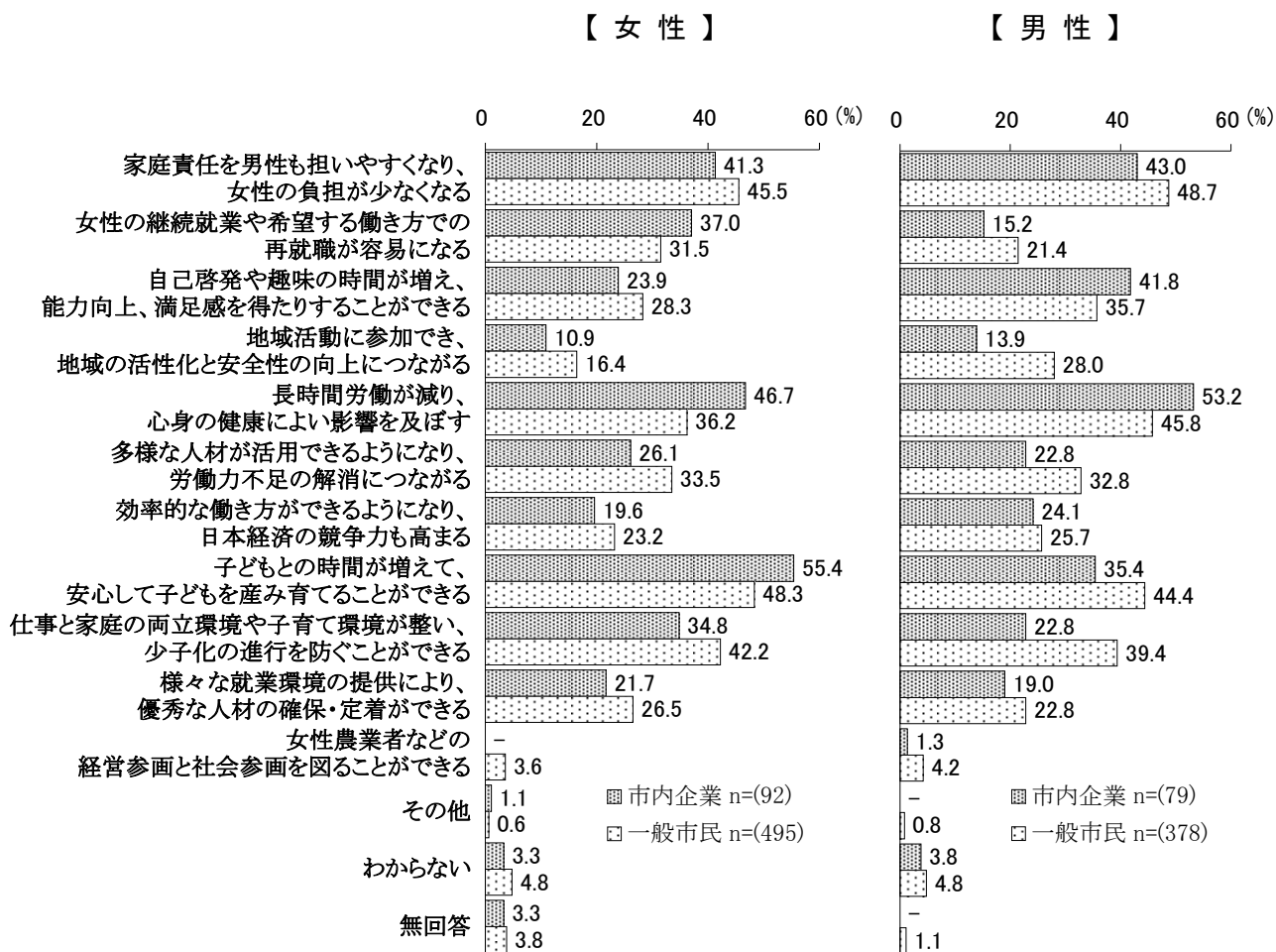
ワーク・ライフ・バランスを推進することのプラス効果としては、「長時間労働が減り、心身の健康にいい影響を及ぼす」が49.1%で最も多く、以下「仕事をもつ男女が、子どもにかかわることができる時間が増え、安心して子どもを産み育てることができる」(46.2%)、「家事・育児・介護などの家庭責任を男性も担いやすくなり、女性の負担が少なくなる」(42.2%)の順で続いている。

性別でみると、女性では、「仕事をもつ男女が、子どもにかかわることができる時間が増え、安心して子どもを産み育てることができる」が55.4%と、男性(35.4%)より多くなっている。

また、「女性の継続就業や希望する働き方での再就職が容易になる」も女性が37.0%と、男性(15.2%)より非常に多い。

一方、男性では、「長時間労働が減り、心身の健康にいい影響を及ぼす」が53.2%と、女性(46.7%)を上回っている。

〈 一般市民調査との比較／推進によるプラス効果 〉

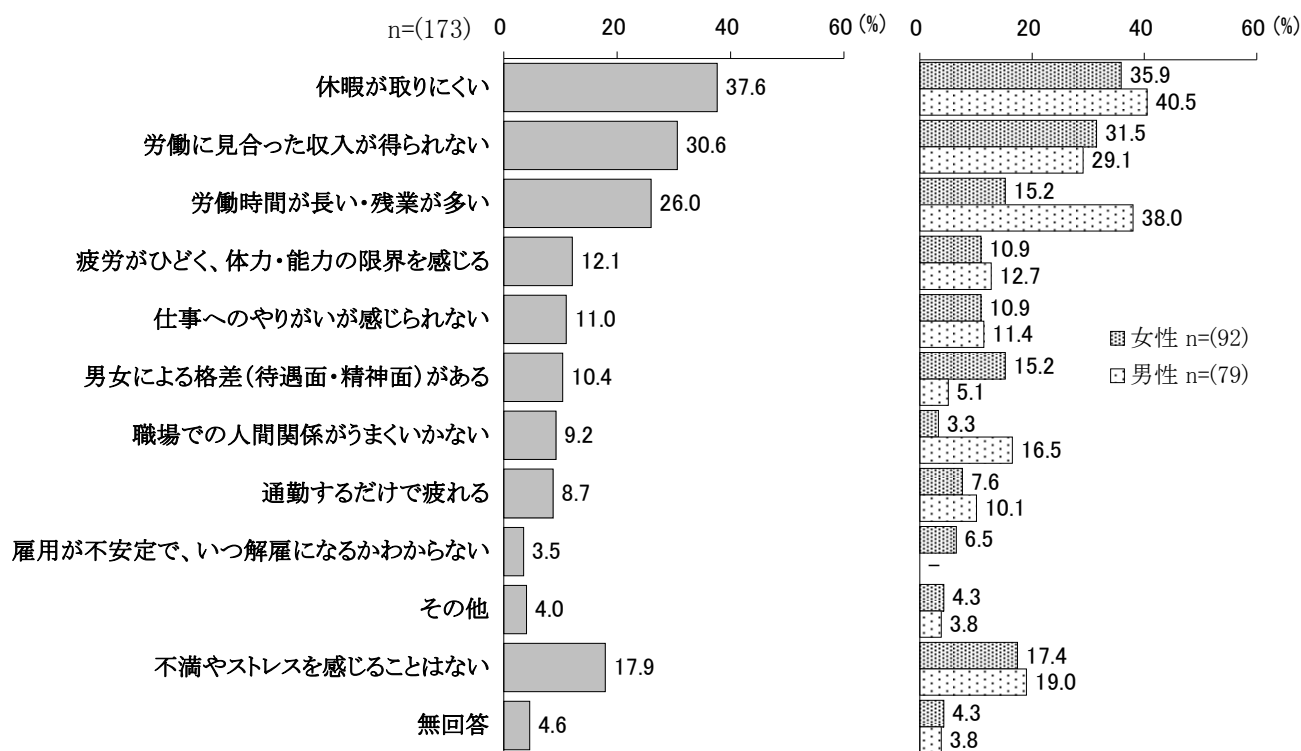


市内企業調査では、男女とも「長時間労働が減り、心身の健康にいい影響を及ぼす」が、一般市民調査の結果より多くなっている。

4. 職場

(1) 不満やストレス

問12 あなたは職場で次のような不満やストレスを感じることがありますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。



職場での不満やストレスとしては、何らかの『不満やストレスを感じる』ことがある』が77.5%と8割近くを占めている。

一方、「不満やストレスを感じることはない」は17.9%である。

性別でみると、何らかの『不満やストレスを感じる』は女性78.3%、男性77.2%である。

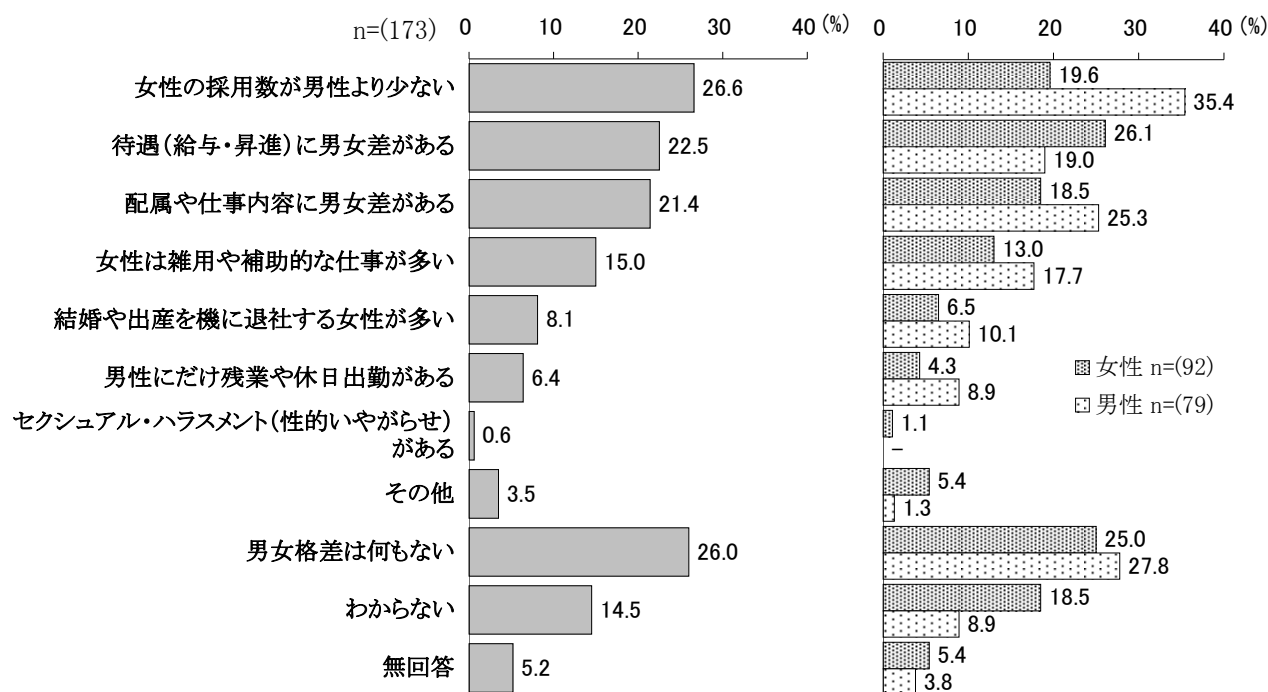
その内容としては、「休暇が取りにくい」が37.6%で最も多く、以下「労働に見合った収入が得られない」(30.6%)、「労働時間が長い・残業が多い」(26.0%)の順となっている。

性別でみると、女性では「男女による格差(待遇面・精神面)がある」が15.2%と、男性(5.1%)より多くなっている。

男性では「労働時間が長い・残業が多い」が38.0%と、女性(15.2%)を上回っている。

(2) 男女格差や性差

問13 あなたの職場には次のような男女格差や性差がありますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。



職場の男女格差・性差については、何らかの『男女格差がある』は54.3%となっている。

一方、「男女格差は何もない」は26.0%である。

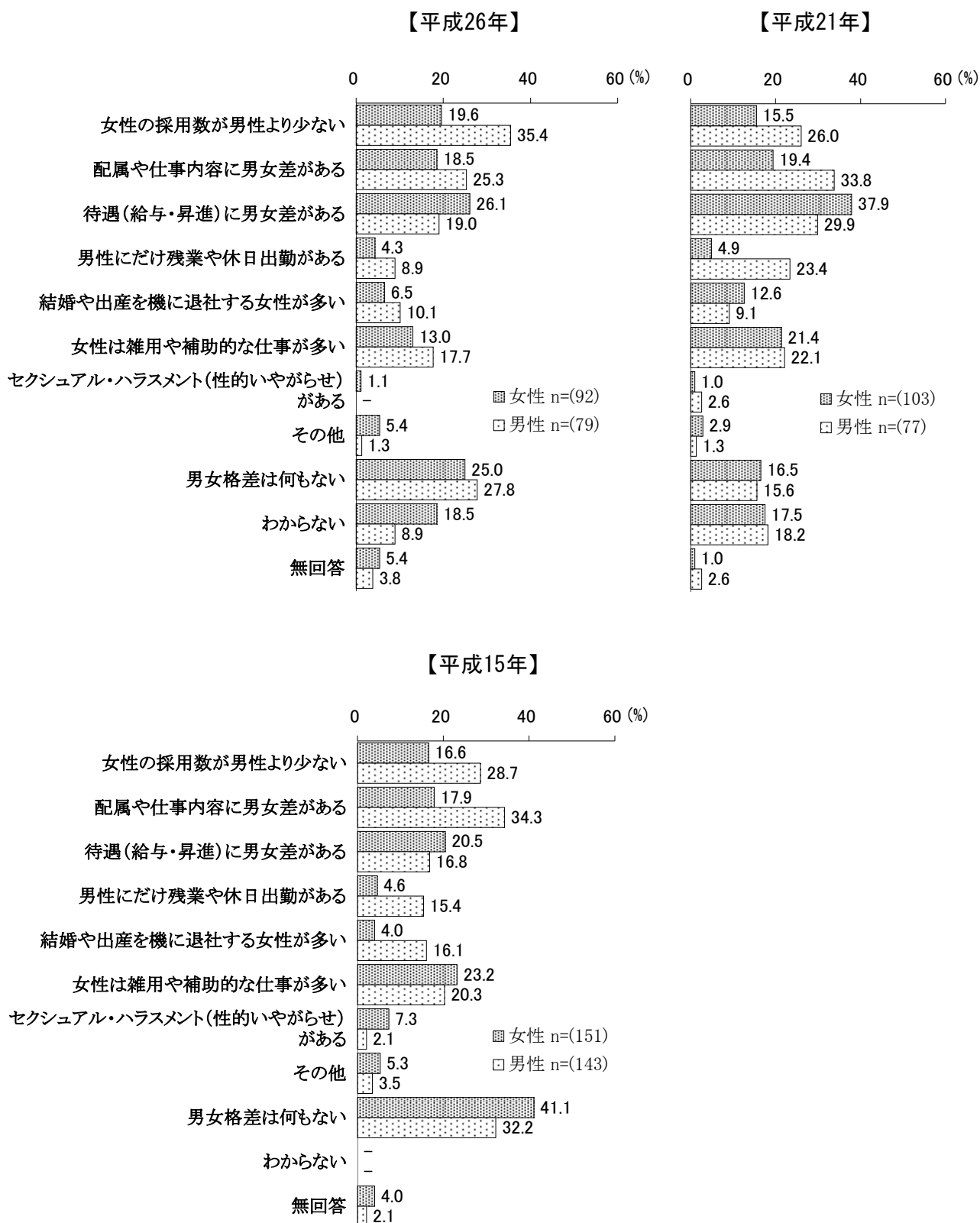
性別でみると、何らかの『男女格差がある』は、女性51.1%、男性59.5%となっている。

その内容としては、「女性の採用数が男性より少ない」(26.6%)、「待遇(給与・昇進)に男女差がある」(22.5%)、「配属や仕事内容に男女差がある」(21.4%)が、いずれも2割を超えている。

性別でみると、女性では「待遇(給与・昇進)に男女差がある」が26.1%と、男性(19.0%)より多くなっている。

一方、男性では「女性の採用数が男性より少ない」が35.4%と女性(19.6%)を上回っているほか、「配属や仕事内容に男女差がある」(25.3%)も多くなっている。

〈 経年比較／男女格差や性差 〉

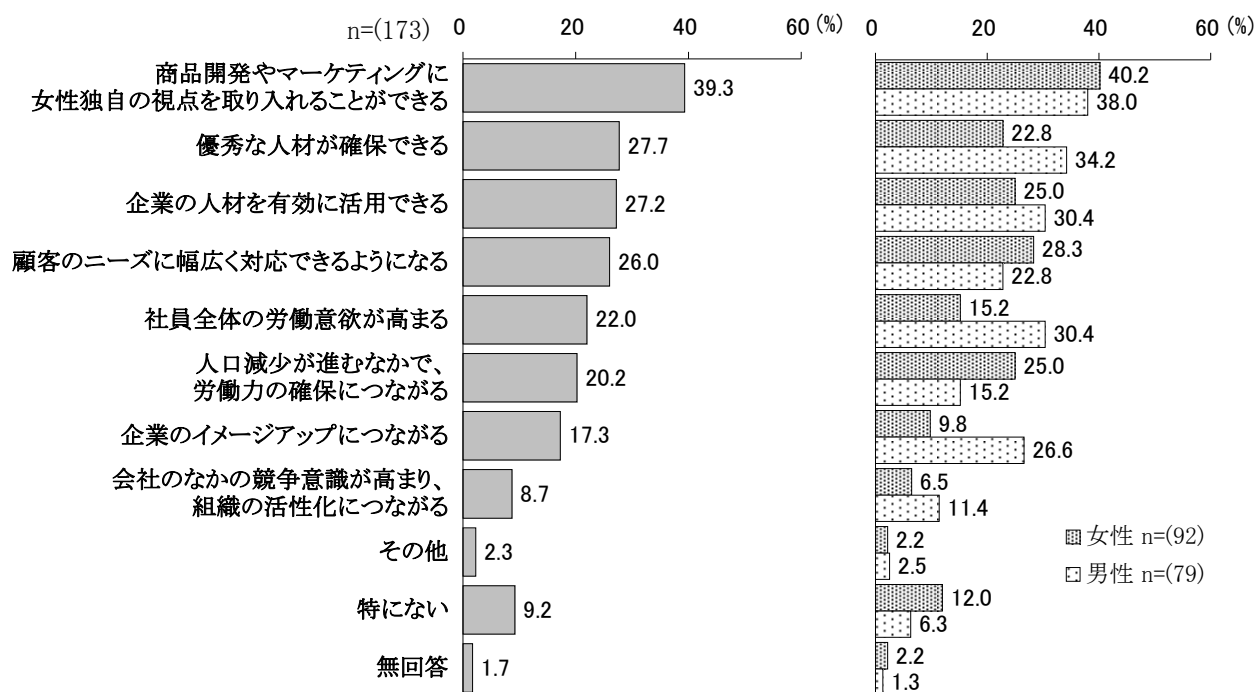


(注)「結婚や出産を機に退社する女性が多い」は、平成21年・15年調査では「結婚退社する女性が多い」。また、平成15年調査では「わからない」という選択肢は設けていない。

経年で比較すると、女性で「配属や仕事内容に男女差がある」は減少してきている。

(3) 職場での女性の積極的活用による効果

問14 職場で女性を積極的に活用することによって、企業の活動にどのような効果があると思いますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。



職場での女性の積極的活用による効果としては、「商品開発やマーケティングに女性独自の視点を取り入れることができる」が39.3%で最も多く、以下「優秀な人材が確保できる」(27.7%)、「企業の人材を有効に活用できる」(27.2%)、「顧客のニーズに幅広く対応できるようになる」(26.0%)の順で続いている。

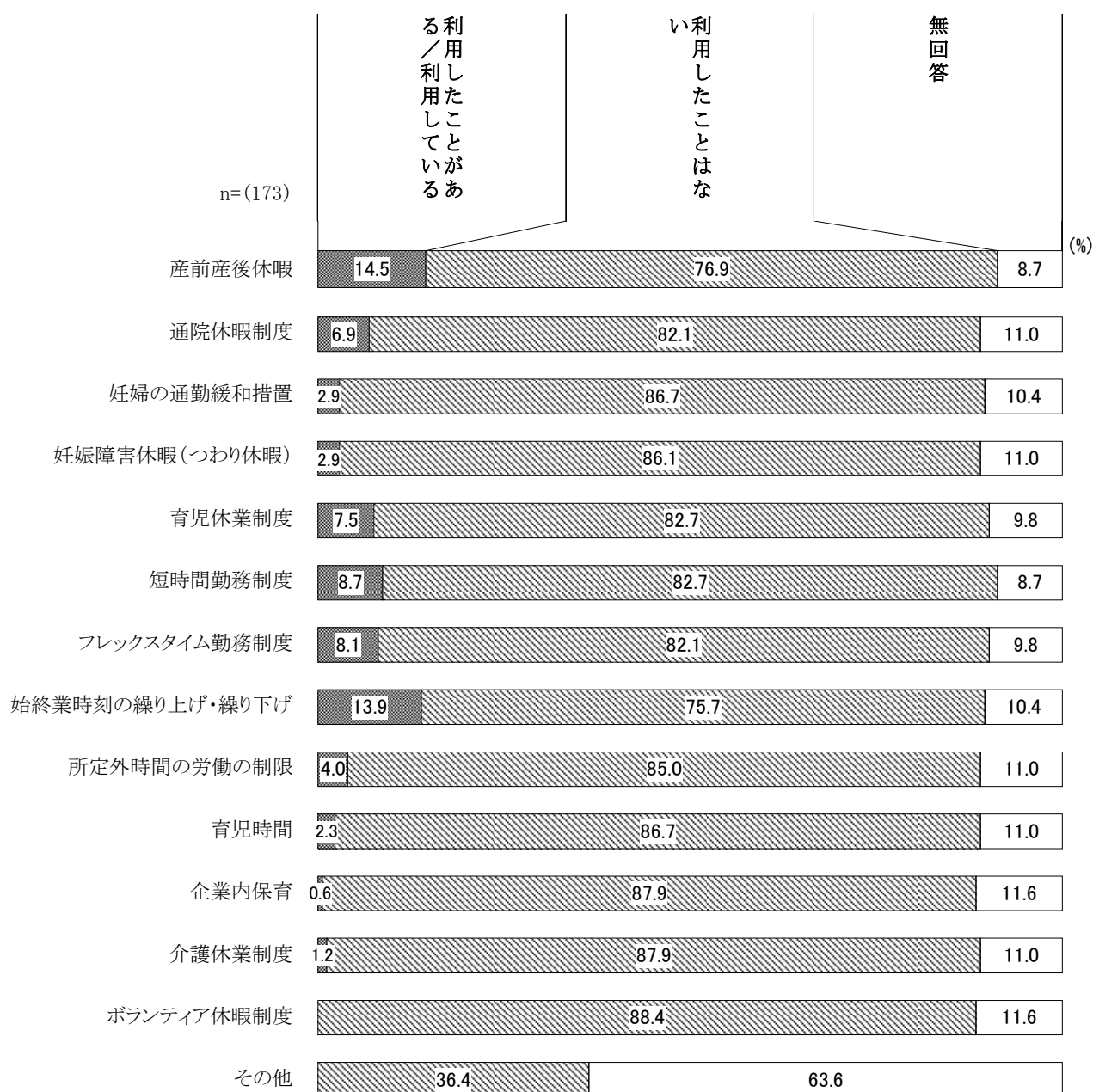
性別でみると、女性では「顧客のニーズに幅広く対応できるようになる」が28.3%、「人口減少が進むなかで、労働力の確保につながる」が25.0%と、いずれも男性より多くなっている。

男性では「優秀な人材が確保できる」が34.2%、「企業の人材を有効に活用できる」「社員全体の労働意欲が高まる」が30.4%と、いずれも女性を上回っている。

(4) 制度の利用経験と今後の利用意向

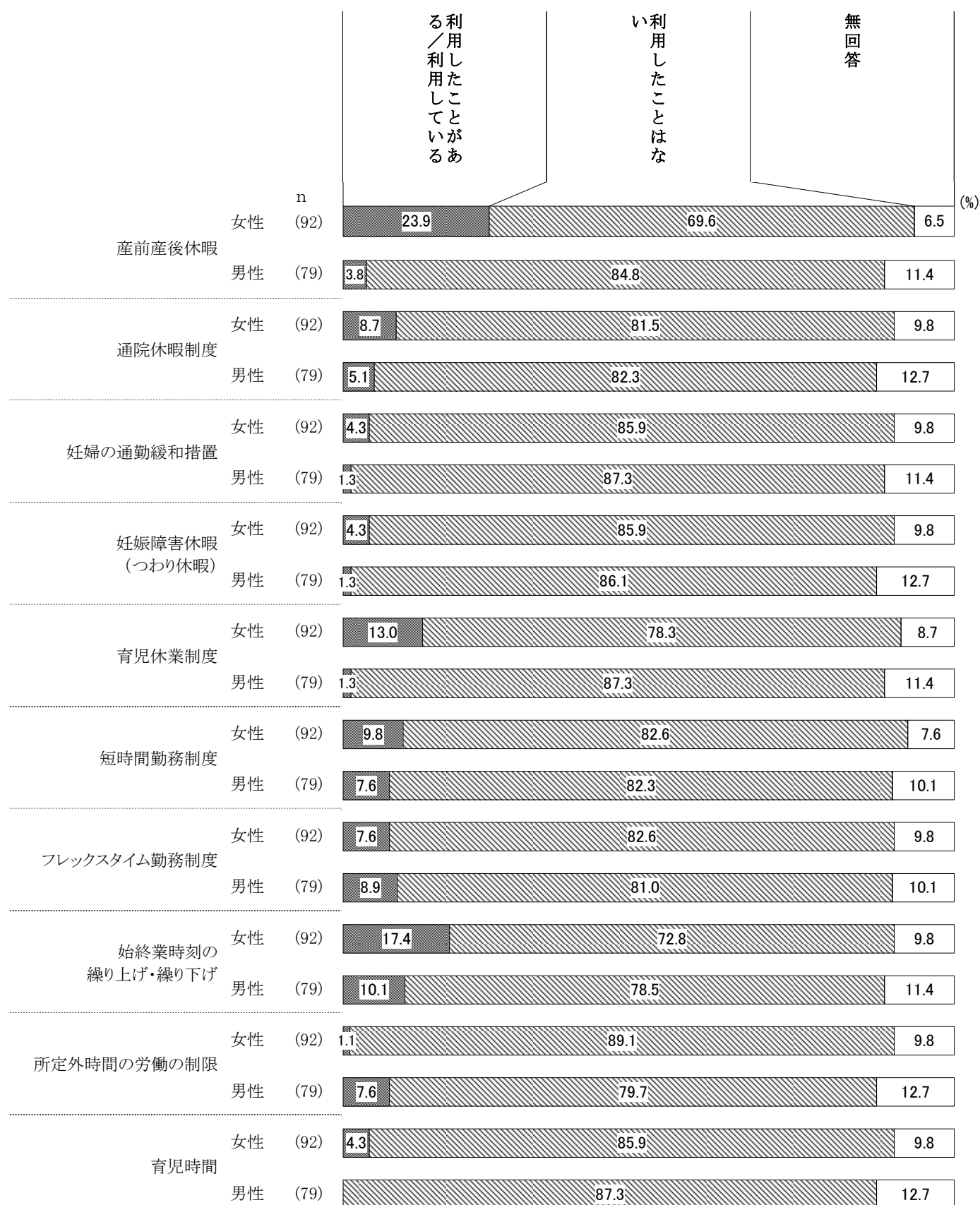
問15 次のA～Nの各制度について、あなたは現在までに利用経験がありますか。また、今後の利用／導入をしてほしいと思いますか。各制度ごとに利用経験と今後の意向、それぞれに○をつけてください。

〈 利用経験 〉

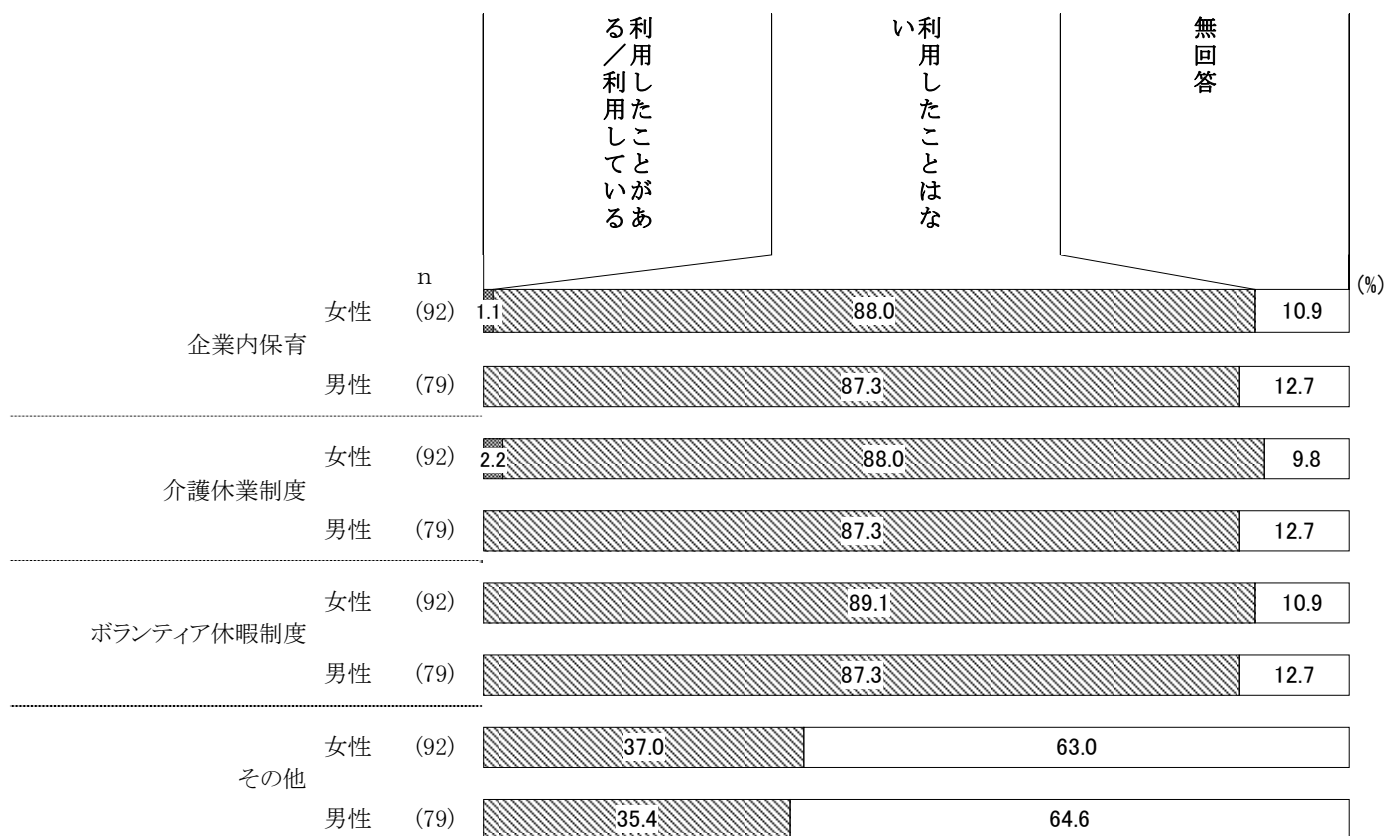


各種制度の現在までの利用状況を「利用したことがある／利用している」の多い順に整理すると、〈産前産後休暇〉が14.5%で最も多く、以下〈始終業時刻の繰り上げ・繰り下げ〉(13.9%)、〈短時間勤務制度〉(8.7%)、〈フレックスタイム勤務制度〉(8.1%)、〈育児休業制度〉(7.5%)の順が続いている。

〈 性別／利用経験① 〉

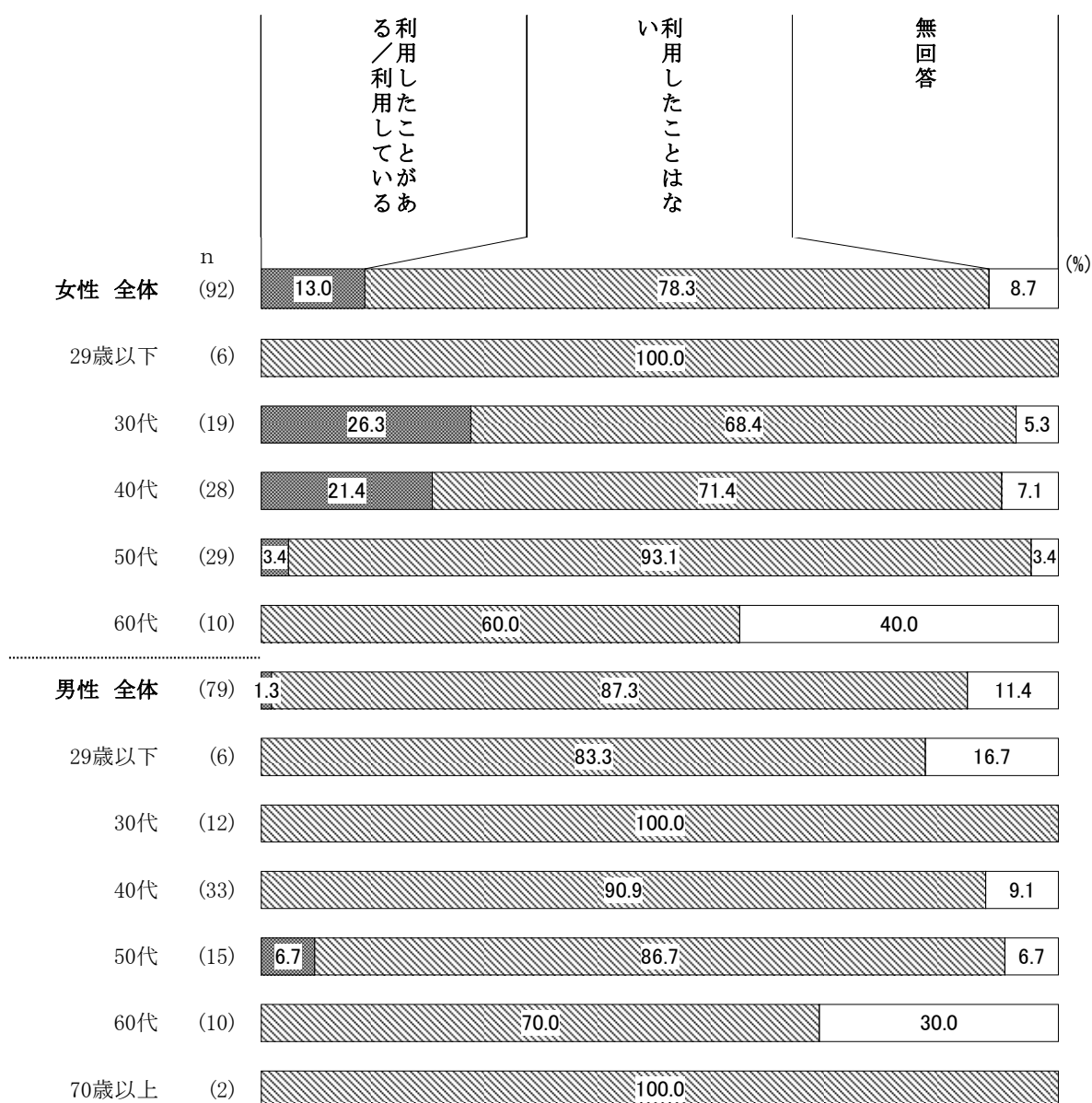


〈性別／利用経験②〉



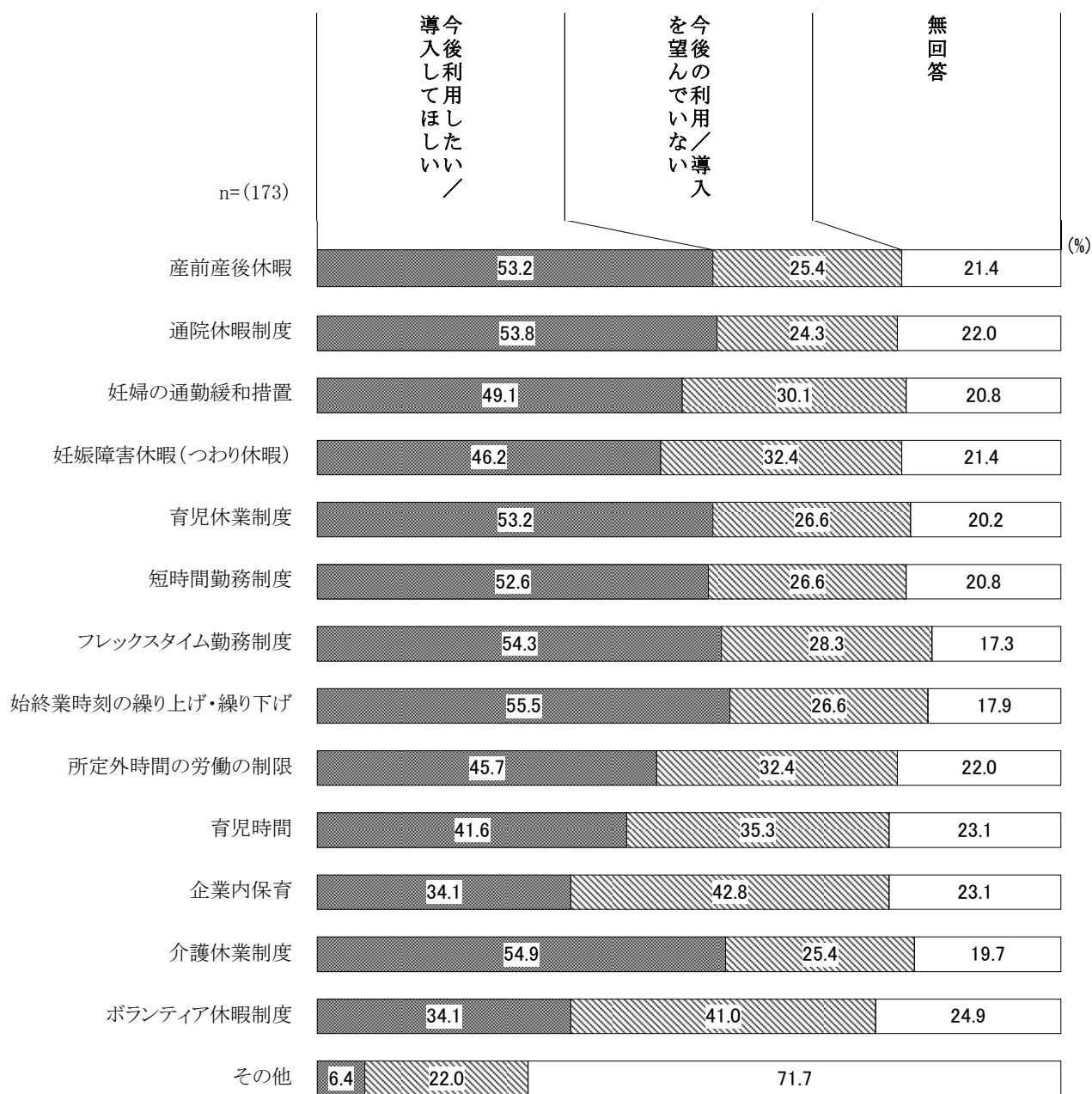
性別でみると、女性では〈産前産後休暇〉（23.9％）、〈始終業時刻の繰り上げ・繰り下げ〉（17.4％）、〈育児休業制度〉（13.0％）、〈短時間勤務制度〉（9.8％）、〈通院休暇制度〉（8.7％）の利用率が、他の制度に比べてやや多くなっている。

〈 性・年代別／利用経験／育児休業制度 〉



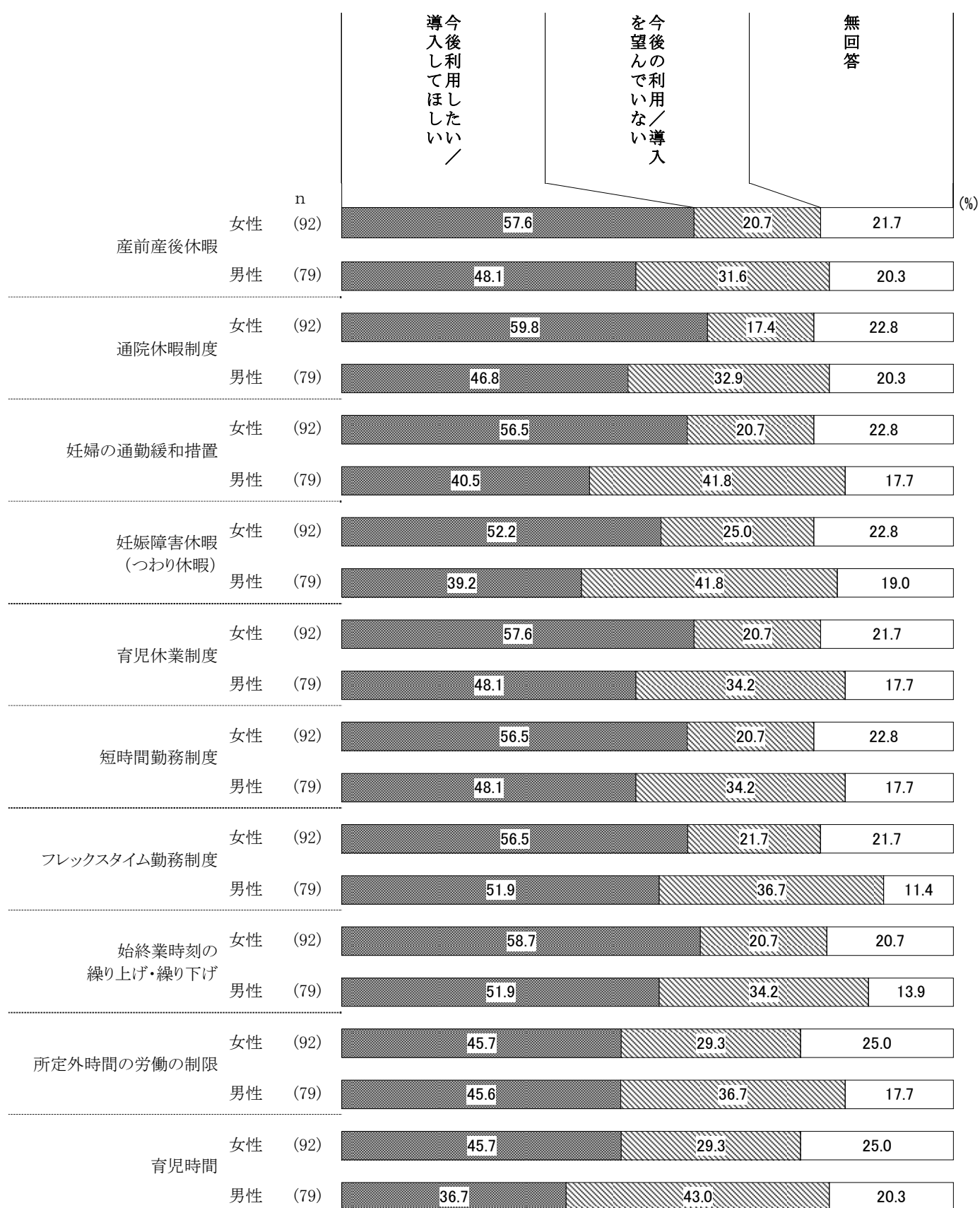
〈育児休業制度〉について性・年代別でみると、女性の30代で「利用したことがある／利用している」が26.3%、40代で21.4%と、他の年代より多くなっている。

〈 今後の利用意向 〉

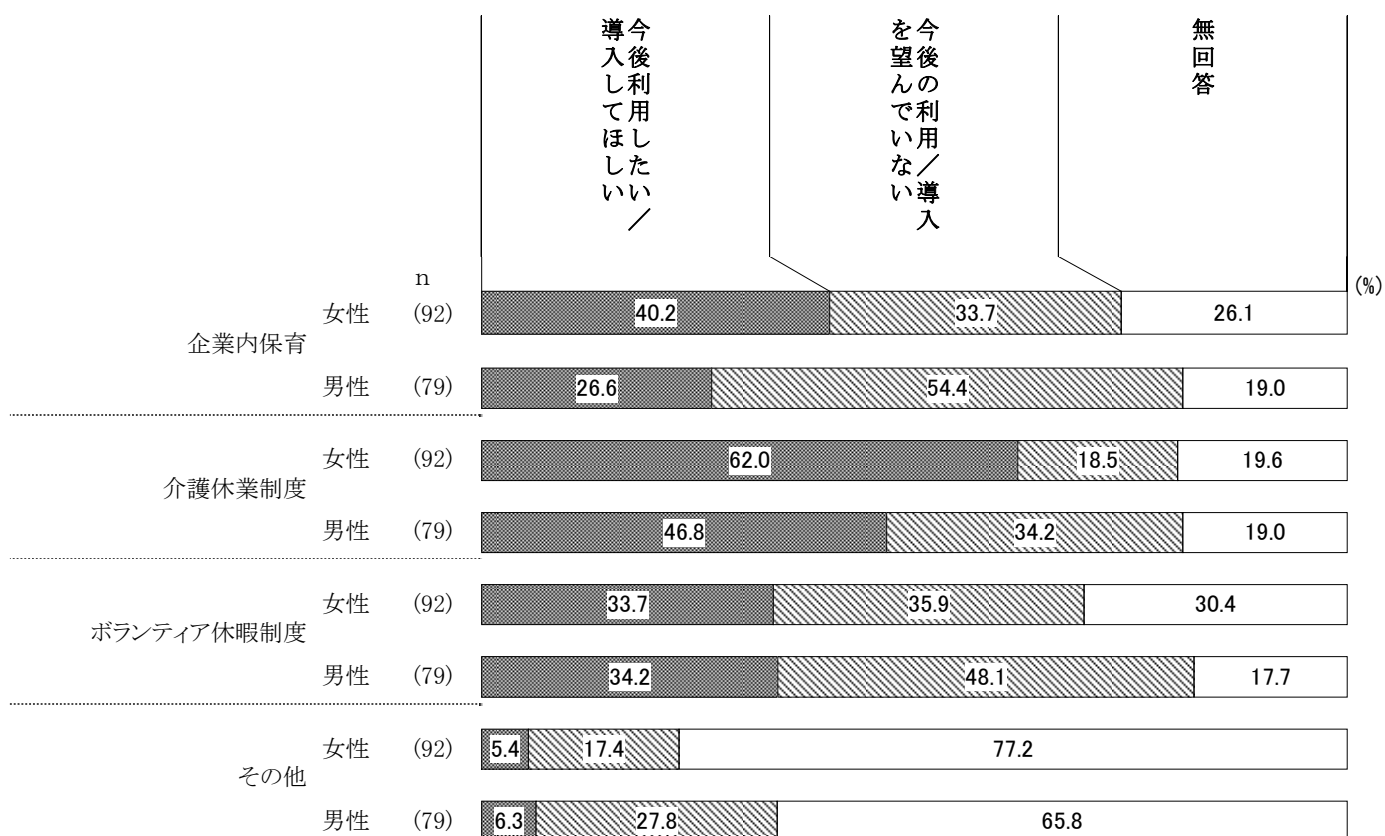


各制度の利用意向を「今後利用したい／導入してほしい」の多い項目をみると、上位はほぼ等しくなっており、〈始終業時刻の繰り上げ・繰り下げ〉(55.5%)、〈介護休業制度〉(54.9%)、〈フレックスタイム勤務制度〉(54.3%)、〈通院休暇制度〉(53.8%)、〈産前産後休暇〉〈育児休業制度〉(ともに53.2%)、〈短時間勤務制度〉(52.6%)の7項目が5割を超えている。

〈 性別／今後の利用意向① 〉



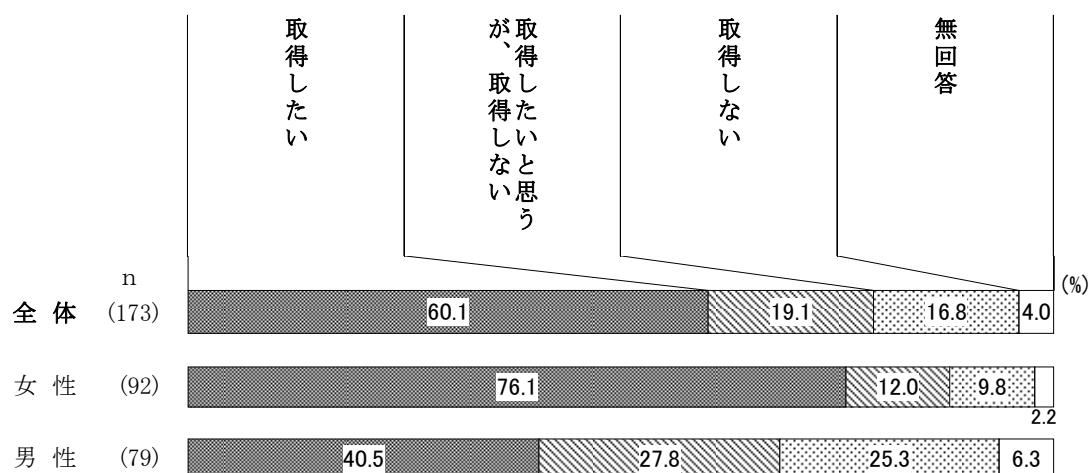
〈性別／今後の利用意向②〉



性別で各制度の利用・導入意向をみると、女性では〈介護休業制度〉(62.0%)が6割を超えているほか、〈通院休暇制度〉(59.8%)、〈始終業時刻の繰り上げ・繰り下げ〉(58.7%)なども僅差で続いている。

(5) 子どもが生まれたと仮定した場合の育児休業の取得

問16 今、あなたに子どもが生まれたとしたら、育児休業を取得したいと思いますか。生まれたと仮定してお答えください。1つ選んで番号に○をつけてください。



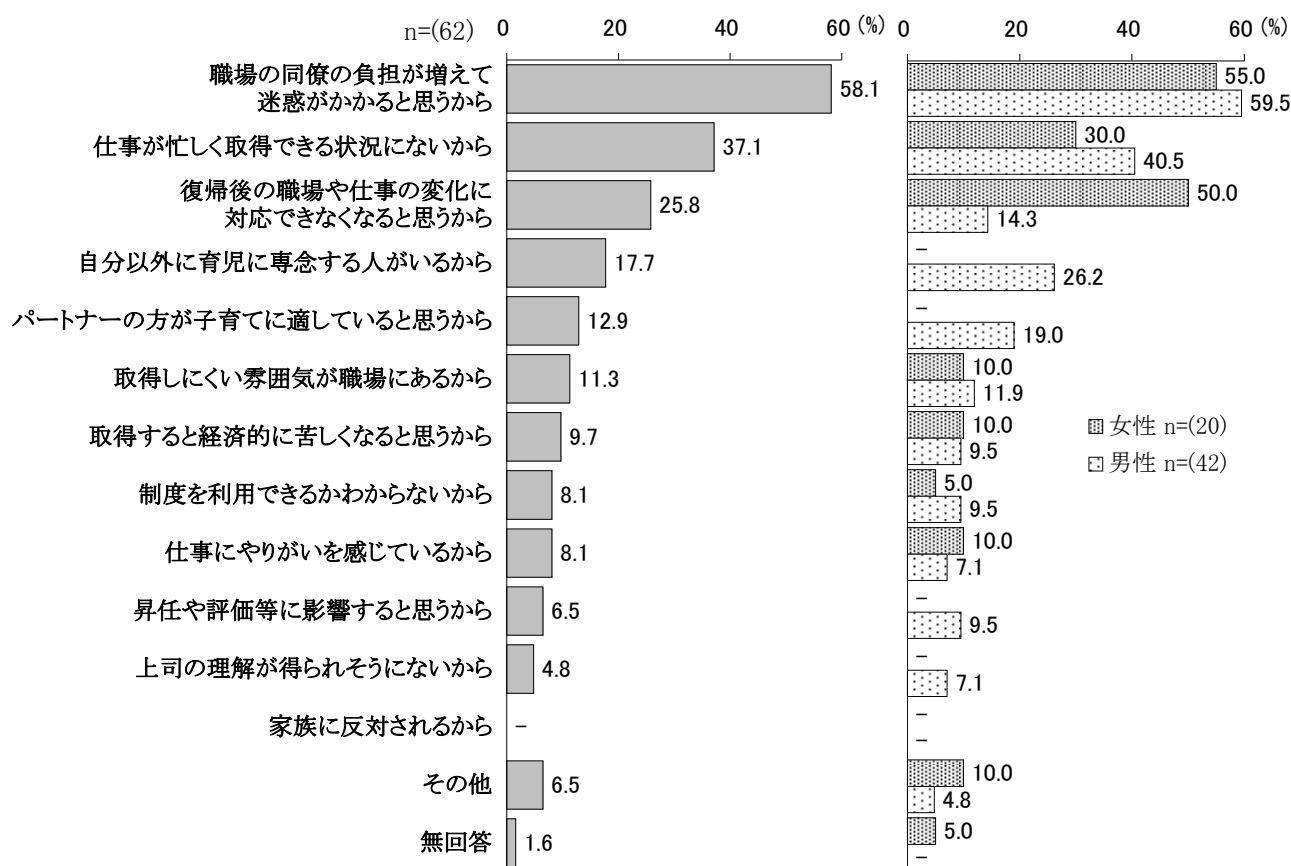
子どもが生まれたと仮定した場合、育児休業を「取得したい」が60.1%、「取得したいと思うが、取得しない」が19.1%となっている。

性別でみると、女性では「取得したい」が76.1%と、男性（40.5%）より多くなっている。

(6) 育児休業を取得しないと思っている理由

問16で「2 取得したいと思うが、取得しない」、または「3 取得しない」と回答された方にお聞きします。）

問16-1 取得しない理由は何ですか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

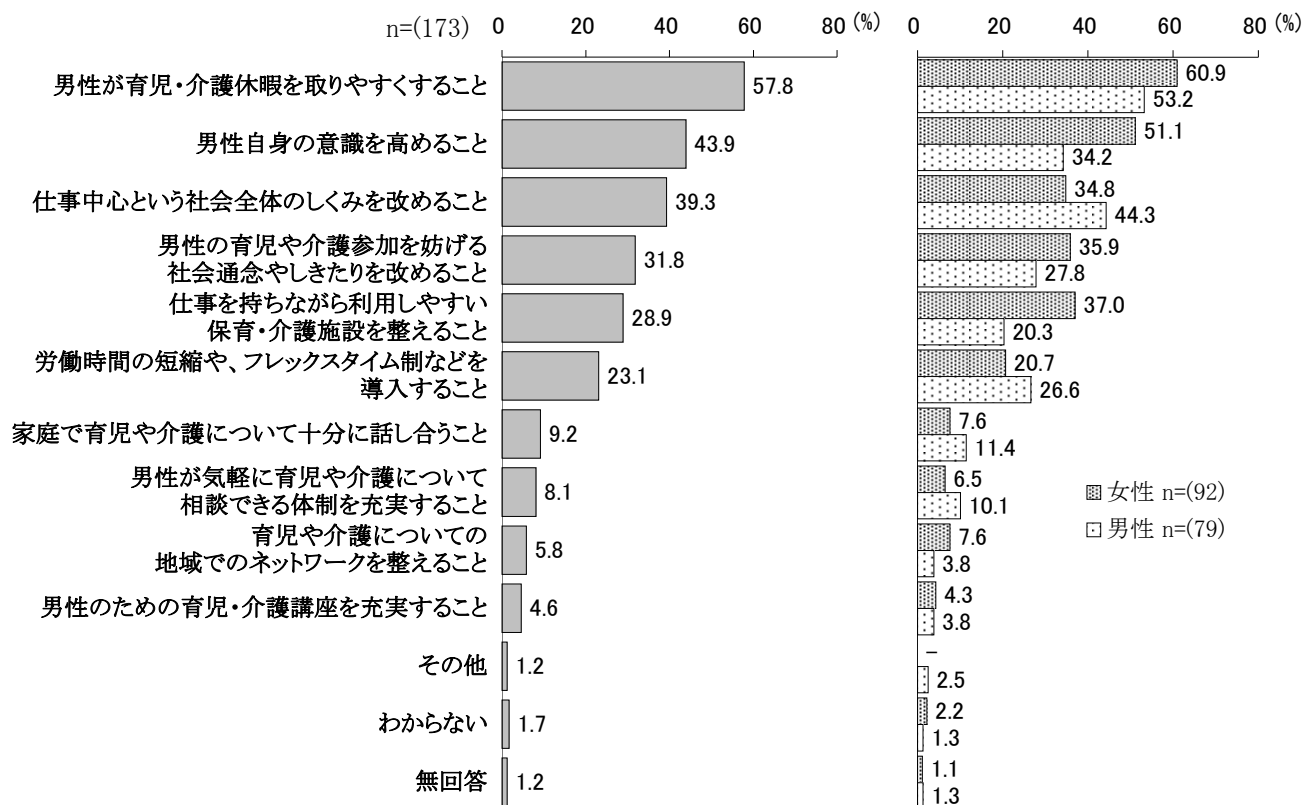


「取得したいと思うが、取得しない」「取得しない」という人に、その理由をきいたところ、「職場の同僚の負担が増えて迷惑がかかると思うから」が58.1%で最も多く、次いで「仕事が忙しくて取得できる状況にないから」が37.1%となっている。

性別でみると、女性では「復帰後の職場や仕事の変化に対応できなくなると思うから」が50.0%と、男性（14.3%）を大きく上回っている。

(7) 男性が介護などに参加していくために必要なこと

問17 男性が女性とともに育児や介護などに参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

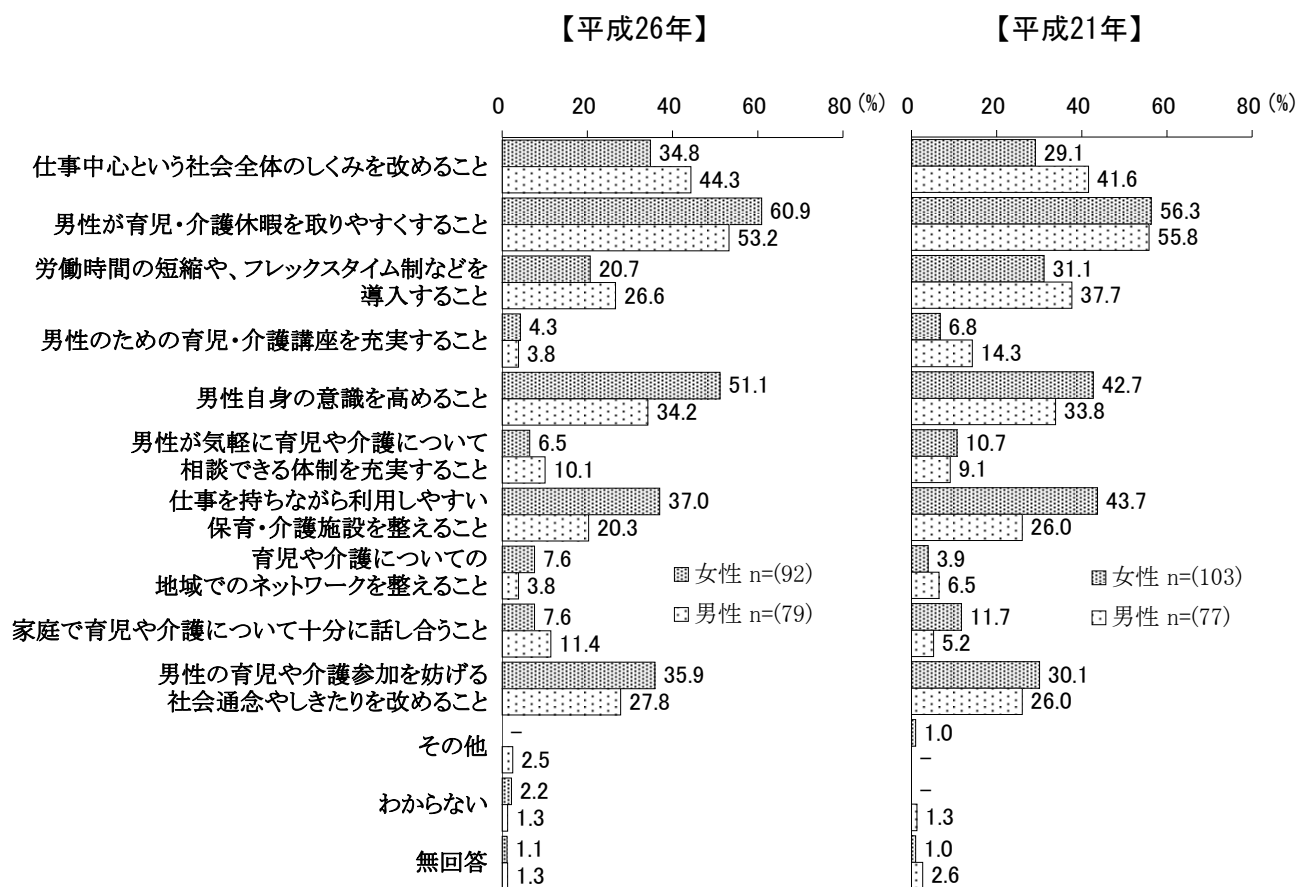


男性が育児・介護などに参加していくために必要なものとしては、「男性が育児・介護休暇取得を取りやすくすること」が57.8%で最も多く、以下「男性自身の意識を高めること」(43.9%)、「仕事中心という社会全体のしきみを改めること」(39.3%)の順が続いている。

性別でみると、女性では「男性が育児・介護休暇取得を取りやすくすること」が60.9%と、男性(53.2%)より多くなっているほか、「男性自身の意識を高めること」も51.1%を占めている。

男性では、「仕事中心という社会全体のしきみを改めること」が44.3%と、女性(34.8%)より多くなっている。

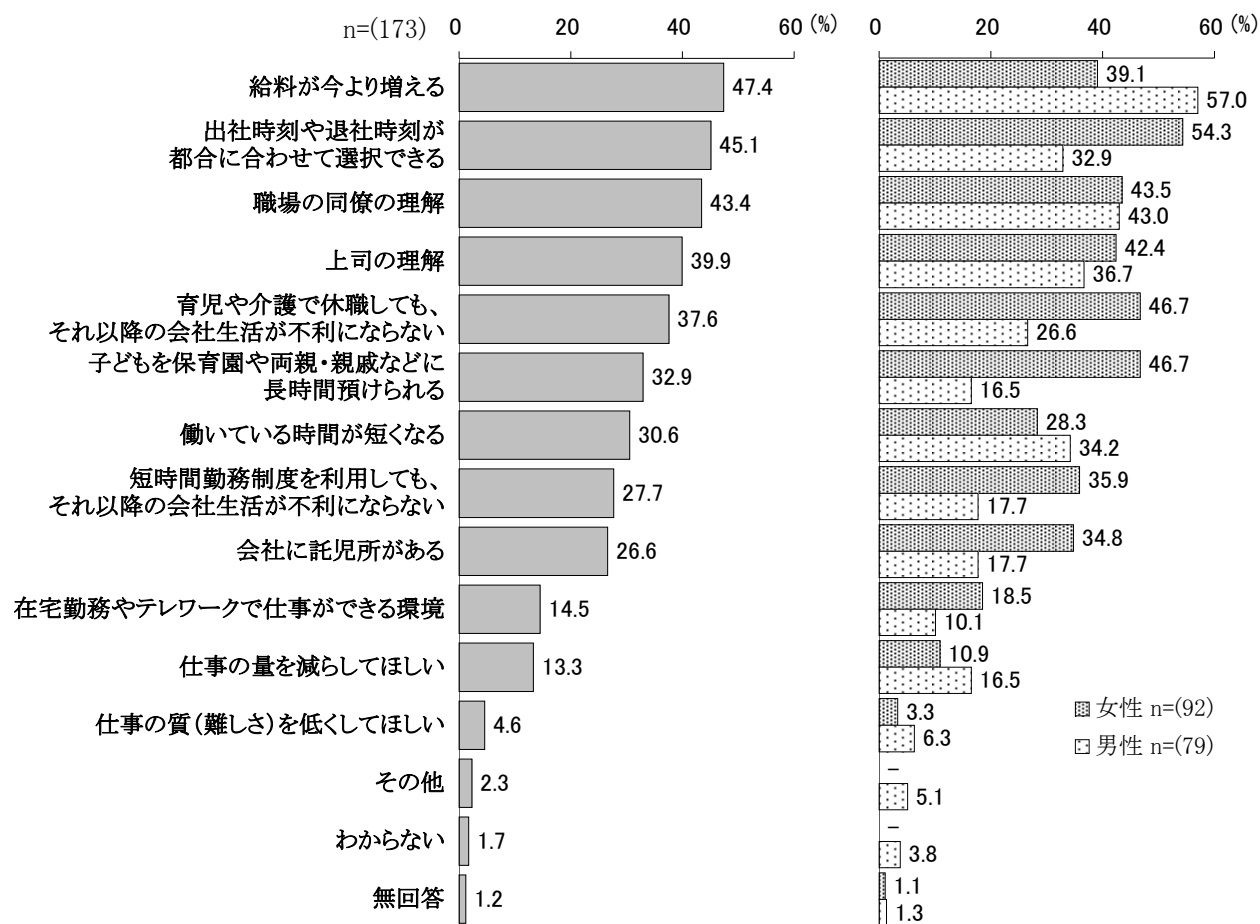
〈 経年比較／男性が介護などに参加していくために必要なこと 〉



経年で比較すると、女性では「男性自身の意識を高めること」が42.7%から51.1%へと増加している。

(8) 仕事と生活の両立がよりよくできる環境

問18 あなたはどのような環境があれば、仕事と生活の両立が、よりよくできると思いますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。

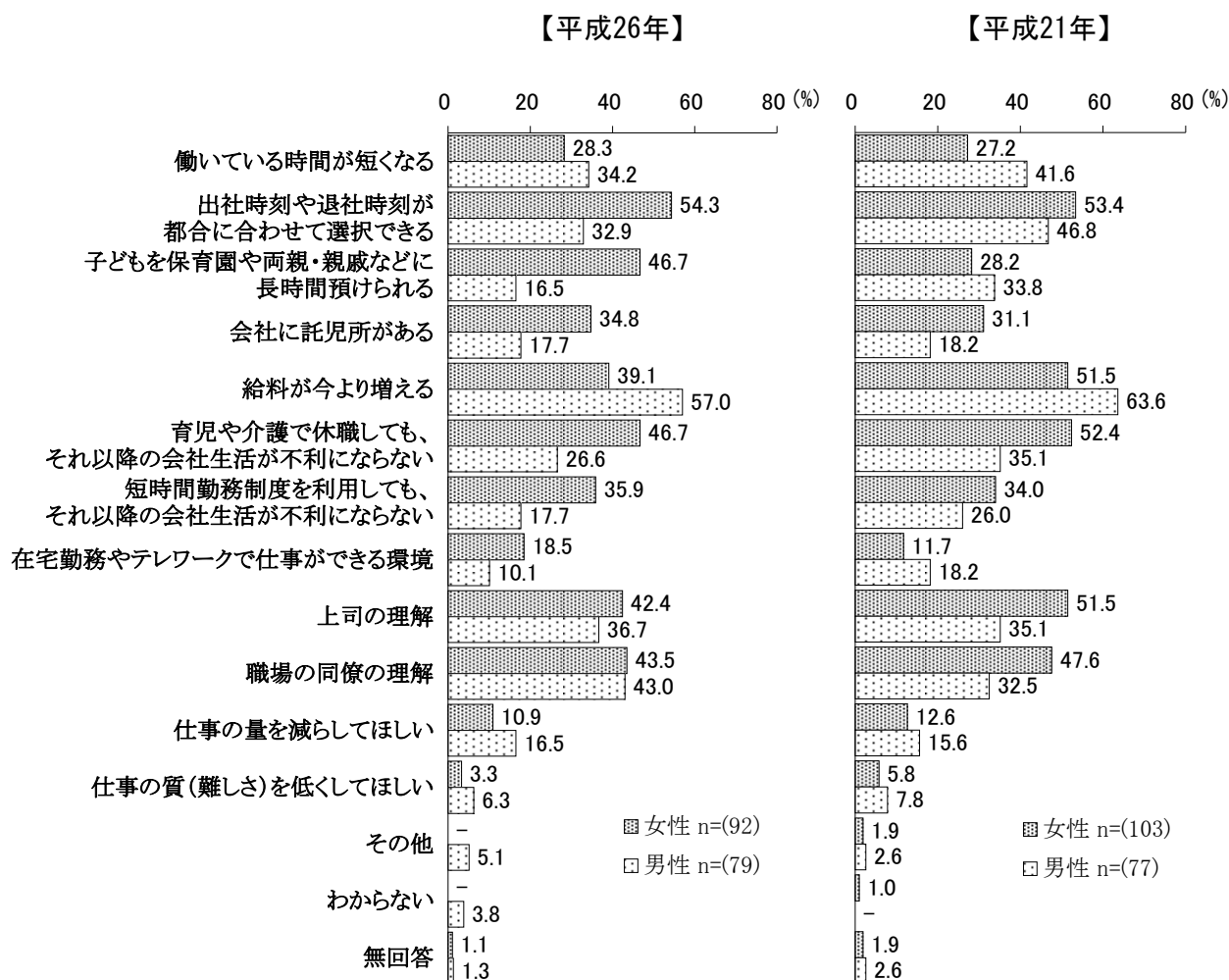


仕事と生活の両立がよりよくできる環境としては、「給料が今より増える」(47.4%)、「出社時刻や退社時刻が都合に合わせて選択できる」(45.1%)、「職場の同僚の理解」(43.4%)が、いずれも4割を超えて、特に多くなっている。

性別でみると、女性では「出社時刻や退社時刻が都合に合わせて選択できる」が54.3%と、男性(32.9%)より多くなっているほか、「子どもを保育園や両親・親戚などに長時間預けられる」「育児や介護で休職しても、それ以降の会社生活が不利にならない」(ともに46.7%)も、男性より多くなっている。

男性では、「給料が今より増える」が57.0%と、女性(39.1%)より多くなっている。

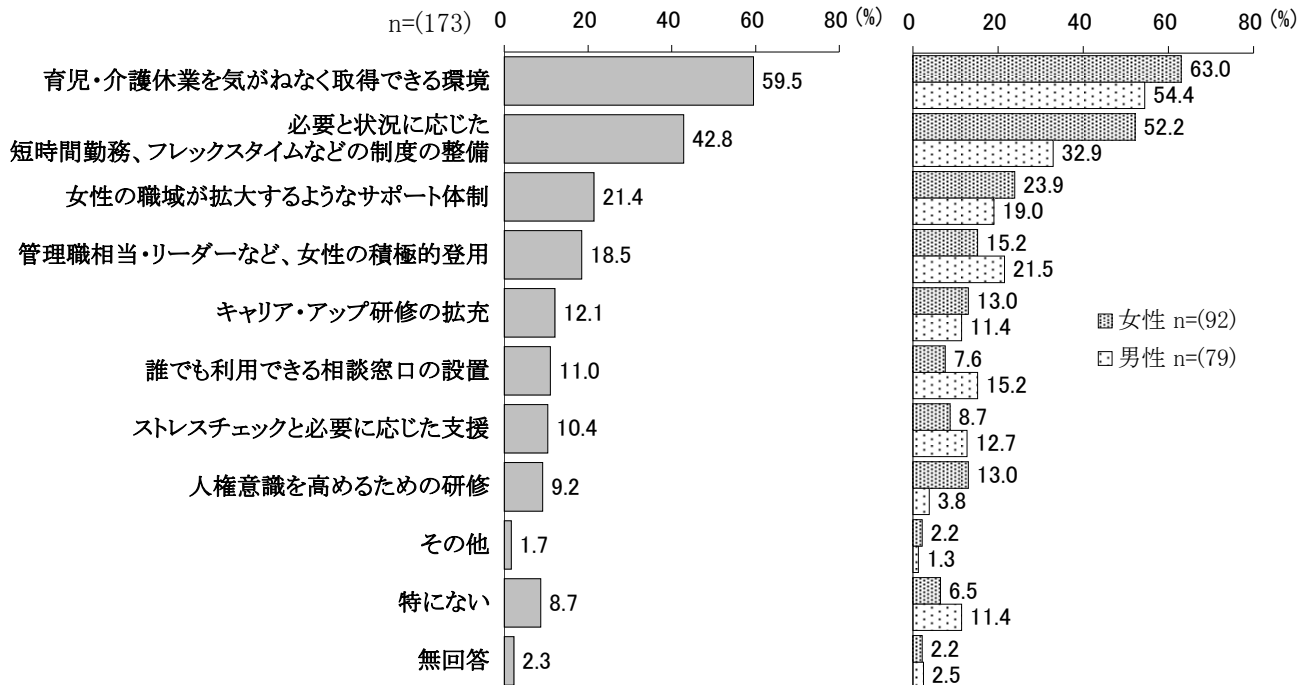
〈 経年比較／仕事と生活の両立がよりよくできる環境 〉



経年で比較すると、女性では「子どもを保育園や両親・親戚などに長時間預けられる」が、28.2%から、46.7%へと大幅に増加している。

(9) より良い職場環境に向けて、今後実施してほしいこと

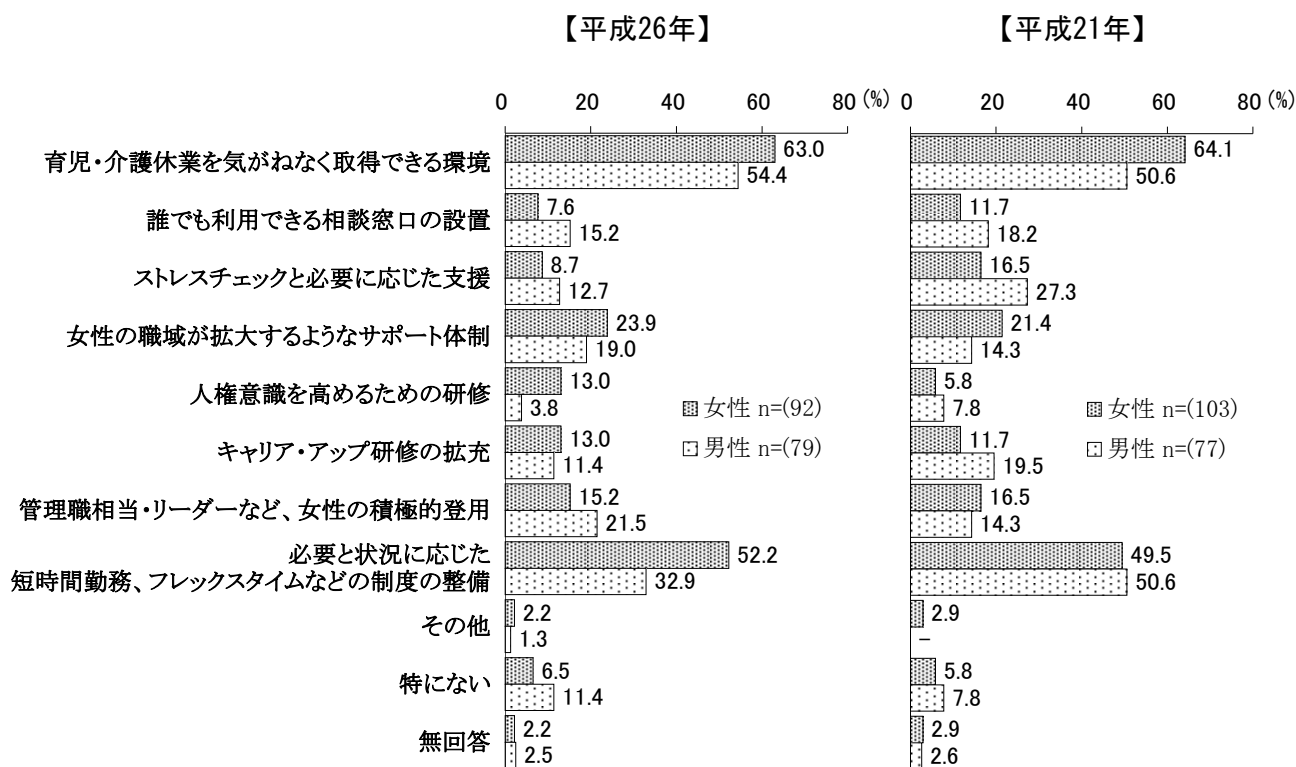
問19 より良い職場環境に向けて、今後実施してほしいことは何ですか。該当するものすべての番号に○をつけてください。



より良い職場環境に向けて、今後実施してほしいこととしては、「育児・介護休業を気がねなく取得できる環境」が59.5%で最も多く、次いで「必要と状況に応じた短時間勤務、フレックスタイムなどの制度の整備」が42.8%となっている。

性別でみると、女性では「育児・介護休業が気がねなく取得できる環境」が63.0%と、男性（54.4%）を上回っているほか、「必要と状況に応じた短時間勤務、フレックスタイムなどの制度の整備」も52.2%と男性より多くなっている。

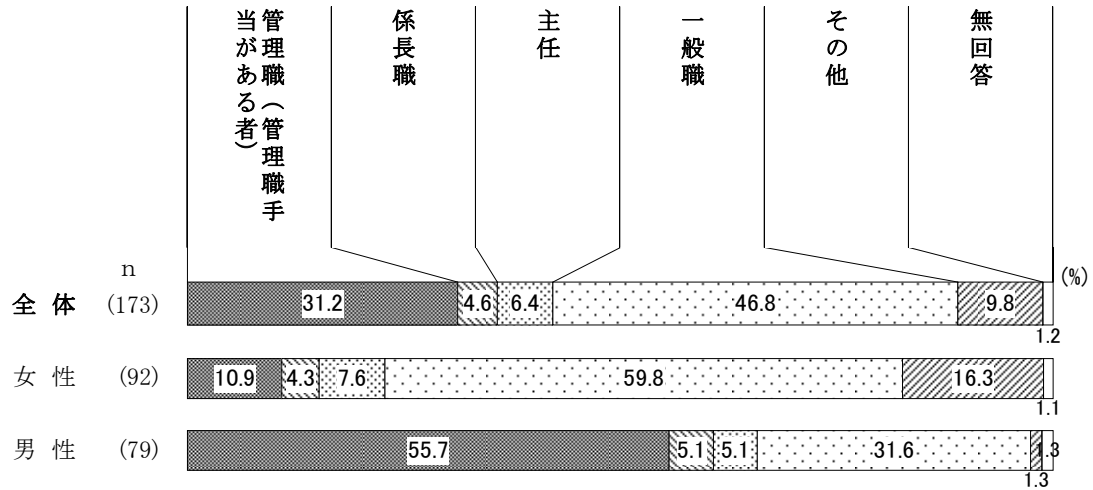
〈 経年比較／より良い職場環境に向けて、今後実施してほしいこと 〉



経年で比較すると、女性で、「育児・介護休業を気がねなく取得できる環境」と「必要と状況に応じた短時間勤務、フレックスタイムなどの制度の整備」に集中する傾向は変わっていない。

(10) 現在の職層

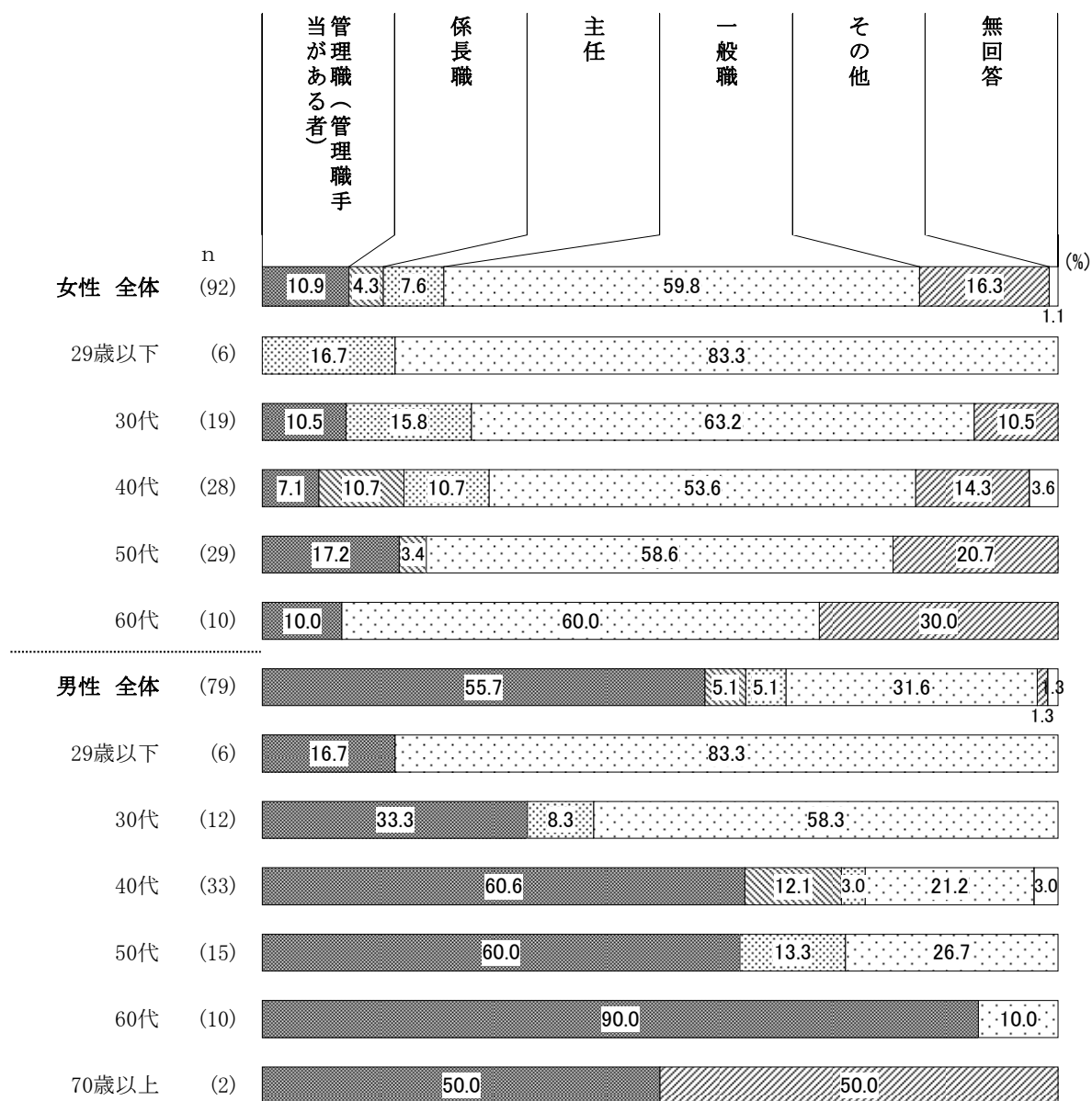
問20 あなたの現在の職層はどこに該当しますか。1つ選んで番号に○をつけてください。



現在の職層としては、「一般職」が46.8%で最も多く、以下「管理職（管理職手当がある者）」（31.2%）、「主任」（6.4%）、「係長職」（4.6%）の順が続いている。

性別でみると、女性では「一般職」が59.8%と6割近くを占めている。一方、男性では「管理職（管理職手当がある者）」が55.7%で最も多く、次いで「一般職」が31.6%となっている。

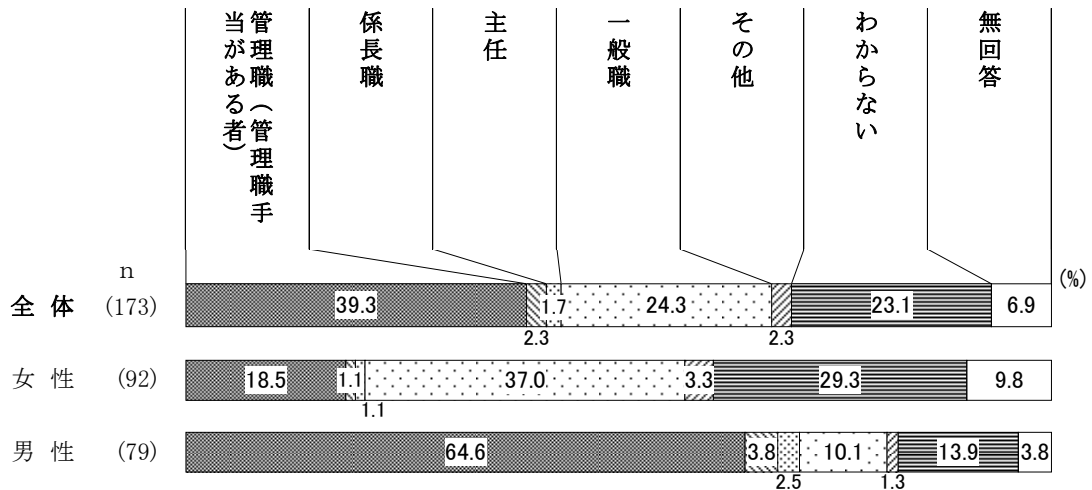
〈 参考：性・年代別／現在の職層 〉



（注）各年代の回答者が少ないので、参考に留める。

(11) 将来希望する職層

問21 あなたは、将来的にはどのような職層で働きたいと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

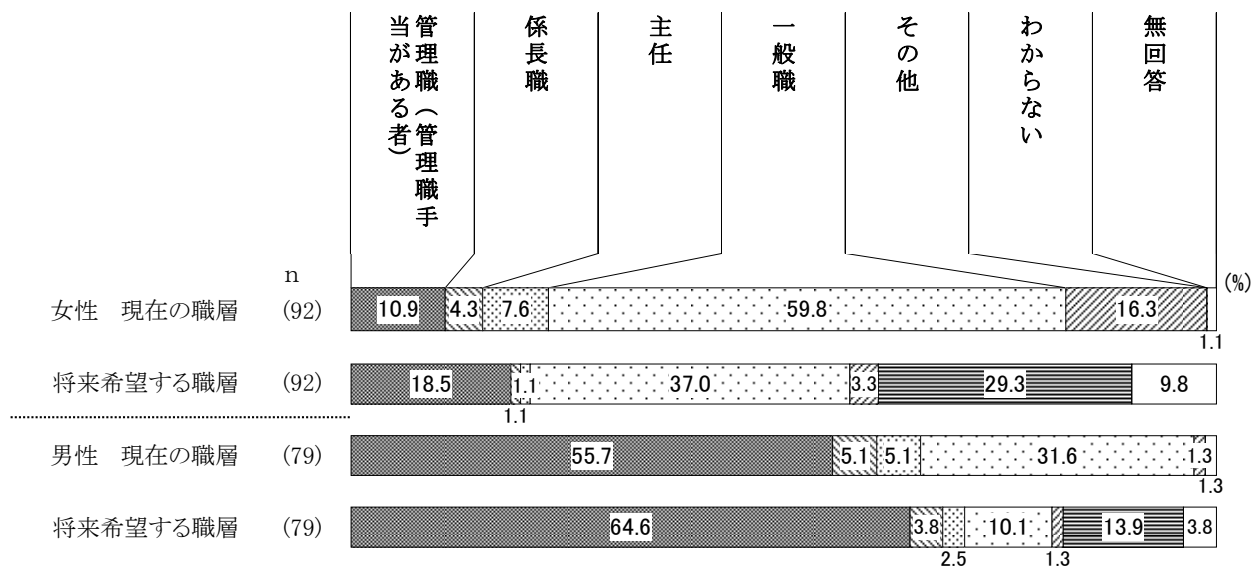


将来希望する職層としては、「管理職（管理職手当がある者）」が39.3%で最も多く、次いで「一般職」が24.3%となっている。

性別でみると、女性では「一般職」が37.0%と、男性（10.1%）を上回っている。

一方、男性では「管理職（管理職手当がある者）」が64.6%と、女性（18.5%）を大きく上回っている。

〈 性別／現在希望する職層と将来希望する職層 〉



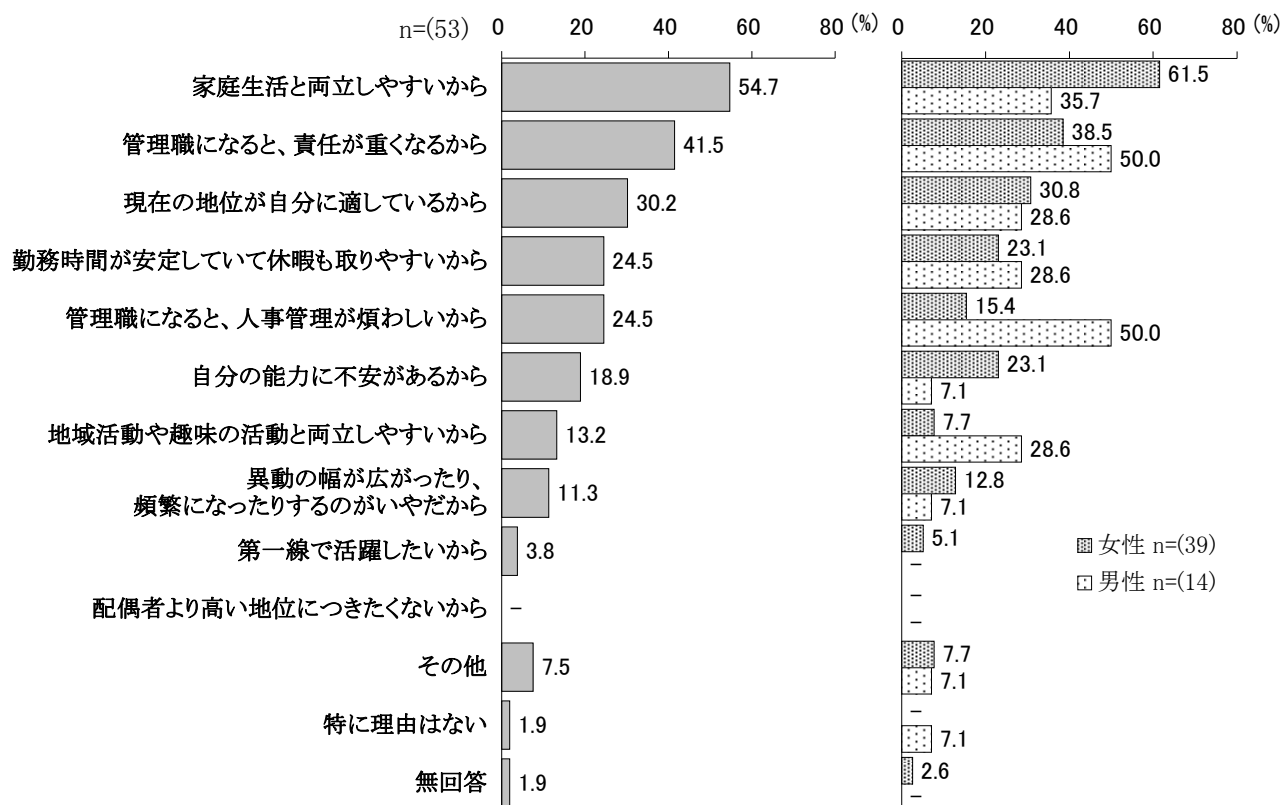
現在の職層と比較すると、女性では、「一般職」が59.8%から37.0%へと減少しているが、その割合からも、必ずしも「管理職（管理職手当がある者）」の増加へとは直結していない。

男性では、「一般職」は、31.6%から10.1%へと減少し、反対に、「管理職（管理職手当がある者）」は55.7%から64.6%へと増加しており、管理職志向は女性より強くなっている。

(12) 管理職になりたくない理由

問21で「2～5」と回答された方にお聞きします。

問21-1 管理職になりたくない理由は何ですか。該当するものすべての番号に○をつけてください。



管理職になることを望まない人に、その理由をきいたところ、「家庭生活と両立しやすいから」が54.7%で最も多く、次いで「管理職になると、責任が重くなるから」が41.5%となっている。

性別でみると、女性では「家庭生活と両立しやすいから」が61.5%と、男性（35.7%）を大きく上回っている。また、「自分の能力に不安があるから」が女性は23.1%と、男性（7.1%）を大きく上回っている。

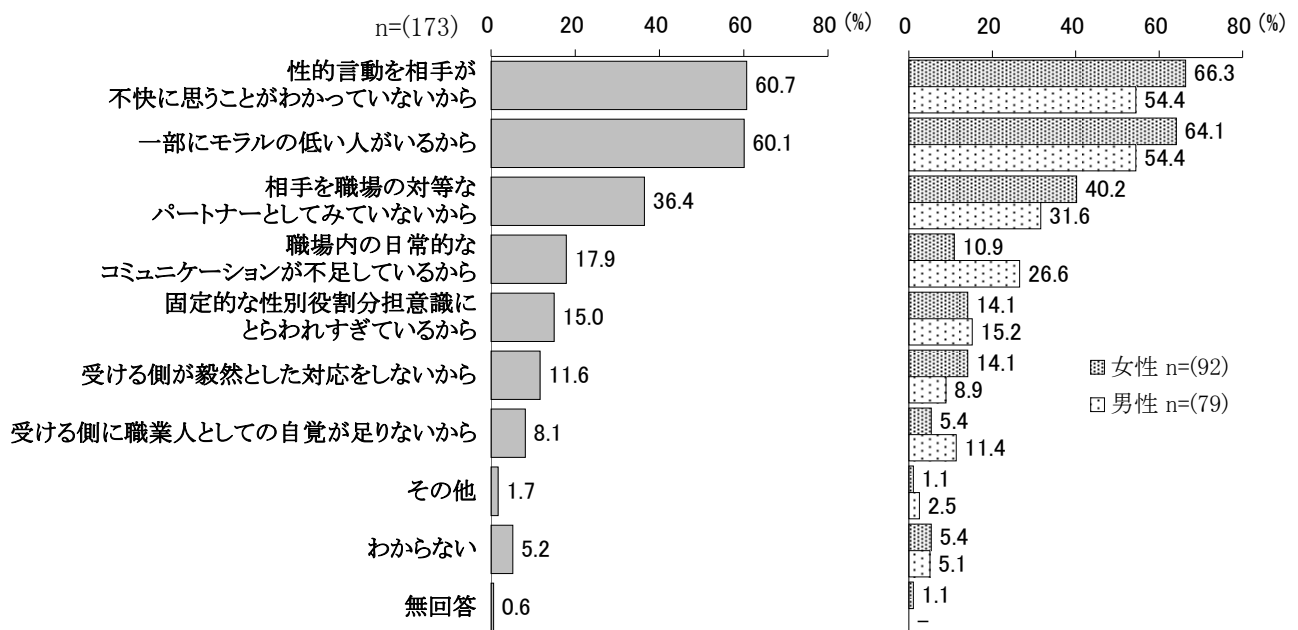
一方、男性では「管理職になると、責任が重くなるから」が50.0%と、女性（38.5%）より多くなっている。また、「管理職になると、人事管理が煩わしいから」も男性（50.0%）が女性（15.4%）より非常に多い。

5. セクシュアル・ハラスメント

※セクシュアル・ハラスメントとは「同じ職場に働く仲間に対して、相手方の意に反する性的な言動により、就業環境や業務の円滑な遂行が害されること」であると言われています。

(1) 起こる原因

問22 職場において、セクシュアル・ハラスメントが起こる原因は何だと思いますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。



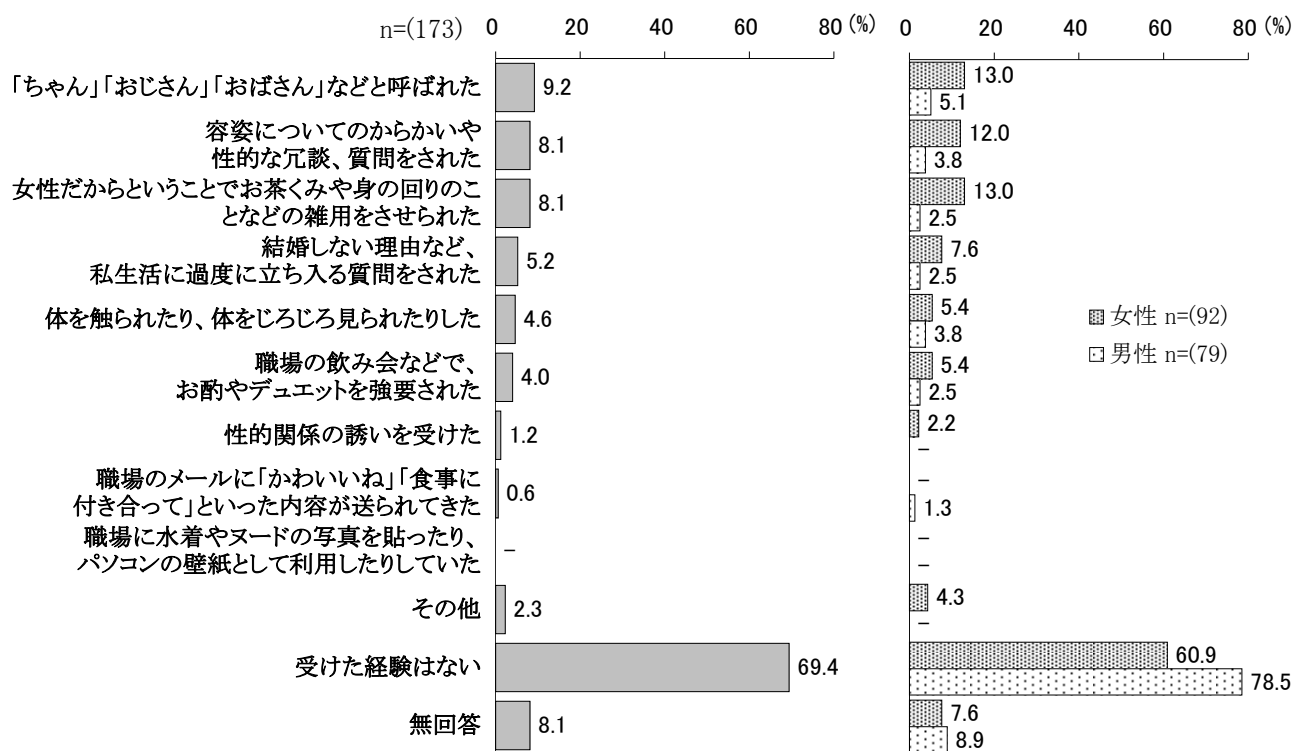
職場におけるセクシュアル・ハラスメントが起こる原因としては「性的言動を相手が不快に思うことがわかっていないから」(60.7%)、「一部にモラルの低い人がいるから」(60.1%)の2項目が6割を超えて多くなっており、「相手を職場の対等なパートナーとしてみていないから」(36.4%)が3割台で続いている。

性別でみると、女性では「性的言動を相手が不快に思うことがわかっていないから」(66.3%)、「一部にモラルの低い人がいるから」(64.1%)が、男性より多くなっている。

男性では「職場内の日常的なコミュニケーションが不足しているから」が26.6%と、女性(10.9%)を上回っている。

(2) この数年間に実際受けた、相談をされた経験

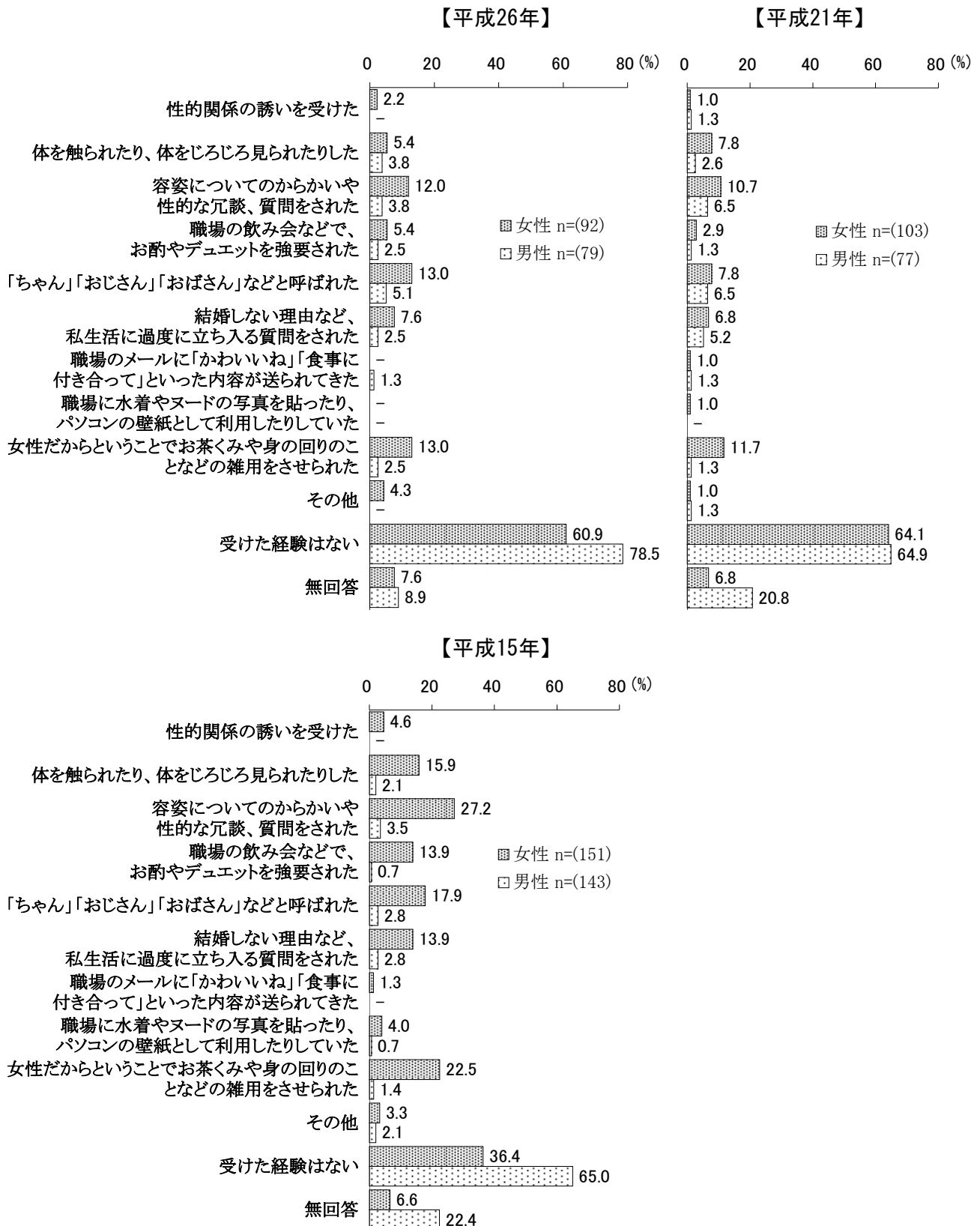
問23 あなたはこの数年間に、次のようなセクシュアル・ハラスメントを受けて不快に思ったり、他の人から直接相談を受けたりした経験がありますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。



セクシュアル・ハラスメントを実際に受けた、または相談を受けた経験の有無をみると、「『ちゃん』『おじさん』『おばさん』などと呼ばれた」(9.2%)、「容姿についてのからかいや性的な冗談、質問をされた」「女性だからということでお茶くみや身の回りのことなどの雑用をさせられた」(ともに8.1%)「結婚しない理由など、私生活に過度に立ち入る質問をされた」(5.2%)が多くなっている一方、「受けた経験はない」は69.4%である。

性別でみると、女性では「『ちゃん』『おじさん』『おばさん』などと呼ばれた」「容姿についてのからかいや性的な冗談、質問をされた」「女性だからということでお茶くみや身の回りのことなどの雑用をさせられた」の3項目で1割を超え、やや多くなっている。

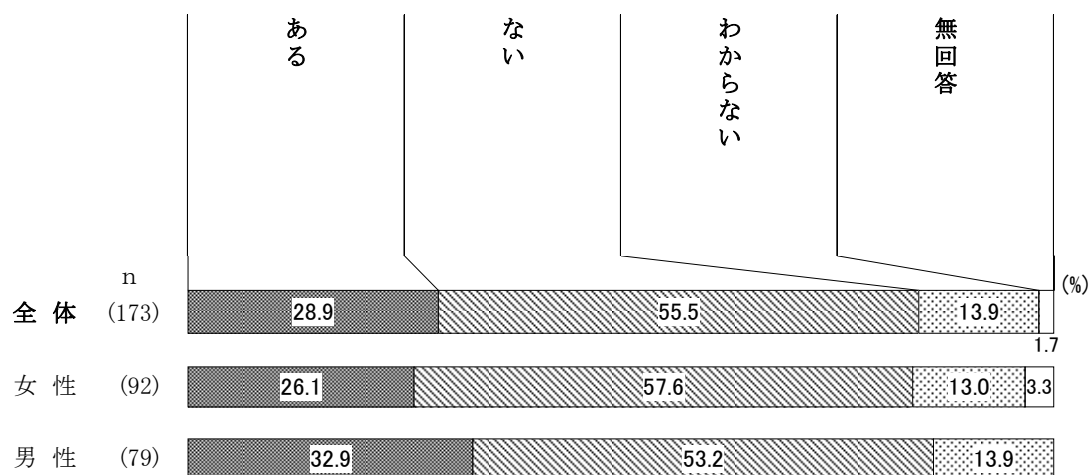
〈 経年比較／この数年間に実際受けた、相談をされた経験 〉



経年で比較すると、女性の多くの項目で、平成15年から21年にかけて減った数値が、今回の調査で多くなっているなか、「体を触られたり、体をじろじろ見られたりした」については15.9%→7.8%→5.4%と、少なくなっていることがわかる。

(3) 職場における相談窓口の有無

問24 あなたの職場には、セクシュアル・ハラスメントの相談を受け付けてもらえる窓口がありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

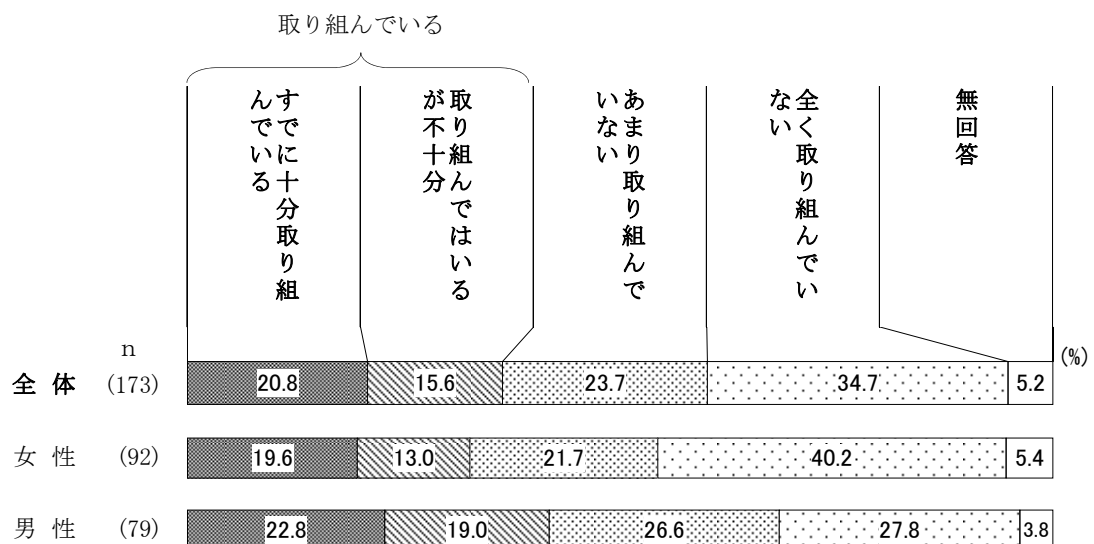


職場のセクシュアル・ハラスメントの相談窓口としては、「ある」が28.9%「ない」が55.5%となっている。

(4) 職場における対策への取り組みの現状と今後の必要性

問25 あなたの職場におけるセクシュアル・ハラスメント対策への取り組みについて、どのように認識していますか。現状及び今後の必要性について、最も近いものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

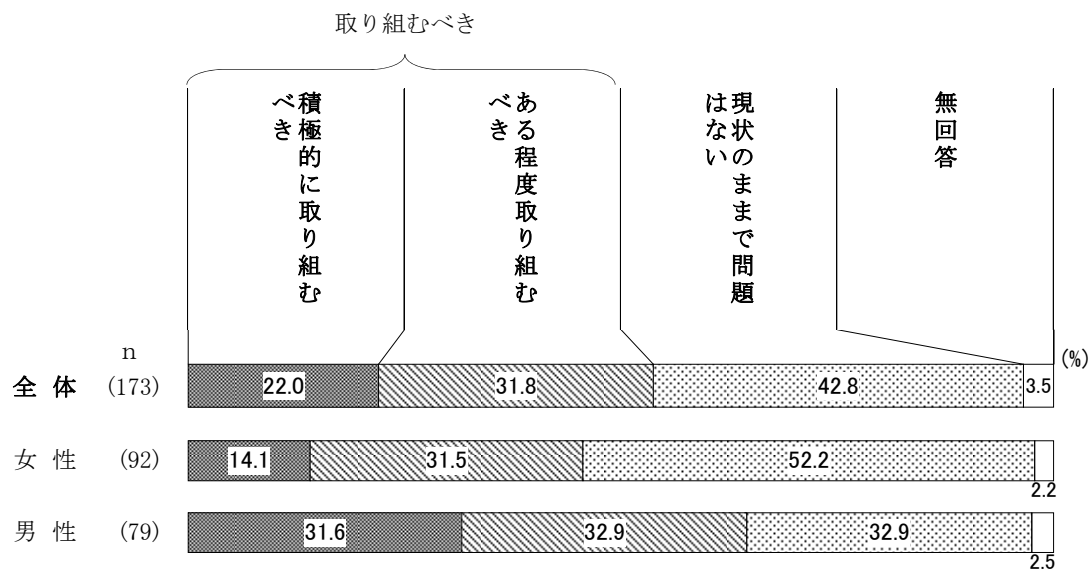
〈 現状 〉



職場のセクシュアル・ハラスメント対策の現状について「すでに十分に取り組んでいる」は20.8%で、これに「取り組んではいるが不十分」(15.6%)を合わせた《取り組んでいる》は36.4%を占めている。

「あまり取り組んでいない」は23.7%、「全く取り組んでいない」は34.7%となっている。

〈 今後の必要性 〉



職場におけるセクシュアル・ハラスメント対策の今後の必要性については、「積極的に取り組むべき」が22.0%で、これに「ある程度取り組むべき」(31.8%)を合わせた《取り組むべき》が53.8%を占めている。一方、「現状のままで問題はない」は42.8%を占めている。

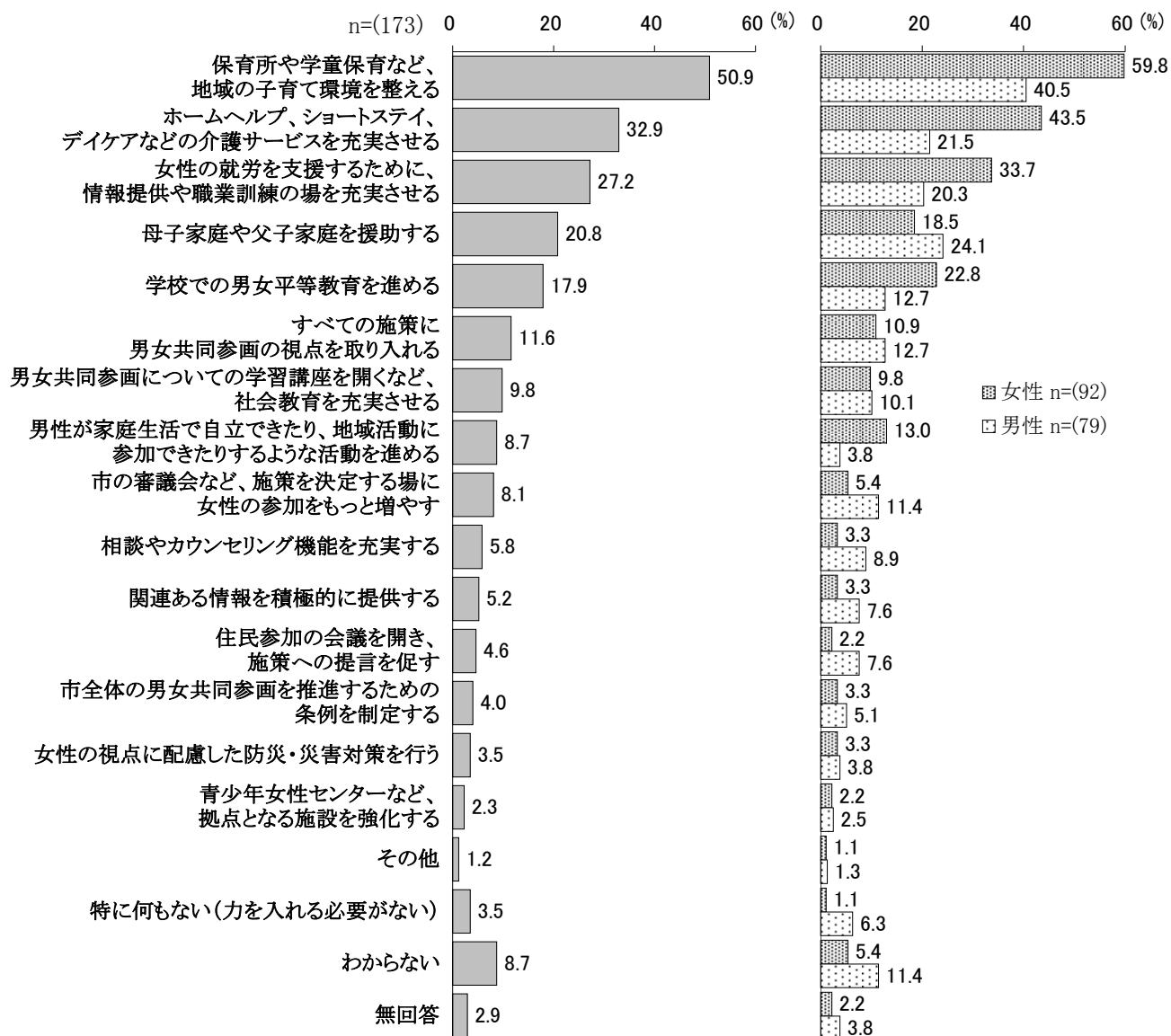
性別でみると、女性では「現状のままで問題はない」が52.2%と、男性(32.9%)を上回っている。

男性では《取り組むべき》が64.5%と、女性(45.6%)より多くなっている。

6. 白井市への要望

(1) 男女共同参画推進のため、市が特に力を入れて取り組むべきこと

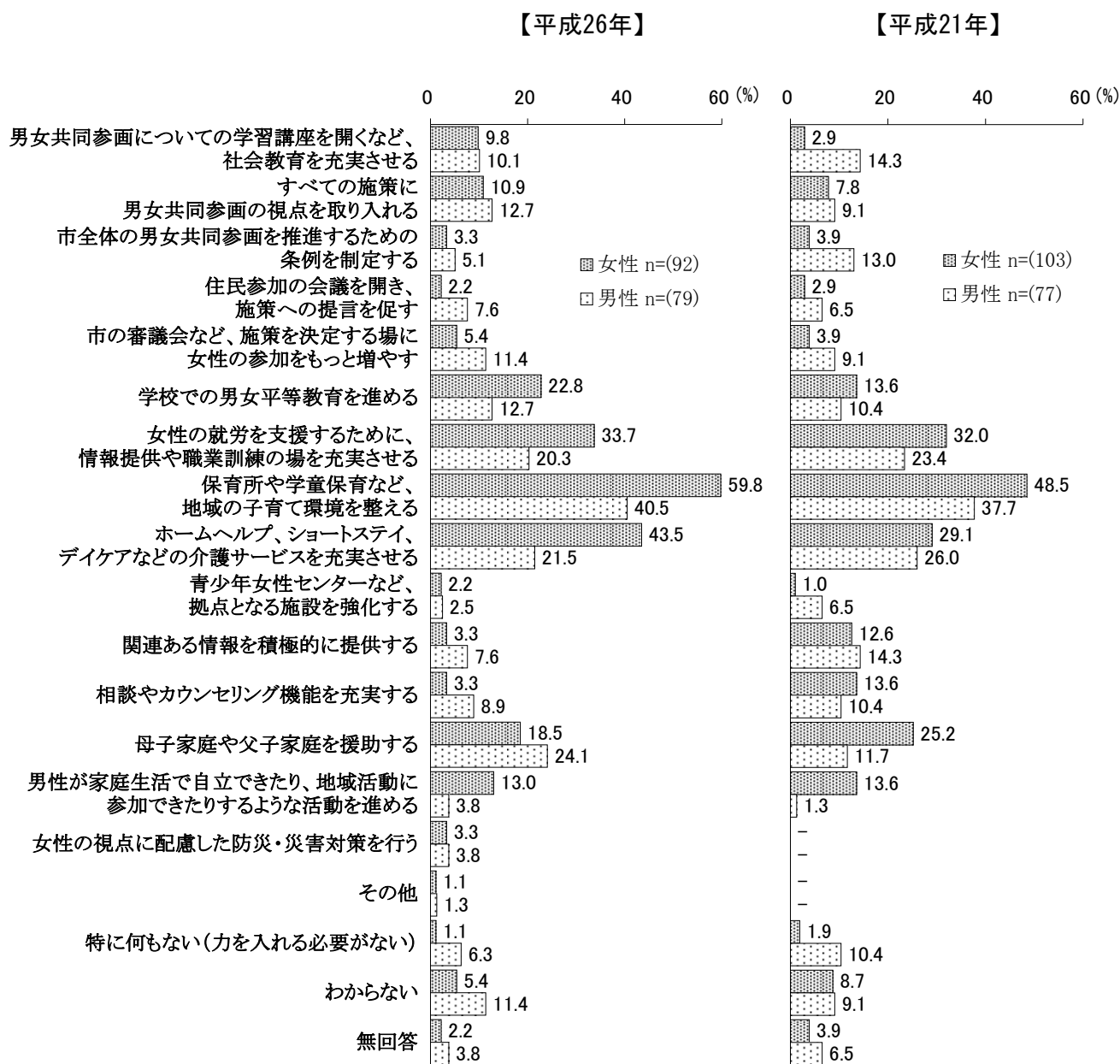
問26 男女の共同参画を進めるため、これから市が特に力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。



男女共同参画推進のため、市が特に力を入れて取り組むべきこととしては、「保健所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が50.9%で最も多く、「ホームヘルプ、ショートステイ、デイケアなどの介護サービスを充実させる」(32.9%)、「女性の就労を支援するために、情報提供や職場訓練の場を充実させる」(27.2%)、「母子家庭や父子家庭を援助する」(20.8%)の順で続いている。

性別でみると、女性では「保健所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が59.8%と男性(40.5%)を上回っているほか、「ホームヘルプ、ショートステイ、デイケアなどの介護サービスを充実させる」(43.5%)、「女性の就労を支援するために、情報提供や職場訓練の場を充実させる」(33.7%)、「学校での男女平等教育を進める」(22.8%)でも多くなっている。

〈 経年比較／男女共同参画推進のため、市が特に力を入れて取り組むべきこと① 〉

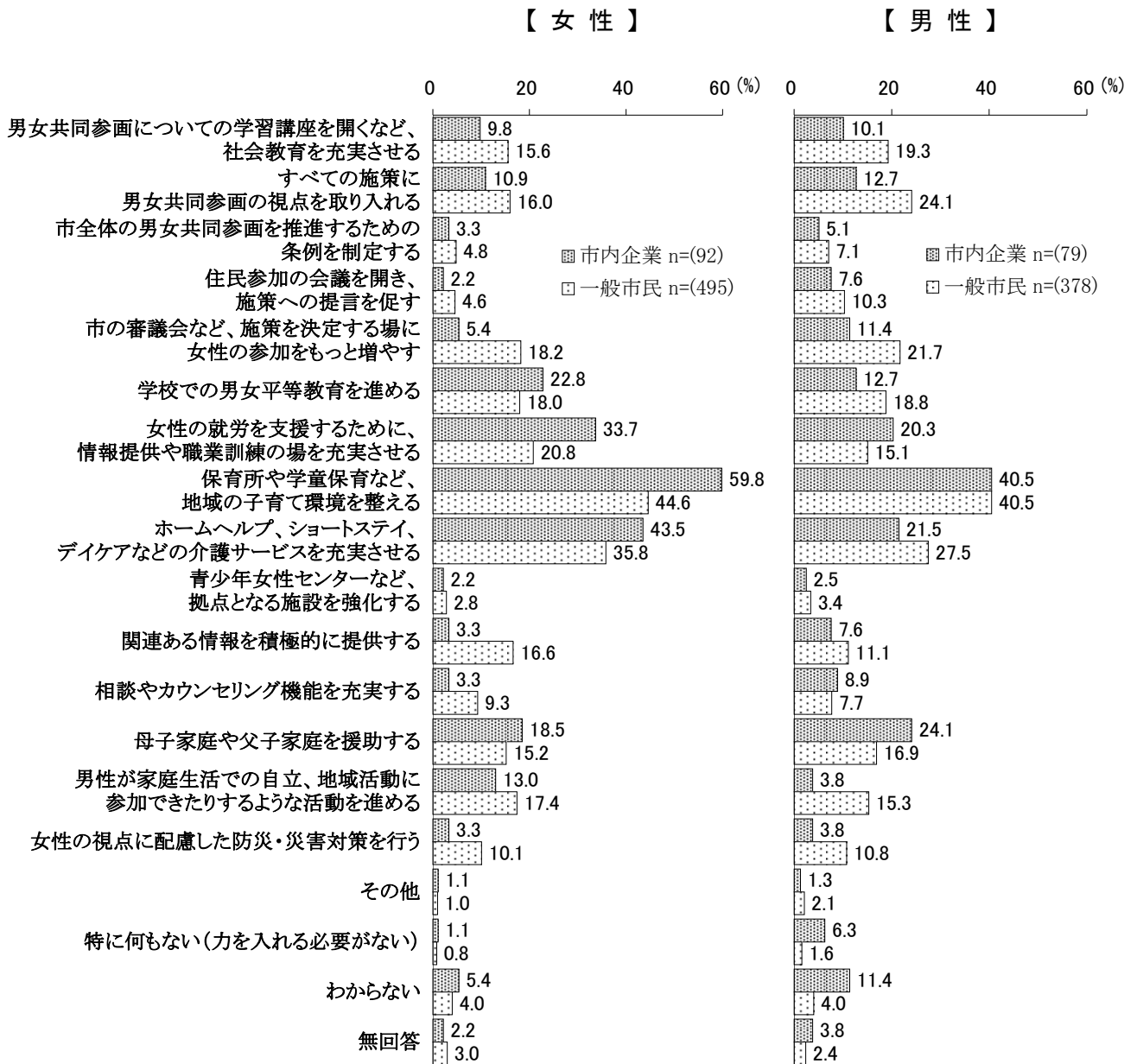


(注)「女性の視点に配慮した防災・災害対策を行う」については、平成26年調査にて新設。

経年で比較すると、女性では「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」が48.5%から59.8%へ、「ホームヘルプ、ショートステイ、デイケアなどの介護サービスを充実させる」が29.1%から43.5%へと大きく増加している。

このことから、子育て環境の改善や介護サービスの充実への需要がより重要視されていることが分かる。

〈 一般市民調査との比較／男女共同参画推進のため、市が特に力を入れて取り組むべきこと 〉



市内企業調査では、女性で「保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える」「ホームヘルプ、ショートステイ、デイケアなどの介護サービスを充実させる」「女性の就労を支援するために、情報提供や職業訓練の場を充実させる」の3項目が、一般市民調査に比べて多くなっている。

7. 自由回答

最後に、男女平等に関してのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

〈 女 性 〉

意見・要望（自由記入）については、女性8人より回答が寄せられた。1人で2つ以上の内容の記入があった場合は、これを1件とせずに延べ件数として集計したもので、合計件数は回答者数より多くなっている。

合計 13 件

1. 男女平等について	8
男女とも意識改革が必要である	3
平等でないのは仕方ない、何でも平等が良いと思わない、全て平等ではない	1
男女の違いや役割の認識と、お互いの尊重が大切	1
企業側の理解や教育が必要である	1
家庭や学校で子どもの頃からの教育が必要である	1
男女間の賃金格差がないことが希望	1
2. 行政への意見・要望	4
保育園少ない、子育て・待機児童への支援がほしい	1
雇用場所・雇用機会の促進	1
（公務員）役所の対応がまずよくない	1
講習会やキャリアアップ研修の開催を希望	1
3. アンケートについて	1
なぜこんなアンケートをするのか違和感を感じる	1

〈 男 性 〉

男性12人より回答が寄せられた。

合計 18 件

1. 男女平等について	18
男女の違いや役割の認識と、お互いの尊重が大切	4
家庭や学校で子どもの頃からの教育が必要である	4
職場環境の改善・女性の労働機会の増加	2
企業側の理解や教育が必要	2

行き過ぎた平等意識の弊害がある、あった	1
女性が男性と同様に働くのは体力的に無理	1
女性に目が向けられ、優遇されている事への懸念	1
女性の過度な社会進出が少子化の要因のひとつ	1
家族間の協力が必要であること	1
男性の育児・家事・介護への参加機会を増やす	1

第4章 質問と回答

1. 一般市民調査

以下の数値は、nは実数、回答はnを基数としたパーセンテージで表示している。

《はじめに、家庭生活についておたずねします。》

問1 あなたが理想とする男女の役割分担は、次のどれに最も近いですか、また、現在のご家庭の状況（一人暮らしの人は、これまでの家庭での状況）は、次のどれに最も近いですか。
1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項 目		n	理想は	現実には
1 男性が働き、女性が家事全般をする	全体	898	20.4	27.7
	女性	495	18.6	26.5
	男性	378	22.8	28.6
2 男性が主として働き女性はパート、家事全般は女性がする	全体	898	10.8	29.4
	女性	495	10.1	32.3
	男性	378	11.4	25.7
3 男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする	全体	898	2.8	15.4
	女性	495	2.0	18.0
	男性	378	4.0	12.2
4 男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする	全体	898	44.2	8.7
	女性	495	47.3	5.9
	男性	378	39.9	12.4
5 女性が働き、男性が家事全般をする	全体	898	0.2	0.9
	女性	495	0.4	1.0
	男性	378	—	0.8
6 特に何も決めず、できる人ができることをする	全体	898	15.0	9.8
	女性	495	14.9	8.1
	男性	378	15.9	12.2
7 その他	全体	898	2.0	4.1
	女性	495	2.2	4.2
	男性	378	1.9	4.2
8 わからない	全体	898	0.8	1.9
	女性	495	0.6	1.4
	男性	378	1.1	2.6
9 無回答	全体	898	3.8	2.1
	女性	495	3.8	2.6
	男性	378	3.2	1.3

《仕事についておたずねします。》

問2 あなたは、収入の得られる労働や、家庭内における家事・育児・介護などに1日平均どのくらい時間をあてていますか。それぞれについて、該当する時間数の番号を口の中に記入してください。

【収入の得られる労働】

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 していない、ほとんどしない	38.5	44.6	29.4
2 15分くらい	0.2	0.2	0.3
3 30分くらい	0.2	0.4	－
4 1時間くらい	1.6	1.8	1.3
5 2～3時間くらい	3.7	4.4	2.6
6 4～5時間くらい	9.6	14.9	2.9
7 6～7時間くらい	9.8	12.5	6.9
8 8時間以上	33.4	18.2	54.2
無回答	3.0	2.8	2.4

【家庭内の家事・育児・介護など】

平日の場合

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 していない、ほとんどしない	16.4	5.9	30.4
2 15分くらい	3.9	0.4	8.7
3 30分くらい	8.1	3.0	15.1
4 1時間くらい	13.3	7.9	20.6
5 2～3時間くらい	17.1	22.4	9.5
6 4～5時間くらい	15.9	25.9	3.4
7 6～7時間くらい	5.1	9.3	－
8 8時間以上	7.6	13.1	0.5
無回答	12.6	12.1	11.6

休日の場合

全 体	女 性	男 性
898	495	378
9.6	4.4	16.7
4.0	0.6	8.2
5.0	1.4	9.8
11.4	5.5	19.0
22.5	24.0	21.4
14.5	20.2	7.4
7.3	11.9	1.6
11.2	17.6	3.2
14.5	14.3	12.7

（問2で収入の得られる労働を「1 していない、ほとんどしない」と答えた方にうかがいます。）

問2-1 あなたは、今後仕事をしたいと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	346	221	111
1 常勤で働きたい	7.8	6.8	10.8
2 パートで働きたい	21.4	26.7	12.6
3 自分で事業をはじめたい	1.2	0.9	1.8
4 家の仕事（家業）を手伝いたい	2.0	1.8	1.8
5 したいができないと思う	39.3	37.1	42.3
6 働きたいと思わない	26.9	25.3	30.6
無回答	1.4	1.4	-

（問2で「収入の得られる労働」をしていると答えた方にうかがいます。）

問2-2 今どのような形で働いていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	525	260	258
1 事業主	7.4	2.3	12.4
2 正規社員	42.3	25.0	59.3
3 非正規社員（嘱託、契約社員、パートタイム、アルバイトなど）	41.5	62.3	21.7
4 家族従事者（家業の店や農業などに従事）	5.0	5.8	3.5
5 その他	2.3	2.3	2.3
無回答	1.5	2.3	0.8

第4章 質問と回答

（問2-2で「4 家族従事者（家業の店や農業などに従事）」と答えた方にうかがいます。）

問2-2-1 家業に従事されていて、労働に見合う分の対価（給料）を受け取っていますか。

1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	26	15	9
1 受け取っている	15.4	6.7	33.3
2 受け取っているが労働に見合う対価ではない	30.8	33.3	22.2
3 受け取っていない	42.3	53.3	22.2
4 わからない	7.7	-	22.2
5 無回答	3.8	6.7	-

（ここからは再びすべての方にうかがいます。）

問3 女性が仕事を続けるのは難しいとされていますが、その理由は何だと思えますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 女性の雇用機会や採用数が、男性よりも少ないこと	20.3	17.6	23.8
2 待遇（給与、昇進）に男女差があること	20.0	14.7	27.2
3 配属や仕事の内容に男女差があること	13.3	8.7	18.8
4 結婚や出産のとき、家族の理解・協力が得られないこと	24.2	30.5	16.4
5 結婚や出産のとき、十分な制度や企業の理解がないこと	52.3	50.3	57.7
6 保育施設や保育制度が充実していないこと	45.8	45.3	47.9
7 病人や高齢者の世話が女性だけに任せられやすいこと	31.4	40.6	19.0
8 一般に、結婚や出産を機に退社する女性が多いこと	28.7	25.1	33.3
9 配偶者控除等により、専業主婦世帯が優遇されていること	7.5	6.9	7.9
10 その他	4.9	6.1	3.4
11 仕事を続けることへの障害になっていることは何もない	1.7	2.0	1.1
12 わからない	2.2	2.2	2.4
無回答	2.6	2.6	1.3

問4 女性の働き方についてあなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。

1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 結婚する、しないにかかわらず、女性は働きに出ないで家にいた方がよい	1.3	0.8	1.6
2 一度就職して結婚や出産を機に家庭に入るのがよい	7.0	6.1	8.5
3 家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子どもが大きくなってから再び働くのがよい	53.6	56.6	50.5
4 結婚や出産にかかわらず、仕事を持ち続けた方がよい	22.6	21.8	24.1
5 必要に応じて、臨時にパートやアルバイトをするのがよい	8.4	8.1	8.7
6 その他	3.1	3.4	2.9
7 わからない	2.3	2.0	2.9
無回答	1.7	1.2	0.8

問5 一時期家庭に入った女性が再就職を希望する場合、どのような援助や対策が望まれると思いますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 出産、育児などで退職しても同一企業に再雇用されるようにすること	55.3	50.3	63.5
2 求人情報を入手しやすくすること	9.5	11.1	7.9
3 再就職のための研修や講習を実施すること	16.4	15.6	16.4
4 技術や技能の習得の機会を多くすること	11.4	13.9	8.5
5 求人の年齢制限を緩和すること	31.6	38.6	22.5
6 パートの労働条件を向上すること	27.4	30.1	24.6
7 働く場を多くすること	27.6	25.3	31.0
8 就職に関する相談体制を充実すること	6.9	6.7	7.4
9 保育施設や保育制度を充実すること	57.0	55.4	60.6
10 医療施設や介護制度を充実すること	20.8	22.8	18.8
11 その他	1.7	1.4	2.1
12 わからない	1.8	1.4	2.4
無回答	1.9	1.4	0.8

《ワーク・ライフ・バランスについておたずねします。》

問6 生活の中での、仕事・家事（育児・介護含む）・プライベートな時間（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度についておうかがいします。「理想」としての優先度と、「現実」の優先度について、あなたのお考えや現状に最も近いものを、1～7のうちから1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項 目		n	理想は	現実
1 仕事優先	全体	898	4.6	33.4
	女性	495	2.2	18.6
	男性	378	7.9	53.4
2 家事優先	全体	898	3.7	13.9
	女性	495	4.6	22.0
	男性	378	2.1	3.2
3 プライベートな時間優先	全体	898	11.5	3.1
	女性	495	11.3	1.8
	男性	378	11.9	4.8
4 仕事と家事優先	全体	898	5.2	19.0
	女性	495	4.2	24.2
	男性	378	6.6	13.2
5 仕事とプライベート優先	全体	898	9.2	9.4
	女性	495	4.4	6.9
	男性	378	15.6	12.4
6 家事とプライベート優先	全体	898	9.0	9.2
	女性	495	13.7	13.7
	男性	378	3.2	3.2
7 仕事・家事・プライベートを両立	全体	898	50.1	5.7
	女性	495	52.3	5.7
	男性	378	49.2	6.1
無回答	全体	898	6.7	6.2
	女性	495	7.1	7.1
	男性	378	3.4	3.7

問7 あなたにとって、仕事・家事・プライベートな時間のバランスは、うまくとれていると思いますか。1つ選んで番号に○をつけて下さい。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 うまくとれている	17.6	16.4	18.5
2 ややとれている	45.1	46.9	44.4
3 あまりとれていない	26.1	25.1	27.8
4 まったくとれていない	6.3	6.7	6.3
無回答	4.9	5.1	2.9

(問7で「3 あまりとれていない」、または「4 まったくとれていない」と答えた方にうかがいます。)

問7-1 仕事・家事・プライベートな時間のバランスがうまくとれない理由は何だと思いますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	291	157	129
1 うまく時間配分ができないから	24.7	28.0	20.2
2 家族の理解や協力が得られないから	16.5	29.3	0.8
3 世間に、「男性は仕事、女性は家庭」という風潮や固定観念があるから	10.7	14.0	6.2
4 家事、育児、介護等をしなければならないから	29.2	44.6	10.9
5 子どもを預ける場所がなかったり、不足したりしているから	8.6	12.7	3.1
6 生活のため、仕事(収入)を優先せざるをえないから	35.4	31.8	37.2
7 仕事が忙しい、残業が多い、休めない、通勤時間がかかる等の理由で、時間がないから	41.2	26.8	58.9
8 職場の理解や協力が得られないから	6.9	3.2	11.6
9 近くにスポーツ・文化施設が少ないから	5.2	7.6	2.3
10 社会制度や環境が整っていないから	11.7	10.2	13.2
11 その他	8.6	7.6	10.1
12 わからない	3.4	4.5	2.3
無回答	0.7	0.6	0.8

（ここからは再びすべての方にうかがいます。）

問8 ワーク・ライフ・バランスを推進することのプラスの効果として考えられるものは何だと思いますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 家事・育児・介護などの家庭責任を男性も担いやすくなり、女性の負担が少なくなる	46.9	45.5	48.7
2 女性の継続就業や希望する働き方での再就職が容易になる	26.8	31.5	21.4
3 自己啓発や趣味の時間が増え、能力を高めたり、満足感を得たりすることができる	31.2	28.3	35.7
4 働く人々が地域活動にかかわることができるようになり、地域の活性化と安全性の向上につながる	21.3	16.4	28.0
5 長時間労働が減り、心身の健康によい影響を及ぼす	40.1	36.2	45.8
6 人口減少が進行する中、女性や高齢者など多様な人材が活用できるようになり、労働力不足の解消につながる	33.1	33.5	32.8
7 一人ひとりの仕事への満足度が向上し、能力が十分に発揮され、生産性の高い効率的な働き方ができるようになり、日本経済の競争力も高まる	23.9	23.2	25.7
8 仕事をもつ男女が、子どもとかかわることができる時間が増え、安心して子どもを産み育てることができる	45.8	48.3	44.4
9 労働時間や働き方の柔軟性などの仕事と家庭の両立環境や、子育て環境が整い、ひいては少子化の進行を防ぐことができる	40.6	42.2	39.4
10 企業などが個々の様々なニーズ（希望や必要性）に対応した就業環境を提供することで、働く人の意欲や満足度が高まるので、優秀な人材を確保・定着させることができる	24.3	26.5	22.8
11 女性農業者などの経営参画と社会参画を図ることができる	3.9	3.6	4.2
12 その他	0.8	0.6	0.8
13 わからない	4.7	4.8	4.8
無回答	3.5	3.8	1.1

《男女平等についておたずねします。》

問9 次の各項目で、男女は対等な立場にあると思いますか。A～Hの項目について、お考えに最も近い段階を1つずつ選んで番号に○をつけてください。

		n	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	対等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	無回答
A 学校教育	全 体	898	0.9	8.8	79.4	3.8	0.3	6.8
	女 性	495	1.0	8.9	79.8	3.0	0.2	7.1
	男 性	378	0.8	8.7	81.0	4.8	0.5	4.2
B 地域社会	全 体	898	3.7	36.3	42.5	8.7	0.7	8.1
	女 性	495	4.6	38.0	40.4	8.3	0.2	8.5
	男 性	378	2.6	34.9	46.6	9.3	1.3	5.3
C 家庭生活	全 体	898	8.8	42.8	28.7	12.2	1.2	6.2
	女 性	495	11.9	46.7	24.8	9.7	0.6	6.3
	男 性	378	5.3	38.4	34.4	15.3	2.1	4.5
D 職 場	全 体	898	19.6	54.6	15.1	2.4	0.6	7.7
	女 性	495	21.8	53.7	14.5	2.0	—	7.9
	男 性	378	17.5	57.1	15.9	3.2	1.3	5.0
E 社会通念や風習	全 体	898	17.5	58.2	14.7	1.9	0.7	7.0
	女 性	495	21.6	57.2	13.1	1.2	—	6.9
	男 性	378	12.4	60.8	17.2	2.9	1.6	5.0
F 法 律	全 体	898	5.6	30.3	47.6	6.9	1.2	8.5
	女 性	495	5.5	38.0	41.6	5.5	—	9.5
	男 性	378	5.6	21.2	56.3	9.0	2.9	5.0
G 政治や政策決定の場	全 体	898	23.5	50.2	16.5	2.0	0.6	7.2
	女 性	495	28.3	51.7	11.7	0.8	—	7.5
	男 性	378	17.7	49.7	23.0	3.4	1.3	4.8
H 全体として、今の日本では	全 体	898	11.8	65.5	13.5	2.7	0.7	5.9
	女 性	495	13.7	68.5	10.1	1.2	0.2	6.3
	男 性	378	9.0	63.8	17.5	4.8	1.3	3.7

第4章 質問と回答

問10 男女平等をいっそう進めるため、日ごろから心がけていることがありますか。該当するもののすべての番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 「男性は仕事、女性は家庭」と、性別によって役割を決めつけない	48.4	48.5	49.5
2 家事や育児、介護などを女性だけに押しつけず、男女で協力し合う	56.7	55.6	58.5
3 自分の生活費は自分で稼ぎ、自分のことは自分で決め、身の回りのことは自分とするなど、男女とも1人でも生きていけるようにする	23.9	26.3	22.0
4 男の子、女の子を区別しない子育て・しつけ、教育をする	30.8	33.1	28.0
5 社会のいろいろな出来事に目を向けるようにする	44.2	48.7	38.9
6 「男らしく」「女らしく」というような押しつけをしない	22.5	24.8	20.4
7 「女々しい」「男勝りな」などの、性別を強調した言葉はできるだけ使わない	18.4	19.4	17.7
8 性別を気にせず、自分の個性や好みに合った服装や髪型を選ぶ	15.8	18.8	12.4
9 その他	1.9	1.2	2.9
10 特に何もなし	9.4	8.7	10.6
無回答	2.4	1.6	1.6

問11 次のA～Dの言葉を知っていますか。それぞれの言葉について最も近い段階を、1つずつ選んで番号に○をつけてください。

		n	よく知っ ている	聞いた ことは ある	知ら ない	無回答
A 女子差別撤廃条約	全 体	898	9.0	40.2	44.7	6.1
	女 性	495	8.3	39.6	46.5	5.7
	男 性	378	10.1	41.5	43.7	4.8
B 男女雇用機会均等法	全 体	898	53.9	36.7	5.6	3.8
	女 性	495	50.3	39.8	6.5	3.4
	男 性	378	59.8	33.6	4.5	2.1
C 育児・介護休業法	全 体	898	39.3	44.8	11.8	4.1
	女 性	495	41.8	44.2	10.9	3.0
	男 性	378	37.3	45.8	13.5	3.4
D 男女共同参画社会	全 体	898	25.1	44.8	24.8	5.3
	女 性	495	24.4	41.2	29.1	5.3
	男 性	378	26.5	50.8	19.3	3.4

		n	よく知っ ている	聞いた ことは ある	知ら ない	無回答
E ジェンダー	全 体	898	16.7	28.0	48.7	6.7
	女 性	495	16.0	26.9	51.5	5.7
	男 性	378	18.3	29.9	46.3	5.6
F セクハラ (セクシュアル・ハラスメント)	全 体	898	80.1	14.5	1.6	3.9
	女 性	495	81.6	13.5	1.8	3.0
	男 性	378	79.9	15.9	1.3	2.9
G リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	全 体	898	2.0	13.8	77.8	6.3
	女 性	495	2.0	12.5	80.2	5.3
	男 性	378	1.9	15.6	77.0	5.6
H ドメスティック・バイオレンス (DV)	全 体	898	75.3	17.7	3.0	4.0
	女 性	495	78.6	15.4	3.0	3.0
	男 性	378	73.3	20.9	2.9	2.9
I ワーク・ライフ・バランス	全 体	898	31.8	42.2	21.6	4.3
	女 性	495	31.1	42.2	23.0	3.6
	男 性	378	33.9	43.1	19.8	3.2

問12 次のA～Dを知っていますか。それぞれの言葉について最も近い段階を、1つずつ選んで番号に○をつけてください。

		n	よく知っ ている	聞いたこ とはある	知らない	無回答
A 白井市男女平等推進行動計画	全 体	898	3.8	25.6	66.3	4.3
	女 性	495	3.6	27.1	65.3	4.0
	男 性	378	4.2	23.8	69.0	2.9
B 女性生き生き相談（白井市）	全 体	898	6.7	27.2	62.9	3.2
	女 性	495	9.5	32.9	55.2	2.4
	男 性	378	2.9	19.6	75.1	2.4
C 青少年女性センター（白井市）	全 体	898	6.9	26.5	62.7	3.9
	女 性	495	8.7	31.1	57.0	3.2
	男 性	378	4.5	20.9	71.7	2.9
D 農業者の家族経営協定	全 体	898	1.7	6.1	88.6	3.6
	女 性	495	0.6	6.7	90.1	2.6
	男 性	378	3.2	5.8	88.4	2.6

《ドメスティック・バイオレンスについておたずねします。》

問13 あなたはこれまでに配偶者（事実婚や別居、離別を含む）や恋人などのパートナーから、次にあげるA～Mのような経験がありますか。1つずつ選んで番号に○をつけてください。

		n	したことがある	されたことがある	両方ある （「した こと」も 「された こと」も ある）	両方ない （「した こと」も 「された こと」も ない）	無回答
A 命の危険を感じるくらいの暴力	全 体	898	0.1	1.9	0.4	93.2	4.3
	女 性	495	0.2	3.0	0.4	92.7	3.6
	男 性	378	－	0.5	0.5	95.5	3.4
B 医師の治療が必要となる暴力	全 体	898	－	1.3	0.1	94.0	4.6
	女 性	495	－	2.2	－	93.9	3.8
	男 性	378	－	0.3	0.3	96.0	3.4
C 医師の治療が必要ではない程度の暴力	全 体	898	0.7	4.7	0.9	88.9	4.9
	女 性	495	0.2	7.5	0.6	87.3	4.4
	男 性	378	1.3	1.1	1.1	93.1	3.4
D 嫌がっているのに性的行為を強要	全 体	898	1.0	4.2	0.8	89.5	4.5
	女 性	495	－	7.3	0.4	88.7	3.6
	男 性	378	2.1	0.5	1.1	92.9	3.4
E 見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	全 体	898	0.6	1.3	0.3	93.3	4.5
	女 性	495	－	2.2	－	94.3	3.4
	男 性	378	1.3	0.3	0.8	93.9	3.7
F 避妊に協力しない	全 体	898	1.0	3.7	1.3	89.1	4.9
	女 性	495	0.4	6.3	1.0	88.1	4.2
	男 性	378	1.6	0.5	1.6	92.6	3.7
G 何を言っても無視	全 体	898	2.2	5.2	6.8	80.7	5.0
	女 性	495	2.2	7.3	5.9	80.2	4.4
	男 性	378	2.1	2.6	8.5	83.1	3.7
H 交友関係や電話、郵便物を細かく監視	全 体	898	0.3	3.3	1.0	90.5	4.8
	女 性	495	0.6	4.6	1.0	89.7	4.0
	男 性	378	－	1.9	0.8	93.7	3.7
I 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「かいしょうなし」と言う	全 体	898	1.7	6.8	3.6	83.3	4.7
	女 性	495	0.6	11.3	4.0	80.4	3.6
	男 性	378	2.9	1.3	2.6	89.2	4.0

		n	したことがある	されたことがある	両方ある （「した こと」も 「された こと」も ある）	両方ない （「した こと」も 「された こと」も ない）	無回答
J 「女（男）のくせに」「女（男）だから」と差別的な言い方をする	全 体	898	2.9	7.0	6.1	79.3	4.7
	女 性	495	1.6	11.1	6.9	76.8	3.6
	男 性	378	4.8	1.9	5.0	84.4	4.0
K 容姿について傷つくようなことを言う	全 体	898	2.2	7.0	5.7	80.5	4.6
	女 性	495	1.0	10.3	4.8	80.4	3.4
	男 性	378	4.0	2.9	6.3	82.8	4.0
L 大声で怒鳴る	全 体	898	7.5	9.9	12.0	66.0	4.6
	女 性	495	2.6	16.2	11.5	66.1	3.6
	男 性	378	13.5	2.4	13.0	67.5	3.7
M 生活費を渡さない	全 体	898	0.3	3.5	0.6	91.0	4.7
	女 性	495	0.4	6.1	0.6	89.3	3.6
	男 性	378	0.3	－	0.5	95.2	4.0

（問13で「されたことがある」、または「両方ある」と、ひとつでも答えた方にうかがいます。

「両方ある」とお答えになった方は「された」時のことを思い浮かべて、お答えください。）

問13-1 そのとき、だれ、もしくはどこに相談しましたか。該当するものすべての番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	314	202	106
1 市役所の相談窓口	2.9	3.0	1.9
2 千葉県の相談窓口（女性サポートセンター、男女共同参画センターなど）	0.6	1.0	－
3 警察	1.9	1.5	2.8
4 法務局、人権擁護委員	0.3	－	0.9
5 民生委員・児童委員	1.0	0.5	－
6 民間の専門家や専門機関（弁護士、カウンセラー、民間シェルターなど）	1.6	2.0	0.9
7 医療関係者（医師、看護師、保健師など）	1.3	2.0	－
8 学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）	0.6	1.0	－
9 家族や親戚	21.7	29.2	8.5
10 友人・知人	22.0	26.7	13.2
11 その他	－	－	－
12 どこ（だれ）にも相談しなかった	53.2	46.0	67.0
無回答	9.6	7.4	13.2

第4章 質問と回答

（問13-1で「12 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にうかがいます。）

問13-1-1 どこ（だれ）にも相談しなかった（できなかった）理由は何ですか。該当するもののすべての番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	167	93	71
1 どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから	6.0	7.5	2.8
2 恥ずかしくてだれにも言えなかったから	11.4	14.0	7.0
3 相談してもむだだと思ったから	22.2	23.7	19.7
4 相談したことがわかれると、仕返しや、もっとひどい暴力を受けると 思ったから	2.4	3.2	-
5 加害者に「誰にも言うな」とおどされたから	-	-	-
6 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから	1.2	2.2	-
7 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	21.6	25.8	16.9
8 世間体が悪いから	6.0	7.5	4.2
9 他人を巻き込みたくなかったから	6.6	6.5	7.0
10 他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人 間関係）ができなくなると思ったから	3.6	3.2	4.2
11 そのことについて思い出したくなかったから	4.2	5.4	2.8
12 自分にも悪いところがあると思ったから	35.3	30.1	42.3
13 相手の行為は愛情の表現だと思ったから	4.8	5.4	4.2
14 相談するほどのことではないと思ったから	63.5	60.2	69.0
15 その他	6.0	5.4	7.0

（ここからは再び、すべての方にお聞きします。）

問14 あなたは、このような配偶者やパートナーからの暴力についてどのようにお考えですか。
1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 100%加害者に責任があり、許せないものである	35.5	35.8	36.0
2 加害者の責任はもちろんだが、つい手が出てしまうという気持ちもわかる	7.7	6.7	9.0
3 加害者に責任があるとしても、被害者側にも原因の一端があると思う	30.0	30.1	30.4
4 双方の関係の問題であり、周りがとやかく言うべきではない	9.7	7.5	12.2
5 その他	3.6	4.4	2.4
6 わからない	10.0	11.9	7.9
無回答	3.6	3.6	2.1

問15 配偶者やパートナーが暴力を振るう理由は何だと思いますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 男尊女卑の意識が残っており、相手を自分の所有物であるかのように思っているから	40.6	45.3	35.2
2 暴力を受ける側に、何らかの落ち度や暴力を誘う要因があるから	19.3	15.8	24.3
3 暴力を振るっても相手が反抗しない、逃げることがないと思っているから	25.4	28.3	21.4
4 たまったストレスのはけ口がないから	43.4	50.3	35.7
5 家庭内の出来事として社会的には見過ごされているから	22.8	24.8	20.4
6 アルコールや薬物などが原因となっているから	26.9	27.3	27.8
7 自分の感情をコントロールできないから	63.9	65.3	63.2
8 これまでの経験から、暴力を問題解決の手段として用いることに抵抗がないから	16.5	17.8	15.9
9 相手に対する教育やしつけだと思っているから	10.7	11.7	9.8
10 家族や親しいパートナーの間では許されることだと思っているから	21.8	27.3	15.1
11 何となく暴力を振るっているのであって、特に理由はない	4.7	4.0	5.6
12 その他	4.2	4.4	4.0
13 わからない	6.5	6.9	5.8
無回答	3.9	3.6	2.9

《性と生殖に関する健康・権利についておたずねします。》

問16 あなたは、女性の生涯にわたる健康を守るために、性や妊娠・出産に関して女性自身で決めるうえで、どのようなことが必要だと思いますか。2つまで選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 子どもの成長と発育に応じた男女平等に基づく性教育・人権教育	58.1	61.2	55.3
2 性や妊娠・出産についての情報提供・相談体制の充実	31.5	27.7	37.6
3 喫煙や薬物など、男女の健康への害についての情報提供・相談体制の充実	27.5	28.9	24.9
4 性感染症（HIV、カンジダ症、クラミジア感染症など）についての情報提供・相談体制の充実	18.9	18.8	19.8
5 更年期についての情報提供・相談体制の充実	18.9	20.4	16.9
6 その他	1.1	0.6	1.6
7 わからない	9.4	8.5	11.1
無回答	4.3	4.0	3.2

《子育てや学校教育についておたずねします。》

問17 学校教育の中で男女平等の意識を深めるためには、特に何が大切だと思いますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 男性女性が共に、身の回りのことが自分でできるよう学べる機会を設ける	62.2	66.7	56.9
2 男性女性が共に、経済的に自立できるような職業訓練や進路指導を受けられるようにする	51.1	56.0	45.2
3 相手へのいたわりや理解が増すような性教育をする	45.1	44.8	45.8
4 性差別や人種差別などに問題意識を持たせる	37.4	33.7	43.7
5 国際交流や交換留学を活発にし、他国の事例や価値観を学ばせる	20.5	21.0	20.1
6 教職員への男女平等研修を充実する	20.8	20.8	21.2
7 その他	1.4	0.4	2.9
8 今のままでよい	2.0	1.0	2.9
無回答	3.0	2.4	2.6

問18 今の子どもたちには、男女平等の意識がどの程度浸透していると思いますか。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 十分浸透している	3.9	1.8	6.9
2 ある程度浸透している	53.9	56.2	51.1
3 あまり浸透していない	30.0	31.3	29.9
4 浸透していない	3.0	2.8	3.4
無回答	9.2	7.9	8.7

(問18で「1 十分浸透している」、または「2 ある程度浸透している」と答えた方にうかがいます。)

問18-1 その理由は、下記のどれにあたりますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	519	287	219
1 技術科・家庭科を男女が共に学ぶようになるなど、授業で男女の不要な区別がなくなったから	48.9	51.6	44.7
2 学校での先生の接し方(名前の呼びかたなど)が変わったから	9.2	9.4	9.1
3 混合名簿の採用で男子を上とする風潮がなくなったから	13.5	13.9	12.8
4 母親が仕事をしたり、地域活動に参加したりするなど、母親の生き方や意識が変わったから	52.2	50.5	54.3
5 父親も家事・育児に参加するなど、父親の生き方や意識が変わったから	48.2	48.1	48.9
6 テレビや新聞などのマスメディアで、性別にとらわれず自分らしく生きる男女の情報が提供されるから	38.3	36.2	41.1
7 インターネットで、性別にとらわれず自分らしく生きる男女の情報が提供されるから	5.4	5.2	5.5
8 国・自治体の啓発が浸透しているから	3.7	2.4	5.5
9 級長・部長・生徒会役員など、生徒の中の役員を男女が平等に担うようになったから	13.5	12.5	15.1
10 国際化の浸透で、海外の男女平等の在り方が影響しているから	15.2	13.6	17.8
無回答	2.3	2.8	1.8

(ここからは再び、すべての方にお聞きします。)

《高齢期の暮らしについておたずねします。》

問19 高齢者や病人の介護は、主として女性（妻、娘、息子の配偶者）の役割になりがちです。このことについてあなたはどのように思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 女性の役割として当然だと思う	0.9	1.2	0.5
2 介護される側のことを考えると、女性が介護する方がよい	16.4	13.1	20.1
3 労働時間などの現状からみて、女性に負担が集中するのはやむを得ない	21.2	22.6	20.1
4 男性も積極的に取り組む方がよい	52.4	55.4	49.5
5 その他	4.1	3.6	4.8
6 わからない	2.9	2.8	2.9
無回答	2.1	1.2	2.1

第4章 質問と回答

問20 これからは公的サービスの整備とともに、男性、女性共に介護を担うことが求められます。男性の介護への参加を進めるためには、特にどのようなことが必要だと思われますか。2つまで選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 男性が取りやすいような介護休暇制度を整備する	61.4	63.2	60.6
2 男性が気軽に参加できるような介護講座を開催する	25.5	25.3	26.5
3 男性の理解と協力を得るための啓発活動を行う	22.8	24.6	20.6
4 労働時間の短縮や、在宅勤務、フレックスタイムの導入などを企業に働きかける	53.8	55.2	53.7
5 女性が男性に介護への参加を強く要望する	6.1	5.3	7.7
6 介護は今まで通り、女性が中心となっていくべきで、男性の参加は必要ない	0.8	0.6	0.8
7 その他	1.4	1.6	0.8
8 わからない	2.9	3.0	2.6
無回答	2.7	1.4	2.9

《防災・避難についておたずねします。》

問21 東日本大震災の教訓として、防災・避難について女性の視点が欠けていたため、避難者が不便を強いられたことが指摘されています。防災（災害復興も含む）活動に関して男女共同参画を推進していくためには、特にどのようなことが必要と考えますか。A～Hの項目について、それぞれ1つずつ選んで番号に○をつけてください。

		n	必要	どちらかといえば必要	あまり必要ではない	必要ない	無回答
A 防災訓練や防災研修会への女性の積極的な参加に努める	全 体	898	34.4	51.9	6.6	1.3	5.8
	女 性	495	30.1	55.4	8.5	1.0	5.1
	男 性	378	40.2	48.7	4.2	1.9	5.0
B 母親教室、乳幼児教室、PTA活動等、女性が多く集まる場での研修・訓練	全 体	898	29.0	52.9	10.1	1.4	6.6
	女 性	495	28.5	54.3	10.5	1.2	5.5
	男 性	378	29.9	52.9	9.3	1.9	6.1
C 女性消防職員や女性消防団員の育成、役員への女性の登用	全 体	898	21.2	47.0	22.9	2.6	6.3
	女 性	495	20.6	46.7	25.1	2.2	5.5
	男 性	378	22.5	48.1	21.2	2.6	5.6
D 地域の自主防災活動の運営に関する女性の積極的な参加	全 体	898	24.9	57.2	10.2	1.7	5.9
	女 性	495	22.8	59.0	11.5	1.6	5.1
	男 性	378	28.0	56.3	9.0	1.6	5.0
E 災害時ボランティア登録など多様な人材の確保	全 体	898	34.6	50.1	7.0	1.1	7.1
	女 性	495	35.4	50.1	6.9	0.8	6.9
	男 性	378	34.4	51.1	7.4	1.3	5.8
F 女性や乳幼児等に配慮した避難所機能の確保	全 体	898	60.2	31.7	1.9	0.8	5.3
	女 性	495	62.8	31.1	1.6	0.4	4.0
	男 性	378	58.7	32.3	2.4	1.3	5.3
G 男女別のニーズに配慮した避難所などでの支援マニュアルの充実	全 体	898	44.9	40.2	7.6	1.3	6.0
	女 性	495	49.5	36.6	7.1	1.4	5.5
	男 性	378	40.7	44.4	8.7	1.3	4.8
H 避難所運営の際の女性リーダーの配置	全 体	898	31.3	46.1	13.9	2.6	6.1
	女 性	495	32.9	44.8	14.3	2.8	5.1
	男 性	378	29.9	48.4	13.8	2.4	5.6

《白井市への要望についておたずねします。》

問22 男女の共同参画を進めるため、これから市が特に力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 男女共同参画についての学習講座を開くなど、社会教育を充実させる	16.7	15.6	19.3
2 すべての施策に男女共同参画の視点を取り入れる	19.3	16.0	24.1
3 市全体の男女共同参画を推進するための条例を制定する	5.7	4.8	7.1
4 住民参加の推進会議を開き、施策への提言を促す	6.9	4.6	10.3
5 市の審議会など、施策を決定する場に女性の参加をもっと増やす	19.2	18.2	21.7
6 学校での男女平等教育を進める	17.8	18.0	18.8
7 女性の就労を支援するために、情報提供や職業訓練の場を充実させる	17.8	20.8	15.1
8 保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える	41.9	44.6	40.5
9 ホームヘルプ、ショートステイ、デイケアなどの介護サービスを充実させる	31.7	35.8	27.5
10 青少年女性センターなど、拠点となる施設を強化する	3.0	2.8	3.4
11 関連ある情報を積極的に提供する	13.9	16.6	11.1
12 相談やカウンセリング機能を充実する	8.4	9.3	7.7
13 母子家庭や父子家庭を援助する	15.9	15.2	16.9
14 男性が家庭生活で自立できたり、地域活動に参加できたりするような活動を進める	16.1	17.4	15.3
15 女性の視点に配慮した防災・災害対策を行う	10.1	10.1	10.8
16 その他	1.6	1.0	2.1
17 特に何もなし（力を入れる必要がない）	1.1	0.8	1.6
18 わからない	3.9	4.0	4.0
無回答	4.7	3.0	2.4

《統計処理のために、あなたご自身のことについておたずねします。》

F 1 あなたの性別をお答えください。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体
n	898
1 男性	42.1
2 女性	55.1
無回答	2.8

F 2 あなたの年齢をお答えください。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 18・19歳	1.6	0.8	2.6
2 20～24歳	3.7	4.2	3.2
3 25～29歳	3.0	3.6	2.4
4 30～34歳	6.2	6.5	6.1
5 35～39歳	8.9	9.9	8.2
6 40～44歳	8.4	9.5	7.4
7 45～49歳	7.1	7.3	7.4
8 50～54歳	7.6	8.1	7.4
9 55～59歳	8.6	9.9	7.1
10 60～64歳	10.9	11.1	11.4
11 65～69歳	12.5	11.7	13.8
12 70～74歳	10.6	10.1	11.9
13 75歳以上	9.2	7.3	11.1
無回答	1.8	－	－

F 3 あなたは現在、結婚（事実婚を含む）していますか。1つ選んで番号に○をつけて下さい。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 している（事実婚を含む）	76.9	78.4	78.8
2 していない（離別・死別など）	9.0	10.5	7.1
3 していない（未婚）	12.1	11.1	14.0
無回答	1.9	－	－

第4章 質問と回答

（F3で「1 している（事実婚を含む）」と答えた方におたずねします。）

F3-1 あなたの世帯は、共働きですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	691	388	298
1 共働き	42.5	46.4	37.9
2 夫だけ働いている	28.9	27.3	30.9
3 妻だけ働いている	4.3	3.4	5.7
4 夫婦とも無職	23.4	22.2	24.8
無回答	0.7	0.8	0.7

（ここからは再び、すべての方にお聞きします。）

F4 白井市にお住まいの期間はどれほどですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 生まれたときから	7.5	6.7	9.0
2 30年以上	20.3	17.6	24.3
3 20年以上30年未満	22.0	24.8	19.6
4 10年以上20年未満	21.4	21.4	21.7
5 5年以上10年未満	15.3	17.2	13.2
6 5年未満	11.2	11.3	11.6
無回答	2.3	1.0	0.5

（F4で「6 5年未満」と答えた方にうかがいます。）

F4-1 転入された主な理由は次のうちのどれですか。該当するものすべての番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	101	56	44
1 住宅を購入、新築したため	56.4	51.8	63.6
2 市内に住む家族と同居や近居をするため	13.9	12.5	15.9
3 結婚したため	8.9	16.1	—
4 仕事の都合で	15.8	8.9	25.0
5 家族の都合で	11.9	14.3	6.8
6 その他	6.9	8.9	4.5
無回答	—	—	—

（ここからは再び、すべての方にお聞きします。）

F 5 あなたは、現在どちらの地区にお住まいですか。次の選択肢から1つ選んで番号に○をつけてください。（わからない場合は、自宅から一番近い小学校に○をつけてください）

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 白井第一小学校区	9.4	9.5	9.5
2 白井第二小学校区	4.9	5.1	4.5
3 白井第三小学校区	12.4	12.7	12.7
4 大山口小学校区	14.7	14.9	15.1
5 清水口小学校区	12.2	10.9	14.3
6 七次台小学校区	7.5	8.1	7.1
7 南山小学校区	13.9	14.5	13.5
8 池の上小学校区	10.9	11.9	10.1
9 桜台小学校区	11.4	11.3	11.6
無回答	2.8	1.0	1.6

F 6 主なお仕事は何ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 農林業	2.3	1.6	3.2
2 商店・工場・サービス業などの自営業	3.2	1.6	5.6
3 会社または団体の役員	3.1	1.0	5.8
4 医師・弁護士などの自由業	0.9	0.6	1.3
5 会社・商店・工場・サービス業などの勤め人	23.5	13.3	37.3
6 官公庁・学校などの公務員	2.6	1.2	4.5
7 パート、アルバイト、派遣、内職などの臨時的な仕事	18.0	27.7	6.6
8 専業主婦	15.7	27.7	—
9 学生	3.1	2.8	3.7
10 無職	20.7	15.8	26.7
11 その他	3.9	4.2	2.9
無回答	2.9	2.4	2.4

F7 主な仕事場（学校）はどちらですか。1つ選んで番号に○をつけてください（専業主婦や無職の方は「1 自宅」に○をつけてください）。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 自宅	38.1	44.2	29.4
2 白井市内	12.2	16.2	7.9
3 白井市以外の印旛都市	5.9	7.3	4.2
4 その他の県内	15.1	12.1	19.6
5 東京都	18.3	11.7	28.0
6 東京都を除く県外	1.1	0.6	1.9
7 その他	3.3	2.8	3.7
無回答	5.9	5.1	5.3

F8 あなたの同居している家族の構成をお答えください。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	898	495	378
1 ひとり暮らし（同居の家族はいない）	5.5	4.6	6.6
2 夫婦のみ	28.6	27.5	30.4
3 親と子	47.2	51.7	42.6
4 親と子と孫	5.7	4.6	6.6
5 その他	9.6	8.9	10.8
無回答	3.5	2.6	2.9

（F8で「3 親と子」または「4 親と子と孫」と答えた方におたずねします。）

F8-1 お子さんと同居している方におたずねします。一番下のお子さんの年代は次のどれにあたりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	475	279	186
1 3歳未満	12.2	14.7	9.1
2 3歳以上就学前	11.4	11.8	11.3
3 小学生	17.3	18.3	15.6
4 中学生	4.2	3.9	4.8
5 高校生	6.3	6.1	7.0
6 それ以上	43.4	40.9	45.2
無回答	5.3	4.3	7.0

2. 市内企業調査

以下の数値は、nは実数、回答はnを基数としたパーセンテージで表示している。

《はじめに、家庭生活についておたずねします。》

問1 あなたが理想とする男女の役割分担は、次のどれに最も近いですか、また、現在のご家庭の状況（一人暮らしの人は、これまでの家庭での状況）は、次のどれに最も近いですか。
1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項 目		n	理想は	現実
1 男性が働き、女性が家事全般をする	全体	173	24.9	13.3
	女性	92	15.2	3.3
	男性	79	35.4	25.3
2 男性が主として働き女性はパート、家事全般は女性がする	全体	173	12.7	27.7
	女性	92	7.6	21.7
	男性	79	19.0	35.4
3 男性女性が共に働き、家事全般は主として女性がする	全体	173	0.6	32.4
	女性	92	1.1	45.7
	男性	79	－	16.5
4 男性女性が共に働き、家事全般も男性女性が共にする	全体	173	43.4	12.1
	女性	92	55.4	10.9
	男性	79	29.1	13.9
5 女性が働き、男性が家事全般をする	全体	173	－	0.6
	女性	92	－	－
	男性	79	－	1.3
6 特に何も決めず、できる人ができることをする	全体	173	15.6	8.1
	女性	92	19.6	10.9
	男性	79	11.4	5.1
7 その他	全体	173	0.6	3.5
	女性	92	－	5.4
	男性	79	1.3	1.3
8 わからない	全体	173	1.2	0.6
	女性	92	1.1	－
	男性	79	1.3	－
無回答	全体	173	1.2	1.7
	女性	92	－	2.2
	男性	79	2.5	1.3

《仕事についておたずねします。》

問2 あなたは、収入の得られる労働や、家庭内における家事・育児・介護などに1日平均どのくらい時間をあてていますか。それぞれについて、該当する時間数の番号を口の中に記入してください。

【収入の得られる労働】

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 ほとんどしない	-	-	-
2 15分くらい	-	-	-
3 30分くらい	-	-	-
4 1時間くらい	0.6	1.1	-
5 2～3時間くらい	0.6	1.1	-
6 4～5時間くらい	5.2	7.6	2.5
7 6～7時間くらい	10.4	14.1	5.1
8 8時間以上	81.5	73.9	91.1
無回答	1.7	2.2	1.3

【家庭内の家事・育児・介護など】

平日の場合

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 ほとんどしない	22.0	8.7	38.0
2 15分くらい	5.8	1.1	11.4
3 30分くらい	6.9	5.4	8.9
4 1時間くらい	19.7	16.3	22.8
5 2～3時間くらい	24.3	38.0	7.6
6 4～5時間くらい	10.4	17.4	2.5
7 6～7時間くらい	5.2	9.8	-
8 8時間以上	1.7	2.2	1.3
無回答	4.0	1.1	7.6

休日の場合

全 体	女 性	男 性
173	92	79
6.4	2.2	11.4
4.0	2.2	6.3
8.1	4.3	12.7
12.7	4.3	22.8
24.9	25.0	22.8
20.8	29.3	11.4
6.9	12.0	1.3
12.1	18.5	5.1
4.0	2.2	6.3

問3 あなたが仕事をしている理由は次のどれに近いですか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 家族の生活を支えるため	63.0	41.3	88.6
2 家計を補うため	32.4	41.3	21.5
3 親から家業を受け継いだため	6.4	4.3	8.9
4 趣味や余暇活動を充実させるため	20.8	22.8	19.0
5 自分だけの小遣いがほしいため	7.5	12.0	2.5
6 将来に備えて貯蓄するため	34.7	35.9	34.2
7 仕事が楽しく、気に入っているため	8.7	12.0	5.1
8 自分の技能や知識などを活かしたいため	8.7	7.6	10.1
9 社会との関わりを持ちたいため	21.4	28.3	13.9
10 働くことは当たり前だと思うため	41.0	29.3	54.4
11 他にすることがなく時間があるため	0.6	1.1	-
12 その他	4.0	4.3	2.5

問4 女性が仕事を続けるのは難しいとされていますが、その理由は何だと思われますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 女性の雇用機会や採用数が、男性よりも少ないこと	20.8	15.2	27.8
2 待遇（給与、昇進）に男女差があること	26.0	22.8	30.4
3 配属や仕事の内容に男女差があること	17.3	7.6	29.1
4 結婚や出産のとき、家族の理解・協力が得られないこと	28.3	37.0	17.7
5 結婚や出産のとき、十分な制度や企業の理解がないこと	44.5	51.1	38.0
6 保育施設や保育制度が充実していないこと	42.2	44.6	39.2
7 病人や高齢者の世話が女性だけに任せられやすいこと	33.5	44.6	20.3
8 一般に、結婚や出産を機に退社する女性が多いこと	31.2	20.7	43.0
9 配偶者控除等により、専業主婦世帯が優遇されていること	9.8	12.0	7.6
10 その他	5.2	4.3	6.3
11 仕事を続けることへの障害になっていることは何もない	0.6	1.1	-
12 わからない	0.6	1.1	-

第4章 質問と回答

問5 女性の働き方についてあなたの考えに最も近いものは次のうちどれですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 結婚する、しないにかかわらず、女性は働きに出ないで家にいた方がよい	-	-	-
2 一度就職して結婚や出産を機に家庭に入るのがよい	9.8	3.3	17.7
3 家事や育児が忙しい時期には休・退職し、子どもが大きくなってから再び働くのがよい	52.6	52.2	51.9
4 結婚や出産にかかわらず、仕事を持ち続けた方がよい	24.3	34.8	12.7
5 必要に応じて、臨時にパートやアルバイトをするのがよい	8.1	4.3	12.7
6 その他	3.5	4.3	2.5
7 わからない	1.7	1.1	2.5

問6 一時期家庭に入った女性が再就職を希望する場合、どのような援助や対策が望まれると思いますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 出産、育児などで退職しても同一企業に再雇用されるようにすること	54.9	54.3	55.7
2 求人情報を入手しやすくすること	9.2	8.7	10.1
3 再就職のための研修や講習を実施すること	12.1	13.0	11.4
4 技術や技能の習得の機会を多くすること	8.7	7.6	8.9
5 求人の年齢制限を緩和すること	28.9	34.8	22.8
6 パートの労働条件を向上すること	39.9	28.3	54.4
7 働く場を多くすること	29.5	28.3	30.4
8 就職に関する相談体制を充実すること	6.9	9.8	2.5
9 保育施設や保育制度を充実すること	56.6	60.9	51.9
10 医療施設や介護制度を充実すること	19.7	23.9	13.9
11 その他	2.3	3.3	1.3
12 わからない	2.3	1.1	3.8

《ワーク・ライフ・バランスについておたずねします。》

問7 生活の中での、仕事・家事（育児・介護含む）・プライベートな時間（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度についておうかがいします。「理想」としての優先度と、「現実」の優先度について、あなたのお考えや現状に最も近いものを、1～7のうちから1つずつ選んで番号に○をつけてください。

項 目		n	理想は	現実には
1 仕事優先	全体	173	4.6	55.5
	女性	92	1.1	45.7
	男性	79	8.9	67.1
2 家事優先	全体	173	1.7	2.3
	女性	92	—	2.2
	男性	79	3.8	2.5
3 プライベートな時間優先	全体	173	12.7	—
	女性	92	10.9	—
	男性	79	13.9	—
4 仕事と家事優先	全体	173	7.5	21.4
	女性	92	6.5	30.4
	男性	79	8.9	11.4
5 仕事とプライベート優先	全体	173	10.4	11.6
	女性	92	8.7	8.7
	男性	79	12.7	13.9
6 家事とプライベート優先	全体	173	7.5	1.7
	女性	92	10.9	1.1
	男性	79	3.8	2.5
7 仕事・家事・プライベートを両立	全体	173	54.9	7.5
	女性	92	60.9	12.0
	男性	79	48.1	2.5
無回答	全体	173	0.6	—
	女性	92	1.1	—
	男性	79	—	—

第4章 質問と回答

問8 あなたにとって、仕事・家事・プライベートな時間のバランスは、うまくとれていると思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 うまくとれている	9.8	4.3	16.5
2 ややとれている	36.4	39.1	32.9
3 あまりとれていない	46.8	50.0	43.0
4 まったくとれていない	6.9	6.5	7.6

問9 あなたの職場でのワーク・ライフ・バランスの取り組みについて、どのように認識していますか。現状および今後の必要性について、最も近いものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

現状

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 すでに十分取り組んでいる	12.1	7.6	17.7
2 取り組んではいるが不十分	23.7	29.3	17.7
3 あまり取り組んでいない	33.5	27.2	40.5
4 全く取り組んでいない	13.9	13.0	15.2
5 取り組む必要性を感じない	5.2	6.5	3.8
6 わからない	11.0	15.2	5.1
無回答	0.6	1.1	-

今後の必要性

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 積極的に取り組むべき	27.2	23.9	31.6
2 ある程度取り組むべき	50.3	56.5	43.0
3 現状のままで問題はない	18.5	15.2	21.5
4 取り組む必要がない	1.7	1.1	2.5
無回答	2.3	3.3	1.3

問10 あなたの勤めているところでは、ワーク・ライフ・バランスの取り組みとして、どのようなことを実施していますか。また、実施できれば効果のある取り組みだと思われるものは何ですか。それぞれ該当するものすべての番号に○をつけてください。

〈 ①実施している取り組み 〉

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 経営戦略などにワーク・ライフ・バランスを進める趣旨を盛り込んでいる	3.5	2.2	5.1
2 育児休業や短時間勤務制度を利用しても評価の際に不利益にならないことをルール化している	13.3	14.1	12.7
3 ワーク・ライフ・バランスに関する情報提供・相談を行う組織・担当を設けている	3.5	3.3	3.8
4 家庭の事情によっては、勤務地を考慮している	9.2	6.5	12.7
5 ノー残業デーを設けている	23.1	20.7	26.6
6 従業員に対して作業の無駄をなくして、早く帰るように励行している	38.2	31.5	46.8
7 従業員が休みをとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるように工夫している	29.5	27.2	32.9
8 従業員一人ひとりに対して、定期的に面談を実施している	15.6	16.3	15.2
9 管理職を対象とした研修を実施している	6.4	5.4	7.6
10 その他	2.9	3.3	2.5
11 特にない	29.5	33.7	22.8

〈 ②効果のあると思われる取り組み 〉

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 経営戦略などにワーク・ライフ・バランスを進める趣旨を盛り込んでいる	11.0	7.6	15.2
2 育児休業や短時間勤務制度を利用しても評価の際に不利益にならないことをルール化している	22.5	26.1	19.0
3 ワーク・ライフ・バランスに関する情報提供・相談を行う組織・担当を設けている	11.6	13.0	10.1
4 家庭の事情によっては、勤務地を考慮している	13.3	14.1	12.7
5 ノー残業デーを設けている	23.7	22.8	24.1
6 従業員に対して作業の無駄をなくして、早く帰るように励行している	36.4	35.9	38.0
7 従業員が休みをとりやすいように、従業員相互で業務を共有できるように工夫している	43.4	37.0	51.9
8 従業員一人ひとりに対して、定期的に面談を実施している	16.2	16.3	16.5
9 管理職を対象とした研修を実施している	9.8	9.8	10.1
10 その他	1.7	1.1	2.5
11 特にない	13.3	15.2	11.4
無回答	4.0	6.5	-

問11 ワーク・ライフ・バランスを推進することのプラスの効果として考えられるものは何だと思いますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。

	全体	女性	男性
n	173	92	79
1 家事・育児・介護などの家庭責任を男性も担いやすくなり、女性の負担が少なくなる	42.2	41.3	43.0
2 女性の継続就業や希望する働き方の再就職が容易になる	26.6	37.0	15.2
3 自己啓発や趣味の時間が増え、能力を高めたり、満足感を得たりすることができる	31.8	23.9	41.8
4 働く人々が地域活動にかかわることができるようになり、地域の活性化と安全性の向上につながる	12.7	10.9	13.9
5 長時間労働が減り、心身の健康によい影響を及ぼす	49.1	46.7	53.2
6 人口減少が進行する中、女性や高齢者など多様な人材が活用できるようになり、労働力不足の解消につながる	24.9	26.1	22.8
7 一人ひとりの仕事への満足度が向上し、能力が十分に発揮され、生産性の高い効率的な働き方ができるようになり、日本経済の競争力も高まる	21.4	19.6	24.1
8 仕事をもつ男女が、子どもとかかわることができる時間が増え、安心して子どもを産み育てることができる	46.2	55.4	35.4
9 労働時間や働き方の柔軟性などの仕事と家庭の両立環境や、子育て環境が整い、ひいては少子化の進行を防ぐことができる	28.9	34.8	22.8
10 企業などが個々の様々なニーズ（希望や必要性）に対応した就業環境を提供することで、働く人の意欲や満足度が高まるので、優秀な人材を確保・定着させることができる	20.2	21.7	19.0
11 女性農業者などの経営参画と社会参画を図ることができる	0.6	－	1.3
12 その他	0.6	1.1	－
13 わからない	4.0	3.3	3.8
無回答	1.7	3.3	－

《職場についておたずねします。》

問12 あなたは職場で次のような不満やストレスを感じることがありますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 労働時間が長い・残業が多い	26.0	15.2	38.0
2 労働に見合った収入が得られない	30.6	31.5	29.1
3 雇用が不安定で、いつ解雇になるかわからない	3.5	6.5	—
4 休暇が取りにくい	37.6	35.9	40.5
5 通勤するだけで疲れる	8.7	7.6	10.1
6 疲労がひどく、体力・能力の限界を感じる	12.1	10.9	12.7
7 職場での人間関係がうまくいかない	9.2	3.3	16.5
8 仕事へのやりがいを感じられない	11.0	10.9	11.4
9 男女による格差（待遇面・精神面）がある	10.4	15.2	5.1
10 不満やストレスを感じることはない	17.9	17.4	19.0
11 その他	4.0	4.3	3.8
無回答	4.6	4.3	3.8

問13 あなたの職場には次のような男女格差や性差がありますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 女性の採用数が男性より少ない	26.6	19.6	35.4
2 配属や仕事内容に男女差がある	21.4	18.5	25.3
3 待遇（給与・昇進）に男女差がある	22.5	26.1	19.0
4 男性にだけ残業や休日出勤がある	6.4	4.3	8.9
5 結婚や出産を機に退社する女性が多い	8.1	6.5	10.1
6 女性は雑用や補助的な仕事が多い	15.0	13.0	17.7
7 セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）がある	0.6	1.1	—
8 男女格差は何もない	26.0	25.0	27.8
9 その他	3.5	5.4	1.3
10 わからない	14.5	18.5	8.9
無回答	5.2	5.4	3.8

第4章 質問と回答

問14 職場で女性を積極的に活用することによって、企業の活動にどのような効果があると思いますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 商品開発やマーケティングに女性独自の視点を取り入れることができる	39.3	40.2	38.0
2 企業の人材を有効に活用できる	27.2	25.0	30.4
3 企業のイメージアップにつながる	17.3	9.8	26.6
4 社員全体の労働意欲が高まる	22.0	15.2	30.4
5 顧客のニーズに幅広く対応できるようになる	26.0	28.3	22.8
6 会社のなかの競争意識が高まり、組織の活性化につながる	8.7	6.5	11.4
7 優秀な人材が確保できる	27.7	22.8	34.2
8 人口減少が進むなかで、労働力の確保につながる	20.2	25.0	15.2
9 その他	2.3	2.2	2.5
10 特にない	9.2	12.0	6.3
無回答	1.7	2.2	1.3

問15 次のA～Nの各制度について、あなたは現在までに利用経験がありますか。また、今後の利用／導入をしてほしいと思いますか。各制度ごとに利用経験と今後の意向、それぞれに○をつけてください。

		現在までの利用経験				今後の利用意向			
		n	利用している／ある	利用したことはない	無回答		今後利用したい／導入してほしい	今後の利用／導入を望んでいない	無回答
A 産前産後休暇	全体	173	14.5	76.9	8.7	→	53.2	25.4	21.4
	女性	92	23.9	69.6	6.5		57.6	20.7	21.7
	男性	79	3.8	84.8	11.4		48.1	31.6	20.3
B 通院休暇制度	全体	173	6.9	82.1	11.0	→	53.8	24.3	22.0
	女性	92	8.7	81.5	9.8		59.8	17.4	22.8
	男性	79	5.1	82.3	12.7		46.8	32.9	20.3
C 妊婦の通勤緩和措置	全体	173	2.9	86.7	10.4	→	49.1	30.1	20.8
	女性	92	4.3	85.9	9.8		56.5	20.7	22.8
	男性	79	1.3	87.3	11.4		40.5	41.8	17.7
D 妊娠障害休暇（つわり休暇）	全体	173	2.9	86.1	11.0	→	46.2	32.4	21.4
	女性	92	4.3	85.9	9.8		52.2	25.0	22.8
	男性	79	1.3	86.1	12.7		39.2	41.8	19.0
E 育児休業制度	全体	173	7.5	82.7	9.8	→	53.2	26.6	20.2
	女性	92	13.0	78.3	8.7		57.6	20.7	21.7
	男性	79	1.3	87.3	11.4		48.1	34.2	17.7
F 短時間勤務制度	全体	173	8.7	82.7	8.7	→	52.6	26.6	20.8
	女性	92	9.8	82.6	7.6		56.5	20.7	22.8
	男性	79	7.6	82.3	10.1		48.1	34.2	17.7
G フレックスタイム勤務制度	全体	173	8.1	82.1	9.8	→	54.3	28.3	17.3
	女性	92	7.6	82.6	9.8		56.5	21.7	21.7
	男性	79	8.9	81.0	10.1		51.9	36.7	11.4
H 始業時刻の繰り上げ・繰り下げ	全体	173	13.9	75.7	10.4	→	55.5	26.6	17.9
	女性	92	17.4	72.8	9.8		58.7	20.7	20.7
	男性	79	10.1	78.5	11.4		51.9	34.2	13.9
I 所定外時間の労働の制限	全体	173	4.0	85.0	11.0	→	45.7	32.4	22.0
	女性	92	1.1	89.1	9.8		45.7	29.3	25.0
	男性	79	7.6	79.7	12.7		45.6	36.7	17.7
J 育児時間	全体	173	2.3	86.7	11.0	→	41.6	35.3	23.1
	女性	92	4.3	85.9	9.8		45.7	29.3	25.0
	男性	79	－	87.3	12.7		36.7	43.0	20.3
K 企業内保育	全体	173	0.6	87.9	11.6	→	34.1	42.8	23.1
	女性	92	1.1	88.0	10.9		40.2	33.7	26.1
	男性	79	－	87.3	12.7		26.6	54.4	19.0
L 介護休業制度	全体	173	1.2	87.9	11.0	→	54.9	25.4	19.7
	女性	92	2.2	88.0	9.8		62.0	18.5	19.6
	男性	79	－	87.3	12.7		46.8	34.2	19.0
M ボランティア休暇制度	全体	173	－	88.4	11.6	→	34.1	41.0	24.9
	女性	92	－	89.1	10.9		33.7	35.9	30.4
	男性	79	－	87.3	12.7		34.2	48.1	17.7
N その他	全体	173	－	36.4	63.6	→	6.4	22.0	71.7
	女性	92	－	37.0	63.0		5.4	17.4	77.2
	男性	79	－	35.4	64.6		6.3	27.8	65.8

問16 今、あなたに子どもが生まれたとしたら、育児休業を取得したいと思いますか。生まれたと仮定してお答えください。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 取得したい	60.1	76.1	40.5
2 取得したいと思うが、取得しない	19.1	12.0	27.8
3 取得しない	16.8	9.8	25.3
無回答	4.0	2.2	6.3

(問16で「2 取得したいと思うが、取得しない」、または「3 取得しない」と回答された方にお聞きします。)

問16-1 取得しない理由は何ですか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	62	20	42
1 職場の同僚の負担が増えて迷惑がかかると思うから	58.1	55.0	59.5
2 仕事が忙しく取得できる状況にないから	37.1	30.0	40.5
3 取得しにくい雰囲気職場にあるから	11.3	10.0	11.9
4 復帰後の職場や仕事の変化に対応できなくなると思うから	25.8	50.0	14.3
5 昇任や評価等に影響すると思うから	6.5	-	9.5
6 上司の理解が得られそうにないから	4.8	-	7.1
7 制度を利用できるかわからないから	8.1	5.0	9.5
8 仕事にやりがいを感じているから	8.1	10.0	7.1
9 取得すると経済的に苦しくなると思うから	9.7	10.0	9.5
10 自分以外に育児に専念する人がいるから	17.7	-	26.2
11 パートナーの方が子育てに適していると思うから	12.9	-	19.0
12 家族に反対されるから	-	-	-
13 その他	6.5	10.0	4.8
無回答	1.6	5.0	-

問17 男性が女性とともに育児や介護などに参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 仕事中心という社会全体のしくみを改めること	39.3	34.8	44.3
2 男性が育児・介護休暇を取りやすくすること	57.8	60.9	53.2
3 労働時間の短縮や、フレックスタイム制などを導入すること	23.1	20.7	26.6
4 男性のための育児・介護講座を充実すること	4.6	4.3	3.8
5 男性自身の意識を高めること	43.9	51.1	34.2
6 男性が気軽に育児や介護について相談できる体制を充実すること	8.1	6.5	10.1
7 仕事を持ちながら利用しやすい保育・介護施設を整えること	28.9	37.0	20.3
8 育児や介護についての地域でのネットワークを整えること	5.8	7.6	3.8
9 家庭で育児や介護について十分に話し合うこと	9.2	7.6	11.4
10 男性の育児や介護参加を妨げる社会通念やしきたりを改めること	31.8	35.9	27.8
11 その他	1.2	-	2.5
12 わからない	1.7	2.2	1.3
無回答	1.2	1.1	1.3

第4章 質問と回答

問18 あなたはどのような環境があれば、仕事と生活の両立が、よりよくできると思いますか。
該当するものすべての番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 働いている時間が短くなる	30.6	28.3	34.2
2 出社時刻や退社時刻が都合に合わせて選択できる	45.1	54.3	32.9
3 子どもを保育園や両親・親戚などに長時間預けられる	32.9	46.7	16.5
4 会社に託児所がある	26.6	34.8	17.7
5 給料が今より増える	47.4	39.1	57.0
6 育児や介護で休職しても、それ以降の会社生活が不利にならない	37.6	46.7	26.6
7 短時間勤務制度を利用しても、それ以降の会社生活が不利にならない	27.7	35.9	17.7
8 在宅勤務やテレワークで仕事ができる環境	14.5	18.5	10.1
9 上司の理解	39.9	42.4	36.7
10 職場の同僚の理解	43.4	43.5	43.0
11 仕事の量を減らしてほしい	13.3	10.9	16.5
12 仕事の質（難しさ）を低くしてほしい	4.6	3.3	6.3
13 その他	2.3	-	5.1
14 わからない	1.7	-	3.8
無回答	1.2	1.1	1.3

問19 より良い職場環境に向けて、今後実施してほしいことは何ですか。該当するものすべての番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 育児・介護休業を気がねなく取得できる環境	59.5	63.0	54.4
2 誰でも利用できる相談窓口の設置	11.0	7.6	15.2
3 ストレスチェックと必要に応じた支援	10.4	8.7	12.7
4 女性の職域が拡大するようなサポート体制	21.4	23.9	19.0
5 人権意識を高めるための研修	9.2	13.0	3.8
6 キャリア・アップ研修の拡充	12.1	13.0	11.4
7 管理職相当・リーダーなど、女性の積極的登用	18.5	15.2	21.5
8 必要と状況に応じた短時間勤務、フレックスタイムなどの制度の整備	42.8	52.2	32.9
9 その他	1.7	2.2	1.3
10 特になし	8.7	6.5	11.4
無回答	2.3	2.2	2.5

問20 あなたの現在の職層はどこに該当しますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 管理職 （管理職手当がある者）	31.2	10.9	55.7
2 係長職	4.6	4.3	5.1
3 主 任	6.4	7.6	5.1
4 一般職	46.8	59.8	31.6
5 その他	9.8	16.3	1.3
無回答	1.2	1.1	1.3

問21 あなたは、将来的にはどのような職層で働きたいと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 管理職 （管理職手当がある者）	39.3	18.5	64.6
2 係長職	2.3	1.1	3.8
3 主 任	1.7	1.1	2.5
4 一般職	24.3	37.0	10.1
5 その他	2.3	3.3	1.3
6 わからない	23.1	29.3	13.9
無回答	6.9	9.8	3.8

第4章 質問と回答

（問21で「2～5」と回答された方にお聞きします。）

問21－1 管理職になりたくない理由は何ですか。該当するものすべての番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	53	39	14
1 異動の幅が広がったり、頻繁になったりするのがいやだから	11.3	12.8	7.1
2 勤務時間が安定していて休暇も取りやすいから	24.5	23.1	28.6
3 管理職になると、人事管理が煩わしいから	24.5	15.4	50.0
4 管理職になると、責任が重くなるから	41.5	38.5	50.0
5 第一線で活躍したいから	3.8	5.1	－
6 現在の地位が自分に適しているから	30.2	30.8	28.6
7 家庭生活と両立しやすいから	54.7	61.5	35.7
8 地域活動や趣味の活動と両立しやすいから	13.2	7.7	28.6
9 自分の能力に不安があるから	18.9	23.1	7.1
10 配偶者より高い地位につきたくないから	－	－	－
11 その他	7.5	7.7	7.1
12 特に理由はない	1.9	－	7.1
無回答	1.9	2.6	－

《セクシュアル・ハラスメントについておたずねします。》

問22 職場において、セクシュアル・ハラスメントが起こる原因は何だと思えますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 相手を職場の対等なパートナーとしてみていないから	36.4	40.2	31.6
2 性的言動を相手が不快に思うことがわかっていないから	60.7	66.3	54.4
3 固定的な性別役割分担意識にとらわれすぎているから	15.0	14.1	15.2
4 職場内の日常的なコミュニケーションが不足しているから	17.9	10.9	26.6
5 受ける側に職業人としての自覚が足りないから	8.1	5.4	11.4
6 受ける側が毅然とした対応をしないから	11.6	14.1	8.9
7 一部にモラルの低い人がいるから	60.1	64.1	54.4
8 その他	1.7	1.1	2.5
9 わからない	5.2	5.4	5.1
無回答	0.6	1.1	－

問23 あなたはこの数年間に、次のようなセクシュアル・ハラスメントを受けて不快に思ったり、他の人から直接相談を受けたりした経験がありますか。該当するものすべての番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 性的関係の誘いを受けた	1.2	2.2	－
2 体を触られたり、体をじろじろ見られた	4.6	5.4	3.8
3 容姿についてのからかいや性的な冗談、質問をされた	8.1	12.0	3.8
4 職場の飲み会などで、お酌やデュエットを強要された	4.0	5.4	2.5
5 「ちゃん」「おじさん」「おばさん」などと呼ばれた	9.2	13.0	5.1
6 結婚しない理由など、私生活に過度に立ち入る質問をされた	5.2	7.6	2.5
7 職場のメールに「かわいいね」とか「食事に付き合っ」といった内容が送られてきた	0.6	－	1.3
8 職場に水着やヌードの写真を貼ったり、パソコンの壁紙として利用していた	－	－	－
9 女性だからということでお茶くみや身の回りのことなどの雑用をさせられた	8.1	13.0	2.5
10 その他	2.3	4.3	－
11 受けた経験はない	69.4	60.9	78.5
無回答	8.1	7.6	8.9

問24 あなたの職場には、セクシュアル・ハラスメントの相談を受け付けてもらえる窓口がありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 あ る	28.9	26.1	32.9
2 な い	55.5	57.6	53.2
3 わからない	13.9	13.0	13.9
無回答	1.7	3.3	－

第4章 質問と回答

問25 あなたの職場におけるセクシュアル・ハラスメント対策への取り組みについて、どのように認識していますか。現状及び今後の必要性について、最も近いものを1つずつ選んで番号に○をつけてください。

現状

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 すでに十分取り組んでいる	20.8	19.6	22.8
2 取り組んではいるが不十分	15.6	13.0	19.0
3 あまり取り組んでいない	23.7	21.7	26.6
4 全く取り組んでいない	34.7	40.2	27.8
無回答	5.2	5.4	3.8

今後の必要性

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 積極的に取り組むべき	22.0	14.1	31.6
2 ある程度取り組むべき	31.8	31.5	32.9
3 現状のままで問題はない	42.8	52.2	32.9
無回答	3.5	2.2	2.5

《白井市への要望についておたずねします。》

問26 男女の共同参画を進めるため、これから市が特に力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。3つまで選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 男女共同参画についての学習講座を開くなど、社会教育を充実させる	9.8	9.8	10.1
2 すべての施策に男女共同参画の視点を取り入れる	11.6	10.9	12.7
3 市全体の男女共同参画を推進するための条例を制定する	4.0	3.3	5.1
4 住民参加の会議を開き、施策への提言を促す	4.6	2.2	7.6
5 市の審議会など、施策を決定する場に女性の参加をもっと増やす	8.1	5.4	11.4
6 学校での男女平等教育を進める	17.9	22.8	12.7
7 女性の就労を支援するために、情報提供や職業訓練の場を充実させる	27.2	33.7	20.3
8 保育所や学童保育など、地域の子育て環境を整える	50.9	59.8	40.5
9 ホームヘルプ、ショートステイ、デイケアなどの介護サービスを充実させる	32.9	43.5	21.5
10 青少年女性センターなど、拠点となる施設を強化する	2.3	2.2	2.5
11 関連ある情報を積極的に提供する	5.2	3.3	7.6
12 相談やカウンセリング機能を充実する	5.8	3.3	8.9
13 母子家庭や父子家庭を援助する	20.8	18.5	24.1
14 男性が家庭生活で自立できたり、地域活動に参加できたりするような活動を進める	8.7	13.0	3.8
15 女性の視点に配慮した防災・災害対策を行う	3.5	3.3	3.8
16 その他	1.2	1.1	1.3
17 特に何もなし（力を入れる必要がない）	3.5	1.1	6.3
18 わからない	8.7	5.4	11.4
無回答	2.9	2.2	3.8

《統計処理のために、あなたご自身のことについておたずねします。》

F1 あなたの性別をお答えください。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体
n	173
1 男 性	45.7
2 女 性	53.2
無回答	1.2

F2 あなたの年齢をお答えください。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 ～19歳	－	－	－
2 20～24歳	4.6	5.4	3.8
3 25～29歳	2.3	1.1	3.8
4 30～34歳	6.9	9.8	3.8
5 35～39歳	11.0	10.9	11.4
6 40～44歳	17.3	21.7	12.7
7 45～49歳	17.9	8.7	29.1
8 50～54歳	15.0	18.5	11.4
9 55～59歳	10.4	13.0	7.6
10 60～64歳	7.5	8.7	6.3
11 65～69歳	4.0	2.2	6.3
12 70～74歳	1.2	－	2.5
13 75歳以上	－	－	－
無回答	1.7	－	1.3

F3 あなたの現在の就労形態をお答えください。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 正規社員	83.8	77.2	93.7
2 非正規社員（嘱託、契約社員、パートタイム、アルバイトなど）	13.3	20.7	5.1
無回答	2.9	2.2	1.3

F4 あなたは現在、結婚（事実婚を含む）していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 している（事実婚を含む）	74.0	66.3	84.8
2 していない（離別・死別など）	9.2	15.2	2.5
3 していない（未婚）	14.5	18.5	10.1
無回答	2.3	－	2.5

（F4で「1 している（事実婚を含む）」と回答された方にお聞きします。）

F4-1 あなたの世帯は、共働きですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	128	61	67
1 共働き	77.3	93.4	62.7
2 夫だけ働いている	19.5	-	37.3
3 妻だけ働いている	3.1	6.6	-
無回答	-	-	-

F5 あなたの居住地をお答えください。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 白井市内	35.3	41.3	29.1
2 白井市外	63.0	58.7	69.6
無回答	1.7	-	1.3

F6 あなたの同居している家族の構成をお答えください。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	173	92	79
1 ひとり暮らし（同居の家族はいない）	1.7	1.1	2.5
2 夫婦のみ	17.9	16.3	20.3
3 親と子	59.0	57.6	62.0
4 親と子と孫	4.6	7.6	1.3
5 その他	15.6	17.4	13.9
無回答	1.2	-	-

第4章 質問と回答

（F6で「3 親と子」、または「4 親と子と孫」と回答された方にお聞きします。）

F6-1 お子さんと同居している方におたずねします。一番下のお子さんの年代は次のどれにあたりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

	全 体	女 性	男 性
n	110	60	50
1 3歳未満	4.5	6.7	2.0
2 3歳以上就学前	9.1	10.0	8.0
3 小学生	25.5	18.3	34.0
4 中学生	8.2	5.0	12.0
5 高校生	16.4	15.0	18.0
6 それ以上	30.0	38.3	20.0
無回答	6.4	6.7	6.0

白井市 男女共同参画に関する住民意識調査 報告書

平成 2 7 年 3 月

発 行：白井市企画政策課
白井市復 1 1 2 3
TEL 0 4 7 - 4 9 2 - 1 1 1 1 (代)

調査・分析：株式会社 サーベイリサーチセンター
東京都荒川区西日暮里 2 - 4 0 - 1 0
TEL 0 3 - 3 8 0 2 - 6 7 1 1 (代)

※この報告書は再生紙を使用しています。